

平成二十四年三月
津山郷土博物館紀要第二十六号

享和二年(一八〇二)

津山松平藩町奉行日記二十

津山郷土博物館

津山松平藩町奉行日記 二十

凡例

一、本書には、津山郷土博物館に所蔵する愛山文庫から、「町奉行日記」享和二年正月〜十二月を収録した。
一、本文の表現は、つとめて原文の形にそうようにしたが、読解の便宜を図って、つぎの点に留意した。

1 平出・欠字は、省略した。

2 漢字は、原則として常用漢字（人名用漢字を含む）に改めたが、他は正字体とした。

3 誤字・脱字と思われる場合は、右傍らに（ママ）と注記した。なお、誤字ではあるが、沙駄・留主居・算様・百性については筆者が常用としており、煩雑さを避けるため、注記しなかった。

4 近世期一般に慣用されていた左記のような文字・用語等は、そのまま記載した。

体 扣 ひき 暖 あたたか 敷 か 喧嘩 けんか 音物 おんぶつ 稠敷 ちゆう敷 又候 またさう 風 かぜ 風 かぜ 船 ふね 舟 ふね 拵 こしら 拵 こしら 拵 こしら

5 変体がなは、原則としてひらがなに改めたが、助詞等に用いられている、而（て）、江（え）、者（は）、茂（も）、与（と）及び片仮名のニ、井は、小活字で示した。

夕（より）、メ（しめ）、ノ（して）、凡（とも）は、例外として残した。

6 訂正・削除がある場合、消された文字の左側に見消記号（ㄨ）を付し、右側に訂正の文字を記した。また、消された文字が不明の場合はその文字を■で示した。

7 虫損・破損などで読取できない文字は、字数を推定して「」で括り虫損・破損によらない場合は、右傍らに（不評）と注記した。

8 日記の表紙・奥書等は、その部分を□で囲み、（表紙）のように注記した。

9 日記の天の小口には小見出しの付箋が貼られており、はがれて各丁の綴じ目に挟んであるものも多いが、元の場所に残っていて文字を記してあるものは、その箇所に日○として示した。

10 記載を配慮すべき地名・固有名詞は□□のようにした。

一、本資料中に、封建的身分差別を表現する名辞・職称が認められるが、事実に基づく科学的な歴史研究を進める立場から、これらをそのまま掲げた。もとより我々は、この不当な差別を容認するものではなく、科学的な歴史認識を通じて差別意識の根絶にいたることを望んでいる。読者においても、この立場を理解し、この資料を正しく利用されることを期待する。

一、本書の翻刻・編集は乾康二が担当した。

享和二壬 戊年

二月廿八日改元

町奉行御用日記

五十五

増見右門

正月元旦 晴

一年頭御規式御嘉例之通惣登城御札式諸事別帳之通無滞相済

正月二日 晴

一 大年寄早朝罷出町方御静證之段相届候

一 御用初ニ付例刻登城諸事別帳御嘉例之通無滞相済尤昨年^者頂戴も
の、席焼火之間段橋之下上席ニ相成候所間違之由ニ^而当年ハ植込
之間出口北東之方上席ニ相成ル右門義旧臘寒中御機嫌伺之節不罷
出候付大目附役所ニおゐて御奏者番中へ寒中御機嫌伺申上之

一 御蔵米 六拾八匁 町米 六拾四匁

一 旧臘林田町門屋亦七借屋住小松屋源蔵方へ盜賊遁入候届書一学殿
之被相戻候ニ付大目附へ差出市郷触流御間済之段申達置候

一 中之町鮎屋与吉義大三十日ニ年寄玉野屋藤十郎方ニ^而狼籍いたし
候段届書差出候付禁足申付置候様ニ申達追^而糺之上咎可申付候

正月三日 晴

享和二壬 戊年 正月 小
月番
御家老 安藤丹後殿
御年寄 黒田要人殿
大目附 黒田忠三郎

大年寄 齋藤孫右衛門

諸吟味 官田喜左衛門

一 大坂長沢清左衛門之書状差越大坂渡人町式町目備前屋儀兵衛借屋
住若狭屋市郎兵衛之油壳懸代当所西今町直屋市郎左衛門へ式百五
拾五匁同町紙屋八郎兵衛へ百廿一匁壹分九厘差滞候段御蔵屋敷へ
致出訴候段申来候ニ付右来書願書共御用番中へ持参指出追^而相糺
無相違候ハ、濟方可申付旨相伺置候

一 大年寄初町年寄迄年頭謁昨年之通取計候様大年寄へ申達候

一 他領川岸船荷割之義ニ付押測村武助不埒之段大年寄之西川大庄屋
へ元日ニ飛脚指遣候所未罷帰明四日ハ初荷積殊ニ出荷も多由之
処矢張武助支配之船へ荷割遣候^而ハ何とやら当所之權も無之様ニ

相見へ勿論右躰不埒之者へ荷割可遣謂無之殊^ニ下方^ニ而若先格も有之義^ニ付蔵元場合切之取計^ニ而右武助手先之船^江若荷割程ハ指留候^而も可然筋^ニも相考候付指図^ニ而ハ無之候得共指考宜取計候様蔵合孫左衛門呼出し申達候然ル所右武助支配兩村船持名面左之通之由認出候

久米南条郡藤原村船持 宇七市左衛門嘉兵衛民右衛門幸吉清助

孫八要助平吉 八人

同郡押測村 平蔵清助善次郎文吉与次兵衛与吉菊太郎仁兵衛

菊右衛門源太郎忠兵衛友吉齋兵衛久次郎坂之丞

拾五人

右兩村合式拾四人藤原村庄屋治左衛門押測村庄屋六郎右衛門

右兩村船肝煎武助

一 中山百蔵義今日深信院殿御仏詣隅田辺迄御帰リ懸ケ之処一向不心付御通り先鈴木横丁を南へ通り過下座不仕恐入候段申出候付其段種村登門方へ以使申遣候所何れ^及一向不心付義候間其俣差免候様申越候付右為礼登門宅へ罷出候様百蔵へ申付候

一 京町年寄菊屋清左衛門病死之段大年寄届出承り置

正月四日 晴

一 御近領へ差遣候去西歳中之錢相場書例年之通三通大年寄差出候

一 西川大庄屋の大年寄共方へ返書差越武助義早々呼出相札候所段々申立方も有之^ニ付何分取調之上不及御報候得共延引^ニも相成候付先及返書候旨申越候書状差出及一読差戻候

正月五日 曇

一 旧例之通五時揃大年寄札元諸吟味年頭謁盃遣入札式諸事別帳之通酌取石名伝蔵

当病不参 蔵合孫左衛門武田七郎兵衛 病中三船八郎右衛門

一 旧格之通九時分組中大年寄半番三軒屋へ年頭札相越候但供番萩野

喜和右衛門

一 勝山榊原九郎左衛門尾崎小右衛門の例年之通年頭祝書来及相答候

一 西今町直屋市郎左衛門同町紙屋八郎兵衛へ相懸り大坂分滞銀出訴

之義御用所思召無之候間宜取計候様被仰出候^ニ付急^ニ濟方仕候様

可相達旨大年寄へ申達候

一 林田町小松屋源蔵方旧臘被盜物触流し今日指出郡代所へも申通候

同十三日無之候申出

一 海老原極人殿明日御出府牢舎人員教認出候様被仰聞拾九人有之段

認差出候

正月六日 晴

一 旧例之通五時揃御蔵元惣町年寄人馬問屋大保頭目明年頭謁札式諸事旧格之通

但惣人数七拾三人之処当病不参式拾八人有之

一 御年寄海老原極人殿今日東武^江御出立但去ル二日於御城御見送り

いたし候

正月七日 曇

一 坪井滝口与次右衛門の例年之通年頭祝書来及相答

一 西川大庄屋の大年寄へ飛札差越武助義相札候所古形之義^ニ候得^者

同意不致と申義ハ無之候得共船方^并荷主差支有之義差含候^ニ付其

段大年寄へ主意申述候上如何様とも仕度旨申候^ニ付右武助^并大庄

屋孫太郎代人分家山崎代二郎と申もの差添差出候旨申来候段蔵合
孫左衛門相届候

正月八日 曇

一御用日登城

一札元玉置卯左衛門義備中矢掛町中西八十右衛門方へ廿日計之逗留

二 明九日出立之願御用番御開濟^ニ付大目附へ差出置御開届申達

候^ニ二月三日隠候候旨届出候

一福渡町作人惣七門前^ニ旧臘廿九日夕網代挾箱拾有之候段届書指
候付先格之通張紙可取計旨御用番中へ口達^ニ申上御開濟^ニ付大

目附へ差出置其段取計候様大年寄へ申達候

一林田町鮎屋与吉義大三十日^ニ年寄へ法外いたし候付去ル二日禁足

申付置右^ニ付手鏡追込七日可申旨伺書差出候所即刻思召無之宜取

計候様被仰出候^ニ付大目附へも及噂追^而取計済可相届申置候

一昨夜申出候西川大庄屋代人代二郎孫左衛門へ致応対武助八茂一郎

へ一卜通り致応対何分惣船持共へも申聞候上返答可仕旨^ニ今朝

兩人共引取候段蔵合孫左衛門届出候

一油方年行事当年ハ高雄屋藤助相勤候段喜左衛門届出承り置

一祇園三位之御札蔵合孫左衛門方へ指出候段例年之通大目附中へ申

達候

一左義長之町触例年之通指出候

正月九日 快晴

一牢舎人千与蔵義病氣申出候付医療申付候様大年寄へ申達候所藤木

良全及診察大切之趣申出候付容躰書指出候様申付置其段郡代所へ

及通用候尤容躰書相廻候

一西川平沢助八大谷代蔵合例年之通年頭祝書来及相答候

正月十日 快晴

一御蔵米六拾^石匁五分 町米六拾式匁五分

正月十一日 曇

正月十二日 曇

一大目附赤見類助今日東武へ出立

一伏見町^{福屋}屋源太良家守伏見屋林兵衛借屋住石井宝菴義妻^并忰兩人

召連四国廻路二百日逗留^ニ而^来ル十四日出立願承り届^〇宝庵^病死

二 付妻子三人五月六日帰

一年頭登城之町人名面書例年之通去ル八日中奥目附へ差出

一牢番足輕加藤清右衛門義八出村所持之田地有之候処先年江戸留主

中兄延屋重治郎^〆東新町種屋伊助へ譲渡不埒之段歎書指出候付右

兩人相札候様大年寄へ申達候

一江戸御奏者番伊達与吉郎三原右門^〆大年寄共歳末献上物遂披露候

段申来大年寄へ申達候

正月十三日 快晴

一御用日登城申上候御用向無之

一古道具屋改帳例年之通指出候

一繰屋共旧臘歎書指出綿実御買取不正段願出候付願書指戻喜左衛門

へ扱申付候所御役人の方^ニ而^者直段上ケ候義^者不相成候^ニ付式拾

兩計ハ為手当可差遣由^ニ候得共夫^ニ而^ハ綿屋共不承知之旨申出候

付夫ハ繰屋共我意と相聞候間式拾兩致頂戴当分済置当暮之義ハ綿

実不持込内^ニ兼^而直段定置候上^ニ指出候様^ニ取計可然旨繰屋共
へ申聞候様^ニ大年寄へも申達置候処其通^ニ先相濟候段孫左衛門
喜左衛門届出候

一 銀札場奉行清水覚右衛門^ノ錢三拾五箇川下切手差越例之通致裏印
候

正月十四日 快晴

一 他領川岸船荷割出入之議^ニ付長岡庄船肝煎四人生野手代北尾算藏
義植村川岸へ呼出今般願立之趣^ニ付^而八御銀納差支^ニ相成候間以
来新船拵植村川岸荷物為積候とも又八西川領船計^ニ為積候共申分
無之一札被取候由右写船肝煎致持參候由田原屋定太郎差出候由^ニ

^而藏合孫左衛門^ノ指出候

一 西川大庄屋代山崎代二郎^ノ藏合孫左衛門へ飛脚差越支配之船持共
不残西川へ呼出相札居候付返答之義今暫延引^ニ相成候段申越候旨
届出承り置

一 御目見医師柳瀬元柳義先刻致病死候段大年寄^ノ届出其段御用番^并
大目附へ相届同人義八御捨扶持被下置候義^ニ付勘定奉行へ及通用
候

正月十五日 快晴

一 下役新左衛門部屋目附立合出懸り^ニ左之通申付候

其方義小頭役申付候万端入念可相勤候 江原文藏

一 自分具足鏡開^ニ付九時揃下役^并組中牢番三軒屋呼出嘉例之通盃遣
ス諸事規式別帳之通

正月十六日 曇

一 御具足御祝被下^ニ付御徒格以上嫡子迄例刻登城^并町人町医年頭登
城御嘉例之通御規式諸事無滞相濟右畢^而悴其衛御祝頂戴之御礼御
奏番へ申上之

一 町人登城昨年之通四時揃申付例年之通名面調書御奏番へ指出小
須賀貢被謁候御礼式諸事御嘉例別帳之通万端無滞相濟但御使番渡
部惣馬古谷嘉左衛門中奥目附藤堂融四郎出九太夫

当病不參 藏合孫左衛門 武田七郎兵衛 川口藤左衛門

山本三郎左衛門 ^{熊野}玉置卯左衛門 ^{北尾}妹尾平兵衛

^{高島}三船八郎右衛門 熊野屋文五郎 北山修齋

高島生齋 渡部玄端 北山修伯

一 札元妹尾平兵衛妻今朝出産仕候付血忌引込候段届出候^ニ付御両所
へ相届候

一 大目附黒田忠三郎^ノ左之通演達有之候

一 嫡子之面々初登城之節八同道人^ノ其旨御門番^江可断事

一 例月御仏詣以来八四時後^ノ可罷出候

一 但州生野御代官布施孫三郎殿手代中沢良助桑名善藏^ノ昨夜及深更
飛脚指越昨年之通銭相場書相廻候様申越例歳之通取認今昼飛脚へ
相渡候

一 御代官竹内要左衛門^ノ町作御年貢皆済之旨於御城通用有之候

正月十七日 快晴

一 大坂谷町二丁目御代官池田仙九郎殿手附奥野右源太手代上野戸作
^ノ去年中之銭相場書取^ニ来差出候

一 上紺屋町熊野屋源右衛門義近来針術修行仕候付今般平野敬徳と相

改医業仕度願差出承り届

正月十八日 快晴

一御用日登城

一士岐山城守殿領分当国英田郡豊野村久米八夫婦二人材木町正木屋

甚右衛門引受度人別人願御用番中御間濟^ニ付大目附へ指出置御間

届申達候 同廿七日住宅文出

一今朝大年寄宅^ニおゐて小頭部屋目附出番喜和右衛門差向左之通申

渡之

其方義旧臘廿九日町役^江

中之町 鮎屋与吉

対し法外之及支義不埒至極候依之手錠懸ケ追込申付候 但日數七日

右取計濟出仕之上御所へ相届候 ○同廿五日指免同所相届候

一稻垣惣兵衛^江門前閑貫際^江 掃溜捨致迷惑候間不捨様^ニ 申付具候様

申聞候付右之段近町へ急度申付候様大年寄へ申渡候

一御蔵米 六拾四匁 町米 六拾匁

正月十九日 雪

一兵庫灘目水車持惣代油屋兵左衛門^并 同所菜種間屋灘屋吉三郎代人

源藏右兩人昨晚又々来候段届出候^ニ 付其段御所へ相届候尤昨年

^者 兵右衛門と届出候付其段相相候所全昨年之查損之旨申出候付其

段も御所へ申遣候

一牢舍人新田村定吉牢賄不持来旨届出候付郡代所へ及通用候

一備前邑久郡牛窓大工五郎右衛門市兵衛喜太右衛門半兵衛善助小作

右六人例年之通来候段新職人町松野屋十右衛門宿切手指出 上 月廿九日届

正月廿日 小雪嵐

一撰州灘水車惣代油屋兵左衛門同兵庫菜種間屋灘屋吉三郎代源源藏

右兩人十八日夕来候間十五日計逗留仕せ度願坪井町川原屋治助指

出承り届

一中之町福寿屋要助倅喜左衛門義去ル申二月奥津川西村和右衛門方

へ奉公^ニ参居候所病氣^ニ付罷帰候段届書指出候

一借牢舍人竹田之狂女長義病氣指重り候段牢番届出候^ニ 付郡代所へ

申達候

正月廿一日 曇

一借牢長義致落命候段五ツ半時牢番届出郡代所へ申達候

正月廿二日 快晴

一郡代所^江借牢死長死骸村方へ相渡候付立合差出候様申来出番栄治

差向引渡相濟

一播州広峰魚住藏人^江例年之通年頭祝書差越及相答

一牢舍人千与蔵療治^ニ廻り相濟代り医相願大年寄へ申達候所岩佐孝

順へ申付候段届出候

正月廿三日 快晴 夜雪

一御用日登城

一森和泉守殿領分播州赤穂郡新浜村大島屋要助妹義去西十二月西今

町坪屋藤十郎方へ逗留^ニ 来居候所此度同人方へ役介^ニ 引受度願御

用番御間濟^ニ 付大目附へ差出置御間届申達候 同廿五日住宅文出

一京都愛宕山威徳院^江大年寄共へ使僧^并 飛札指越去申年防倉不殘致

類焼候^ニ 付修造建立御助力当町中^江御寄附被下候様頼越都^而 相对

勸化之義^者 及断不取上義^ニ 候得共愛宕山^江之義八隔年^ニ 御札をも相

納殊^ニ 明和四亥年勸化頼越候節も向方^ノ指越候帳面ヲ大年寄致世話町々相廻し銘々志次第^ニ 取集都合式百拾七匁三分五厘相渡候義も有之候間相伺候段申出尤公儀^ノ御達有之候日御崎杯之勸化も銀五枚町方へ割付指遣候間今般ハ銀式枚位も差遣可然哉之旨大年寄伺出候^ニ 付其旨寺社取次寺社奉行大目附^ニも対談之上御用番中へ相伺候処思召無之尤公儀^ノ御達有之銀五枚町々へ割付候様^ニハ自分勸化之義故不宜候間先年之通向方^ノ指越候帳面を町々相廻し志次第^ニ 而 集候程取集差遣可然筋と被仰出候付其旨大年寄へ申付候一 洪水防^ニ 付東西新町^ノ土手石垣御筑上ケ被下候様尤西新町^ノ土手地形上ケハ町内^ノ可仕旨去九月願書指出勘定奉行へ相廻置候処西新町^ノ此節被仰付候得^者 下方勝手^ニ 相成候段催促申出猶又勘定奉行栗田辰右衛門へ及対談候処右願書も御普請方へ相渡置候所甚御入用多^ニ 而 此節難取計旨断^ニ 而 右願書被差戻候付大目附へも対談之上御用番中^ニ 申上下^ノ願出候西新町土手地形上ケハ被仰付候様申上候処昨年当役^江も被仰出候洪水手当之考郡代^ハ未申出尤近々可差出由^ニ 候間熟談之上其節一諸差出候様被仰出候

一 去酉歳一ヶ年分人別改查左之通御用番中へ差出候

一 出生百三拾六人内^{男七十三人 女六十四人} 一 他所^ノ引越百七拾壹人内^{男七十九人 女九十二人}

一 他所へ引越百十人内^{男六十三人 女三十八人} 一 死失百五拾八人内^{男六十七人 女九十一人}

右差引^メ三拾九人増

式百六拾八人

一 御初入前^ニ 付町方並請取繕仕候様先格之通触書可指出旨御用番中

へ申上候所思召無之^ニ 付大目附へも達置左之通町触差出候

一 町家表向^ニ 御堀裏手抱之分破損之場所所有之候ハ、当四月迄^ニ 修覆可致候且又惣町差庇近来大分^ニ 出来雨水溝へ不落往還甚痛候間崩取可申候無抛処^者 当三月晦日迄^ニ 樋を懸ケ雨水溝へ落し溝^溝流不申様可致候追^而見分之もの差出可遂吟味候

一 町々道悪敷地仙成場所^者 置土可致事

右之趣惣町中末々無残所急度可被申渡候已上

一 御初入前^ニ 相成自分義御道筋致見分候^而ハ修覆間^ニ 不合候間此節致見分候様御用番中被仰出候旨大目附^ノ達有之尚又御用所へ罷出相伺候御用所^ニ 而ハ惣町見分之御舎^ニ 相聞候付左候ハ、惣町可遂見分旨申上候所不及差図存寄次第之義と被仰出候

一 大篠東村兵藏方へ去ル十二日^ノ十八日迄之内盜賊遁入衣類脇差四品四拾匁計之品被盜取候触流取計候様大目附^ノ達有之町触取計本書ハ差戻候

一 中之町平福屋勘兵衛義押入村之ものへ相懸り貸銀滞致出訴郡代所へ相廻置候処来ル廿五日九時勘兵衛差出候様郡代所^ノ申来其段大年寄へ申達候

一 寺社取次野余金平^ノ去冬宗永寺へ盗入落置候品食籠菅笠之類五品相廻り欠所物之内へ入置候

一 備中都郡早島金田屋伝藏手代栄八一人例年の通うんさいもんば足袋売来候段新職人町松の屋十右衛門宿切手指出^{七月十三日届}

正月廿四日 晴

一 御初入^ニ 付昨日被仰出候惣町見分明廿五日可罷出候間例之通御貸

人馬^并下役大脇新左衛門御貸人中間老人被仰付候様大目附へ紙面
二申達^并大年寄諸吟味不残小頭部屋目附罷出候様夫々手配申付
候処昼支度立宿元魚町豊屋喜兵衛下宿同町原屋佐市へ申付候様大
年寄申出候

一大目附廻状到来大意左之通

一表勤與勤之面々^二参会猥^二相成候様相問候間無心得違兼^而被仰
出通可相守候

一公儀御触近来異形頭巾を拵面鉢を隠し不埒之事情以前有来
之九頭角頭巾相用可申候粉敷義有之候得^者召捕候様被仰付候

事

右公儀御触組中町中へ相触候

正月廿五日 快晴

一五半時供揃四時出宅下役大脇新左衛門小頭江原文藏部屋目附中山
百藏大年寄藏合孫左衛門斎藤孫右衛門玉置六郎左衛門諸吟味宮田
喜左衛門召連町方不残遂見分破損所少々之繕^者二月中大破家建替
等^者三月中^二仕立候様夫々申付帰^り懸^け御用番中へ相届大目附^上
^者馬脇合使以相届候尤委敷見分之義故出懸^け帰^り懸^け田町分計致乘
馬町分ハ不残歩行いたし遂見分候但昼支度立宿元魚町豊屋喜兵衛
下宿原屋佐市^并立寄休息宿西今町坪屋藤十郎中之町玉置仰左衛門
右順路別^二記置候

供立^口之^者 馬^三和^四治^四 草履取

槍 合羽籠
挟箱

一郡代所^合□□村穢多甚吉吟味中入牢手形相廻り認かへ当番喜和

右衛門差向取計之

一中之町平福屋勘兵衛義郡代所へ差出候所相手方も被呼出借銀滯三
十日限致内済候様被申付候段同人^合届出候

一他領川岸船荷割之義西川領分押淵村船肝煎武助義致納心長岡庄船

肝煎同意仕連印可仕旨申出候付西川大庄屋^合添簡^二武助差越候
^二付弥連印相整候上可届出候得共先此段申上置候旨藏合孫左衛門
申出候尤右之段同廿七日御用番中へ内々及御沙駄置候

正月廿六日 時雨

一牢舍人^合腐右衛門病氣申出大年寄へ申付候処高道齋へ申付候段届出
候

正月廿七日 雪

一伏見町飾磨屋新七伴重吉義三栗屋与惣兵衛と家名相改是迄之通古

道具商売仕度願書指出承り届株札名面相改相渡候

一奈良今井町岡崎忠兵衛伴庄右衛門一人例年之通筆^并大小新鞘充来

候段京町美濃屋平五郎宿切手指出^{同四月二日梅段届出候}

一上野介様御參勤^二付当所御止宿御先触左之通到来大年寄^合差出候

以廻状申達候然^者上野介殿当春被致參勤候^二付来^ル三月十日
在所雲州広瀬表出立被致候依之道中泊宿左^二相記候通相違無

之様手合可給候若差支之義も有之候ハ、其趣廻状相記可被差
越候猶追^而宿割之者罷越可及對話候此廻状無遅滞早々宿々順

達有之留^合江戸四谷御門外此方屋敷^二中川臣人河島郷右衛

門永井五左衛門方へ早々差遣可給候以上

正月

松平上野介内 森山右門

田中八左衛門

三月十日濱口宿 同十一日新庄宿 同十二日津山宿

同十三日佐用宿 以下略之 右宿々本陣問屋中

右御先触翌廿八日出仕之上御用番へ差出大目附へ相達郡代所^江も及通用候

正月廿八日 晴

一御用日御嘉例之通麻上下着用登城

一戸川町藤屋甚助借屋住山手屋伊助役介みよ義土岐山城守殿領分当

国英田郡友野村市郎右衛門妻ニ差遣度人別除願御用番御聞濟ニ付

大目附へ差出置御聞届申達候

一惣社村円福寺当年中町方夜念仏御聞届之旨寺社取次野条金平の通

用有之大年寄へ申達し小頭^江も申達候

一通り筋寺社領破損之處此間及見聞候趣寺社取次野条金平へ及通用

候

一西今町東横町^ニ 而荒木屋武助家屋敷表口式間裏行七間半但御役老

歩式厘五毛也北隣ハ小畑屋藤吉南ハ大溝也右家屋敷代銀札四百目

ニ相極組合小畑屋藤吉へ壳渡度願承り届^{翌日壳状表出}

一大篠東村兵藏被盜物去ル廿三日相触候品ニ類タル品西今町坪屋藤

十郎方ニ有之由届書指出郡代所へ相廻候

一西今町東横町^ニ 而荒木屋武助家屋敷四ヶ年以前未三月直屋久米之

助取次^ニ 而三百日之質入ニ相願候處此度元利返弁受返し届書指出

承り届右ハ上ニ在之小畑屋藤吉へ壳渡候家屋敷ニ付略書之

一三町目太刀屋弥吉持来候古道具屋株茅町建具屋理兵衛へ讓渡度願

差出承り届株札相改相渡候

正月廿九日 快晴

一関貫番質銀御定之通相渡

一京都四條上ル堺町菊岡松甫と座頭^と兩人旧臘廿二日元魚町原屋佐市

方へ来居候處未用事不相濟候ニ付来月中逗留追願指出承り届

一戸川町中之横町西側^ニ 而播磨屋七左衛門家屋敷去酉三月質物^ニ 書

入銀札式百匁借り受候之處元利返弁請返し届書指出候

一玉置卯左衛門義去ル八日備中矢掛へ廿日計之逗留^ニ 而罷越候處用

事濟兼候付今日計逗留仕度願指出候ニ付御用番中へ罷越差出候

所御聞濟ニ付大目附へも手紙^ニ 而申達置御聞届申達候^{二月三日届}

一牢浚申付候所無別条旨百蔵藤四郎届出候

二月 大

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 上原彦藏

大年寄 藏合孫左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

二月朔 壬寅旦 晴

一西今町野々口屋七郎右衛門悱八十郎義能勢妙見宮へ參詣廿日計逗留

留明二日 出立願承届候 同十七日始

一同町直屋孫四郎父市郎左衛門義京都烏丸通六角下ル所ニ文字屋九

兵衛方へ三十四日計之逗留^ニ 而 明後三日 出立願大年寄月番承届

差出 三月十三日勢文ニ于日延取承り届四月七日勢文出日延取承り届四月廿六日揚ル

二月二日 晴

一 二階町伊勢屋正左衛門所持之家屋敷東側^ニ 而 表口六間裏行拾七間

但老軒役也南隣^者 山本屋周右衛門北隣^者 材木屋善六右家屋敷實物

ニ 書入来ル十二月限老ヶ月老歩半ツ、之利足^ニ 而 銀札三貫目借用

仕度願承届候 書附日數實証文出 文化七庚午九月十五日開返し届書差出ス

一 牢舎扶持仕切証文差出奥印取計之但去酉十月迄内貸高四

拾五俵内四拾三俵式斗六升式合五勺仕切表賄引残^而 老俵六升七合

五勺此度返納^ニ 成ル

一 牢舎扶持内貸拾老俵之証文差出令奥印但当月中賄引残^而 三升三月

江 持越

二月三日 晴

一 御用日之処自分義昨日迄痔疫不相勝^一 当病御断^并 御用向三浦十郎左衛門^江 相頼候

一 二階町組屋忠右衛門裏土蔵之壁取繕^ニ 付御堀^江 足代おろし願大目付^江 差出候旨三浦迄通用有之例之通御作事へ懸合候様大年寄^江 申

達候

一 川辺村九平次下人部屋^江 去月廿八日之夜盗人入込凡代三拾五匁三分位^ニ 而 衣類ノ十品被盜取候由触流取計候様大目付迄達有之候由

三浦迄相廻り町触取計候尤本書^者 追^而 大目付へ差戻し候様申来候

同七日大目付へ差戻ス向十四日無之段申出候

一同村忠四郎下人部屋^江 去月廿八日之夜盗人遁入凡代式拾目六分位

ニ 衣類五品被盜取触流右同断取計 同七日大目付へ差戻ス向十四日無之段申出候

二月四日 曇夜時雨

一 昨夜町方西之方角へ更廻り百蔵為治藤四郎幸治差出候処別条無之段届出候且亦小頭文蔵御家中関貫相改候処是又別条無之段届出候

一 出羽守様来ル十三日御発駕同十七日当所御通行^ニ 付人馬之義宜取計候様大目付迄申来其段大年寄^江 申達候

一 元魚町広野屋長兵衛借屋住作屋源兵衛義甲州身延山^江 往来百五十

日計之逗留^ニ 而 明五日 出立願承届候 三月十八日始

一 撰州灘水車両組惣代油屋兵左衛門兵庫灘屋吉三郎代源蔵兩人先月

十九日坪井町河原屋治助方へ来居候処今少用事不相濟^ニ付今十日計逗留為仕度追願差出承届候^{同十二日懸揚候出}

二月五日 晴風烈

一昨夜町方東之方角へ更廻り為治藤四郎時治幸治差出候処別条無之段届出候

一酉中刻頃広瀬橋詰船頭小屋出火自分儀可致出馬之処痔疾不相勝^ニ

付三浦十郎左衛門へ頼遣^并不致出馬趣差懸り候事故大目付月番^江

直^ニ手紙を以相届見本之纏挑灯差出組之もの共不残差出大年寄^并

町火消不残罷出候尤船頭小家一字焼失類焼無之戌ノ刻過何れも引

取

二月六日 風烈雪降

一大笹東村兵藏被盜物^ニ類タル品有之旨西今町坪屋藤十郎合届書差

出先月廿八日郡代所へ相廻置候処向方^ニ而糺之上被盜人へ為見候

処品相達致候旨郡代所合申来大年寄へ「^一」

一出羽守様御通行東西土橋^ニ而相濟候旨郡代所合通用有之大年寄へ

申達

一牢舍千与藏療治今日迄二廻り相濟候処中々不被捨置趣申出候^ニ付

跡医師之義大年寄^江申付候処中島宗元相勤候旨届出

一小頭宅^ニおゐて部屋目附立会左之通申渡

昨夜廻り之節戸川町^ニ而夫婦喧嘩

川端又六

有之右取計方甚不束^ニ付叱置候

石名伝蔵

已来可相慎候

一江戸御奏者伊達与吉郎三原右門合大年寄共^并惣町中年頭献上物遂

披露候段申来大年寄へ申達

一昨夜火事場^ニおゐて皮財布壹つ但帯はせ付内^ニ磁石壹つ印判壹つ

銭老文有之新魚町魚屋市右衛門拾ひ候旨同町年寄共合届書差出候

付例之通張紙可申付哉之旨御用番中へ紙面^ニ而相伺候御聞濟^ニ

付大年寄へ申付ル右届書大目付へ差出置候

一伏見町小田屋伊平次義相母召連大坂道修町福崎屋庄兵衛方へ往来

四十六日計之逗留^ニ而明七日出立願大年寄承届差出^{三月六日届}

一同町姫路屋又助借屋徳島屋忠七義大坂大川町和泉屋六郎兵衛方へ

往来四十六日計之逗留^ニ而明七日出立願大年寄承届差出右同断

二月七日 晴

一橋本町山形屋藤吉大坂大川町淀屋橋前美作屋辰三郎方へ往来廿五

日計之逗留^ニ而明後九日出立願大年寄差出承届^{三月二日届}

一播州赤穂郡塩屋村柴原七郎左衛門妻三町目浜野屋源五郎方へ罷越

廿日計逗留願大年寄差出承届^{同廿八日届}

一牢舍千与藏義病氣差重り候旨牢番共届出郡代所へ及通用^并容鉢書

相廻候

一牢舍千与藏義只今致牢死候旨戌ノ刻届出候^ニ付郡代所^江申遣候

二月八日 晴

一御用日之処自分義今以痔疾不相勝候^ニ付当病御断^并御用向三浦^江

頼遣又

一葦笠之助殿御支配所石州銀山領智賀間郡磯竹村与平次後家りよ壹

人下紺屋町藤原屋喜与ハ役介^ニ引受度人別人願御用番中御聞濟^ニ

付大目付^江差出置御聞届申達^{同十五日住宅屋差出}

一 下紺屋町紙屋五百吉借屋十藏義去酉九月十日出奔百日尋申付候得
共行衛不相知人別除願右同断取計済

一 桶屋町吉田屋平助借屋歌屋平六娘いと義兼而不所存ものニ付去酉
正月義絶勘当致置候処当時当国久米南条郡山城村辺へ罷在先非を
悔候ニ付差免度帰住願右同断取計済

一 大守様御初入御伺願書御差出被成候所御老中御請取被置候恐悦
申上来ル十八日有之候旨大目付ハ被相違相趣十郎左衛門ハ通用有
之

一 役筋ハ伺置候橋本町中島屋幸助義先年二宮ニ而女を奪取候年月大
目付ハ尋有之候之旨十郎左衛門ハ申来候ニ付左之通相認差出

橋本町中島屋幸助義宝曆十二年九月八日之夜二宮高野宮社地
ニ而夜籠之女を奪取翌未二月十九日御領分追払作州一國徘徊
御差權元中島村權助ニ而御座候

一 宿馬見分大年寄孫右衛門宅ニ而取計小頭文蔵部屋目付百蔵差出無
滞相済尤毛付帳面差出大年寄孫左衛門諸吟味問屋目付兼宮田喜左
衛門届出候

一 盗人千代蔵義劊刑相当之もの之処致牢死候付死骸見分之上兼田ハ
取捨候様被仰付候間宜取計候様大目付ハ紙面ニ而申来

一 牢死人千代蔵死骸為見分今八半時御徒目付山本弥七郎下目付土井
佐市当役小頭文蔵部屋目付百蔵郡代下代神西作助立会相改候処病
死相違無之ニ付兼田ハ取捨候様牢番ハ申付右取計相済御用番ハ大
目付ハ相届候

一 牢舎新八病氣ニ付医師相願大年寄ハ申達候処高道載ハ申付候段届

出候

一 大目付中ハ左之通御触書致来

京町御門御修覆ニ付明九日ハ通行相止朝日御門昼夜通行有之
候

右之趣組中不残ハ高石垣番人へ達惣町中ハも同断

一 徳守宮遷宮いたし候ニ付東西ハ建札伺済之旨寺社取次三浦ハ通用
有之大年寄へ申達候

一 牢番足輕加藤清右衛門ハ東新町種屋伊助同町延屋十次郎へ相懸り
田地争論一件町方懸り合之もの共大年寄ニ而相札書付差出候処清
右衛門出訴之趣とハ齟齬いたし候ニ付双方共三十日限内済致候様
可申付旨大年寄ハ小頭ハ申達候三月九日今十五日之旨願奉り届

一 出羽守様近々御通行ニ付例之通今日町触差出候

一 来ル十二日御役料御給米相渡候旨御蔵廻状到来小頭ハ申達候

一 人馬問屋御給米高拾式俵之内六俵受取証文差出奥印取計

二月九日 晴

一 下紺屋町鳥羽屋源十郎借家住十吉ハ申もの桶屋町大坂屋彦市持之
車場手代ハ召抱置候処去酉十月出奔届出候ニ付百日尋申付候処当

国土居村辺ニ日雇稼いたし罷在候ニ付連帰り相糺候処大坂表へ稼
ニ可參積ニ而出懸候得共旅用も無之馴染之もの世話ニ而右之通日

雇稼いたし候由ニ而当人誤入猶世上ハ対し候而も不埒之義も無之
旨ニ付帰住仕らせ度之旨彦市ハ歎書差出候ニ付無願他行致候段急

度叱之上帰住承届候段大年寄ハ申達候

一 堀江源蔵長屋住伊八同人妻はな娘萬俵米次家内四人上紺屋町作人

宇兵衛引請人別人願承り届候

一三町目小田原屋幸助娘かの四国遍路七十日計逗留而来ル十五日
出立願承届候四月廿一日始

一同町并筒屋伊之助并娘とき右同断右同断

一元魚町東側而長江長庵家屋敷表口三間半裏行拾七間五歩五厘役
也北隣者藤野屋嘉四郎南隣者油屋与三兵衛右家屋敷代銀札七百目

二相極組合之内福増屋栄吉江壳渡度願差出承届候同十五日宛券状差出

一貳町目福永屋藤助娘播州姫路本庄右右衛門妻たミ昨晚罷越候付
四十日計逗留願右藤助差出承届候三月八日福發候出ル

二月十日 雲昼後合雨

一出羽守様近々御通行付御道筋為見分小頭文蔵大年寄六郎左衛門
諸吟味喜左衛門差出候処無別状破損之場所者取繕申付候段届出候
尤東大番所脇高塀損見苦敷由申出候付大目付江申遣候

二月十一日 晴昼後白雨雷

一出羽守様御先触左之通到来

以廻状致マツ酪達候少将殿為参府来ル十四日国許被致発駕候依之
繼馬廿九疋繼人足貳百三拾人馬々無間違御手合頼入存候尤

下伏見合者三拾番之馬老正相増候間御手合頼入候

人足付方手配帳面之通仕来を以人馬相極如斯先触仕出し
候処人足付一増候訳も有之候ハ、其増人足丈ケ増入用

二相成候間其心得を以集置無滞御手合頼存候

久世合西宮迄之内繼馬貳拾五疋繼人足百八拾人入用二候別人
馬望之人別板札二相記是迄之通銘々江相渡置候尤

下津山明石御領分之者繼馬貳拾九疋御手合頼入存候

馬之分ハ老番合貳拾九番迄番附致し置候依而人足手配帳并印
鑑遣之候且又右帳面之外入用之分者例年之通紙切手仕出し候
間左様御承知可有之候右手配帳老冊印鑑壹枚宛御留置御願達
可有之候恐惶謹言

雲州人馬方

渡部次太平

平井幸三郎

桑原嘉市

片山良平

勝部幸治

二月八日

伯州溝口駅合大坂廻り東海道通り武州品川駅迄

宿々問屋中

追マツ酪至時人馬共二少々余分之義も可有之候間其節御手合頼入
存候且又同勢多くハ桑名合宮へ直渡候間佐夜神守方場三宿之
分ハ印鑑計壹枚ツ、御留置御願達可有之候以上

右御先触写御用番中へ差出し大目付江も相届候郡代所へも及通用
猶寄せ馬七疋頼遣候

二月十二日 雪 嵐

一因州知頭郡津無村伝左衛門四国遍路二罷出予州新谷領新谷村二
步行不相叶同所合送出シ古城村へ送り来候付札之上承届候段郡
代所合申来候二付猶相糺相違も無之候ハ、送り出候様大年寄江申
達候

一橋本町中島屋幸助義宝曆十二年久世懸合等二相成候一件書類差出
候様大目付より申来候二付宮山村懸り合之書類一冊差出候同十四日辰ル

一 半舎人府右衛門昨日迄二廻り療治相済候得共未不相勝候ニ付藤木良全へ申付「」大年寄届出候尤半番も届出ル

一 兵庫灘目水車惣代油屋兵左衛門同所業種同屋灘屋吉三郎代源蔵右

兩人今朝「」立罷焔候段届出御用番中 大目付 相届候翌十三日参船之儀同御方へ申達候儀

一 西今町玉屋吉右衛門借屋住長蔵義先達 出奔いたし候付尋中右妻

さく他参留申付置候処永々之義ニ付及難渋候間右さく義親元江差

遣置度旨吉右衛門願書差出候ニ付大年寄共手前ニ相札候処さ

く義者当所ニ住居仕度由相歎候由家主難渋相成候故右之通歎「」差

出候趣ニ相聞候間外借屋ニ勝手次第借り受住居仕候様為仕度

旨大年寄孫左衛門伺出候ニ付先年当地へ人別入願出候節之儀相札

候処相違も無之長蔵行衛相知レ候迄申も際限無之義殊ニ右之通

當時人別之もの故他参留差免勝手次第町方住居いたし候様可申渡

旨大年寄へ申達候

二月十三日 晴

一 御用日登城

一 大久保安芸守殿御領分当国久米南条郡押淵村武右衛門悻三之丞老

人小性町瓜生原屋平吉養子ニ引請度人別入願御用番中御聞濟ニ付

大目付江差出御聞届之趣大年寄へ申達候同十八日住宅文指出

一 脇坂淡路守殿御預り所当国勝南郡上瓜生原村佐吉悻添四郎義上紺

屋町津崎屋民吉役介ニ引受度人別入願右同断取計済同十九日住宅文指出候

一 重田又兵衛殿御支配所当国大庭郡西原村幸右衛門娘いそ孫あさ

まさ十次右四人西今町紙屋八郎兵衛妻子ニ引受度人別入願右同断

取計済同廿七日住宅文指出

一 備前国津高郡西辛川村太助悻清吉老人福渡町大工屋太助養子ニ引受度人別入願右同断取計済同十八日住宅文指出候

一 二階町堺屋のふ借屋住玉屋太兵衛去酉七月中旬出奔いたし同九月

下旬届出候ニ付百日尋申付候得共行衛不相知人別除願右同断取計

済

一 去ル五日之夜鉄炮町出火場ニ新魚町魚屋市右衛門拾ひ候皮財布

西今町綿屋源吉落し候品ニ付相渡遣度旨新魚町年寄書付差出御

用番中へ相伺候処御聞濟ニ付大目付江も達之上相違も無之候ハ、

相渡候様可申付旨大年寄へ申達候

一 中之町土手下清水場之近辺ニ小船車二柄臼仕小壳白米小麦之粉

少々仕度旨玉置忠四郎家守平野屋伊助先月願書差出郡代所へ懸

ケ合置候処向方ニ糺有之候之処御普請方之故障有之ニ付不相済

旨申聞候ニ付其段大年寄へ申達願書差戻候

一 役所附鷲口巻本小頭着用小紋羽織損候ニ付引替取計但大目附へ

相達候事

「」組小頭已前出火之節火元へ不罷出役所詰来候得共人少ニ付已

来者火事場へ罷出候様申付候然ル処諸組小頭皮羽織之襟輪違

付候由之処如何いたし候事哉役所有分ハ輪違付居不申並之羽

織故小頭之分引替之義大目付申立候承知ニ付勝手次第引替

罷出候様小頭へ申達候

一 出羽守様御通行之節自分義致出役候ニ付例之通御貸人馬大目付

申達置候

一 吉見村長吉方へ去月廿九日夜盗人遁入衣類十一品代凡九十式匁寄

分位盜取候由触流取計候之様大目付ハ違有之町触出入同廿三日町方無之旨届出候

一 德守宮神主支配所森原屋岩助老人官脇町新角屋庄助方ハ引受度人

別入願寺「」引合候上承届候

一 御領分東南条郡林田上之町弥助後家借屋六太郎老人鍛冶町鍛冶五

郎右衛門引請度人別入願下方引合相濟候段大年寄申出承届候

一 大年寄玉置六郎左衛門印形損候ニ付改印仕度願印鑑相添差出承届

候

一 御弘米三百俵正銀六拾三匁六分八厘落札伏見屋茂七

町米正銀五拾九匁六分八厘

一 御蔵米六拾四匁 町米六拾目

一 元魚町縫屋清助大坂大川町綿屋義兵衛方へ三十日計之逗留ニ而來

ル十六日出立願大年寄承届差出三月十一日柳ル

一 町方孤独扶持拾四人分銀札貳百七拾四匁四厘真北類蔵ハ差越大年

寄へ相渡候

二月十四日 晴

一 大目付中ハ左之通御触書到来

今年御初入被成度御願書御先手深津主水殿を以御老中松平

伊豆守殿ハ被差出候処首尾能御請取被成候旨尤壹月廿一日

差出候由

一 碁将棋等賭勝負ニ紛敷類も有之哉ニ相聞候ニ付相慎可申旨

一 火事場ハ見物ニ罷越候義御停止之旨

一 御留場網わなはこ鉄炮獵ハ餌差竿を持致徘徊候族有之心得

違之旨

右写取町方ハ組中ハも相達候

一 去酉年諸勘定帳面大年寄差出

二月十五日 曇晴雨

一 同心組銀札場内借差引致算用残り元分壹貫七百九拾九匁五厘貳毛

八五之証文認替差出奥印取計之銘々証文引替置候

一 大坂長沢清左衛門ハ書状到来去酉正月致出訴候壳懸出入西今町古

金屋伊兵衛坪井町市瀬屋与市右両人濟方いたし相濟候段玉子屋九

兵衛ハ届書相廻候同十八日御所及御抄候

二月十六日 曇

一 同心組石名伝蔵義引込候付加人老人大目附へ申達候処植月卯四郎

來

一 出羽守棟御通行ニ付加人式人大目附へ申達候処土居万兵衛河村金

吾來

二月十七日 快晴

一 出羽守棟御通行聞合久世ハ差遣候もの今晚六時罷帰り昨夜四時久

世へ御着被成今暁七ツ時御立触有之候段大年寄ハ届出其段御用番

ハ大目附へ相届ハ五ツ半時供揃四時出宅西今町坪屋藤十郎方へ相

越相相居九ツ前時御通行被成例之通妙法寺前へ出御目見仕候処先

格之通御駕籠脇ハ松越後守棟町御奉行増見右門殿と名披露有之畢

而御目録金「」御徒之者ハ相渡頂戴之御札申述立宿へ引取東新町

御離れ被成候注進有之引取引懸ケニ御用番中へ相届大目附へ八馬

脇ハ以使相届八時前帰宅ハ供立例之通若堂為治幸治加人万兵衛両

口槍挾箱合羽籠ハ同心組役割割当番時治卯四郎昼廻又六新吾夜廻り

為治幸治御先弘小頭文藏平組柴治藤四郎馬駒百藏喜和右衛門

△例之通御先弘小頭へ三百文平組へ式百文馬駒出役兩人^正 銀式兩つ、被下之候右之段書付翌日大目附へ指出候○東西土橋^正 而相濟候付御船不指出仍^而 被下無之

右之外町方取計別帳先格之通^正 付略之

△繼馬式拾九疋 人足四百五拾八人差出候盲人馬間屋へ届出候

一撰州大坂島之内大宝町万屋善次郎一人例年之通皮足袋すいのう金通し壳^正 来候段西新町山家屋利右衛門宿切手指出候^{七百廿三日相}

一播州網干新在家加賀屋善七手代善兵衛一人例年之通小間物卸売来候段右同人宿切手出右同断

一盗人千与藏義院庄清眼寺^正 而盜取候袈裟壹ツ東新町延屋重四郎買取壳払候^正 付右代銀拾五匁取上ケ郡代所へ相廻し受取書取置候

一明十八日恐悅申上有之^正 付字治橋之間講釈御延引之旨近藤伊左衛門へ通用有之候

一旧年何置候盗人関助^正 中島屋幸助御裁許御用所^正 而ハ今少不当之様^正 而^正 不穩様^正 思召候間再考仕猶又伺候様大目附上原彦藏へ去ル

十三日違有之候尤右書類ハ御戻不被成候

二月十八日 快晴

一御用日^正 御初入被成度御伺書御老中御受取被成候恐悅申上^正 付麻

上下着用登城例之通於七間廊下御小性頭謁御奏者番^正 三奉行迄一同罷出右恐悅申上之畢^而 御用所^正 三奉行罷出恐悅申上之引懸ケ大

目附へ恐悅及挨拶

一土井大炊頭殿領分当国久米南条郡原田西村惣九郎倅幾太郎西今町

直屋孫四郎借屋住作人辰兵衛養子^正 引受度人別入願御用番御聞濟

二 付大目附へ差出御聞届申達候^{同廿七日住宅証文書出}

一雲州橋縫郡西代村治右衛門倅曾七夫婦娘^正 曾七弟藤三郎夫婦右家

内五人新職人町山本屋忠右衛門引受度人別入願右同断取計濟^{同廿七日住宅証文書出候}

一脇坂淡路守殿預り所当国久米南条郡南畑村小兵衛倅庄之助義西今町直屋孫四郎借屋住治兵衛養子^正 引受度人別入願右同断取計濟^{同廿七日住宅証文書出}

一勝間田町栄屋与三左衛門妹運義脇坂淡路守殿預り所当国英田郡土居村牛尾主税妻^正 差遣度人別除願右同断取計濟

一御代官布施孫三郎殿支配所当国勝北郡檜村惣兵衛孫為吉義七ヶ年以前寛政八辰二月西今町綿屋金兵衛養子^正 引受候所離縁仕親元へ

差返度人別除願右同断取計濟

一土岐山城守殿領分当国英田郡横尾村徳次郎倅与市一人河原町福原屋文治郎引受度人別入願右同断取計濟

一京町塗師屋熊吉裏御堀石垣損候付御繕願書大目附へ差出候

一大目附へ左之通違有之惣町^正 組中へ相違候
所々壁腰板等楽書致候もの有之候右鉢之戯無^正 之様子供^正 下々迄^正 申付候尤諸番所廻之者見合次第名面相糺申出候様申達

候此段及演達候

一大目附へ左之通違有之惣町へ相触候

先達^而 他所墨壳買御停止被仰出候所今般被差免候間以前之通他所墨壳買勝手次第^正 候

一出羽守様御通行^正 付繼人馬入用入足し六百三拾四匁分有之由喜

左衛門書付差出候

一 京橋御門入口橋詰西路次付堀覆上普請歎町普請歎御作事奉行金井長平より尋有之候^ニ 付大年寄へ申達候所町家普請^ニ 而 当時瀧山屋持分^ニ 候由申付其段申達候

二月十九日 快晴

一 愛染寺^江 盜賊這入折敷二ツ被盜取候触流取計候様大目附^ハ申来尤郡代所^江も及通用候様申来町触取計郡代所へ相廻候^{同廿三日方觸之官届出候}

一 中之町鮎屋藤吉伴与吉義御中間^ニ 被召抱^ニ 付人別除願差出昨日御中間頭へ懸合置候処無相違旨今日申来候付聞届申達候

一 桶屋町大坂屋彦市家内へ結置候十吉と申もの往来中間^ニ 被召抱候^ニ 付人別除願差出右同断取計相濟

二月廿日 晴 夜少雨

一 生野御代官布施孫三郎殿森山繁蔵囚人召連通用先触到来左之通

覚

一 本馬 老正 右人足^ニ 代ル

右^者我等義明廿日晚七ツ時作州勝北郡広戸村出立囚人老人召連久世表迄相越候条書面之馬御定賃錢受取之無遲滞差出可被繼立候此先触昼夜共繼送り久世表^ニ おゐて我等着之上可被相相返候以上

布施孫三郎手代

森山繁蔵

戊 二月十九日

榑村 津山 坪井 泊り久世 右宿村問屋年寄中

右先触写御用番中へ指出し先格之通保頭先立同心組式人為警衛可

差出旨申達大目附へも同様相届昼廻又六時治差出候所無別条町分通行相濟候段届出候付又々其旨御所へ相届候

一 郡代所^ハ牢舍人定吉呼出申来出番米治当番藤四郎差向出入取計之一大坂山本町大坂屋忠兵衛手代伊兵衛庄八孫兵衛利兵衛右四人例年之通小間物売^ニ 来候段坪井町河原屋治助宿切手差出^{三月五日始}

二月廿一日 曇 少雨

一 牢舍人新八治療二廻り相濟候処未相勝候旨申出大年寄へ申達候所明日^ハ藤木良全へ申付候段届出候

一 郡代所^ハ申来候^者院庄村へ順奥と申もの宮尾村^ハ送り来尤送り出し添書^并 往来等無之不束之もの^ニ 付可送返之処右ハ伏見町横町借

屋住奥庵と申もの、弟^ニ 付送り来候段申出候旨申来大年寄へ申付為相糺候処伏見町^ニ 奥庵と申もの^{有之}石井宝庵と申もの有之彼義^{有之}

^而も可有之哉同人義ハ坊主落医者^ニ 而 備前^ハ来り入帳いたし候もの^ニ 候処渡世送り兼不得止事妻子召連二百日之願^ニ 而 先月四回へ罷出留主之義故一向不相分尤宝庵妻之親嘉右衛門と申もの同借

屋^ニ 居候得共宝庵弟有之義兼^而 一向不及承由^ニ 付受候候事不相成旨申出候付送り被返候様^ニ 郡代所へ及返答候処院庄村役^ハ伏見町

町役へ懸合相糺候書面差添可送返候間右書面伏見町町役^ハ院庄村役へ右問合之答書相渡候様申付呉候様郡代所^ハ申来其段大年寄へ申付候

一 大目附上原彦蔵^ハ当春ハ伊勢參宮多有之沙駄付為心得申達候旨申来如何様之含^ニ 而 申来候事哉不相分候^ニ 付即刻罷越相尋候処唯一己之心付^ニ 而 申越候由強^而 差留申義^ニ 而 有之間敷被申聞承り置

候右ハ昨日申来候所認落候ニ付爰ニ記置候

一坪井町一文字屋文助義京都東屋町御池下ル町一文字屋茂右衛門方
へ廿日計之逗留ニ而来ル廿三日出立願大年寄承り届指出候四月朔日始り

二月廿二日 曇

一大目附上原彦藏呼ニ来賈銀一件之もの始末尋有之右書類不殘差
出候

一西今町東横町ニ而小畑屋藤吉所持之家屋敷表口式間裏行七間半但
老歩式厘五毛役也南ハ大溝北隣ハ同居宅也右家屋敷質物ニ書入
当十二月切一ヶ月老歩五朱之利足ニ而三倉屋善四郎取次ニ而銀札
式百匁借り受度願承り届ル同廿七日賈入証文指し出

一茅町越屋元治四国遍路八十日計之逗留ニ而明廿三日出立願承り届
五月廿六日始

一東新町山崎屋藤兵衛借屋家守作人万助夫婦娘俵忠吉右家内四人東
南条郡林田村庄屋伊八借屋へ引越度人別除願下方引合相濟候段申
出候承り届

一美濃職人町団扇屋甚兵衛方へ例年之通京都鞍馬大藏来候段大年寄
合相届候

一勝間田町福井屋市右衛門弟乙藏と申もの当月十七日同町柴屋与三
左衛門方ニ而致醉狂甚狼籍之趣大年寄迄届出候由其外所々ニ而致
醉狂町内ニ而も持扱兼候由廻り之組之者合示具候様大年寄より内
々申出候付夜廻り時治幸治差向強く叱以來禁酒申付候処甚誤入候
趣申出候

二月廿三日 晴曇

一御用日登城

一船持共廿五人例年之通老艘ニ付五拾匁宛都合老貫式百五拾匁拜借
仕度願書差出勘定奉行へ懸合之上御用番中へ申上御聞濟ニ付大目
附へ差出置御聞届申違候同廿七日十八日

一札元妹尾平兵衛義撰州能勢妙見宮江參詣廿日計之逗留ニ而明廿四
日出立願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申違候三月十五日始

一西新町岸田屋伊三郎義夫婦爭論出来致離別候得共家屋敷諸道具迄
片着不昨年以来色々取扱候得共筋付不申旨右願書大年寄内々差出
及披見候処外ニ致方も無之趣家屋敷諸道具并子供迄半分わけニ
たし離別片着より外之取扱方無之趣ニ相見候ニ付大年寄以下ニ
而取扱右之通筋付候様ニ内々可及差因旨御用番中へ及御噂候所下
方ニ而取計ハ勝手次第之義役筋之もの可及差因筋ハ無之旨被仰出
候付宜取計候様大年寄へ申違候

一伏見町古川屋忠兵衛義裏御堀端ニ建物仕度石垣御繕并御堀江足代
下し願大目附へ差出候

一船頭町備前屋辰藏義御中間ニ被召抱候ニ付人別除願御中間頭小島
唯七へ引合之上承り届同年十月十九日
御取入帳

一京町戸島屋伝吉俵大吉義右同断願右同断取計濟

一船頭町高瀬屋四郎兵衛幸助義右同断願右同断取計濟三月十二日始
二ノ宮芝居有之候ニ付安岡町横野屋長四郎引受世話仕度願差出寺
社取次三浦十郎左衛門へ引合之上承り届同廿六日願書一札指出候

一大篠西村丈八方へ去ル十七日盜賊遁入拾八品代ニ積り六拾六匁五
分計盜取候触流取計候様大目附合被相渡町触取計本書ハ差戻候
同廿日町方無之旨届出候

一阿州板野郡鶴島村喜右衛門手代利兵衛甚藏二人例年之通藍玉売来

候段船頭町沢屋惣左衛門宿切手差出

一 大年寄届出候^キ 昨夜勝間田町へ乱心女參候^而 往来のものへ擲懸り致狼籍候段町年寄共届出候付目明孫兵衛差向為相糺候所西々条郡余野村岩右衛門妻之由外^ニ 存候ものも有之由^ニ 付人馬問屋へ飛脚之者申付同町年寄方庄屋へ申遣急^ニ 迎^ニ 參候様申遣候段届出承り置

一 銀札場奉行栗原衛守^ル 錢七拾壹箇川下ケ申来奥書印形取計之

一 御初入御用^ニ 付役所御預り之御紋付高張焼灯^ニ 張御張替被仰付候様大目附へ相届候

二月廿四日 雨

一 久世御代官重田又兵衛殿手代曾根源次郎飯塚才次郎^今 昨晚飛脚差越旧臘廿四日御勘定所より御違有之候安岡町初屋伊兵衛義引合吟味^ニ 付来ル廿六日差出立合役人も差出候様申越候^ニ 付承知之旨返書下案差添御用番中へ相伺候処無程思召無之旨被仰出候^ニ 付返書相認今早朝飛脚之者^而 相渡候尤昨夜大年寄へ申達其段伊兵衛へ申付候処同人義故障無之段申出候右^ニ 付今朝御用番中へ罷越例之通町役老人同心組老人差添立会御役人大脇新左衛門可差遣旨相伺候処思召無之宜取計候様御即答有之仍^而 新左衛門義ハ昨年久世へ差出候節他所懸合中肩衣御免被成候間此度も同様之義改^而 伺候^ニ も及間敷哉之旨申上候処其段ハ勿論之義いつ逆も同様之義と被仰出候付如何様先役石名平太兵衛も忝度御免有之候後ハ度々^ニ 不相同肩衣着用致候趣^ニ 相見^而 候間左候ハ、新左衛門義も以來ハ度々^ニ 不相同着用仕候様^ニ 申達可置旨申上候処其通^而 宜候旨被仰出候

^ニ 付其段大目附月番上原彦藏へ馳と相届置当人^而 も其段申達置候右^ニ 付新左衛門呼出し今般為立会久世へ被差出候段申達置其旨勘定奉行近藤伊左衛門へ及通用候且又同心組差添三船藤四郎へ申付候様小頭へ申渡候○町役ハ久米屋鶴藏差遣候様大年寄届出候

△下役大脇新左衛門召連候拵若堂老人草履取老人被仰付候様大目附へ相違候

△大脇新左衛門差遣候付留守中書役代被仰付候様大目附へ申達候所無之^ニ 付不相廻候

△同心組差遣候付留守中加人老人被仰付候様大目附へ申達候所土井万兵衛来

△来ル廿六日新左衛門^ニ 為持遣候久世手代^而 之文通下案御用番中へ相伺候処思召無之段被仰出候

一 大年寄届出候^キ 昨日内々申上置候勝間田町へ来り候狂女余野村へ飛脚差遣問合候処同村^ニ 右躰之もの無之旨申越候^ニ 付猶又段々遂吟味候処割場中間幸治と申もの、妻右狂女從弟^ニ 候由^ニ 付同人^而 相尋候処元来出生ハ中谷村権兵衛と申もの、娘^ニ 而 先年当所綿打新吉と申もの、妻^ニ 相成其節佐々木主馬下屋敷長屋^ニ も居候所致離縁其後富村沖右衛門妻^ニ 相成居候所中谷村岩右衛門と申もの連出當時岩右衛門妻^ニ 候得共何方之人別之もの^ニ 候哉其段ハ不存旨申候由右之通之次第^ニ 勝間田町^而 も甚当惑仕候間何卒右沢立候迄牢番預ケ^ニ 被仰付被下候様大年寄申出候付何分文通等^而 ハ相分り申間敷^ニ 付目明孫兵衛を中谷村へ差遣迎^ニ 来候様為懸ケ合候様及差図置御用番中へ罷越右之始末申上寛政十年三月六日堀田

殿領分東安井村狂女朝日御門へ来候節も迎^ニ来候迄牢番^ニ預ケ置
目宅^ニ引渡候例も有之候義^ニ付何分牢番へ預ケ可置旨相伺候
処思召無之先例も有之義^ニ候得^キ猶更之義其通宜取計候様被仰出
候^ニ付大目附へも相届置出番栄治差向牢番預ケ取計之

一 牢凌申付候所無別条段昼廻り時治幸治届出候

一 中之町平福屋勘兵衛義押入村藤蔵甚助へ相懸り借銀滞出訴旧臘十

二 日郡代所へ相廻し置候処先月廿五日内済被申付候所内済相整候
済書指出候由写相廻り右訴状も相戻り当役所へ指戻候様^ニ申来候
同廿七日勘兵衛も預ケ願書差出承り届届格取候

二月廿五日 晴

一 一方村辰治不埒之筋有之牢番預ケ申付候段郡代所へ申来出番喜和
右衛門差向取計之

一 御領分西々条郡円宗寺村文右衛門弟新五郎義寛政十一未年六月四
日鍛冶町山形屋惣兵衛養子^ニ引受居候処家風^ニ不入^ニ付離縁願下
方引合相済候段申出承り届ル

一 播州赤穂郡塩屋村柴原七郎左衛門義三町目浜野屋源五郎親類之も
の^ニ而^ニ来候間五日計逗留為仕度願承り届^{四月八日届ル}

一 二階町伊勢正左衛門義京都蛸薬師高倉西へ入近江屋八兵衛方へ三
十日計之逗留^ニ而^ニ明廿六日出立願大年寄承り届指出候^{三月廿二日届}

一 播州網干天満屋儀兵衛一人例年之通反物卸売来候段林田町福吉屋
安右衛門宿切手指出^{十二月十五日届}

一 播州網干唐納屋左七郎一人例年之通小間物反物卸売来候段右同人
宿切手指出右同断

一 大坂立売堀二町目播磨屋惣吉一人例年之通小間物卸売来候段右同

人宿切手指出右同断

一 牢舍人府右衛門療治二廻り相済候所未相勝候^ニ付明日へ吉武祐三
江 申付候段届出候

二月廿六日 雨

一 今朝左之もの共出立久世役所へ指出候付其段御用番^并大目附へ相
届候但新左衛門宅^ニ而^ニ相揃

安岡町 初屋伊兵衛

町役 久米屋鶴蔵

指添 同心組 三船藤四郎

立会御役人 大脇新左衛門

二月廿七日 曇 少雨

一 安岡町三原屋八藏家屋敷南側^ニ而^ニ表口式間裏行十七間但式歩五厘
役也東隣ハ小倉屋七右衛門西隣ハ橋富屋喜与松也右家屋敷同町菱
川屋利八へ質物^ニ書入当十月切^ニ而^ニ一ヶ月式歩之利足^ニ而^ニ銀札百
五拾匁借用仕度願承り届^{三月十一日証文差出候間年十二月七日差出候}

一 船持共拜借去ル廿三日式拾五人相願候処七人断申出十八人^ニ相成
証文差出奥書取計之右之段明廿八日勘定奉行へ可及通用候

一 牢舍扶持拾俵之内貸証文奥書取計之尤^{四月}へ六升式合五勺持越候
積り

一 吹屋町熱田数馬來月七日出立金毘羅參詣願大年寄承り届指出^{三月廿三日届}

一同町持福院右同断願書指出 右同断

一下紺屋町一乘院右同断願書指出

一堺町小林主水右同断願書差出 右同断

一 上紺屋町四乘院右同断願書指出 右同断

二月廿八日 時雨

一 御用日登城

一 雲州秋鹿郡大垣村五右衛門倅治助一人二階町三保屋十右衛門家守

備前屋九兵衛借屋住吉本屋友治役介^ニ引受度人別人願御用番御聞

濟^ニ付大目附^ニ付大目附^ニ差出置御聞届申達候^{同前日住宅証文並出候}

一生野御代官布施孫三郎殿支配所当国西々条郡下斎原村医師有田養

益倅泰庵一人上紺屋町錢屋幸右衛門引受度人別人願右同断取計濟

一新魚町三津屋平右衛門借屋家守喜助借屋住つ、と申もの土井大炮

頭殿領分当国久米南条郡下弓削村岡部元孝妻^ニ差遣度人別除願右

同断取計濟

一二ノ宮芝居役者名面付建札^并太鼓打廻り之義願書差出右之段先格

之通口達^ニ御用番中へ申達大目附へも同様申達置御聞届申達候

一去ル廿四日牢番預ケ取計置候狂女之義聞合^ニ目明孫兵衛義御中間

幸治妻を同道^ニ中谷村へ罷越相札候処中谷村ハ十八年以前絶人

相成富西谷村へ引越親權兵衛先達^而死去狂女之兄善藏も当春死

去親類之もの無之右狂女^者同村斧右衛門倅之妻^ニ而六七年以前出

奔離帳^ニ相成近来内分乍帳外富東谷村岩吉妻^ニ相成居候由之処致

乱心罷出勿論右岩吉ハ勘当離帳^ニ相成住所不相知仍^而何方之帳^ニ

も無之もの、由富西谷村庄屋慶治^ハ差構無之由之一札取一昨廿六

日夕孫兵衛罷帰り右之旨大年寄^ハ申出今日大目附へ対談之上右躰

之もの^ニ付追払も難致^ニ付先暫牢番へ預ケ置可申旨御用番中へ申

上置候

一 美濃職人町妹尾屋吉兵衛借屋住金四郎と申もの割場御中間^ニ被召

抱候^ニ付除帳願差出御中間頭小島唯七へ引合之上承り届

一 於御用所御用番御年寄左之通申達之大目附出席

町奉行へ

一方村平七倅辰治義去ル已之十二月同村源治方^ニ而博奕致致

会逃去候処此度捕出候^ニ付五十敲掃村申付候此段取計可被申

候

右^ニ付郡代申談之上来月六日可取計候間御徒目附立会被差出候様

大目附へ届置候

一 大目附上原彦藏^ハ紙面^ニ而左之通申来候

上野介様衆^ハ御家老中へ御通行之節人馬手配之義頼来候追々

御様子可相知候間宜様御取計可有之候以上

一 林田町鍋屋治之助義撰州大坂南農人町一丁目大津屋源助方へ当戊

歳^ハ来ル子ノ歳迄三ヶ年之間奉公^ニ罷出度願差出承り届^{元禄四年申子年}

一 中之町綿屋勘兵衛義太田村八兵衛へ去ル已ノ才家屋敷質入^ニいた

し銀札八百目貸置候処指滞候段致出訴候^ニ付郡代所へ相廻候

一 林田村定吉と申もの去西七月式朱判老^ツ中之町平岡屋忠左衛門方

^ニ而致西替候段右定吉吟味之節申口^ニ付相札候様郡代所^ハ申来大

年寄へ申付候所其旨相違無之不調法之段恐入候旨口書取指出候

二月廿九日 曇

一 備前岡山小畑町鼠屋甚八手代文十郎一人例年之通元結卸売来候段

新職人町松のヤ十右衛門宿切手出^{七月十三日始}

二月晦日 時雨

一 関貫番質銀例月之通相渡候

三月 小

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 黒田要人殿

大目附 小須賀貢

大年寄 玉置六郎左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

三月朔^壬 申旦 快晴

一 斎藤孫右衛門伴嘉藏義去酉十一月廿二日実家播州山崎井上弥治兵衛方へ療治ニ罷越候処未相勝候ニ付当五月迄逗留為仕度日延追願差出承り届○五月廿七日猶又日延願

一 御蔵米 六拾三匁 町米 五拾九匁

三月二日 快晴

一 当国大庭郡赤野村権兵衛妹七き義西今町直屋孫四郎方へ去酉十一月迄来居候処未用事不相済候ニ付来ル五月迄逗留為仕度日延追願承り届六月十六日追願承り届

一 堺町三津屋平右衛門所持之他国受酒株去酉八月晦日今元魚町吉屋清藏へ貸置候処猶又来亥ノ二月迄借り受度日延追願承り届去二月晦日追願

一 林田町石原屋甚蔵借屋住吉見屋才之助一人此度小島定人長屋へ為引越度人別除指出候ニ付承り届取付

一坪井町福惠屋伊兵衛義大坂心齋橋筋大川町玉子屋九郎兵衛方へ三十日計之逗留^ニ 而^レ来ル七日出立願大年寄承り届指出^{四月朔日始候段届出候}

一坪井町北兵屋左七郎義大坂会所町玉子屋九郎兵衛方へ三十日計逗留^ニ 而^レ来ル四日出立願大年寄承り届指出^{四月廿一日始}

一大坂長沢清左衛門^{右衛門}の書状指越京町二文字屋嘉左衛門義大坂道修町伏見屋半^{右衛門}の菜種壳懸ケ老メ八百式拾八匁九分九厘指滞候段御屋敷へ致出訴候由右訴状相廻り候^ニ 付御用番中へ持参指出先格之通済方可申付旨伺置候

一御初入^ニ 付先日町方遂見分普請造作申付置候処自力^ニ 而^レ出来候分^者 追々出来可揃処中^ニ も極難渋人五拾人計一向得不仕もの有之大体積り上候処三拾貫目計も無之候^而 ハ出来不申趣大年寄^の取調帳面指出拜借被仰付被下候様申出候得共拜借可被仰付筋^ニ 而^レも無之外^ニ 致方も無之義^ニ 候ハ、追々心懸ケ自力を以取繕候様申付置猶此上も可成文心を付取繕候様^ニ 可申付旨大年寄へ申付置其段御用番中へ申上候所追^而 自是御達可成旨被仰出候

三月三日 快晴

一上巳^ニ 付例格之通組中罷出調

一西今町坪屋藤十郎義病氣^ニ 付播州加当郡宿村谷河了順方へ三十日計之逗留^ニ 而^レ明四日罷越療治仕度願指出承り届^{同日廿八日始候段届出ル}

一新職人町松の屋十右衛門所持之他国受酒株去酉十二月安岡町河本屋嘉兵衛へ貸置候処取戻候段届出候

三月四日 快晴

一大坂長沢清左衛門^{右衛門}の申来候大坂伏見屋半^{右衛門}の京町二文字屋嘉

左衛門へ相懸り菜種代滞出訴一昨日御用番へ指出伺置候処宜取計候様今日被仰出候付大年寄へ相渡糺之上済方申付候様申達ス

一大目附小須賀貢^の左之通申来候

大坂町御奉行佐久間備後守殿^の二月廿八日御呼出^ニ 付長沢清左衛門罷出候処左之通訴状阿通御渡被成六十日限可相消若又申分有之候ハ、所之もの差添登坂候様御違有之則写相廻り御用所へ差出候所宜取計候様被仰出候旨申来

一大坂北鍋屋町若狭屋佐兵衛^の当所元魚町美濃屋彦兵衛へ菜種代壳懸ケ去ル巳ノ年^の申年迄壹貫三百三匁三分三厘差滞出訴

一右同人^の当所京町二文字屋嘉左衛門へ右同様壳懸ケ去寅年^の酉年迄之分六百拾壹匁八分四厘差滞出訴

右^ニ 付右兩人明五日五ツ時呼出夫々手配申渡候

一大坂長沢清左衛門^の申来候伏見屋半兵衛出訴済方申付置候段大目附へ相届候

一銀札場奉行清水覺右衛門^の銭川下ヶ百四拾式箇申来裏印取計之

一上野介様御止宿^ニ 付先格之通拜借道具書付玉置六郎左衛門差出候^ニ 付大目附へ差出候

一上野介様御止宿^ニ 候得共先当年ハ御本陣御纏^ニ も及間敷旨申出候以前^者 何れ^ニ も御本陣御見分被差出候哉之様^ニ も相見へ候得共近年^者 御纏無之候得^者 見分不被差出様^ニ も相見候当年之処ハ如何可成哉と大目附へ申達候所差出候^ニ 及間敷旨挨拶有之候

三月五日 快晴

一 小頭文蔵部屋目附百蔵大年寄六郎左衛門諸吟味喜左衛門立会五時
左之もの共呼出左之通申付ル

大坂御番所御渡之訴状之趣小頭 元魚町 美濃屋彦兵衛
京町 二文字屋嘉左衛門

文蔵為誑聞相違も無之候ハ、六

十日限り濟方可致若又申分有之候

ハ、早々登坂仕可申披候右懸ケ合

中他參留申付候

右申渡相渡候段御用番 # 大目附へ相届勿論右之段来ル八日大坂へ
可申遣旨大目附へ談置候

一 牢舎人新八義二廻り療治相濟休業仕候 而も可然旨双方合届出承り
届

一 酒改共例年之通今日夕運上下方代同道 而相改候段大年寄合届出
候

一 新魚町樫野屋茂一郎義大坂大川町綿屋義兵衛方へ三十日計之逗留

二 来ル七日出立仕度願書大年寄指出承り届 四月廿日御用、付差留置會合孫左衛門向
出承り届、四月十三日退、四月廿九日届

一 上野介様御止宿 付御本陣前箱番所先格之通被仰付候様大目附へ

相届候

三月六日 雨

一 於牢屋御徒目附山本弥七郎下目附安井友治同心組小頭文蔵部屋目
附百蔵出番為治幸治立会六半時揃左之通取計之但申渡ハ郡代下代

五十敲掃村

一方村 辰治

右取計相濟候段御用番 # 大目附へ相届候

一 久世へ先月廿六日差出候安岡町初屋伊兵衛吟味相濟口書印形被取

之大脇新左衛門不殘召連九時前罷掃り右口書写 # 新左衛門応対手
扣差出候 付右写手扣共御用番へ差出其段大目附へも相届候

一 安岡町大黒屋喜兵衛義紀州塩津阿波屋八郎兵衛方へ三十日計之逗留
而 明七日出立願大年寄承り届差出 四月五日届

留 而 明七日出立願大年寄承り届指出 四月十日届り届候

一 西今町永野屋安兵衛義大坂大川町玉子屋九兵衛方へ三十日計之逗留
而 明七日出立願大年寄承り届指出 四月十日届り届候

留 而 明七日出立願大年寄承り届指出 四月十日届り届候

一 牢舎新田村定吉義郡代所合呼出申来出番為治幸治出入取計之

一 加人御使組飯島作右衛門不快引込 付右代橋本恵助来

三月七日 晴

一 伏見町北側 而 福田屋卯助家屋敷敷表口式間裏行拾三間半御堀石
垣限り但三步役也東隣ハ紙屋伝吉西隣ハ古川屋忠兵衛也右家屋敷
代銀札三百目 相極隣家古川屋忠兵衛へ壳渡度大年寄指出承り届 四月九日先券状指出

一 堺町南側 而 倉敷屋和助家屋敷敷表口四間裏行七間半但式歩五厘役
也西隣ハ和泉屋三郎助東隣ハ丸屋茂七也右家屋敷代銀札三百目 相極隣家
和泉屋三郎助へ壳渡度願承り届 三月十七日先券状出

一 小性町柿屋伊助伊三郎義去西十二月中旬不斗罷出候 付方々相
尋候得共行衛不相知旨届書指出例之通百日申付候 六月廿六日罷承り届

一 御用日登城

三月八日 快晴

一 橋本町柳屋多七役介武兵衛義御代官布施孫三郎殿支配所当国勝北
郡河面村かね方へ養子 差遣度人別除願御用番御開濟 付大目附
へ指出置御届申遣候

一 建部内匠頭殿領分播州林田林田町松本屋宇兵衛伴治兵衛義西新町

へ指出置御届申遣候

一 建部内匠頭殿領分播州林田林田町松本屋宇兵衛伴治兵衛義西新町

中村屋源六養子ニ引受度人別人願右同断取計濟四月十四日住宅文書出

一雲州松江堅町江戸屋六左衛門夫婦并娘并悴菰之助右家内四人桶屋

町桶屋市右衛門引受度人別人願右同断取計濟同十一日住宅文書出

一備前岡山出石町浜田屋与三右衛門悴源吾義林田町若狭屋庄兵衛養

子ニ引受度人別人願右同断取計濟同廿六日住宅文書出候

一因州鳥取本地町北屋利兵衛夫婦二人新魚町福田屋権兵衛役介ニ引

受度人別人願右同断取計濟四月朔日住宅文書出

一備前津高郡江与味村忠治郎悴善右衛門一人中之町作人茂助役介ニ

引受度願右同断取計濟同十五日住宅文書出

一中之町二月屋弁右衛門方へ去ル朔日夕盜賊表口之石橋を逃し石垣

を抜這入紙入并硯箱并銀札少々都合三拾匁計之品盜取候届書舐流

之義御用番聞濟ニ付大目附へ差出置町触取計候同十八日町方無之候届出候

一先月廿三日勝間田町ニ而召捕候無宿乱心女昨今さつぱりと致全快

本証ニ相成候段牢番合届出候ニ付住所并親類縁者等之義牢番合為

相糺候処親兄弟死絶外ニ親類并夫等も無之所々致流浪居候内右妹

致乱心候由而送り可渡もの無之ニ付落着所相尋候得「勿論住所

ハ無之候得共齋原へ年々田植等ニ被頼馴染多有之候ニ付何卒出

牢被仰付被下候ハ、齋原之方へ罷越度旨相願候段牢番共合申出候

付大目附へ対談之上右之段御用番中へ申上鳥目式百文計被下牢屋

門前而追払可申旨相伺候処宜取計候様候御即答有之候ニ付尚

又大目附へ申達明朝出牢可取計候間右鳥目相廻候様御達被下候様

相届最早取計濟并相届間敷旨懸合置候

一久世合新左衛門取帰り候安岡町初屋伊兵衛口書写御用番御戻被成

御城下ハ西北条郡之所久米南条郡と認有之候ニ付町役而も差遣

内々郷宿へ懸合候而も可然哉之旨御移有之候付右本書も如何御座

候事哉何分相糺候上而可申上旨申上置新左衛門相糺候所一向心

付無之写し間違計之義ニ候得并新左衛門合郷宿へ内々申遣候而も

可相濟候得共本書間違有之候得并印形無之候而ハ不相濟義故内々

御移御座候様ニ町役ニ印形為持差遣可然旨申候ニ付其段御用番中

へ相伺候所無程伺之通宜取計候様被仰出候付新左衛門合直ニ町役

へ申含明日ニも差遣候様申遣候

一上野介様御宿割中川一暉昨夜来弥十二日御止宿相違無之旨申候段

届出候付其段御両所へ申達又

一上野介様御牽馬五疋有之旨御宿割申聞馬宿無之ニ付五疋連飯厩町

会所ニ被仰付被下候様大年寄合申出候付其段大目附へ申達候所承

知ニ候ニ付其段大年寄へ申達又

一御止宿有之候節御徒目附田張宿高張姚灯之義世話いたし候もの無

之度々やかましく此度も山本弥十郎合右等之義も申聞候ニ付役筋

御本陣而右等之義取計候例無之勿論御本陣而致世話役様ニ

と御達有之義ニ候ハ、其旨ハ可申付候得共既御用箱姚灯ハ御銘々

ニ受取御持參候事ニ候得并夫と同様之義而可有之旨申達置其段

大目附へ申達候所左之通小須賀貢合被申聞候

御徒目附出役出張宿高張姚灯之義并以来御徒目附へ度々ニ御

渡被成候様ニ相成候間外合之世話ニ不及旨被相達則其段玉置

六郎左衛門へ達置候

一二ノ宮芝居今日大入取計候段勸進元合届出寺社取次へ懸ヶ合之上

先格之通同心組可差出之旨大目附へ及噺置小頭文蔵榮治万兵衛指
出候所無別条引取候段届出候

一久世へ差遣候三船藤四郎今日ふ出勤ニ付加人植月卯四郎指返し其
段大目附へ相届候

一上野介様御止宿ニ付先格之通出役可仕旨御用番中へ相届御貸人馬
之義大目附へ相届候

一目明孫兵衛引込候付仮役源之丞へ可申付旨小頭文蔵伺出承り届

一大目附廻状左之通到来組中牢屋三軒屋高石垣番へ相触候様小頭へ
申付ル

於高野宮社地見せ物有之候右之場所へ自分并妻子ハ不及申下

々ニ至迄參候義御停止之事ニ候

一中之町平岡屋忠左衛門義林田村定吉々式朱判卷ツ買物代ニ受取候
由郡代所吟味ニ而引合申来相糺候所無相違ニ付右員数取上ケ追込

五日可申付旨伺書御用番へ差出置候四月十一日向通被仰出候

一御蔵米 六拾貳匁 町米 五拾八匁

一堺町稻実屋義七郎義大坂堂島潮屋源兵衛方へ廿五日計之逗留ニ而
十四日出立願大年寄指出し承り届四月十四日延願承り届四月十九日届

一林田町豊国屋大助義大坂近江町光吉三郎右衛門方へ三十日計之逗留ニ
而明後十日出立願大年寄承り届指出候四月四日届

一京都愛宕山長床坊使僧柳意坊上下式人例年之通旦那廻りニ来候段
新魚町三沢屋与八宿切手指出候

一大坂長沢清左衛門へ申来大目附へ御達有之候元魚町美濃屋彦兵衛
京町二文字屋嘉左衛門へ相懸り出訴之義濟方申渡候段今日御便ニ

可申遣旨大目附へ談置候処御飛脚延候付大目附へ対談之上態飛脚
被仰付長沢清左衛門へ申遣候

一上野介様御止宿ニ付先格之通町触差出候

一上野介様御止宿ニ付御使者宿高張姚灯拜借書付先格差出来候所諸
事先格之通取計候様御達被置候間不及書付勝手次第受取候様小須
賀貢被申聞其外役筋取計一々不被及差図候間諸事近例之通取計候
様右同人被申聞候

三月九日 曇

一上野介様御先触到来左之通写差出御用番中へ指出大目附へも相届
候

覚

本馬 拾四疋 輕尻馬 貳疋 人足 九拾四人

米子右三月十日入用 溝口二部根兩板井原右三月十一日入

用 新庄三鴨勝山久世坪井右三月十二日入用 津山勝間田

土居右三月十三日入用 以下略之

右此度上野介殿為參觀来ル十日在所雲州広瀬表被致出立候

間右之通人馬無間違差出可給候此帳面無滞早々順達有之留合

江戸四ツ谷御門外此方屋敷ニ而河島郷右衛門永井五左衛門方

へ差遣可給候以上

雲州広瀬 今泉文平

三月六日

宿々問屋中

覚

一人足貳拾壹人 本馬五疋

雲州広瀬 天野大原宛

右^者来ル十日広瀬出立大坂表へ罷越候^ニ付^而入用候間無間違
様御手合置可給候以上

三月五日 雲州広瀬 森山右門

宿々問屋中

一 牢番預ヶ置候無宿狂女昨日之処^ニ記置候通之義^ニ付今朝昼廻り栄
治万兵衛差向銀札二匁差遣牢屋門前^ニおゐて追払候

一 牢舍人府右衛門療治吉武祐三相勤候処未相勝候^ニ付明日^ノ吉武修
格へ申付候段双方^ノ届出候 同廿三日休書

一 二ノ宮芝居大札拾六枚小札拾四枚有之無別条引取候段百歳喜和右
衛門届出候

一 御館入土居宿妹尾三郎平倉敷村春名代二郎年礼^ニ罷出候段蔵合孫
左衛門^ノ申出候付即刻呼寄於座敷裏付上下着用調之尤玄閔迄慥野
屋茂一郎致同道昨年之通三本入扇子箱致持參候得共昨年^者初^而之
義^ニ付致受納候得共当年^ノハ毎年之義^ニ付及断候尤昨年之通玄閔
番加番一人申付候但於座敷闘斗茶煙草盆当番之者出之勿論扣居候
内之茶煙草ハ下人差出之

三月十日 曇少雨

一 船出入一件西川領船肝煎武助義他領川岸荷割取締書連印不致去暮
以来出入^ニ相成早春^ノ大^年寄共西川大庄屋へ懸合居候所漸々昨九
日武助来長岡之船肝煎弥兵衛善左衛門立会於当所武助調印仕右一
件落着仕万端相濟候段蔵合孫左衛門^ノ相届右連印之締書本書指出
候付其段委細御用番中へ申上右締書差出候処無程御戻被成候追^而

大目附へ可差出候

一 上野介様御止宿^ニ付御徒目附立宿名面付^并御先触写御用番御下ヶ
被成大目附へ差出候

一 川端又六不快引込^ニ付加人一人大目附へ申達候所青井義蔵来

一 上野介様御止宿当日二ノ宮芝居相止候義寺社取次野条金平へ対談
之上相止候様勸進元へ申付候様大年寄へ申達^ス

一 上野介様御通行^ニ付御道見分可差出先格之処出羽守様御通行間も
無之候^ニ付相止候様申達候

一 上野介様御止宿^ニ付同心組加人式人大目附へ申達候所小堀助四郎
石岡助右衛門来

一 二ノ宮芝居大札五拾九枚小札三拾七枚有之無別条相濟引取候段為
治藤四郎届出候

一 上野介様御止宿之処御本陣玉置六郎左衛門義不快^ニ付代人蔵合孫
左衛門可差出旨喜左衛門^ノ申出候付其段御用番^并大目附へ及噂置
候尤孫左衛門義も此節不快^ニ付得不罷出候ハ、余人可差出段申上
置候

一 久世^ノ取帰^リ候口書写郡名認違之義昨朝新左衛門^ノ久米屋鶴蔵へ
得と申含久世へ差遣候処同夕及深更罷帰^リ新左衛門^ノ申越候^者郷
宿忠平を相頼候処同人早速役所へ罷出猶又鶴蔵同道いたし役所^ニ
而本紙之方ハ始之所認替印形取之下地之書損有之分消印申付別紙
写ハ相直候^而源治郎^ノ甚不調法いたし候由鶴蔵へ厚及挨拶候由昨
夜申越候^ニ付今朝御用番へ持参仕右之旨新左衛門手紙差出候
一 大脇新左衛門義右之通口書認違有之義不心付不調法恐入勘定奉行

へ差扣伺出候所同役何れ不快^二付拙者^〆伺具候様栗田辰右衛門
〆加藤広治を以申越候付大目附へ申達候所承知之旨^二候所無程紙
面^二而支配下之差扣伺^〆御用番へ直^二可伺筋^二付其旨^二取計候様
申来候付御用番中へ其段申上候所町役久米屋鶴藏義も被捨置間敷
一ト通り叱^二而も取計候筋哉^二御移有之候^二付即座^二其旨も相伺
候処後刻御達可成旨^二而引取候段無程大脇新左衛門差扣伺不及其
義以来可入念旨被仰出^并町役久米屋鶴藏義伺之通叱取計候様被仰
出候付新左衛門義ハ栗田辰右衛門へ申遣鶴藏義左之通申渡候様大
年寄へ申付大目附へも相届候

此間久世へ差出候節口書^二安岡町 久米屋鶴藏

郡名認違有之候処心付無之不念之至^二候以来可入念候

右^二付拙者義も不心付其俣差出候段恐入差扣可何処類役不残不快
^二付可相頼人無之折節上原彦藏へ対談序^二其旨相咄候所三浦十郎
左衛門〆右之段大目附月番へ紙面^二而何れを相頼差扣相伺可然哉
と尋遣候様申聞候付其旨十郎左衛門へ相頼候処返書^二而類役不残
不快^二御座候ハ、三浦伴左衛門場合^〆違候得共同人を以^被相伺候^而
而も可然歟と申来候付三浦伴左衛門相頼伺候処何分明朝御用番へ
可相伺旨挨拶有之候処翌十一日昼時前増見右門差扣不及伺出候^而
旨三浦伴左衛門へ申来候

一三軒屋番中村作治義大脇新左衛門を以内々相願候^〆是迄一向他国
へ不罷出當時之勤柄^二而ハ旅御用等も無御座義^二付何卒此度御初
入^二付御迎之御使組參候内へ被差加出府仕候様相歎尤同役中尾清
八義兩人分相勤可申受合殊^二申立^二〆不相成候得共作治兄も同居

いたし居候事^二而彼義も以前三軒屋番相勤候もの、義内分ハ作治
留主中清八へ助力いたし候段申出是迄も昼分ハ老入つ、使組^二被
遣候事^二而病氣永引込等^二も加人取候義無之左候得^〆而三月之間
ハ不苦義哉^二被存其段勘定奉行へ懸合之上大目附上原彦藏へ先月
申遣置候処同役致評譏候処先ッ不相成筋^二致評決候段今日返答有
之候^二付勘定奉行へも及挨拶置新左衛門へも内々相移候

三月十一日 少雨 晴 曇

一昨夜相廻り候加人青井義藏不快引込右代り日下藤右衛門来

一船出入今般西川領武助義^二付櫻野屋茂一郎姫路屋甚右衛門骨折候
間工面もの、内を以大年寄場合切^二而兩人^〆式百疋差遣度孫左衛
門伺出承り届

一船出入他領川岸荷割一件濟口連印一札^并新左衛門久世〆取帰り候
初屋伊兵衛口書写御用番御下ヶ被成候^二付大目附へ差出候^而
同上日辰ル

一上野介様明十二日御止宿^二付書役大脇新左衛門召連出候付御貸人
中間老人大目附へ申達候

一二ノ宮芝居大札五拾枚小札三拾枚有之無別条相濟引取候段幸治患
助届出候

一大目附廻状左之通昨十日到来組中へ差出候

野上介様近々御止宿^二付御本陣前罷通間敷旨前格之通被仰出
候

三月十二日 雨

一上野介様御止宿^二付前宿聞合新庄へ遣置候遠見之者五ツ半時罷帰
り昨晚七半時新庄へ御着被成今暁七時御立触有之候段大年寄届出

其段御所へ相届候

一御領分西北条郡山北村分紺屋佐助役介市太郎一人福渡町河内屋多助役介引受度願下方引合相濟候段申出承り届

一元魚町山手屋弥太郎家守松屋源藏并俸徳次郎次郎吉右家内三人此度御領分西北条郡山北村佐右衛門方へ引越度人別除願右同断

一上野介様御止宿付自分義九半時供揃八時出出宅西今町坪屋藤十郎方へ出張相扣居候所暮六時前御到着被成先格之通妙法寺前へ出御目見仕候処御駕籠令当所町奉行増見右門殿と披露有之右御着之義御所へ相届置直々中宿二丁目福永屋藤助方へ相越自分伺可

罷出旨申遣置候処四ツ時前案内有之御本陣へ罷出候所御取次瀧常右衛門出迎候付左之通申述之

上野介様益御機嫌克御旅行被成当駅御止宿被成恐悦奉存候先達も申上候通此方様令兼御断被仰進候付役筋八御機

嫌克伺差扣候様被仰付候へ共私義八兼蒙御懇命候事故自分伺罷出候間御序之砌御役人中様迄可然様御執成被下候様申

述候処後刻可申上旨挨拶付直取引

京町菊屋鶴吉方夜中出張

△仕度触御立触共伏見町物頭立宿へ為知候事

三月十三日 雨

一上野介様六時前御立被成林田町横町へ罷出御目見増見右門殿と計名披露有之又々立宿京町迄引取町分御離之注進承り引取引懸ケ

御用番中へ相届大目附へ八馬脇令以使相届六半時帰宅

供立前様灯口之者 馬并和右衛門 司張様灯 二張持之 草履取 合羽籠

助右衛門 助四郎

扶箱

御止宿之節者 用使式人若堂四人可召連先格候処人数調違有

之差懸り難取計付内々三人相濟候以後不相成事○自分御機嫌伺罷出候節八馬相止候様兼御違有之付二丁目立宿令直

京町立宿へ相廻置候事

一上野介様今般御止宿取計都寛政十年御止宿之節之取計之通也仍略之名面計記ス

△御使者宿齋藤孫右衛門 御取次藤本伴右衛門

△町奉行立宿 西今町坪屋藤十郎 二丁目福永屋藤助 京町菊屋鶴吉

△風廻り物頭植木左士立宿 安岡町岡崎屋伊兵衛

△右同断古市主殿立宿 伏見町田邑屋治助

△御徒目附下目附立宿 安岡町三倉屋平兵衛 京町田戸屋惣十郎

△御先扨同心組立宿 安岡町綿屋万吉 京町門屋利兵衛

△御使者種村登門 自分伺植木左士立宿 二階町組屋忠右衛門

但植木左士義八自分伺付時刻成候も賄差出不及弁

当持参候事

△東西土橋 相濟候故御船不差出候事

△人馬問屋へ宮田喜左衛門可罷出所差懸り当病付欠役

△宿馬式拾壹疋 人足百五拾六人入候由 問屋令書付差出

△御本陣へ三百疋献上物付百疋 亭主代蔵合孫左衛門へ式

朱被下置候段書付指出承り置

△同心組役割 十二日当番 昼廻 夜廻 御先扨

供立前様灯口之者 馬并和右衛門 司張様灯 二張持之 草履取 合羽籠

助右衛門 助四郎 十三日御先扨 当番 昼廻 夜廻

扶箱

馬駅記

一 御用日登城申上候御用向無之

二 二階町中川五左衛門義御堀へ足代下し願指出大目附へ差出候

二二ノ宮芝居雨天ニ付延引

三月十四日 晴

一 撰州豊島郡池田村月野木町植木屋平兵衛一人例年之通植木売来候

段堺町西川屋善助宿切手差出

一 久世御代官重田又兵衛殿手代曾根源次郎飯沼才次郎ハ飛脚差越立

川源左衛門と申もの又兵衛手代之由申偽銀子等ねたり取候ニ付召

捕逐吟味候処川島周庵方ニ若堂奉公いたし居候所去酉七月致出奔

候由申之候尤周庵方ニハ吉川良助と申候由右ハ取逃等いたし尋

之ものニ無之哉相札否申聞候様ニ申来候ニ付来書之趣致承知候

相札自是可及御報之旨返書下案相認御用番中へ差出候処思召無之

宜取計候様被仰出候ニ付返書相認飛脚之者へ相渡右来書翌十五日

又々御用番中へ差出周庵義御札御座候様仕度旨申上候

一 二ノ宮芝居大札五拾三枚小札四拾五枚有之無別条引取候段百蔵惠

助届出候

三月十五日 快晴

一 京町田原屋伊兵衛義播州姫路京口壺丁目とまみや平兵衛方へ四十

五日計之逗留ニ而明十六日出立願書大年寄承り届指出

一 他領川岸船荷割取締一件西川領武助と出入懸合相濟候ニ付右手扣

帳一冊蔵合孫左衛門指出受取置尤取締連印一札ハ本書ニ付孫左衛

門へ指戻置候

一新魚町研屋万兵衛義伯州米子仕立屋伝兵衛方へ三十日計之逗留ニ

而明十六日出立願大年寄承り届指出四月廿二日逗留承り届

一 二ノ宮芝居大札七拾枚小札三拾五枚有之無別条引取候段為治喜和

右衛門届出候

一 札元妹尾平兵衛義先月廿三日能勢妙見宮へ參詣仕候処病氣ニ付今

十日計逗留仕度日延追願指出御用番中へ持參申上候所即刻御聞濟

ニ付其段申達候四月廿一日届

三月十六日 雨

一 昨夜更廻り柴治藤四郎幸治恵助差出候所安岡町明石屋庄七留主ニ

而博交參会いたし居左之もの共召捕候段候ニ付夫々取計申付候

安岡町 志の屋作重 江川屋六兵衛 鍛冶屋弁治

茅町 池上流瀆 作人中之助 玉島屋幸吉

美濃職人町 平佐屋八十八 新田村分原ノ伊右衛門

無宿兵藏

右之内無宿兵藏と申ものハ元備前もの、由其場ニ而非人ニ相渡御

領分追払申付候

新田村原ノ伊右衛門ハ出番為治差向郡代所へ引渡候○町人別之も

の七人ハ手錠懸ケ夫々町へ相渡組合預ケ申付候其段御用番并大目

附へ相届候

一 小頭文蔵義昨夜御家中関貫致更廻候所無別条段今朝届出候

一 於大年寄宅小頭部屋目附差向左之通申渡之

林田村定吉ハ去酉七月 中之町 平岡屋忠左衛門

買物代ニ式朱判卷ツ受取候段御定法相背不埒至極ニ付

右代物不残取上ケ追込申付候 但日数五日

右取計相済候段御用番^并大目附へ手紙^ニ 而相届候

一郡代所^ノ林田村定吉出牢申来喜和右衛門差向取計之

一郡代所^ノ新田村原ノ伊右衛門牢番預ケ申来昼廻為治藤^{〔坂町正〕}四郎差向取計之

計之

一牢屋下番中間久五郎引込^ニ 付割場^ノ加入来候段牢番届出候^{〔同廿八日〕}

一二ノ宮芝居雨天^ニ 付延引届出候

三月十七日 雨 昼後晴

一二ノ宮芝居来治武兵衛差出候所俄雨天^ニ 相成興行不致候^ニ 付其俣

引取候

一御領分東南条郡勝部上村六太郎^并 同人母姉石家内三人上紺屋町大

坂屋宇兵衛役介^ニ 引受度人別入願下方引合相済候段申出承り届

一西新町大坂屋利助夫婦西国順礼罷出度八十日計之逗留^ニ 而来ル廿

一日出立仕度願大年寄差出承り届^{〔五月廿三日〕}

一上野介様御止宿^ニ 付御本陣入用百五拾八匁老分九厘有之候由帳面

差出遂一見差戻候

一萩野喜和右衛門引込候付加入一人大目附へ申立候所山本治三郎来

三月十八日 晴

一御用日登城宇治橋之間講釈御延引

一雲州松江末次茶町式丁目大工藤治郎俣金藏夫婦二人京町若松屋義

助借屋住いの屋善助引受度人別入願御用番御聞済^ニ 付大目附へ差

出置御聞届申達候^{〔同廿六日住宅左文書出〕}

一去秋油方之もの^ノ相頼菜種致上乘出坂いたし候熊右衛門と申もの

組合預ケ被仰付其日過之もの、義永々之義^ニ 而及難波候^ニ 付未右

引合一件不相済候得共兵庫^ノ来候油方之ものも罷帰候後一向否も

不相聞候得共元^ノ上乘之もの^ニ 不調法有之筋^ニ 而無之^ニ 付被差免

可然旨御用番中へ相伺候処即刻御聞済^ニ 付大目附へも達置左之通

大年寄へ申達候^{〔同廿七〕} 〔同廿八日〕

組合預ケ被差免候 桶屋町 虎屋熊右衛門

一下組屋町中之横町土橋損し^并 大溝埃堰損候段届書指出大目附へ指

出候

一洪水防取計考両名^ニ 而郡代所^ノ御用番へ差出候所思召^ニ 不相叶即

日御差戻被成候

一沢田村半助方へ去ル七日夕盜賊遁入衣類十五品代^ニ 積り式百八匁

計之もの被盜取候町触取計候様大目附^ノ被申達町触取計本書八差

戻候^{〔町方ニ無之同月廿七日届出候〕}

一一ノ宮村東山方仁左衛門方へ去ル四日^ノ十一日之内盜賊遁入衣類

八品代^ニ 積り九拾匁計之もの被盜取町触右同断取計済^{〔町方ニ無之同月廿七日届出候〕}

一福渡町阿賀屋助五郎家守万五郎借屋住助七と申もの一人徳守官地

子居へ引越度人別除願指出寺社取次三浦十郎左衛門へ引合候上承

り届

一狂女追払候節被下候式百文今日小勘者^ノ相廻候

一久世^ノ去ル十四日申来候川島周庵方^ニ 召仕候良介義周庵方^ニ 而ハ

龍助と申中間奉公いたし居候処外へ指遣候扶持米を引込遂吟味候

処受人^ノ相并段々及断候^ニ 付暖差遣以來懸り合無之旨同人并書御

用番中^ノ御渡被成候付下案相認伺候処宜取計候様被仰出依之大目

附へ相届尤今夕仕廻明朝立^三而可差遣候間飛脚之者被仰付被下候様相届候処河村新吾来相渡候

一 二ノ宮芝居大札九拾八枚小札四拾五枚有之無別条引取候段百蔵右衛門届出候

三月十九日 晴

一 二町目綿屋藤吉方へ昨十八日之夕盜賊遁入錢箱取出候所目覚候付逃去り候段届書指出

一 上野介横御止宿^二付継人馬入足間屋入用三百九匁九分八厘之由喜左衛門書付指出候

本陣入用合テ 四百六拾八匁七分七厘

一 福渡町横町西側^二而沼屋儀兵衛家屋敷表口式間半裏行拾貳間但三歩役也北隣ハ友輔借屋南隣ハ浜崎屋喜兵衛也右家屋敷代銀百八拾匁^三相極宮脇町森原や岩助へ売渡願承り届翌日送致出

一 酒改共御運上銀老貫四百四拾九匁分八厘九毛致上納候書付差出

一 西今町菱屋治助義長州下ノ関三百目屋敷油屋仁左衛門方へ四十五日計之逗留^二而明廿日出立願大年寄承り届差出候五月十八日退願承り届

一 二ノ宮芝居大札百三枚小札四拾枚有之無別条引取候段為治惠助届出候

三月廿日 雨

一 今日安岡町博奕参会之もの共可遂吟味昨日加人兩人大目附へ申達候所此節風邪流行引込多御人無之^二付難差出候段申来左候ハ、吟味可相延旨及返答夫々^江延引申達候

一 雨天^二付二ノ宮芝居延引之段届出候

一 大坂長沢清左衛門之返書到来^二文字屋嘉左衛門美濃屋彦兵衛へ濟方申付候段去ル十四日御番所^江相届候旨申来右返書御用番中へ差出大目附へも相届候

一 久世^江指遣候飛脚河村新吾八時過罷帰り返書無之状箱と受取書取罷帰りは又御用番へ指出大目附へも相届候

一 加人橋本惠助引込^二付荒木源四郎代^二来候

一 加人日下藤右衛門出府前^二付為右代御旗組北村多吉来ル

三月廿一日 雨

一 中之町平岡屋忠左衛門追込昨日迄五日^二相成候付今朝指免其段御両所へ相届候

一 二ノ宮芝居雨天^二付延引届出候

一 新魚町櫻野屋茂一郎義去ル五日登坂願承り届候処上野介様御止宿^二付大年寄御出立見合候様申付候由其後流行風邪^二而段々延引之所内々御用向も有之^二付出坂差留申付蔵合孫左衛門伺出承り届候所出坂被差留候^而ハ甚難決候旨歎出候段又々申出候^二付如何様とも宜取計候様申達候

一 小野田為治風邪引込届出候四月十三日出候

一 元魚町東側^二而大庭屋善兵衛家屋敷表口七間半裏行拾七門但式軒役也南隣ハ糀屋伊助北隣ハ海老屋長右衛門也右家屋敷糀屋伊助取次^二而質物^二書入銀札三貫目一ヶ月巻歩之利足^二而来ル十二月切

^二借用仕度願承り届同廿三日送致出候、十月十八日送致候

一 山田主膳殿^二相勤居候橋本町朝本屋源蔵後家娘^并孫娘右二人朝本

屋後家方へ引受度人別人願承り届尤右ハ原七郎妻子也

一勝間田町油屋才右衛門夫婦西国願礼罷出度百日計之逗留^ニ 而明廿

二日^{五月廿一日}出立願承り届

一中之町平岡屋忠左衛門義林田村定吉^ニ受取候式朱判老取上ケ大年寄^ニ指出候

一西新町大和屋利兵衛方^ニ 而去酉七月被盜取候品林田村定吉拾候由^ニ相決右品去ル十七日郡代所^ニ相廻リ翌十八日大和屋利兵衛へ相渡候委細別帳^ニ記有之^ニ付略之

三月廿二日 晴

一戸川町作人喜兵衛義四国遍路罷出度百日計之逗留^ニ 而来廿七日出立仕度願承り届^{八月廿日}

一三町目高雄屋藤助義大坂過書町玉子屋九郎兵衛方へ四十日計之逗留^ニ 而明後廿四日出立願大年寄承り届差出候^{五月四日}

一一ノ宮芝居路次悪敷^ニ付延引届候

一江原文藏風邪引込届出候^{同廿七日出動届出候}

三月廿三日 快晴

一御用日登城

一松平上総介殿領分備前盤梨郡本町重右衛門弟勘次郎一人船頭町高瀬屋文吉引受度人別人願御用番御聞濟^ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一脇坂淡路守殿預り所当国英田郡倉敷村多兵衛娘爲義坪井町ふる屋利右衛門妻^ニ引受度人別人願右同断取計濟^{四月朔日住宅延文出ス}
一牢舍人義助病氣申出大年寄へ申付候処中村易安へ申付候段届出候

易安風邪^ニ付同廿九日^ニ高道所へ申付候出

一播州今市綿屋嘉市郎一人例年之通呉服物売来候段新職人町松の屋

十右衛門宿切手指出^{四月廿二日}

一播州鶴村平井八郎右衛門と申もの玉置卯左衛門方へ来候付当月中逗留仕度願同人指出承り届^{同廿九日}

一中之町綿屋勘兵衛義来ル廿五日郡代所へ差出候様申来其段大年寄へ申達ス

一石名伝藏義明日^ニ出勤届出候

一一ノ宮芝居大札五拾五枚小札四拾枚有之無別条引取候段百蔵源四郎届出候

三月廿四日 雨

一一ノ宮芝居大札九拾五枚小札五拾枚有之候処雨降出途中^ニ 而相止無別条引取候段幸治治三郎届出候

三月廿五日 雨

一郡代所^ニ西田郡村四郎兵衛答牢舍手形相廻り認かへ出番藤四郎差向取計之

一目明孫兵衛義昨日^ニ致出勤候^ニ付仮役源之丞指免候

一中之町綿屋勘兵衛義今日郡代所へ差出候様申付置候所雨天^ニ付延引申来其段大年寄へ申達候

一一ノ宮芝居雨天^ニ付延引届出候

一坪井町鉄柄屋吉右衛門借屋住清藏義甲州身延山へ参詣七十日計之逗留^ニ 而来月四日出立願大年寄指出承り届^{五月晦日}

一京町桶屋四郎兵衛兄登作義四国遍路百日計之逗留^ニ 而明廿六日出立願承届^{七月三日}

一 諸吟味役宮田喜左衛門義京都高倉通三条下ル町墨屋善七方へ三十五日計之逗留^二 而^一明後廿七日日出立仕度願大年寄差出承り届^三 五月八日届

三月廿六日 晴

一 二ノ宮芝居路次悪敷^二 付延届出候

三月廿七日 晴

一 下紺屋町長江朝庵義播州平野村中井久兵衛方へ三十日計之逗留^二 而^一来ル廿九日出立願大年寄承り届指出候^三 病氣付途中全罷務段四月四日届出候

一 牢舎内貸米拾俵請取証文小頭分差出與印取計但式斗式合五勺五月江持越候積

一 西今町綿屋金兵衛後家取持之自国請酒株去酉十二月分東新町久米屋清介へ貸置候処此度取戻し度願差出承届候

一 右之株中之町秋田屋宗兵衛^江譲り渡願差出承届候

一 二宮芝居大札式百五十枚小札五拾枚有之無別条引取候段百歳多吉届出

三月廿八日 雨

一 御用日之処自分儀風邪不相勝依之当病御断^并御用向三浦十郎左衛門へ頼遣

一 森河内守殿御領分播州佐用郡下本郷村市之助娘みよ西新町備前屋義助嫁^二 引請度人別人願御用番御聞濟^二 付大目付へ達置候旨十郎左衛門分申来御聞届達候^三 四月十四日住宅証文差出

一 脇坂淡路守殿御預り所当国勝南郡飯岡村新三郎弟新兵衛義京町仕立屋新助養子^二 引受度人別人願右同断取計濟^三 四月六日住宅証文差出

一 脇坂淡路守殿御預り所当国勝南郡飯岡村新三郎弟新兵衛義京町仕立屋新助養子^二 引受度人別人願右同断取計濟^三 四月六日住宅証文差出

一 御代官重田又兵衛殿御支配所備中国小田郡有田村伴助娘とよ老人

鍛冶町鍛冶新兵衛役介^二 引受度人別人願右同断取計濟^三 四月朔日住宅証文差出

一 新職人町塗師屋長右衛門借家住筑後屋利兵衛義去酉十月出奔百日尋申付候得共行衛不相知人別除願右同断取計候

一 下紺屋町稲田屋藤十郎後家借屋住儀屋善六義去酉十一月廿五日出奔百日尋申付候得共行衛不相知人別除願右同断取計候

但右善六残し置候諸道具先例之通欠所^二 可申付旨両御方へ及御沙汰候上其段大年寄^江申渡古道具屋共へ入札申付候様相違候

一 上紺屋町渡辺元端悴三隅義去才分今当三月迄播州及井野学校^江遺置候処猶又來ル極月迄差置度旨元端分追願書差出承届候^三 正月届候候

一 妙法寺地中教信町会所^二 おゐて来月朔日之夜分講釈為仕度旨大年寄六郎左衛門申出承置候

一 雲州御荷物之由^二 而^一 宰領相添一昨夜当町^二 致止宿昨朝東新町鍋屋甚太^分 申馬方右荷物を付勝間田迄罷越候処致慮外右宰領^二 打擲^二 逢候^三 而^一 命分も危旨^二 而^一 何れ成共罷越候様勝間田問屋分当所問屋へ申来依之甚太組合^并 馬持頭兩人医師跡見春鷗罷越向方^二 而^一 様子承候所才領^二 而^一 無之雲州家中太田伝兵衛^分 申者^二 而^一 甚太義御用荷物を土足^二 而^一 踏候由^二 而^一 致打擲右^二 付伝兵衛義差留候得共急成御用向故此義^二 付滞留も難致京都^二 而^一 兩三日逗留いたし候^二 付懸合筋も有之候ハ、可申越旨申之早々罷立候由勿論甚太義肩間を打裂キ余程之疵^二 而^一 春鷗義五針縫候得共命分気遣敷義無之夜分及深更連帰候段大年寄申出承置候

一 二ノ宮芝居雨天^二 付延引届出候

一 林田村高福寺へ去ル廿三日之夜盜賊這入衣類八品代^二 積り七拾九匁二分位盜取候由舐流取計候様大目付分被達候旨三浦分申来町舐

一 林田村高福寺へ去ル廿三日之夜盜賊這入衣類八品代^二 積り七拾九匁二分位盜取候由舏流取計候様大目付分被達候旨三浦分申来町舏

一 林田村高福寺へ去ル廿三日之夜盜賊這入衣類八品代^二 積り七拾九匁二分位盜取候由舏流取計候様大目付分被達候旨三浦分申来町舏

一 林田村高福寺へ去ル廿三日之夜盜賊這入衣類八品代^二 積り七拾九匁二分位盜取候由舏流取計候様大目付分被達候旨三浦分申来町舏

一 林田村高福寺へ去ル廿三日之夜盜賊這入衣類八品代^二 積り七拾九匁二分位盜取候由舏流取計候様大目付分被達候旨三浦分申来町舏

取計 本書八四月二日小須賀へ差戻

四月八日町方候之役届出候

一 牢舎弥助病氣之趣申出大年寄^江 申付候処高道齋へ療治申付候旨届

出候尤昨日之所^ニ 認落候故爰^ニ 記^{四月十日休業}

三日廿九日 晴

一 牢舎吉五郎病氣之趣申出大年寄^江 申付候処高道齋^江 申付候旨届出

候^{四月十四日休業}

一 二宮芝居大札四百五十枚小札五十枚有之今日切^ニ 而 無別条引払相

濟候段小頭文藏藤四郎治三郎届出依之大目付^江 二宮芝居中同心組

警固差出無別条今日限相濟候段紙面^ニ 而 大目付計へ相届候

一 同心組萩野喜和右衛門義今日^ハ 出勤届出候依之加人御旗組小村多

吉差返し其段大目付^江 相届候

四月小

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 佐々木主馬

大年寄 齋藤孫右衛門

四月朔^辛 丑旦 晴

一 御領分西北条郡上田邑見内国助弟利介義去ル申十月坪井町浜野屋
栄四郎役介^ニ 引受置候所此度右国助方へ差返し度人別除願下方引

合相濟候段申出承届候

一 大坂長沢清左衛門^ハ 昨廿九日書状到来旧年安藤丹後殿御出府之御
無扱用事向有之執権長谷川此右衛門^ハ 長沢宛之書状神村平兵衛添
書を以差込便^ニ 相廻十一月十二日到来致開封候処丹後殿御家来宛
之書状幸便承合相廻具候様頼来依之津山町人共罷越候宿々聞合候
処中之町紙屋佐助^与 申もの参合居候^而 其砌出立^ニ 而 罷帰候由御屋
敷も能存知候^ニ 付早々相届可申旨申^ニ 付右書状佐助へ相渡置候由^ニ
早速不相届延着いたし其上右書状坪井町倉敷屋利八^ハ 相頼候由^ニ
^而 京町あわや^ハ 旧臘廿四日子共^ニ 為持相届候由^ニ 而 此右衛門^ハ 懸
合有之清左衛門及迷惑候付宜取計具候様申越候付自分引込中故百

歳を以此右衛門^江承合候上右町人共相札候様大年寄へ申付候処倉敷屋利八義^者当^{正月}月十四日出立^二而大坂表へ飛脚^二罷越同所大川町玉子屋九兵衛方^二而相勝不申趣去月十七八日之頃申越候得共其段御届も不仕恐入候旨年寄共并書差出紙屋佐助義も一兩日已前在方へ商^二参宿^二居不申今明之内^二而罷帰候旨大年寄申出候^二付右之趣猶又此右衛門^江申遣置候尤利八義早々連帰り候様可申付旨大年寄^江申渡置候右兩人共帰次第遂吟味相当之咎可伺事

四月二日 雨

一川端又六義今日致出勤候^二付加人荒木源四郎差返し其段大目付へ相届候

一中之町秋田屋宗兵衛所持之自国酒株当戌四月へ来ル亥三月迄丸一ヶ年之間西新町久米屋清助借請度願承届候^{聖三三月廿九日追届}

一堺町針屋惣十郎所持之古道具屋株去酉六月へ宮脇町森原屋若助へ貸置候処双方勝手^二付此度取戻し度願承届候

一此間申付置候下組屋町善六残し置候諸道具入札大年寄差出例之通立会^二而致開封候処五匁八分五厘鮎屋新次鳥屋利兵衛高札^二付相渡候様申達候^{聖二日代領札宛出候}

一奈良今井町墨屋伊兵衛手代源助老人例年之通墨筆白粉売^二昨日参候旨京町美濃屋平五郎宿切手出^{五月廿九日届}

一久山勘八妹此間相果候付勘八^并俣鶴蔵忌中引込油方御用多^二付忌差免明日より出勤申付度尤油方手先へ相達候^而も可然哉之旨平井

半平へ申来宜被取計候様及相答候

一來ル十一日十二日町方溝見分仕度大年寄伺出宜取計候様及差図

一目明非人ふち請取証文大年寄差出奥印取計

四月三日 晴

一御用日之処自分義風邪今以不相勝当病御断之義三浦士へ頼遣但申上候御用向無之

一安岡町岡崎屋善吉後家家守茅町作人太助借屋住平六義去月廿七日夕罷出帰り不申方々相尋候得共行衛不相知出奔届書差出例之通百日尋申付候^{七月廿七日届}

一京町甲斐屋源蔵義去酉十月廿四日立百五十日計之逗留^二而四国遍路罷出候処今以帰り不申今百五十日計逗留追願書差出承届^{又九月十五日百五十日之追届}

一小野田為次妻今朝出産女子出生血忌引込候段小頭文蔵届出候

一西寺町妙勝寺へ去ル朔日之夜盜賊入込衣類十八品代^二積り五百四拾八匁^并御蔵米切手七枚^二而六斗卷升被盜取候由触流し取計候様大目付へ達有之候旨三浦へ申来衣類十八品^者例之通町触取計右

切手七枚之内四枚^者宛名印等も不相知残り三枚卷斗永井要蔵宛四升栗原衛守宛卷斗安藤丹後殿組宛右之分米中買共へ申付銘々手先

へ相廻り候へハ密々申出候様可申付旨大年寄へ申達候^{同八日無之夜届出候}

四月四日 曇

四月五日 晴

一播州高砂本町伊勢屋喜十郎一人例年之通小間物売来候段新職人町松野屋十右衛門宿切手出^{七月十三日届}

一川端又六腫物^二而引込届出候

一二階町高田屋治三郎借屋住魚鳥屋権右衛門嫁ひさ義去酉四月妊娠届仕候処此節迄不致出産医師中山良意^二為見候所弥病氣無相違旨

届書指出候

一 二階町常法院裏石垣此間之霖雨^ニ 而 崩候段届書大目附へ紙面^ニ 而 差出候

一 無宿盗人新兵衛と申もの瓜生原^并 藤原^ニ 而 盗相働候由申来召捕逐

吟味候処右両村^ニ 而 盗相働候義^并 及白状盗物も当町質屋有之候得

共御領分^ニ 而 八一向盗いたし候義ハ無之^ニ 付如何可取計哉と目明

とも小頭^ニ 伺出他領盗物受返し筋付候上ハ勝手次第追払可然旨及

差図候右ハ元伊藤長屋もの、養子^ニ 相成居当時船頭町瓜生原や仁

左衛門後家方^ニ 居御作事御雇中間相働居候併委細之義ハ不承分^ニ

而 目明場合切之取計^ニ 為致候

一 小性町衣屋伊助弟梅吉義本伝寺^ニ 而 盗相働召捕目明孫兵衛へ相渡

候由^ニ 而 召連出候^ニ 付番伝蔵差向入申付右梅吉宅へも同人差

四月六日 晴

一 大坂阿波座生島屋藤次郎義元魚町村本屋豊次借屋住松尾屋源之丞

親類之者^ニ 付三十日計逗留為仕度願承届候^{五月七日追願承り届六日二日場}

一 宮脇町広瀬屋安治義大坂会所町玉子屋九郎兵衛方四十日計逗留^ニ

而 来ル十日出立仕度願大年寄承届差出候

四月七日 晴

一 去ル朔日記置候安藤殿書状間違之義勝間田町紙屋佐助掃り次第相

糺候様大年寄へ申付置候処段々日延^ニ 相成候付呼^ニ 遣候所去月廿

八日出立備前西大寺和氣屋菊太郎方へ参り候処相煩熱氣強候^ニ 付

急^ニ 難罷帰旨歎書差出承り置候^{同十六日懸掛候}

一 桶屋町谷屋左七借家住浜風岸右衛門義去西十二月上旬出奔届出候

ニ 付百日尋申付置候処此節日限^ニ 相成然ル所手掛も出来候付今三

十日之内尋度日延願差出承届候^{同月廿日選掃 相性承届候}

一 牢舎人幾助二廻り治療相済快相成候付休業仕候段双方届出承届

候

四月八日 曇

一 今晩七時過林田上之町千光寺下夕紙漙出火類焼菅軒都合二軒致焼

失候段林田町々々注進之内致鎮火候趣^ニ 付不致出馬候尤那代も出

馬無之然ル所大目附小須賀貢被致出馬候由大年寄届出候勿論火消

も相応罷出候由届出候右之段出仕之上大目附へ及噂候

一 御用日登城

一 安岡町福島屋伊助孫浅吉義生野御代官布施孫三郎殿支配所当国西

々条郡河本村社家出雲養子^ニ 差遣度人別除願御用番御聞済^ニ 付大

目附へ差出置御聞届申達候

一 茅町打穴屋長兵衛娘玉義内藤山城守殿領分当国久米北条郡坪井下

村幸吉養女^ニ 差遣度人別除願右同断取計済

一 久世御代官重田又兵衛殿支配所当国大庭郡久世村百性作治娘つる

義材木町今井屋伊助倅忠蔵妻^ニ 引受度人別人願右同断取計済^{同十四日住宅屋文差出}

一 桶屋町大坂屋彦市家守嵯峨屋宇助借屋住作人熊治義去西十二月上旬

旬不斗罷出一向不罷帰候^ニ 付同下旬出奔相届候処百日尋被仰付所

々々相尋候得共行衛不相知最早百日余^ニ も相成候付除帳願右同断取

計済

一 久世御代官重田又兵衛殿支配所当国西々条郡中谷下村藤右衛門妹

とよ義福渡町森原屋岩助役介ニ引受度人別入願右同断取計済

同十三日住宅屋文書出

一 勝間田町土手水門去八月滴水之節土手水門上痛所有之右痛所追々芥溜り平地之如く相成又候滴水出候ハ、如何様之大破ニ相成とも難計候ニ付御普請被仰付候様勝間田町年寄御届書差出大目附へ差出候

一 大目附佐々木主馬右之通達有之候付大年寄へ急度申渡候

宮川大橋下上下共芝付殊之外埋候ニ付今般浚被仰付右土を

橋本町裏土手へ上ケ候様被仰付土手筋高く相成候右ニ付隣町

も供々人足差出手伝いたし候様可申付候且又右之所へちり

芥捨候義ハ勿論之義藁くろ等以来決而いたし不申様ニ精々可

申付若又不埒候ものも有之候ハ、急度答可被仰付候

一 大目附佐々木主馬右之通達有之直ニ廻之者差向候

林田弓之町辺ニ使組野田数右衛門拜領屋敷家守孫兵衛と申も

の方ニ而而昼夜とも博奕参会いたし候旨風聞有之候ニ付召捕可

被申候

一 御初入御当日出火有之候得而勘定奉行平井半平へ出役被仰付置候

間兼而其旨相心得居候様太田舍人被申聞候

一 上横野村上組与三右衛門方へ去ル四日盜賊遣入衣類八品代ニ積三

拾九匁分計之品被盜取候触流取計候様大目附右之通達有之町触取計

本書ハ差戻候同廿日町方ニ無之候届出候

一 西新町岸田屋伊三郎義夫婦離別後家屋敷等之論下方取計ニ不相濟

候由大年寄御願書指出候付先達而御用番へ及御噂候義ニ付呼出相

札候上御裁許可相伺旨御用番中へ及御沙駄置候○然ル所右同人義

致箱訴候由ニ而大目附右被相渡候

一 大坂京町堀壱丁目油屋庄藏と申もの上下三人来候付七日計逗留為仕度願新魚町灘屋弥十郎差出承り届同十三日届ル

一 一ノ宮市町之触書例年之通指出

一 筆之触例年之通指出候

一 大坂長沢清左衛門右申来候去ル朔日記置候中之町左助坪井町倉敷

屋利八兩人共答可申付処他参仕未罷帰候ニ付帰次第答可申付旨今

日及返書候

一 今日昼廻百蔵武兵衛廻り懸り候処福渡町福島屋庄吉留主ニ而博奕

参会いたし居候付左之もの共召捕預ケ申付候段届出候

安岡町橋留屋喜与松 茅町疊屋五兵衛借屋住疊屋善太郎

茅町善吉借屋住栄治 船頭町西村屋義助娘松

福渡町宿福島屋左吉妻 備前西大寺周藏

備前山田村大工藤四郎

右備前もの兩人ハ於其座目明非人ニ申付追払候尤右松義も住所不

相分候ニ付宿ニ預ケ置候右之段御用番大目附へ相届候○松義船頭

町人別之者ニ付翌日同町へ預ケ申付

一 明九日吟味取計ニ付当日切加入申立候処山形林蔵来

一 教信講釈昨夜切ニ而仕廻候由大年寄届出候

四月九日 雨

一 九時御用屋敷へ罷出新左衛門文蔵百蔵孫右衛門立合左之もの共

遂吟味候

牢番預ケ申付

安岡町明石屋庄七宅ニ而先月十五日

博奕参会者七人

右何れも致白状候ニ付吟味中番番預ケ申付并宿明石屋庄七義組合預ケ申付置候段御用番并大目附へ相届候尤宿庄七義八留主中ニ付携無之

及白状候

盗人小性町伊助弟梅吉

福渡町福島屋庄吉宅ニ昨日博奕参会者五人

右遂吟味候処喜与松善太郎兩人ハ不致参会候旨何も申之跡三人ハ博奕打候段及白状候尤宿庄吉義ハ他参留主中ニ付携無之候ニ付不呼候

一人馬間屋板屋八十兵衛義今朝病死届出候

一院庄川渡船留り郡代所々八時申来并暮六時渡船始り申来前後共大年寄へ申達候

四月十日 雨

一林田町常磐屋丈右衛門義撰州能勢妙見宮ニ参詣十八日計之逗留ニ

而明十一日出立願大年寄指出承り届同廿九日届

一西今町湯田屋太郎左衛門義右同断願承り届同廿九日届

一境町稻実屋義七郎義先月八日大坂へ罷越候処今日日延願承り届

一因州喜多郡鹿野村京屋弥七郎と申もの将基つとむ為執行下紺屋町長江朝庵方へ来候ニ付当年中逗留為仕度願承り届

一尾州島崎神職吉田左右上下三人例年之通来候段境町西川屋善助定

切手指出

一盗人小性町梅吉宿ニ盗もの可有之程難計旨目明申出候付部屋目附

百蔵出番伝蔵差向家内諸道具為相改候処指而心懸之ものも不相見候得共少々不審之ものも有之候段書付指出候

四月十一日 快晴

一大目附廻状到来左之通

從江戸表飛脚到来

大守榎益御機嫌克被成御座今般藤堂和泉守榎御息女様与御縁組御内談被為済先月廿五日御縁組之御願書御用番戸田采女正殿へ御先手深津主水殿を以被差出候所首尾能御受取被

成候段申来恐悦之御事ニ候

右之趣為相知候様被仰出候同役并支配方へも可被相達候

一大目附三奉行連名ニ左之通手紙到来

於江戸表今般藤堂和泉守榎御息女様与御縁組御内談被為済先月廿五日御縁組之御願御用番戸田采女正殿へ被差出候処

首尾能御受取被成候段申来候依之明十二日恐悦申上有之候

間四時出仕可有之候以上

右廻状之趣組中牢屋三軒屋大年寄へ為相知候

一鍛冶場土橋北詰腰石垣之上ニ年頃十二三歳計之野状非人行倒死居候段船頭町年寄届出大目附構場所ニ付大目附へ申達候所後刻大目附御徒目附目附組遂見分候所病死相違無之ニ付例之通取捨申

付候様申来候ニ付先格之通惣墓へ取埋候様非人共申付候様大年

寄へ申達候所後刻取埋相済候段夜ニ入届出候付其段翌朝大目附へ

相届候

四月十二日 快晴

一御縁談被為濟候恐悅申上^三付三奉行以上麻上下着用四時登城

於七間廊下御小性頭謁御奏者番^三奉行迄一同罷出上席御奏者番^三恐悅申上引取直^二御用所へ三奉行一同罷出恐悅申上之

引懸ケ大目附於役所右恐悅及挨拶引取御用所御退出之上下城仕候

一溝見分例歳之通昨今兩日小頭文蔵部屋目附百歳大年寄六郎左衛門差出候所夫々浚等申付其外無別条旨三人共届出候

一大目附^三奉行連名^二左之通手紙到来

柔姫様御病氣之處御差重り被成候段申来候間明十三日四時御機嫌伺登城候様申来候

四月十三日 雨

一御用日^并柔姫様御病氣御差重り被候付御機嫌伺^二付平服四時登城

於七間廊下御小性頭謁例之通一同罷出奉伺御機嫌候

一脇坂淡路守殿御預り所当国久米北条郡宮尾村宇右衛門伴平吉義元魚町豊島屋伝治養子^二引受度人別人願御用番御聞濟^三付大目附へ

差出置御聞届申達候 同十七日住宅様文出

一備前津高郡神瀬村勘四郎娘兼義西今町福本屋伊右衛門妻^二引受度

人別人願右同断取計濟 同廿九日住宅様文出

一生野御代官布施孫三郎殿支配所当国勝北郡下野田村清助伴庄吉夫

婦娘右家内^三人西新町大黒屋藤藏引受度人別人願右同断取計濟

一橋本町吉見屋幾助借屋住作人清吉義去西二月中旬借屋明ケ渡其後行衛不相知候付同年十二月廿八日除帳願候処百日尋被仰付相尋候

得共弥行衛不相知最早百日余^二も相成候付除帳願右同断取計濟

一西新町二文字屋彦太郎方へ去ル十日夕盜賊這入反物七品代銀三百

九拾老刃計被盜取候届書尤触流之義右同断取計濟 同廿一日町方無之段届出候

一酒直段昨年寒造仕込之節米直段六匁余^二付此節売出候所老分下ケ

仕度届書右同断取計相濟尤老分下ケ^二以後左之通

一名酒 老匁八分^三式匁三分迄 一極上酒 老匁六分

一諸白 老匁三分 一上酒 老匁七分

一生酒 八分 一下々酒 六分五厘

一材木町もの共拾老人御堀端^{つた}繕仕度足代下し願大目附へ差出候

一洪水為防安岡町船頭町東新町へ土俵之土為持込置明使致用意置其節^二至り人足共^三土俵^二為作可申^并右三ヶ所へ市郷人足指出右人

足共も兼^而夫々詰場所定置船頭筋八町奉行受ケ持林田郡代受ケ持安岡町ハ大年寄大庄屋受持^二致度旨一学殿御存寄^三随^二郡代中

伺書認連名^二指出度旨^三付其通^二致置候所伺之通宜取計候様今

日兩役へ御用番中^三被仰渡候^二付大目附^三三浦^三指出被置候尤右伺書之内御用小船拵置可申義有^一処其義ハ指除其余^者伺之通^二

被仰出候勿論時節等^二寄り兩役筋指示等之義も可有之候間尚追々

兩役実意を以相考可取計旨被仰出候

△右^二付西新町土手上ケ之義も伺濟^三付勝手次第取計候様大年寄

へ申達候

一他領川岸船荷割^二付西川領船肝煎武助と出入一件^三付向方^三中庄

屋兩人来姫路屋甚右衛門と懸ケ合以来ハ榎河面川岸商荷物ハ西川領船へ生野^三御頼越^二付武助引受荷物之内を兼^而定之通^三三歩当所

へ可割渡旨一札取替し相濟候段右一札蔵合孫左衛門指出候付御用

番一学殿へ持参指出右之旨申上置候委細手扣ハ追^而指出候筈也

一新魚町櫛野屋茂一郎義先月七日大坂行願指出候所猶又当月中逗留

仕度日延願承届^{同廿九日始}

一大目附廻状左之通到来

柔姫様御義御病氣之処御養生不被為叶去ル五日午刻御卒去

被成候依之鳴物高声来ル廿四日迄御停止普請ハ来ル十七日

迄御停止被仰出候段申来

右^二付晴雲院様鳳殿^{鳳殿}院様啓生院様等之御例取計左之通

廿四日迄惣町自身番^井魚鳥振壳御家中指留尤市郷ハ蜜々可

壳候

右之通大目附へ対談之上御用番中へ相伺候処其旨取計候様被仰出

其段相触候勿論組中牢屋三軒屋へも相触候

一御奏者番中^左之通廻状到来大年寄へ廻勤候様申達

柔姫様御卒去被成候付為御悔明十四日四時御徒格以上嫡子

^二至迄登城可有之候

四月十四日 曇

一柔姫様御卒去^二付御悔為御機嫌伺御徒格以上嫡子^二至迄四時惣登

城

於七間廊下御小性頭謁例之通一同罷出上席御奏者番^左

柔姫様御卒去被成奉絶言語候依之一同奉伺御機嫌伺候

右申上相濟御用所御退出之後下城仕候尤凡^而廻勤等無之旨^二候

一西川領武助と船出入^二付為取替一札御用番御下ケ被成大目附へ差

出候処即刻相戻藏合係左衛門へ相渡置候

一坪井町年寄浜屋龜四郎義播州加古川へ十日計之逗留^二而明十五日

出立願承り届^{同廿九日始}

一大目附^左ノ宮市町御中隱中ハ見せ物御停止候間其旨誓固之者共

心得居可申旨被申聞候付其旨小頭へ申付置

一大目附廻状到来左之通

一來月十一日真鏡院様十七回御忌御相当被成候付来ル廿一日へ

御取越於泰安寺朝計御茶湯御執行被成候

一來月廿一日晴雲院様三十三回御忌^二御相当被成候^二付来ル廿

一日へ御取越被成候

右御触書之趣組中へ為相知候尤町方取計無之

一一ノ宮市町之御触例年之通大目附廻状到来組中牢屋三軒屋へ相触

候

一札元三船八郎右衛門弟文蔵義病氣^二付播州北在家松野一学方へ十

三日計逗留^二而明後十六日出立願大年寄差出承り届^{同廿九日始}

四月十五日 快晴

一京町吉田屋喜八郎義俸本五郎召連播州宿村谷川良順方へ罷越度十

五日計之逗留^二而明十六日出立願大年寄差出承り届^{同廿四日始}

一筑前遠賀郡柏原浦小平次手代惣兵衛定吉二人例年之通茶碗類壳^二

来候段京町田戸屋惣十郎宿切手指出

四月十六日 快晴

一勝間田町紙屋佐助罷帰候段大年寄届出候^二付他参留申付置御中隱

明ケ相札候様^二申付ル

一孤独吹屋町吹屋治左衛門借屋住伊助母さよ義七十九歳罷成老病指

重り候段申出部屋目附百蔵為見分指出候処一札^并容鉢書取罷掃り
手当も行届候段申出候無程相果候段大年寄届出勝手次第取舞いた
し候様及差因

四月十七日 雨

一御奏者番廻状到来左之通

明十八日御膝中御機嫌伺申上有之候間御徒格以上嫡子之面々
迄四時登城可有之候尤麻上下着用之事

一安岡町篠屋市右衛門家屋敷北側^ニ表口式間裏行十七間但五歩役
也東隣ハ松田屋三助後家西隣ハ井手屋太郎兵衛也右家屋敷質物^ニ

書入当四月の十月迄式割之利足^ニ相定銀札式百五拾匁借り受度願
承り届^{五月二日迄文差出候}

一東西新町^ハ土手石垣上ケ願差出勘定奉行へ対談之上及御沙駄候得
共当時難被成趣^ニ付願書差戻候

四月十八日 雨

一ノ宮田植祭^ニ付文蔵治三郎為治差出候所無別条引取候段届出候
一御膝中御機嫌伺^并御用日^ニ付麻上下着用御徒格以上嫡子迄四時惣
登城

於七間廊下御小性頭謁御奏者番^ハ三奉行迄一同奉伺御機嫌候
一孤独吹屋町伊助母きよ病死之旨見分一札御用所へ差出即刻下り大
目附へ差出置勘定奉行へ及通用候

一他領宮尾村芝屋有之由郡代所^ハ大目附へ被及噂候処先格之通御停
止之触流宜取計候様大目附より両役へ違有之仍^而右等之節ハ目明
共隠目附^ニ差出来候所此節一ノ宮市町^ニ付目明も難差出以前も隠

目附不差出義も有之様^ニも相覚今般ハ如何可仕哉と大目附へ遂相
談候処御用番中へ伺之上両役存寄次第宜取計候様被仰出候旨違有
之仍^而両役申談先頃^ニノ宮へ来候芝居^ニ候得^者余り可参ものも有
之間敷哉^ニ付先目明ハ差遣間敷旨申談ル追^而様子次第可差出事
一 小性町年寄屋根屋喜助義八ヶ年已前^ハ役義相勤候処病身^ニ相成役
義難相勤退役願書差出し其外無拗趣も有之^ニ付役義差免跡役ハ船
頭町年寄熊野屋文五郎米屋藤^ニ衛門美濃出屋清右衛門兼帯可申付
旨大年寄伺出承り届

四月十九日 雨

一他領川岸船出入荷割一件今般西川^ハ懸ヶ合^ニ来候処姫路屋甚右衛
門懸合至極行届宜内済相整候^ニ付詞之賞詞申達^并大年寄場合切之
取計^ニ而工面もの、内^ハ銀五匁差遣度旨蔵合孫左衛門伺出承り届

四月廿日 雨

一御中陰^ニ候処肴呼び売候もの有之^ニ付当番^ハ為相糺候処二階町山
手屋弥太郎借屋住太七と申もの、由^ニ付組合年寄差出候様大年寄
へ申達組合年寄罷出候上組合預ケ申付年寄へ引渡置大年寄へ糺申
付候処平日塩肴受売仕候もの^ニ而去ル九日新魚町亀屋源助方^ニ而
塩肴買受奥津へ罷越今日帰り懸ヶ右塩肴残りを呼び売候処右之
通他領へ罷越居候^而御中陰之義毛頭不存由申口^ニ候右預ケ申付置
候段御用番^并大目附へ相届置猶追^而可伺旨申上置候

組合預ケ

二階町山手屋弥太郎借屋住人太七

四月廿一日出候

一宮川大橋下浚土手上ケ之義橋本町林田町^ハも人夫差出手伝いたし
候様去ル八日申渡置候所右土除り有之候ハ、大川筋枕土手土減候

処へも入申度旨大年寄申出川凌方へ懸ケ合勝手次第^ニいたし候様
及差図置其段去ル十八日大目附へ達置候

一元魚町藤野屋嘉四郎借屋住多助義当国大庭郡久世村三原屋安左衛
門方へ来亥ノ二月迄奉公^ニ罷越度願承り届^キ三月廿一日迄

一小野田為治病氣引込小頭合届出候

四月廿一日 雨

一吹屋町吹屋治左衛門借屋住孤独伊助義病氣差重り候段届出部屋目
附百歳為見分差出候所見分一札^并容鉢書取帰り手当等も行届候段
申出候然ル所無程相果候段届出候^ニ付勝手次第取葬いたし候様及
差図候尤来ル廿三日可及御沙駄候

四月廿二日 雨雷

一新魚町研屋万兵衛義先月十五日伯州米子^江罷越候処今三十日日延
願承り届^{六月廿日届}

一牢番加藤清右衛門と東新町種屋伊助と田畑公事出入致内済候由双
方合願下ケ差出承り届願書戻候

一牢凌申付候所百歳喜和右衛門無別条段届出候

四月廿三日 快晴

一御用日登城

一境町稻実屋義七郎次男次四郎義大坂堂島中式丁目潮屋源兵衛方へ
養子^ニ差遣度人別除願御用番御聞濟^ニ付大目附へ差出置御聞届申
達候

一二階町境屋延借屋住森屋清兵衛悱惣兵衛義御代官重田又兵衛殿支
配所当国大庭郡久世原方村元吉屋源兵衛方へ養子^ニ差遣度願右同

断取計済

一京町十二人御堀^江足代下し願大目附へ差出候

一伏見町七人右同断^ニ付右同断取計

一御中陰中有完候二階町山手屋利兵衛借屋住太七義急卜答可伺処御
中陰之義不存他領合帰り懸ケ完候旨申口付御叱伺置候

一大坂北鍋屋町若狭屋作兵衛合元魚町美濃屋彦兵衛京町二文字屋嘉

左衛門へ相懸り棄壳懸代差滞致出訴六十日限り済方申付置候所未
筋立不申候^ニ付罷登り可相済之処兩人とも此筋病氣^ニ罷罷出候

^ニ付今少日延願差出候^ニ付先格之通右願書致與書大坂長沢清左衛
門方へ可差遣段御用番中へ伺済^ニ付大目附へも及噂置今夕之便^ニ
大坂へ差遣候

四月廿四日 快晴

一久世手代曾根源四郎飯沼才次郎合昨夜及深更飛脚差出先達^而差出

候安岡町初屋伊兵衛口書張紙継印取差越候様頼越候^ニ付御用番中
へ返書下案差添伺済之上大年寄へ初屋伊兵衛召連出候様申達於玄
関新左衛門継印取計之飛脚之者^ニ相渡差返候

一一ノ宮市町^ニ付參懸り之十二人連之芝居世話役安岡町和田屋佐助
被相頼候^ニ付參り込世話仕度願差出承り届^{翌廿五日受貞一札差出候}

四月廿五日 快晴

一戸川町南側^ニ板屋伊右衛門家屋敷表口四間裏行拾七間^并巷間半
^ニ式間之納屋巷ケ所但し巷軒役也西隣ハ平田屋亀之助東隣ハ中屋

庄兵衛也右家屋敷質物^ニ書入来亥五月切一ヶ月巷歩半之利足^ニ
銀札百七拾匁借り受度願承り届^{五月十一日受書出}

一京町南側^二而北川修齊家屋敷表口五間裏行拾七間但半役也東隣ハ今出屋半兵衛西隣ハ修齊借屋也右家屋敷代銀札三貫目^二相極町内

野田屋佐右衛門へ壳渡度願大年寄差出し承り届^{五月二日壳券状出候}

一宮川尻材木屋忠右衛門水車之井堰去西九月八日稻荷之下合堰^二様

大目附合違有之申渡置候処御普請方見分無之延々^二相成居候処此

方御用屋敷へ被呼出佐藤郷左衛門本沢郡兵衛合左之通被申渡候段

忠右衛門合届出候段大年寄申聞候来ル廿八日大目附へ可及噂候

是迄之井堰^{西之堰留合}廿五間置キ式拾六間目合東へ四間之間

水底地形並^二杵ヲ居へ右之上根太ヲ入費堰^二仕置出水之節取

私可申事

一戸川町平佐屋助五郎義伯州八橋郡鏡津村奈良屋伊助方へ四十五日

之逗留^二而明後廿七日出立願大年寄承り届差出候^{六月廿三日届}

一川端又六明日合出勤届出候

一一ノ宮市町無別条引取候段百歳喜和右衛門届出候○御中陰見せ物

無之^二付田植祭合^一 組不差出候

四月廿六日 快晴

一更廻り御家中町関貫改小頭夜廻り栄治治三郎差出候所左之番所明

ケ置候由届出候付相糺口書取指指候様小頭合大年寄へ申付候

高石垣関貫 小川兼助横関貫 四拾間関貫 元魚町北関貫

船頭町西横町関貫 同町高瀬屋横^ノ切関貫

吹屋町木屋前^ノ切関貫 細工町関貫

一牢舍人西田辺村四郎兵衛出牢切手郡代所合相廻り認かへ幸治差向

引渡候

一三町目太刀屋久治義因州鳥取川端三町目独活屋喜左衛門方へ四十八日計之逗留^二而明廿七日出立之願書大年寄承り届差出^{六月十六日届}

一勝間田町南側^二而くら屋善助家屋敷表口老間半裏行六間但三步役

也東隣ハ栄屋与三左衛門西隣ハ常盤屋丈右衛門也右家屋敷八ヶ年

已前卯七月東新町延屋十四郎へ質物^二書入銀札百三拾匁借り受候

所元利返弁受返し届書差出候^{五月六日壳券状出}

一右鞍屋善助家屋敷代銀札百式拾匁^二相極隣家栄屋与三右衛門へ壳

渡度願承届

一桶屋町浜風岸右衛門義去西十二月中旬致出奔百日尋被仰付限日来

候付当月七日日延願差出候処伯州合連帰^二候^二付帰住歎書差出承

り届先格之通急度叱置候様申達候

一明廿七日吟味取計^二付加人兩人当日切^二大目附へ申達候所植木組

元島玄藏伊藤組水島良助来

一一ノ宮市町無別条引取候段栄治治三郎届出候

四月廿七日 快晴

一牢舍人新八病氣申出大年寄へ申達候所岩佐孝順^二申付候段申出候

一上紺屋町津島屋三右衛門義去四月致出奔尋申付置候所度々日延願

指出去十二月七日^二も日延願差出候処又候百日之日延願差出承り

届

一京都烏丸通六角下ル二文字屋九兵衛手代清四郎久兵衛兩人例年之

通来候段元魚町海老屋長右衛門宿切手差出^{八月八日清四郎届}

一九時合左之もの共呼出新左衛門文蔵百歳六郎左衛門出番栄治又六

立会遂吟味候

吟味中他參留申付候

二階町 紙屋兵助

右兵助懸り合懐妊七ヶ月相成候段申口ニ 美濃職人町幾

候得共妊娠之躰ニ無之ニ付柳瀬元柳後家呼出し為致診察候処
妊娠ニ而無之段申候ニ付手鏡懸ケ組合預ケ申付候

右不埒好存候もの、由ニ付呼出候

小性町煙革屋周藏
元魚町中村屋利介

口書印形取之

安岡町博奕參会之者八人

一 牢舎扶持拾俵内貸証文與印取計之是ニ 而 若斗式升七合五勺六月へ
持越候積

一 稻荷山草刈去ル廿五日相始候段作治届出同廿九日迄ニ相濟候段

五月朔日届出候

一 一ノ宮於市町元魚町大笹屋十右衛門悴喜兵衛義兼ニ 而 乱心者ニ 而 暴

破候ニ付召捕元魚町組合年寄呼寄七引渡候旨其余ニ 別条無之旨藤

四郎伝蔵届出候

四月廿八日 雨

一 御用日登城

一 御代官重田又兵衛殿支配所当国西々条郡箱村幸助悴治助一人吹屋

町桃屋和兵衛引受度人別入願御用番御開濟ニ付大目附へ差出置御

開届申達候

六月十日住宅文書出

一 上紺屋町作人清吉借屋住字助義七十歳ニ罷成近年老衰仕其上病身

ニ罷成難義仕候付孤独扶持被下置候様歎書右同段取計濟勘定奉行

へも及通用置候

一 牢舎人福渡町白銀屋利兵衛妻長病相煩幼年之小兒有之甚難洪仕永

々之義町内ニ 而 も行届兼候ニ付御救扶持被下置候様歎書指出先日

御用番中へ及御沙駄候御救被下候ものニハ候得とも孤独もの、

例ニ 難取計筋ニ付郡代共遂相談申出候様御指図付臨時御救ニ 而

式三俵つ、被下置候例ハ間々有之義ニ付仍 而 役筋切之取計ニ 而 闕

所銀之内ハ八木三俵被下置候様申上候御用番中御開濟ニ付大目

附へ申達勘定奉行へも拙者証文ニ 而 可受取旨談置右歎書差戻筋

ハ八木三俵為救差遣候段大年寄へ申達候

一 所々闕貫去ル廿五日夕明ケ置候番人共御答伺書御用番中へ差出置
候

一 去ル廿三日伺置候御中陰看呼び売候もの伺之通宜取計候様御用番
中被仰出候付左之通申渡

御中陰中御家中看呼び売 二階町山手屋利兵衛借家住太七

不埒至極ニ付重キ御答ニも可被仰付処御中陰前ハ他領へ罷越

御中陰之義一向不承他領ハ婦り懸売残肴道々売候由申之候

付格別之憐愍を以急度叱置候以來可相慎候

右取計相濟候段御両所へ相届候尤大年寄於宅申渡之

八月十五日條

一 美濃職人町ニ 而 元魚町ニ米屋伊助借屋住高田屋佐四郎夫婦式人当

月廿三日之夕罷出不罷帰候ニ付組合受人立会相改候処家財數もの

等迄無之残置候ものとしてハ神棚行灯式ツ計有之全出奔之様子ニ付

相尋候得共行衛不相知旨届書差出候付例之通百日尋申付候

一 東新町作人利八娘いそ義林田上之町甚吉妻ニ差遣度願大庄屋引合

相濟候段申出承り届

一 坪井町羽織屋九一右衛門姉中義林田上之町筏屋甚七妻ニ差遣度人

別除願下方引合相濟候段申出承り届

一御領分東南条郡林田上之町文六伴喜七夫婦^并子共三人右家内五人
戸川町岩見屋孫兵衛引受度人別人願下方引合相濟候段申出承り届
一一ノ宮市町無別条引取候段又六武兵衛届出候

四月廿九日 快晴

一南新座兩所之関貫番賃銀例月之通相渡高石垣関貫番^并御咎伺置候
付不相渡候

一御領分西北条郡小田中村権七娘民義鍛冶町長十郎伴万吉妻^二差遣
度人別除願下方引合相濟候段申出承り届

一一ノ宮市町無別条引取候段文藏幸治喜和右衛門届出候

△一昨廿七日一ノ宮市町藤四郎伝藏出役之節御徒目附高橋三郎吉
差図^二而芝居小屋中以前腰懸ケ有之候処^三繩張申付候由然ル所今
日御徒目附河村市兵衛^ハ申聞候^ガ一昨廿七日三郎吉出役之
節芝居小屋中出役之場所^二繩張申付候処右之段大目附中へ申達候
所御差留^二付右繩張為取候段案内有之候由文藏罷帰り申聞初^而承
り右之場所ハ既^二先年腰懸ケ有之候処へ敷もの等^二而も致聞敷旨
大目附中^ハ御達も有之候程之義^二候所不伺出御徒目附任差図繩張
之内へ這入候義甚不埒至極殊^二兩人罷帰り^二而も不届重々不埒至
極之旨勿論罷帰り文藏へハ相咄候由^二候得共小頭も不申出段急
度叱候処翌朝又六を以三人共相慣罷在候旨申出候^二付不及其義以
来入念申付置候尤廿八日芝居無之廿七日一日計之義^二而大目附中
ハ早速被差留相濟候義^二付態^二大目附へ不相届

五月 大

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 黒田忠三郎^殿

天田舍人^殿

大年寄 藏合孫左衛門

五月朔^庚 午 旦 曇

一明二日吟味仕候付加人式人当日切^二申達候所伊藤組中村直助植木

組小原藤助来

一一ノ宮市町無別条引取候段百藏治三郎届出候

五月二日 晴

一九時^ハ於御用屋敷新左衛門文藏百藏孫左衛門出番又六喜和右衛門
立合左之もの共遂吟味左之通取計其段御両所へ相届候

吟味中牢番預ケ

茅町善吉借屋住 栄治
船頭町西村屋義助娘 松

庄吉妻牢番預ケ可申付此節病氣^二付 福渡町福島屋夫婦
是迄之通組合預ケ^二申付置候○庄吉義他行留主中之義故差構
無之筋^二若候得共宿之義故先日^ハ預ケ申付置其段今日御両所
へ相届候

博奕参会不致ニ相決候付手錠預ケ差免候 安岡町橋留屋

喜代松

茅町疊屋善太郎

再遂吟味不残及白状候

牢舍人小性町梅吉

一ノ宮市町出役柴治藤四郎合於芝居小屋喧嘩有之候ニ付引取延引相成候段申越候

五月三日 雨

一御用日登城

一脇坂淡路守殿預り所当国久米南条郡八神村伝吉俸清藏夫婦二人林田町上田屋久平引受度人別入願例之通計済四合住宅既文書出納四月改入

一去月廿五日夜所々関貫番人不埒伺之通申付候様御用番中御差図ニ付左之通申付候

過料銭 小川兼助横関貫番人卯兵衛 四拾間関貫番人勘兵衛

三貫文 元魚町北関貫番人若右衛門 同船頭町関貫番人和七

ソ、吹屋町ノ切関貫受負人吉右衛門 細工町関貫番人庄吉

右関貫引受年寄共左之通

右之通不埒ニ付 小川横引受境町平右衛門

急度叱

四十間引受小性町兼帶藤右衛門

元魚町嘉四郎 同 船頭町藤右衛門

吹屋町市郎右衛門 同 細工町長左衛門

右之通不埒ニ付先格之通ニ夜分老貫五分取上

高石垣関貫番人伊助

右之通取計相濟候段御所へ相届候○右之外左之通申付候但及八不及届

右同夕海老錠不ノ候ニ付急度叱 船頭町ノ切関貫受負人

七兵衛

一ノ宮市町昨日喧嘩之趣申越候ニ付今日之出役又六伝藏ニ小頭文

藏差添委細取計之義得と申含差出候所柴治藤四郎合申越候ニ生野

御代官支配所久田下之原村清右衛門俸定吉と申もの芝居垣をく、

り這入候ニ付芝居元方之もの共捕へ木戸口へ押出し小屋外ニ打

擲ニ違其俵臥居候由申越候付其段御用番ニ大目附へ及御沙駄置候

然ル所八時頃柴治藤四郎代り合罷帰り申出候ニ昨夜中内濟懸ケ合

候所弥内済ニ可致旨今晚向方合返答有之候由申候尤昨日芝居木戸

ニ居合候元方之もの共町分ニハ新魚町河本屋初五郎安岡町横野

や長四郎同町小倉屋宇吉同町勸進元佐助在分ニハ二ノ宮村佐七

伊三郎新藏福藏都合八人居合候付郡代下代申談右之面々於場所禁

足申付置候由届出候

一大目附廻状到来左之通

柔姫様御義明光院様と奉唱来ル十日御三十五日ニ付於泰安寺

御茶湯被仰付候由為御知申来候

右ニ付御先格取調候所晴雲院様之節ハ一夜別事被仰付町方自身番

申付秋香院様之節ニ御茶湯ニ町方へ相慎火之元入念候様相触候

ニ付秋香院様之御例ニ随ひ町方へ相慎火之元等入念候様ニ触指指

出候尤御法号之義ハ不申達候勿論組中ニ御法号ニ御茶湯之義為

相知候

一孤独扶持拾三人分式百三匁六分式厘真北類藏合受取大年寄へ相渡候

一関貫番質銀百四拾四匁六分右同人合相廻候受取置

一牢舍人福渡町白銀屋利兵衛妻御救八木三俵代六拾式匁之証文拙者

△差出候所勘定奉行裏印いたし相廻候付其俵大年寄へ相渡受取相渡候様申達候

一御初入御城着之砌拙者^并大年寄共御出迎之義御沙駄無之^二付御奏者番小須賀貢へ相尋候処先格候通罷出候様被申聞候付其段大年寄へ申渡候

一御初入^二付先格之通御国使者宿用意申付可置哉と小須賀貢へ相尋候所今般ハ御徒使迄堅御断被成候間御国使者宿用意^三不及旨被申聞候付其段大年寄へ申達候

一御初入^二付御目見町人名面書差出可申哉献上物等も先格之通被仰付候義哉と小須賀貢へ相尋候所御目見名面書ハ此節可被差出献上物之義ハ其節^三至り相伺可申達旨被申聞^{同八日名面書員^并差出候}

一ノ宮市町日延願加日三日御聞届相濟候由郡代所△伝承いたし候所御達無之^二付罷越黒田忠三郎へ先格之通触書可差出哉と相尋候所一昨年之通宜取計候様被申聞候付其段町方^并組中へ相触候

一ノ宮出役文蔵又六伝蔵△夜^二入申越候^者喧嘩一件内濟不相整弥及破談手負人も一ノ宮村吉良と申医師致診察候所横腹^二突疵一ヶ所有之今日之所^三ハ命分も無覺束旨申候由右^二付郡代所△出役

之もの共と申談町在勸進元之もの共立合吟味仕候旨^二一決仕候付組合之もの共市郷共呼出し糺之上預ケ可置旨申越候^三付右紙面郡代所へ相廻候

一高石垣関貫番人伊助義役所へ呼出し百蔵△御叱過料申付候段為申渡先月番賃銀之内三夜分老奴五分引取相渡候
一大目附△例歳之通痢疾除御薬被下置候間宜取計候様被相達候付左

之通川島周庵△受取右之内百貼残置組中^并支配之もの共へ相渡候尤五十貼小頭へ相渡候

痢疾除御薬七千九百貼受取之
五月四日 晴
一左之通大目附廻状到来町方組中へハ昨日相触候

一ノ宮市町来ル七日迄三日加日追願相濟候
一ノ宮出役文蔵又六伝蔵△芝居元方之もの共組合呼出昨夜中相糺候得共打擲仕候もの相分不申候処及深更元方之もの共△金瘡代少々差遣内濟相整候段申出候付弥内濟仕候^者預ケ差免芝居為相始候様可申付旨伺越承り届候段申遣候

一元魚町靴屋伊助倅幸吉義大坂大川町綿屋義兵衛方へ三十日計之逗留^二明五日出立願大年寄承り届指出候^{同廿六日届}

一二階町塗師屋虎吉義大坂大川町淀屋橋綿屋義兵衛方へ廿日計之逗留^二明五日出立願大年寄指出承り届^{同廿五日届}

一ノ宮市出役幸治武兵衛差遣候所昨日之出役又六伝蔵九ツ半時頃罷帰り弥内濟相整可申旨^二決着致候由其外ハ別条無之旨申出候然ル所七時頃文蔵幸治武兵衛△弥内濟相整為取替市札相濟候^三付元方之者預ケ差免芝居相始させ候由紙面^二申越委細之義ハ罷帰り相届可申旨申越候○然ル所亥ノ刻三人之もの罷帰りを取替一札写

差出内分金瘡代金五両芝居元方△指出候諸入用ハ美土路豊前差櫛候由^二相濟候段届出候及深更候付翌五日朝御用番^并大目附へ相届候

五月五日 曇夜少雨

一端午ニ付組中罷出例格之通謁旧格之通昼廻り不差出候

一ノ宮市町無別条引取候段百藏喜和右衛門届出候

五月六日 雨

一於御用屋敷九時ノ新左衛門文藏百藏孫左衛門立合左之もの共遂吟味候

(伊三郎義偽多不及白伏付組合預ケ申付候

其旨御両所へ相届候

西新町岸田屋伊三郎夫婦

及暮此兩人不遂吟味候

(同町豊永屋庄吉
林田上之町与藏

一上紺屋小山屋平八下人新藏と申もの主人方ニ而昨夜盜相働今曉迄

去り候処ヲ追懸ケ召捕差出候付於御用屋敷一ト通り遂吟味出番伝

藏差向入牢申付候尤盜物衣類十五品指出候所今朝追懸ケ候節二ノ

宮原ニ而川へ遁入濡候由ニ付其俵目明ハ小山屋へ受取書取置候様

ニ申付候尤此段御両所へ相届候

入牢申付候 元雲州者当時無宿上紺屋町小山屋平八下人

新藏

一豊前國中津領下毛郡諸田村助四郎と申もの京都本山へ參詣いたし

吉野郡吉野村ニ而步行不相叶同所ハ川部村へ送り來候段郡代所ハ

通用有之継送り候様申付ル

一林田町南側ニ而福吉屋音右衛門家屋敷表口三間半裏行拾七間但半

役也東隣ハ高間屋茂吉西ハ橋本町通り也右家屋敷同町上田屋久平

取次ニ而質物ニ替入一ヶ月老步半之利足ニ而來ル十一月切ニ銀札

老メ七拾五匁借り受度願大年寄差出承り届同日昼受薪出

一船頭町山家屋九兵衛弟植藏義大坂天満市之側坂田屋嘉兵衛方へ当

成歳ハ來ル未歳迄拾ケ年之間奉公ニ差遣度願承り届

一安岡町網屋嘉兵衛所持之自国受酒株去西九月六日西今町松田屋佐助へ貸置候処此度取戻候届書差出承り届

一安岡町網屋嘉兵衛取持之自国受酒株当戊五月ハ來ル申ノ四月迄丸拾ケ年之間安岡町荒木屋文藏借り受度願承り届

一ノ宮市町無別条引取候段榮治次三郎届出候

一ノ宮市町明後七日切ニ而相濟候付例年之通市後之町触差出候

一伏見町玉屋源太良家守伏見屋林兵衛借屋住石井室庵義当正月十二

日相願妻子召連四国遍路罷出候所室庵義阿波国板屋郡阿ハはコ村ニ

而正月廿四日病死仕村役人預世話取埋仕候由同人妻子共二人召連

昨日罷帰候段届出村役へ町役ハ挨拶も可入義哉と先例取調候所天

明四辰年七月七日之日記ニ新魚町村本屋治助義四国遍路罷出土佐

国藩多郡宿茂村ニ而致病死候段俾新太郎ハ届書指出候得共挨拶并

不及御沙駄ニも承置候ニ付此度も先格之通承り置候

五月七日 小雨

一伏見町玉屋源太良家守伏見屋林兵衛借屋住人坂之丞母義致別居

二階町藤野屋嘉四郎家守作人平兵衛借屋ニ居候所今般致普請候ニ

付坂之丞方へ引取候様々申付候而も一向承引不仕不得止事細合

へ預ケ置候段大年寄届出右ハ髮結虎母ニ而虎出奔後ハ乞食いたし

相廻り居候右之通未実子も乍有右躰之仕向ハ不届至極之義ニ付小

頭文藏出番伝藏差向手鏡申付翌朝出仕之上御両所へ及御沙駄候

手鏡懸ケ組合預ケ申付候 伏見町玉屋源太良家守伏見屋

林兵衛借屋住 作人坂之丞

一 大坂阿波座堀生鳥屋藤四郎上下式人元魚町松尾屋源之丞方江四月

六日来候所今三十日逗留仕度日延追願承り届六月二日始

一 御作事奉行金井長平此節左官私底相對之受取而ハ一日之手間

代七八匆住ニも合候様ニ相働候旨相聞候然ル所左官之人數不存候

故御作事へハ存候もの一兩輩も相雇勿論作料式勿五分之御定ニ而

相渡候ニ付御作事へ出候左官ハ甚致迷惑候趣ニ而ハ不便成義ニも有

之候間左官之名面被仰聞候ヲ順番ニ遣候様ニいたし度旨申聞候付

其段大年寄へ申付左之通名面書差出候付御作事奉行へ相渡且又大

年寄へ右躰左官共価を貪り候而ハ風義ニも懸り甚不宜心得違之義

ニ候間呼出し以來右躰之義不仕候様急度可申付旨申達候勿論左官

ハ株無之ものニ而ハ人數調も無之もの也

二 階町鉄屋十五郎 西今町幸七嘉右衛門 東新町吉太郎清六

上紺屋町佐助福 福渡町喜兵衛 戸川町清助甚吉

新職人町吉田屋宇兵衛 桶屋町広瀬屋幸之助 新魚町佐助

安岡町福吉屋利助 拾三人

一 ノ宮市町今日切ニ付例之通引見届無別条相済引取候段文藏藤

四郎伝藏届出先格之通大目附計へ相届候

五月八日 晴

一 御用日登城

一 元魚町大笹屋市右衛門悴喜兵衛義先年乱心仕借牢被仰付候処又々

再発仕候付借牢願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達出

番栄治喜和右衛門差向入牢取計之

一 中之町川口屋与市方へ去ル五日盜賊逼入袴地并三徳銀札等合五拾

八匆計之品被盜取候右同断取計触流候義申達候町触取計之四十六日無之候

一 上紺屋町小山屋平八下人盜賊相働候届書持出一昨日申上候通即刻

召捕盜物不残致所持居候段申上候所最早不及御聞旨被仰出大目附

へ差出置候

一 札元妹尾平兵衛義大坂高麗橋一丁目油屋彦三郎方へ十二日計之逗

留ニ而ハ明九日出立願右同断取計濟同廿三日逗留日延留御聞届

一 明好院様御卒去候付御布施頂戴願出先例之通御百ヶ日御布施迄老

ツ半被下置御厄介様之御義ニ付後年御年回之節ハ不被下候旨可申

達相候候処其旨御聞濟ニ付大目附へ申達置勘定奉行へも相達御聞

届申達候

一 二階町紙屋兵助美濃職人町幾出入之義御席ニ而ハ御尋有之有増申上

候

一 札元茂渡庄右衛門義同居之妹今朝病死仕右忌服引込候段届出御兩

所へ相届候

一 福渡町福島屋庄吉妻博奕参会ニ付手鏡預ケ申付置候所追々病氣差

重り難洪之旨相聞候付病中可差免旨伺濟ニ付歎書指出候様大年寄

へ申移同九日組合各歎書指出承り届呈廻り又六代兵衛義向免文

一 御初入之節ヲ町方敷砂いたし年々御帰城之節ハ盛砂いたし候先格

ニ付其旨可取計哉と小須賀貢へ相尋候処先格通ニ而ハ宜候旨被申聞

太田舍人も御初入之節ヲ敷砂ニ有之候由挨拶ニ候

一 細工町横町市村前之溝埋宮脇町水拔悪敷難義いたし候間浚被仰付

候様大目附へ相届候

一 中之町山西屋要助同町作人弥三郎同町綿屋勤兵衛義明九日九ツ時

〆郡代所へ差出候様ニ申来大年寄へ申付候右借金出入ニ付^四之義也但弥三郎町人別ニ無之義九日之処記置候

一 大坂長沢清左衛門〆返書来リニ文字屋嘉左衛門美濃屋彦兵衛病氣ニ付日延願去月廿九日御番所へ相届候旨申来候

五月九日 晴

一 大目附左之通到来町方^并組中へ相触候

加茂川筋御留場押入築場〆本郷村之内林田迄建札之間網殺生致間敷候先年も相触候通御獵方^并其村々築番等〆相糺申出候様猶又申付置候間此段可被相心得候

一 大目附〆左之通申来目明共へ申付置被盜物書付ハ郡代所相廻候

永見造酒助殿組柳田清三郎^并揮領地ニ権平と申もの差置候処右権平方へ去ル五日昼盜賊遁入綿入^并綿入羽織被盜取候間例之通目明共へ吟味可被申付候

一 郡代所〆牢舍人伊右衛門呼出申来出番幸治喜和右衛門差向出入取計之

一 中之町作人弥三郎と申もの郡代所へ差出候様申付候処同人義當時町分ニ居不申林田上之町御飛脚日下佐治右衛門弟^ニ御座候由申出其段郡代所^江申違候

一 於御用屋敷今九時〆新左衛門文蔵百蔵出番幸治喜和右衛門孫左衛門立合左之通遂吟味候

二階町紙屋兵助
美濃職人町いく
虚言多不及白状候ニ付手錠懸ケ組合預ケ

二階町出雲屋与次右衛門
元魚町江見屋屋屋治

口書爪印取之

牢舍人小性町 梅吉

右同断

同盜賊 新兵衛

一 中之町綿屋勘兵衛義太田村八兵衛へ相懸り借物滞一件三十日限り
濟方申付候由郡代所〆申来候

一 林田上之町長吉〆中之町山西屋要助へ相懸り借物滞一件廿日限り
濟方申付候由郡代所〆通用有之候

一 安岡町岡崎屋善吉後家役介柳助義先月廿五日夕出奔仕候段届出例之通百日尋申付候^{九月初旬}

五月十日 曇 夜小雨

五月十一日 雨

一 昨夜更廻り西町之方へ百蔵榮治藤四郎治三郎差出椿高下関貫改文蔵差出候処無別条旨^及届出候

一 雲州捕手方役人坂本安左衛門目明野津新兵衛^一申もの目明孫兵衛方へ来申聞候^者重田九市と申もの似七切手致し立去り候ニ付尋ニ罷越候処參り懸ケ西寺町^ニ行逢召捕候処鉢屋之権治と申もの召連来右権治義ハ先年当所柳土手へ来居候由^ニ案内之ものニ付右権治差添柳土手へ遣し預ケ置申候勿論途中捕之義殊^ニ向方^ニ而も御世話^ニ不相成様^ニ取計候様旁被仰付候義^ニ付内分^ニ召連帰り度候間宜取計頼入候由申聞且又当所御役人中様乙部次郎兵衛大野権右衛門と申白木状箱差出取次候様申聞差出候由目明孫兵衛申出尤召捕候重田九市と申ものハ当所広原分鉄炮町清六と申もの、借^ニ罷在六左衛門と申もの、由妻^并子供兩人有之毎夕正直蕎麦切と申荷ない売いたし候もの、由申聞候付郡代十郎左衛門へ懸合置御

用番中罷越右之段具^ニ申上何れ内分^ニ取計可然義哉^ニ奉存右状箱
開封不致差戻可申哉と相伺候処段々思召被仰聞候得共何れ内分^ニ
取計可然旨御差圖被成候付孫兵衛呼出し得と申含内分取計御頼^ニ
候故如何^ニも内分^ニ如何様とも御世話可致候得共御持參之状箱
差出候^ニハ内分取計^ニ不相成候間状箱御差出之義ハ御無用^ニ被
成間敷哉夫共強^ニ差出候様^ニ被成度候ハ、表向之取計^ニ相成候間
嚙上^ニも警衛之ものも被差出候様可相成旨勿論右九市義柳土手^ニ
被差置候^ニハ無心元も有之且ハ御召捕被成候ものを此方へ預り候
姿^ニ相成如何成もの^ニ付孫兵衛方へ引寄敷敷番人等付置可申候間
御同居被成可然旨孫兵衛申問候処向方^ニ被仰付候も呉々御役
介^ニ不相成様取計候様被仰付候処警衛共御附被下候様相成候^ニハ
却^ニ迷惑仕候間相濟候義^ニ御座候ハ、如何^ニも内分取計^ニ頼入候
右状箱差出候^ニ途中取^ニ連帰候^ニも後日当所御懸ケ合御座候
様之義^ニハ如何と存差出候得共無其義候ハ、此保持可帰候然ル
所右九市柳土手へ預ケ置候義不安心^ニ御座候得共当座致方も無
之故預ケ置候義^ニ御座候旅宿へ引取同居可致御座候得共遠路罷越
甚疲居候付不安心^ニも御座候間何卒御場合小頭中之御取計^ニ而極
内分入牢御取計置被下候義ハ相成間敷哉左候得^ニ矢張向方之手元
置候様^ニ御預ケ申形^ニも不仕勿論病氣故障等之義有之候^ニも
少^ニ構無御座候間何卒右之段強^ニ頼入候由申問候段孫兵衛申出候
間又々御用番中へ又々罷越申上候所思召無之任其意候様被仰付候
付夜廻り又六伝蔵差向牢番へ預ケ置候尤炆灯持牢屋中間申付非
人^四差添孫兵衛召連參候尤明朝立^ニ而雲州へ飛脚差遣迎之組之

者參候節召連帰候約束也且又妻子之^二之義懸合候所入用^ニ而無之も
の^ニ候得共御渡被成候ハ、受取帰可申旨申候由申問候付其段郡代
所へ懸合候所右妻義腰繩付組合預ケ申付候間帰候節可相渡候間其
旨庄屋^ハ孫兵衛へ可及懸合候間孫兵衛^ハ宜及挨拶候様被申問候付
其段孫兵衛へ逐一申付置候

五月十二日 雨

一 雲州御尋もの鉄炮町住九市事六左衛門義桶屋町入帳いたし候もの
「」申出候間右妻子桶屋町へ引取候様郡代所申来候付為相糺候
処当三月桶屋町桶屋市右衛門引受人別人別入仕候もの^ニ相違無之旨申
出候付明朝桶屋町へ引取組合之もの共入念番いたし候様申付候
尤右之段翌十三日御用番^并大目附へ相届候

一 明十三日御用日之処十五日へ相延候段大目附申来候

一 一ノ宮市町出役同心組昼弁当代拾八奴小頭へ相渡候

五月十三日 曇

一 雲州御尋もの^{（白詰書）}丸市事昨日之処^ニ記置候通桶屋町へ引取申付候段今
朝御用番へ相届右一件之義大目附へも今朝初^而相届置候処一学殿
呼^ニ来罷越候処右六左衛門義^ハ入帳之もの^ニ無之段昨日郡代^ハ
届有之候処今更入帳もの、取計^ニいたし候^ニハ甚引継六ヶ敷もの
相成向方^ニも右人別離之義彼是懸合候様^ニ相成候^ニハ難取計
もの^ニ付矢張昨日届之通帳外もの^ニ取計相渡可然^ニ付今日之届ハ
不承分^ニ可致候間右引受候もの共ハ追^而如何様共可相成候間右六
左衛門妻子ハ矢張鉄炮町^ニ差置候様郡代と申談宜取計候様被仰出
候^ニ付郡代へ懸ケ合之上下方相糺候所未受取渡不仕旨申出候付其

俣鉄炮町ニ差置候様双方申渡右之段内々御用番中へ相届大目附
へも申達候然ル所六左衛門牢賄[※]最早桶屋町へ申付候段大年寄申
出候付其段ハ其俣ニ差置可申候六左衛門妻子ハ桶屋町構ニ不及
鉄炮町構ニいたし候様及差図候

一昨夜更廻り東町之方へ差出候所無別条旨又六伝藏幸治武兵衛今朝
届出候

一牢舍人新八義去月廿七日病氣申出医師申付候処未相勝代り医師願
出大年寄へ申達候所吉武祐三^江申付候段届出候

一御藏米六拾三匁 町米五拾九匁

一関貫番人過料去ル三日申渡候通都合拾九匁三分九厘大年寄の上納

一西今町永野屋安兵衛方へ盜賊遁入土藏屋根瓦式三拾枚計起し有之
候得共紛失ものハ無之旨届書指出

一一種油四匁老分売之処三匁七分売ニ仕候段届書指出候

一三町目小田原屋幸助借屋住千年屋万助後家倅右二人四国廻路罷出
度七十日計之逗留^ニ而明後十五日出立願承り届^{八月三日}

一材木町三家屋猪太郎借屋住中屋又四郎倅忠四郎義去ル未ノ六月大
坂道修町四丁目戸屋惣八方へ大工執行ニ罷越限年ニ付此度罷帰候

所猶又今戌年ノ来子年迄三ヶ年之間執行ニ罷出度願書承り届

一御奏者番廻状左之通到来ニ付組中へ相触大年寄へ廻勤之義申達候

江戸表ハ飛脚到来大守様益御機嫌能被成御座去月廿五日為上

使井上仲殿御越初^而御暇被仰出卷物十卷御拝領従大納言様以

上使小笠原政之助殿同五卷御拝領被成候旨申来候且又同廿七

日晚御老中御連名之御奉書御到来翌廿八日御暇之御札首尾好

被仰上御懇之以上意御馬御拝領被成候段申来候依之為御欲来
ル十五日御徒格以上^并登城相濟候部屋住ニ至迄染帷子半袴着
用五半時揃登城可有之候

此旨同役同列組合^并支配方へも可被相達候以上

五月十三日 太田舍人

小須賀貢

五月十四日 雨

一御初入ニ付惣町普請見分^并御道筋為下見分小頭文藏部屋目附百藏
大年寄孫左衛門六郎左衛門諸吟味喜左衛門差出候所大躰宜出来仕
未少々残候処も有之候得共誠小繕之義故近日^并出来候由何^成申
聞候

一御初入前宿馬可遂見分候処当春出羽守様御通行前致見分候義ニ付
其後引替候馬三疋有之ニ付右三疋遂見分候処随分宜候旨右之面々
届出候

一備前大工吉之助と申もの林田上之町ニ罷在日宿多吉衣類盜取候ニ
付召捕遂吟味候処外^ニ而盜相働候義無之候ニ付右盜候衣類取返し
相渡候上追払可申旨目明孫兵衛申出宜取計候様申達又

五月十五日 雨

一御用日^并初^而御暇被仰出候恐悦申上ニ付麻上下着用五半時揃惣登
城

△於七間廊下御小性頭謁有之例之通御奏者番ハ三奉行迄一同罷出恐
悦申上之畢^而三奉行御用所へ罷出上席伊左衛門ハ恐悦申上之引懸
ケ於大目附所恐悦及挨拶夫々檜之間へ罷出右同断申上之

△大目附右恐悦ニ付御赤飯被下置候旨達有之例之通坊主部屋前於

廊下頂戴之畢而於七間廊下御奏者番ハ三奉行迄御小性頭へ頂戴物御礼申上之

一 因州氣多郡山之宮村覺兵衛役介もん義小性町瓜生原屋伊三郎借屋住大工弁藏妻ニ引受度人別人願例之通取計濟同廿一日住宅在文書出候

一 明好院様御布施壹ツ半頂戴仕候配當場御受書并御役介様之義ニ付已来御年回之御ハ頂戴仕間敷と申一札御用所へ持參仕口達ニ而申上置大目附へ差出候

一 御用番一学殿ハ御達被成候者近来今西行と申もの御家中をも致徘徊候由御初入前別而之義左様ニ烏散成もの致徘徊候而ハ不宜候間追払候様被仰出其段小頭ハ目明共へ申付都而烏散成ものハ不殘追払当所ニ不差置候様ニ敷敷申付并大年寄へも右之趣都而帳外もの不置置候様宿屋并町々年寄へ敷敷申付候様ニ申達候

一 大目附太田舍人小須賀貢ハ被申聞候者昨日京橋見分ニ出及見候得者材木町伏見町京町裏御堀端堀普請一向不取懸趣ニ相見へ右場所之義ハ御用所ハも度々被仰出候処如何相心得捨置候義哉甚不埒之旨察度有之候ニ付先達而以来足代下し大方不殘願出昨日も見分差出候所何とも不申出出来仕候義と存罷在候所扱々不埒至極之義急度可申付旨及返答置大年寄へ其旨敷敷申付置新左衛門同道ニ而自分相越及見候所一向不取懸様子ニ相見候ニ付猶々敷敷申付是非ハ御間ニ合候様ニ仕立候様申付昨日見分之もの共へも察度申達候所何及断ニ罷出候付追而可申達旨申置候○右之旨太田舍人上原彦藏へ及噂置候

一 大目附小須賀貢ハ右同断ニ付昨日及見候得者宮川大橋之辺へはき

ため捨有之并作物等も○趣ニ而柱等も建有之甚不埒之旨遂吟味候様ニ被申聞候付其段大年寄へ急度申渡候

一 御初入之節御先弘立所取調太田舍人江申達掃除見分立処不宜候付遂相談候処左之通御行列相極候段被為見候ニ付遂相談保頭并掃除見分立場左之通書入候

○掃除見分同心組 式人自分羽織 兼田切敷船注送・ 風廻り物頭 ○保頭

○御道見分御徒目附老人 目附組老人 ○御先弘同心草組 同心小頭

○御狐方野袋 鉄炮三人 指竿三人

御鷹二基 ○御持筒頭 ○御持弓頭 ○御長柄奉行 ○御奏者番

一 院庄川留り九時前郡代所ハ申来大年寄へ申達又聖十六日九時前川明申来大年寄へ東田辺村新藏方へ去ル三日夕盗人這入衣類拾品代百八匁計之品被

盗取候届書触流取計候様大目一「達有之町触取計本書ハ差戻候

一 百々村永藏方へ去ル十三日夕盗賊這入衣類五品代三拾八匁位之もの被盜取候触流右同断取計之右同断

一 下紺屋町長江朝庵義讚州高松西新町古道具屋平兵衛方へ百三十日計之逗留而明後十八日出立願承り届九月十六日届

一 近藤伊左衛門ハ井口恵左衛門辺ニ病犬有之候ニ付非人差向候様申来大年寄へ申付候

一 御初入御城着之節取計書先達而指出候所明和七寅年ハ京町御懸り注進仕候様被仰出候而今般も右之通ニ申付候旨先達而之調書ニ無之間申達置候段小須賀貢へ申達又

一 御初入御当日同心組致不足候ニ付加入式人御初入御用懸り大目附

上原彦藏へ申達候

五月十六日 雨

一宮川土上ケニ付近町人足指出し手伝候様四月八日被仰出遣置候
処御作事奉行何人程人足指出候哉之旨尋有之大年寄へ申達候所
橋本町人足五人林田町人足拾人勝間田町人足五人三日之間
指出可申旨申出其段御作事奉行へ申達尤三日ニ而六拾人夫也

一京町南側ニ而野田屋佐右衛門家屋敷表口五間裏行十七間但半役也
東隣ハ今出屋半兵衛西隣ハ北山修齋借屋也右家屋敷土蔵建物共ニ
質物ニ書入元魚町油屋甚右衛門取次ニ而銀札三貫目壹ケ月壹歩半
之利足借り受度願承り届同十六日証文番出文化七、十一月二十四日
元利返付期迄し取書出又

一安町南側ニ而福島屋治左衛門家屋敷表口四間半裏行拾壹間但八
歩三厘役也東隣ハ大坂屋増藏西隣ハ樽屋勘治也右家屋敷同町久米
屋弥市取次ニ而質物ニ書入銀札三百五拾匁一ケ月壹歩半之利足ニ
而當十一月切ニ借り受度願差出し承り届同廿四日証文番出文化九、年十二月切迄し
換書出又

一江戸浅草西中町箔屋幸七と申もの娘老人召連二丁目竹本屋宇兵衛
方へ来候付廿日計逗留為仕度願承り届ル六月十二日逗留承り届

一二町綿屋藤吉方へ三月十九日盜賊遁入候節紺屋町と書付有之階子
残置候付差返し度旨承り届

一於御用屋敷九時今新左衛門文藏百藏孫左衛門喜左衛門立合左之も
の共遂吟味

夫婦不和合之処和談熟縁仕度旨 西新町岸田屋伊三郎夫婦
双方得心いたし候付伊三郎一札取之依而願下ケ
いたし候様申付

伊三郎義組合預ケ指免候尤預ケ指免之義追而可届候

林田上之町 与藏
西新町豊永屋庄吉

一牢舍人元魚町吉屋清藏下人藤吉義去十一月二日入牢いたし余り
水々之義ニ付牢屋賄ニ可申付旨上原彦藏へ対談之上明十七日今牢
屋賄ニ取計候様申付候

一御初入ニ付御道為下見分明十七日大脇新左衛門差出候間御貸人中
間一人被仰付候様御用懸り上原彦藏へ申達候尤小頭并大年寄へも
申達候

一治町宗道宮ニ例年之通今夕町内夜籠いたし候段大年寄届出承
り置

一院庄川子中川留り郡代所今申来大年寄へ申達ス○同廿四日証文番出文化九、年七月廿七日
へ申達又

五月十七日 大雨
一油方引受常盤屋丈右衛門温田屋太郎左衛門今先日并書指出先頃妙
見宮參詣之節致登坂候処油方之者とも菜種過石相廻候義彼是取も
のハ六ヶ敷申懸候得共兵庫吉三郎手を越へ拙者共直懸合いたし候

筋ニ無之候間其義ハ吉三郎へ被懸合候様申放し吉三郎方へ立寄
大坂之もの共ケ様ニ拙者共へ可懸合筋ハ無之兵庫取計不宜義故之
事と差詰候処吉三郎義至極尤之旨聞受以来左様之義無之様ニ御
所へ届書指出可置と申下案為見候付写取帰候段申出且又於同所去
暮来候油見改之もの共も出達候所当年も油買取甚不敷不埒之義昨
年懸合之通以来締方之書付も不被差越甚等閑之取計難捨置旨申五
月中ニ締之書付相廻候様申彼是六ヶ敷申猶又兩人一札仕罷帰候段
并書指出候付以後締方取計約束いたし候ハ、其節可申出所其節無

其義今更ケ様ニ申出候義甚不審之旨大年寄を以致察度候処右申訳之弁書も差出候得共以後締取計大坂へ懸合之書面不差出候付右書面も可差出其節一緒ニ可及御沙駄旨申達置候所今日大坂長沢清左衛門の書状差越御番所御呼出ニ而昨年当所相廻候菜種御届の格別之過石如何之訳ニ候哉申出候様御達有之尤格別六二敷趣とハ不相聞候得共一ト通りニ返答之致方も可有之ニ付与力へ談置候処未返答不相聞今便之間ニ合不申相聞次第可申遣旨郡代と連名ニ而申来候ニ付一学殿へ致持参右書類不残差出候所油方之もの差出候弁書ハ追而一緒ニ御披見可成候間追而差出候様被仰出候付吉三郎と懸合之書面御披見不被成候得大坂の来書御解被成兼候義も可有御座と申上差出置大坂油見改之ものと懸合之弁書ハ持帰候一鍛冶町桂屋源次義寛政七卯年九月十五日博奕吟味之節逃去り永尋もの、処久世ニ罷在候由ニ而組合之もの召捕罷帰候段大年寄届出候付番柴治差向手綾懸ケ組合預ケ申付其段御両所へ相届候一大雨出水ニ而安岡町裏土手石垣三間計崩候付作目附差出置候間大年寄老人差出候様郡代所申来ニ而同刻大年寄も同様届出今日ハ御道見分差出孫右衛門一人在宿仕即刻安岡町へ罷出候由申越候尤未注進水ニも不及追々引水ニ相成候由ニ相聞候右石垣崩候段大目附へ及通用候処町方も人足等差出当分之手当申付置候様申来候付其段大年寄へも相違候然ル所孫右衛門義九時前安岡町土手破損所引取届候孫右衛門罷出候時分ハ外出役之もの無之安岡町の人足為差出材木等取集候処追々作目附郡代下代等罷出手当取計石切れ所人足町方式人在分式人附置猶又出水崩候様之義ニも候

ハ、申出候様申付置余程引水ニ相成候間引取候段届出承り置

一御初入ニ付御道為下見分置九時下役大脇新左衛門小頭江原文蔵部屋目附中山百蔵大年寄蔵合孫左衛門玉置六郎左衛門諸吟味宮田喜左衛門差出京橋御門外東新町迄為遠見分指掛庇樋不仕もの共ハ不残為引取拵候ものハ取懸り之様子を一々見届材木町伏見町京町裏御堀端塀覆修復兼々敷敷申付置候処等閑之致方ニ付家々へ入込遠吟味候処不残修復ニ取懸り居兩三日之内ニ出来候由ニ相見へ候段亥ノ刻前引取何届出候

五月十八日 疊

一御用日登城申上候御用向無之候

一御用番一学殿茂渡庄右衛門義忘中引籠候処此節御用差支ニ付明朝今出勤候様可申付旨被仰出候付先格之通奉書を以申達候

一 大坂長沢清左衛門の申来候菜種石数御届の過石之御尋之来書御用番中御下ケ被成大目附へ差出候且又右過石御答廻り下方相札弁書取可相廻義ニ付其段大年寄へ申付置候

一 宗旨奉行奉行古谷嘉左衛門の例年之通宗門改案詞被相渡大年寄へ相渡候

一 御初入御当日出火有之候得出火場出役町奉行代平井半平へ被仰付候処召連候同心組無之ニ付其段去ル十三日大目附へ申達候所御貸人若堂式人被仰付有之候間場所不案内者計ニ而も如何ニ付同心組老人差遣御貸人と引かへ候様大目附中被申聞其段平井へ及通用候

一 御道筋指庇樋不懸ものハ庇為取候付惣町へも右同断申達候様大年

寄へ申達候

一大目附左之通廻状到来^ニ付組中へ相触町方へハ先格之通認替相触候

從江戸表飛脚到来大守様益御機嫌克当月十五日御発駕道中無御滞候得^者来ル晦日土居之駅御泊^ニ而来月朔日御城着之御積之旨申来候

一火之用心之儀兼^而被仰出候得共御城着前別^而入念可被申付候尤万端相慎可被申候

一御城着之節御城内可為人込候間銘々供之もの御城内^ニ差置申間敷候猶又喧嘩口論等別^而相慎候様可被申付候

右之趣可相達旨小須賀一学殿御申間候間可被得其意候右之趣同役^并支配方へも可被相達候以上

五月十八日 大目附

一新魚町姫路屋前土橋破損之義催促仕候処大目附中ハ未御繕^ニ不及旨被及聞候間相糺申間候様被申間候付大年寄へ申達候所毎度穴明候故往来繁キ場所故怪我等之程難計候^ニ付是迄穴明候場^者町内右繕土を懸ケ候故見懸左ハ甚痛強牛馬等之往来無覺束旨申出候付其段大目附へ紙面^ニ而申達候

一雲州左九市事六左衛門義召連^ニ捕手方足輕躰之もの樋野太蔵和田丹次松村良吉三人家来老人召連目明中村又右衛門一人繩取非人三人召連都合八人来候段目明孫兵衛届出候付御所へ相届候

一御用日日来ル廿三日右勤^ニ相成候段大目附左申来候

一西今町菱屋次郎兵衛孫治助義三月十九日下之関^江罷越候所今三十三

日計之日延願承り届^{十一月八日又百盛願}

一御作事奉行金井長平右宮川土取退明十九日右相始候段申来大年寄へ申達候

一播州網干余陸屋利兵衛一人例年之通塩物売^ニ来候段中之町津田屋伝助宿切手差出^{七月廿六日始}

一播州網干余陸屋惣七一人例年之通八百屋物売^ニ来候段右同人宿切手差出右同断

一京町御門之内^ニ無用之土有之^ニ付町方へ取申間敷哉と御作事奉行右噂有之大年寄へ申達候処京町へ貰受道へ入度由申出候付直^ニ懸合候様^ニ申達候

五月十九日 雨

一油方引受之もの共今申出候由^ニ而大年寄申出候^者兵庫灘屋吉三郎右油方之ものへ書状差越先日御登坂之節下案御渡申候通大坂御番所へ相願候処右之文面^ニ而ハ御取上ケ無之依之文段認替御番所へ指出候処御受取置被成候間右願書写相廻候旨^并吉三郎へ大坂油方之もの右申越候書面写差越候由^ニ而差出候付御用番中へ差出候所御披見相濟無程御下ケ被成候付大年寄へ差戻候尤右御番所へ指出候願書文段ハ長沢清左衛門右相廻候文段と同文言也

一油方引受之もの右以後締取計書指出以後ハ三人之もの共日雇老人相頼所々見廻り改申付右雇賃錢惣油屋右為出候様仕度^并不正之油取扱候ものハ急度御答被仰付候様仕度^并校油屋之義ハ申合も行届候得共小売油屋ハ多人数之義故申合不行届候間上右御触流被成被下候様仕度旨願書差出候付先達而大坂^ニ而油屋へ懸合之書面^并右

懸合之趣致察度弁書^并此度之締書願書^三通共御用番中^江致持參差
出候所締方考^ハ宜哉と御尋^ニ付今般之締書願面之通^ニ而行届可申

事之様^ニも不被存候得共打任有之義^ニ付先差出候段申上候久大年
寄共存寄^者如何哉と御尋^ニ付大年寄共も同様^ニ而先達^而考差出候

大坂送りを以相改候致方^ハ至極尤之取計^ニ候得共今般之考^ハ可行
届事之様^ニも不奉存候得共三人之もの共大坂之様子吞込候義^ニ而

指出候事^ニ候得^者右躰之義申遣候^而も致承知候事^ニ而可有御座候
得^者願出之趣御許容被成候^而も可然様^ニ申聞^并小売油屋とも身合

不行届候間上^ハ御世話被下候様願出候^者至極尤之義^ニ而実^ニ油方
之者之不及力義^ニ候得^者迎も上^ハ御世話不被下候^而ハ決^而行届候

義^ニ而無御座旨申出候段申上候処去^ハまたしも之義と被仰出差出
置罷婦候所無程御紙面^ニ而油方一件之義申出之趣^ニ而取計方可行

届共不被存候得共御申聞候趣も有之候^ニ付何分御存念之通宜御取
計可被成尤諸油商之者共^ハ大坂油之外調申間敷旨触達も宜御取計

可被成則別紙致返却候由被仰出候^ニ付御聞濟之趣大年寄^ハ申達候
尤右書類翌廿日大目附^ハ差出

一雲州^ハ六左衛門召連^ニ罷越候もの共明日川明次第出立仕候由孫兵
衛^ハ届出候^ニ付其段御用番中^ハ及御沙駄先日被仰聞候通御領分中

ハ同心組四人目明彦人非人四人見送り可差出旨申上候所宜取計候
様被仰出候

五月廿日 雨昼後晴

一桶屋町谷屋佐七借屋住浜風岸右衛門義岡田繁太郎長屋^ハ引越度人

別除願大年寄差出承り届

一毛受時治義明廿一日^ハ出勤届出候^ニ付加人^{山本治三郎}明日^ハ差戻
候段大目附^ハ相届候

五月廿一日 少時雨

一雲州^{山本治三郎}御尋もの桶屋町人別鉄炮町住九市事六左衛門義今朝召連婦度
旨雲州^ハ来候捕手之もの共申候由目明孫兵衛昨夜申出候^ニ付今六

半時出番又六栄治藤四郎伝蔵四人牢屋^ハ差向出牢取計目明孫兵衛
^ハ相渡孫兵衛宅^ニ而雲州捕子之もの^ハ孫兵衛^ハ為相渡右妻^并六歳

之女子当歳之男子三人^ハ在分之取計^ニ而孫兵衛宅^ハ連来引渡候右
之節同心組四人孫兵衛宅之前後を固メ其俣院庄御境目迄見送ル^并

目明孫兵衛非人四人召連院庄迄見送り候右警衛之もの罷婦り無滞
見送り候段届出御用番^并大目附^ハ其段相届候

一大坂長沢清左衛門^ハ十郎左衛門拙者連名^ニ而書状差越菜種過石御
尋之答振之義御館入与力^ハ右之訳如何様^ニ御答有之候共御役人中

御不念^ニ相成候様之義^ニ而^ハ無之旨申越候段申来十郎左衛門^ハ相
廻御用番中^ハ被指出候様申遣候

一油方之もの共取締取計之趣御聞届相濟候^ニ付右締方之義大年寄共
^ハ左之趣惣油屋共^ハ触達可仕旨大年寄伺出承り届

大坂油之外取扱間敷義^ハ兼^而公儀^ハ御触達之義^ニ候間以來も
急度相守り不正之油取扱間敷若又不埒之ものも有之候得^者重

科^ニ被仰付候旨^并右吟味之為油方三人之もの共遣候もの彦人
相届候右賃錢惣油屋^ハ相払候様今般御聞届被成候間右之旨相

心得弥堅可相守事

五月廿二日 雨

一 院庄川留り九半時郡代所申來大年寄へ申達入翌十三日辰中野川明申來大年寄へ申達入

一 船頭町北側而作人善五郎家屋敷表口三間三寸五歩裏行東之方而

東西巷間半之処而七間西之方而東西巷間三尺六寸之処而

八間巷尺九寸但本役也東隣ハ作人仲右衛門西隣ハ備前屋喜治郎也

右家屋敷代銀札百目ニ相極小性町瓜生原屋平吉へ壳渡度願承り届四路日壳渡度願承出

一 船頭町北側而高瀬屋兵治屋敷地表口式間四尺巷寸裏行六間六尺

但半役也東隣ハ高松屋平吉西隣ハ瓜生原屋伝吉也右屋敷地代銀札

式拾匁ニ相極同町益原屋伊八江壳渡度願承り届右同斷

一 福渡町作人伊三治役介源吾義四國遍路百日計之逗留而來ル廿五日

日出立願承り届

一 越中富山板屋理兵衛役介惣四郎文右衛門二人例年之通召抱十月迄

差置度願京町松岡屋茂右衛門願大年寄差出承り届

一 牢舍人橋本町中島屋幸助居宅及大破候処同人所持之粉少々有之候

間御開封御渡被下候様願出候段大年寄申出承り届昼廻りへ申付候

様小頭へ申達ス

五月廿三日 雨

一 御用日登城尤今日今日勤ニ相成候

一 脇坂淡路守殿御預り所当國勝南郡湯鄉村百性九郎右衛門弟半兵衛

義伏見町吉田屋半兵衛後家養子ニ引受度人別入願例之通取計済同廿八日住宅証文書出

一 脇坂淡路守殿御預り所当國久米南条郡塚角村卯兵衛娘りよ義安岡

町葛屋宇八妻ニ引受度人別入願右同斷取計済六月十一日住宅証文書出

一 元魚町中野屋佐助後家かね妹とめ義当戊三十三才ニ罷成候処兼々

不所存ものニ付組合とも打寄異見を加へ候得共不相用其上去ル十

七日夕出奔仕相尋候得共行衛不相知右跡のものニ御座候得此後

於何方如何様之義仕候程も難計ニ付親類組合打寄義絶勘当仕度人

別除願書右同斷取計済六月十八日勘當証文書出

一 札元妹尾平兵衛義去ル八日出坂願差出候所未用事不相濟候ニ付今

十日計日延追願書同役茂渡庄右衛門の指出候右同斷取計済同廿五日勘

一 龍野御預り所下役橋本三平次の土居妹尾三郎平を以檉野屋茂一郎

頼越候者当所備前船出入内済為取替書写見申度義有之候間写相

廻り候様ニ相頼候段茂一郎の申出候旨大年寄共申出候付其段先日

御用番中へ罷越相伺候候勝手次第頼ニ応取計候様被仰出候ニ付其

旨今日大年寄へ申達候

一 三町目草津屋虎五郎方へ去ル十六日夕盜賊遁入鑓石火鉢一同斷火

箸一膳盜取候届書御用番中ニ申上触流御開濟ニ付大目附へ差出置

町触取計之

一 西新町岸田屋伊三郎夫婦喧嘩度々呼出理解申聞誤入以後睦敷可仕

一 札差出心得違ひ御箱訴いたし候願下ケ夫婦のものゝ差出候間願

之通差戻可申段右書類持出申上候所其俣御開濟ニ書類御戻被成

候ニ付大目附へも差出置御開届申達願書不殘差戻候

一 伏見町坂之丞義老母不引取甚心得違之義申候ニ付手錠組合預け申

付置候誤入ふさ間之義申恐入候以來ハ老母引取大切ニ養育可仕

と申一札組合之ものへ差出何卒御免被下候様組合之ものゝ歎異候

様精々相頼候由而組合之もの共願出候付其段御用番中へ申達

御開濟ニ付大目附へも申達置明廿四日呼出可申達旨大年寄へ申達

候

一大坂長沢清左衛門ハ一昨日申越候書面^并油方之もの差出候散種過石之弁書御用番中へ差出別紙弁書之通之義^而過石^ニ相成候義と今般可及返書旨相候処御用番中案詞御渡被成其旨相認十郎左衛門拙者連名^而今夕之便^ニ差出し大目附へハ取計濟之上書類差出候

一橋口^ニ而納涼申間敷触書例年之通町触差出候

一人馬問屋板屋八十兵衛病死^ニ付跡役同人倅伊三郎へ申付度大年寄伺出承り届

候

一御初入御城着之砌兼田御渡船場へ蔵元老人船年寄二人下裁許一人差出候様可申付旨御船奉行古谷嘉左衛門ハ通用有之大年寄へ申違候但御召船壹艘高瀬船七艘馬船三艘相廻り候由^ニ相聞へ候

一油方三人之ものハ今般締方願之通^ニ被仰付候所玉琳^ニ油商売仕候もの左之通^ニ御座候付

千種屋藤兵衛 虎屋庄三 広戸屋文七 綿屋勘兵衛

初屋千蔵 綿屋与吉 備前屋幸吉 七人

右之もの共へハ舟不相成如何可仕哉と伺出候付郡代中へ右名面書相廻し以後油商売御差留可被下哉又ハ御免被成候筋^ニも候ハ、油方之もの共之方へ来り以来ハ何等^ニよらず下知^ニ随ひ今般之入用割合も受候様被仰付被下度旨懸合置候

一大目附小須賀貢ハ去ル十五日被相達候宮川大橋上下^ニ塵芥捨候も

の共吟味申付候処

橋本町^ニ而佐伯屋長左衛門 武蔵屋甚蔵 杉屋市右衛門

中屋忠七 塚屋藤助

林田町^ニ而河ノ瀬屋岩右衛門 入江屋十兵衛 作人幸右衛門 右八人之もの塵芥捨干物等いたし候由口書取指出候付追込三日可申付伺書差添大目附へ及相談候処先此度ハ大年寄場合切^ニ而急度叱以來相慎候様申付置可然旨挨拶^ニ付任其意御用番中へハ不申達大年寄へ宜取計候様申渡候

一牢舍人盜賊小性町元永屋伊助弟梅吉而敵追弘御用番中へ伺書差出置

一安岡町博奕一件之もの共御裁許伺御用番中へ差出置候

一石州銀山領鳥越村嘉惣太女房浜同人倅丑松右両人西国^ニ罷出当国

英田郡川北村^ニ而右浜義致病死右倅丑松義幼年^ニ付同所ハ送り出候尤歩行いたし候付人足老人差添送り来候段郡代所ハ申来継送り候様大年寄へ申違候

一人馬問屋諸方へ賃銭定元禄十一年之御定ハ其後違候事^ニ候処いつ被仰出候義哉不相分^并當時之賃銭定法も認出候様大目附小須賀貢被申聞役筋旧記相調候得共森家ハ讓渡帳面之外^ニ而一向不見当人馬問屋へ吟味申付候得共問屋出来候^者近頃之事故一向不相知仍^而當時之定法左之通認出候^ニ付小須賀貢へ差出候

御定法賃銭覚

津山ヨリ勝間田迄 道法三里

本馬老疋 丁錢百三拾四文

輕尻老疋 同 百拾九文

人足老人 同 九拾六文

同所ヨリ坪井迄 道法三里

本馬壱疋 丁錢百三拾九文

輕尻壱疋 同 百廿六文

人足壱人 同 九拾六文

同所ヨリ香々美新町迄 道法三里

右同段

同所ヨリ桑村迄 道法三里

右同断

同所ヨリ関本迄 道法五里

本馬壱疋 丁錢貳百八拾文

輕尻壱疋 同 貳百五拾六文

人足壱人 同 百六拾文

同所ヨリ弓削迄 道法四里半

右同断

同所ヨリ木知ヶ原迄 道法五里

右同断

榑村行 道法二里

本馬壱疋 九拾三文

輕尻壱疋 八拾四文

人足壱人 六拾四文

宮尾村行 道法二里

右同断

右之通ニ御座候以上

五月 人馬問屋佐右衛門

一院庄川留り戌ノ刻申来大年寄へ申達候 同廿五日四半時川明来大年寄へ申達ス

一石名伝蔵印判相改候段小頭合届出承り置

一河原町南側ニ而吉原屋そめ家屋敷表口貳間裏行東ノ角ニ而拾壱間

西ノ角ニ而拾壱間三尺但貳歩半役也東隣八福田屋勘兵衛西隣八作

屋増蔵也右家屋敷代銀八拾匁ニ相極町内作人万蔵へ売渡意願承り

届 六月五日宛書状出ル

五月廿四日 雨

一御用日登城

一札元三船八郎右衛門義近年病氣ニ相成弟文蔵義も同様之義ニ付縁

類ニ付同町小倉屋清右衛門夫婦共養子ニ仕度願御用番御聞濟ニ付

大目附へ差出御聞届申達候

一御用所ニおゐて大目附出席御用番中今安岡町博奕参会之もの共井

盜賊梅吉伺通左之通被仰渡尤明日取計候様被仰聞候付大目附へ立

合之義申達夫々手配申達候

同町明石屋庄七留主へ参り博奕致参会 安岡町江川屋六兵衛

亭主同前之義ニ付百敲帰町

△右参会ニ付百敲帰村 新田村分原ノ伊右衛門

△所々盜相働候ニ付御領分追払 盜賊小性町元永屋伊助弟

△安岡町明石屋庄七方ニ而博奕 安岡町篠屋太兵衛

参会仕候付五十敲帰町

右同断 同町鍛冶 弁治

右同断 茅町池上流滴

右同断

同町玉島屋幸吉

立合申渡之

右同断

同町作人 仲之助

敲掃町堀村

安岡町博奕参会之者 八人

右同断

美濃職人町平伏屋八十八

百敲御領分追払

小性町盜賊梅吉

右畢^而右一件懸り合之もの共通之通取計候様被仰出候

庄七留主中博奕宿いたし候付追込 安岡町明石屋庄七

一今九時^於御用屋敷下役小頭部ヤ目付出番柴治藤四郎大年寄諸吟

右ニ付過料五百文申付追込五日 同人組合

味立合左之ものとも呼出遂吟味候

右ニ付叱追込三日

同町年寄

(組合^々歎出候付手錠預ケ差免老母義 伏見町作人坂之丞
今日^々引取大切ニ致孝養候様申付候

申方不宜候付手錠懸ケ組合預ケ申付候 二階町紙屋兵助

申方訳立候ニ付手錠預ケ差免候 同町出雲屋与次右衛門

元魚町江見屋伝治
美濃職人町いく

去ル寅九月山北村佐吉方^ニ 博奕参会 鍛冶町桂屋源治

いたし逃去り候段口書印形取之吟味中牢番預ケ申付御両所

へ相届候

一御初入ニ付明廿五日御道筋見分先格之通罷出候段昨廿三日御用番

へ申達大目附へ御貸人馬之義申達^并 大脇新左衛門へ御貸人老人申

達候

一牢凌申付候処無別条候段時治武兵衛届出候

五月廿五日 雨

一御用日登城

一今六半時揃於牢屋御徒目附高橋三郎太下目附小林還右衛門小頭文

蔵部屋目附百蔵出番藤四郎伝蔵立会昨日被仰渡候安岡町博奕参会

之もの^并 盜賊梅吉敲取計相済^并 大年寄宅^ニ 而 左之通小頭部ヤ目附

右取計相済候段出仕之上御両所へ相届候且又明石屋庄七追込十日
伺済ニ候処御城着之砌へ相懸り候間来ル晦日夕差免候様仕候^而ハ
如何可有御座哉と御用番中へ申上候処其通ニ取計候様御差図御座
候

一御城着之砌加人式人申達置候所色々操り合候ニ付老人^ニ 而 相済候
段上原彦蔵へ申達候

一坪井町川原屋治助持来候古道具屋株元魚町海老屋長右衛門へ讓渡
度願差出株札名面認かへ相渡聞届候段申達候

一玉置^{六圓}左衛門義御堀へ足代下し願大目附へ差出
一備前岡山浜田町挑灯屋吉太郎手代松五郎二人例年之通挑灯張かへ
来候段新職人町松野屋十右衛門宿切手差出^{七月十二日}

一御蔵米 六拾四匁 町米 六拾匁

一御道見分罷出候段触置候所雨天ニ付延引いたし候

一郡代所^分布原村藤八と申もの本多左門殿家来佐々木佐伝と申もの
、方へ帯刀いたし罷越狼籍之義有之候由尤其場ハ取鎮京町戸屋方
ニ藤八置在候由左門殿^分申来組可差向候処折筋他出不快等^ニ 而 漸

老人ならてハ無之候間同心組式人貸具候様頼来時治伝蔵差向候処

早速召捕罷帰候由^ニ而^ニ牢番預ケ申来直^ニ時治伝蔵立合申付候

五月廿六日 雨

一 御用日登城

一 備前盤梨郡三宅村常治夫婦倅直吉右家内三人小性町砂屋忠助○引^{養子}

受度人別人願例之通取計濟^{同日住宅延文差出}

一 土岐山城守殿領分当国英田郡瀬戸村久右衛門娘きの義新魚町金島

屋市右衛門嫁^ニ引受度人別人願右同断取計濟^{六月十六日住宅延文差出}

一 脇坂淡路守殿預り所当国勝南郡福力村又左衛門倅治助義宮脇町生

駒屋治右衛門引受度人別人願右同断取計濟^{六月二日住宅延文差出}

一 鍛冶町桂屋源治御裁許伺御用番中へ差出

一 御初入^ニ付御道為見分八時^ノ下役大脇新左衛門小頭江原文蔵部屋

目附中山百歳大年寄蔵合孫左衛門斎藤孫右衛門玉置六郎左衛門諸

吟味宮田喜左衛門召連京町^ノ東新町迄遠見分山本三郎左衛門方へ

立寄暫休息いたし帰り懸御用番中へ相届大目附へハ馬脇^ノ以使相

届候尤御道筋取繕相勝宜候但若堂二人^ノ餘其供立例之通七半時帰

宅いたし候

一 二階町河内屋金右衛門義中川五左衛門と致同居候^ニ付妙法寺旦那

^ニ相成居候所河内屋先祖ハ愛染旦那^ニ御座候付真言宗^ニ宗旨替仕

愛染寺旦那相成度願差出宗旨奉行古谷嘉左衛門^ノ伺濟之旨通用有

之御聞届役筋^ノも申達候

一 町方^ニ御家人組中間等女名前或名代指出し致住居候義ハ先規^ノ致

来候義^ニ候処近来ハ御家中役介或ハ長屋ものと称し烏散成もの無

願差置候様粗相聞候付急度相改以来ハ主人^ノへ役所へ通用有之

其上願書指出し承り届之上差置候様^ニ触達取計相改候様大年寄へ

申付候処御触書御差出被下候様仕度旨大年寄申出候付翌廿七日御

用番中へ伺濟候上町触差出候

五月廿七日

一 御用日登城

一 雲州御尋もの桶屋町へ引受候もの共御咎伺御用番中へ差出候

一 町方^ニ近来御家中役介又ハ長屋もの杯と称し烏散成ルもの指置候

類も有之哉^ニ粗相聞候間一々願出引合候上承り届候様可申付旨御

用番中へ相伺候処御聞濟^ニ付大目附へも相達置左之通町触差出候

御家中役介^并家来等^江借家貸候歟又ハ同居いたし候ハ、以來

其段願出聞届之上差置可申候尤是迄居来候ものも銘々家主或

ハ同居之もの^ノ願書可差出候

右之趣惣町中へ可被相触候以上

一 斎藤孫右衛門倅嘉蔵去酉十一月播州山崎親元へ逗留^ニ罷越二月朔

日五月迄之日延願出候処猶又十一月マテ逗留日延願差出承り届猶

又十一月廿八日日延願承り届

一 左之通御奏者廻状到来

今般御城着之砌之御礼式習礼有之候間大役人已上且又登城

相濟候部屋住^ニ至迄来ル廿九日五半時登城可有之候此旨同

役同列組合^并支配方へも可被相達候 以上

五月廿七日 太田舎人 小須賀貢

一 追^而家督番代役義等之御礼未相濟候面々ハ登城^ニ不及候以上

一 牢舎人新八療治二廻り相濟候処末相勝候^ニ付吉武修格へ申付候段

双方の届出承り届

一 盜賊梅吉義寺々ニ 而 盜取候品廿一品銀札式拾式匁三分寺社取次野
条金平へ引渡候

一 大目附ハ北郷門太夫長屋もの堅益と申ものと布原村藤八と本多左
門殿家来佐々木左伝方ニ 而 意趣有之趣致喧嘩候ニ 付右堅益義北郷
門太夫受取可致吟味旨尤郡代所と対談之上取計候様被申聞何れ
藤八義吟味之上ならてハ相分り申間敷其間如何可仕哉と申達候所
受人ニ 預ケ置候様被申聞門太夫ハ懸合之上左之通受取之候

受人預ケ申付候 同夕半番預ケ

北郷門太夫長屋住堅益夫婦
幼年子共二人

右受人河原町千代屋太兵衛

右ハ下役新左衛門小頭文蔵出番百藏時治立合受取之直ニ 受人ハ相
渡其段御両所へ相届候然ル所亥ノ刻頃大目附ハ呼ニ 来相越候処右
堅益義御用所ニ 而 ハ牢番預ケニ 而 も可然哉之御沙駄有之候処受人
預ケニ 而 ハ無心元ものニ 而 無之哉と察度ニ 付左候ハ、牢番預ケ可
申付旨申達置柴治時治差向牢番預ケ申付其段翌朝出仕之上御両所
へ相届候 ○同年十月十八日出立治次上ニ 夫ハ指原候

一 院庄川留り申来大年寄へ申達ス 同廿九日五半時川明申来大年寄へ申達候

一 去ル廿五日御女中先触到来廿六日朝御先番先触到来同夕御先番之
面々到着 并 今晚御女中に到着候由ニ 候

一 牢舍扶持五俵内貸証文差出例之通取計之尤来月十二日迄賄巻斗巻
升式合五勺残候積

五月廿八日 雨

一 御用日登城

一 安岡町年寄追込昨日迄三日ニ 相成候付今朝差免候段御両所へ相届
候

一 札元見習玉置忠四郎妻男子出産血忌引込届出承り置

一 京町戸島屋伝吉ハ布原村藤八ハ島裕一縮緬半羽織一風呂敷一雪駄
老足預り居候旨届出候付郡代所へ相廻候（同前）処右品郡所（同前）為差出候様
申来大年寄へ申達候

一 御初入御用懸り大目附上原彦藏ハ左之通申来大年寄へ申達候

播州佐用駅馬十疋之外無之旨御先番相通り候節申聞候旨此義
ハ向方ハ頼来候筋之様ニ 何となく相覚候得共承り糺候日数無
之候間先此度之義ハ先年之通馬十五疋相廻候様御取計可有之
候以上

一 土居駅ハ御通行之御宿馬二十疋相廻候様先格之文面ニ 而 申越候間
返書も先格之通入用等ハ向方ニ 而 取計候様返書下案相認来書差添
出并 馬子共へも右之通申含駄賃雜用等も相払候様一ト通りハ懸合
候様可申含旨向方ニ 而 不及貧着候得キ 此方様人馬方へ懸ケ合受取
候様可申付下方懸合之大意書差出候ニ 付上原彦藏へ右書類差出対
談之上伺通宜取計候様申達候且又未勝間田ハハ不申越候得共在方
寄七馬五七疋ハ是非入用之趣申出候付其段上原士へ相達置郡代所
へも懸ケ合候

一 札元三船八郎右衛門病氣差重り候ニ 付退役願書差出先例取調候処
寛政三辛 年七月三日妹尾平兵衛病氣差重り役免願之節帯刀御免
之御達も無之其俣即刻御聞届被成無程死去相届候趣ニ 付其段勘定
奉行近藤伊左衛門へ懸合右之通ニ 而 ハ野送り之節も刀為持候事不

相成筋^二候得共右之通^二而^一も可然哉と申遣候所存寄無之旨申越候

付御用番中へ持参指出候所無程退役御聞届被成候間宜申遣候様

申来候付御聞届被成候段大年寄へ申遣候尤大目附へハ翌日相届候

一 下紺屋町智教坊例年之通来ル六月七日夕十四日迄祇園会^二付御戸

開除^二御祈禱修行仕度願書指出承り届

一 右^二付下紺屋町例年之通行灯差出候由大年寄届出候

一 戸川町平野屋助左衛門倅幸右衛門義今般黑田要人殿出府之節立帰

^二而^一供為仕度願承り届 八月十二日始り届

一 安岡町神目屋九郎兵衛妹かね義御領分東南条郡太田村勘兵衛妻^二

差遣度人別除願下方引合相濟候段申出承り届

一 御領分東南条郡林田村茂右衛門借屋住庄七^并同人母右家内式人東

新町坂本屋甚吉引受度人別入願右同断承り届

一 御城着之砌立宿付左之通差出御先手御徒目附之分大目附へ差出候

俱以來大目附へ差出^二不^一及候中問候

御奉行様御立宿 東新町 山本三郎左衛門

下宿 同 高原屋武兵衛

御風廻り御物頭様御立宿 同 水口屋茂兵衛

御組中下宿 同 榎屋理助

御馬下宿 同 佐伯屋与三兵衛

御徒目附下目附立宿 同 綱屋善助

御先私中立宿^并掃除見分 同 鍛冶忠助

京町人留御組中立宿^并京町御注進 戸島屋伝吉

五月廿九日 晴

一 御用日^并御城着砌御礼式習礼^二付大役人已上嫡子迄五半時登城七

半相濟退出

一 札元三船八郎右衛門病死届出仕之上御所へ相届候然ル所御用

番中へ退役願差出候節大年寄へハ帶刀御免之違有之札元へハ無其

義先格之旨及死期右等之御違有之義之如何之訳^二候哉調出候様被

仰出御請申上置候然ル所上原彦藏へ御用所^二而^一御沙駄有之候^并無

滞相勤候もの死期^二至り帶刀御取上ケと申様^二而^一も如何成もの^二

思召候間八郎右衛門出棺之砌刀為持候^而も不苦旨相違候様^二御用

番中被仰出尤月番へ可相違処上原士兼^而之義存被居候事故同人へ

被仰出候由被申聞候付八郎右衛門葬送之節刀為持候様大年寄へ申

達候

一 東新町作人義兵衛倅吉三郎義大久保安芸守殿領分当国久米南条郡

下打穴中村市次郎養子^二差遣度人別除願例之通取計濟

一 御代官重田又兵衛殿支配所当国大庭郡久世村藏屋林兵衛娘とみ義

京町大村屋源右衛門妻^二引受度人別入願右同断取計濟 六月朔日住宅移居差出

一 勝間田郡今般御通行^二付宿馬廿五疋被仰付候処式疋之外ハ無御

候間其餘相廻し呉候様大年寄へ申越先格之通及返替候段大年寄へ

来書^并返書下案差出上原彦藏へ差出候

一 大年寄へ申出候^并昨日被仰出候佐用へ差遣候宿馬拾五疋今朝立^二

而^一差遣候所途中^二而^一御飛脚之者^二承り候得^并御川支有之三日之御

城着^二相成候由申聞候^二付罷帰候段申出候付途中^二而^一御飛脚^二行

違承り候迎被仰付無之^二私之計^二而^一罷帰候^而ハ不相濟勿論不定成

ル義ハ御存^二而^一被遣候義故直^二折返し參候様申付置候処土居間屋

へ二日御止宿^二被仰付候間昨日申遣候宿馬右之御間^二合候様差越

候様ニ申越然著 慥成義尤右馬折返し申付候著 唯今之義故呼返し可

申哉と伺出候ニ付伺之通宜取計候様及差置其段上原彦蔵へ紙面

ニ申遣候所承知之旨申来候

一御道中尾田之駅尾田之勘定奉行へ飛脚到来富士川一日之御差支ニ 而鳥

田駅へ御入込被成候所大井川留り居候得共明朝ハ川明候ニ付弥三

日御城着被成候段申来候

一二階町常宝院兼住所不動堂并鎮守疱瘡守護神例年之通来月七日

十四日迄護摩修行仕度願書例年之通指出承り届

一撰州有馬辻堂茂兵衛一人例年之通墨筆白粉売ニ来候段中之町甲屋

幸助宿切手指出八月四日迄

一越中富山船橋町松井屋源兵衛手代嘉助文三郎清兵衛例年之通り反

魂丹売ニ来候段京町美濃屋平五郎宿切手差出同十一月廿三日迄

一奈良角掘町徳田屋平七一人例年之通晒反物売ニ来候段右同人宿切

手差出八月十六日迄

一中之町平野屋伊助義黒田要人殿供ニ 而立帰りに出府仕度願承り届

御初入御城着御当日同心組役割割左之通申付候

御先私小頭 文蔵平来治 掃除見分佐藤 京町注進又

町分注進幸治 京町人留時治 供番加人并井義藏

屋敷番百蔵一人詰切之儀ニ平井へ大田ニ火用ニ相廻候又六 平井火用供藤四郎

夜廻り幸治 五月晦日 曇小雨

一御用日登城

一安岡町明石屋庄七組合追込昨日迄ニ 而五日ニ相成今朝差免候段出

仕之上御所へ相届ル

一盗賊茂助義百敲追込伺書御用番中へ差出候

一御初入御当日当役御目見之義御奏者番小須賀貢へ相尋候処出役ニ

付御目見無之分ニ御伺候由仮令御間ニ合候而 而後家督後御目見不

仕ものハ未御目見無之姿ニ相成当日御目見ハ無御座旨被申間候

一関貫番賃銀例月之通相渡候

一御初入ニ付作用土居勝間田へ宿馬差遣候所廿五疋之駄賃ハ向方ニ

受取居候間駄賃ハ向方ニ 而可受取義ハ勿論之義大年寄返書之趣

ニハ向方ノ頼越差遣候訳ニ付雑用之義も相払候様ニ一人通りハ

馬方ノ可懸合不承知ニ候ハ、其分ニ致置候様可申付旨上原彦蔵被

申聞大年寄へ申達候

一御初入御当日鉄炮町組之者不殘罷出婦人子共計残り居候事故火之

元無覚東候間先格之通□□非人共廻り被仰付候様物頭ノ届有之

候間宜取計候様大目附ノ被申聞候付先格鉄炮町計へ相廻り候様申

付候義ハ不覚何れ加廻り二組も申付候事故可相廻哉と及答候所

随分夫ニ 而可然旨被申聞候ニ付大年寄へ申達候所加廻り被仰付候

節も分 而不申付候得 御家中等ハ不相廻義ニ付猶又分 而鉄炮町相

廻り候様可申付旨大年寄申聞候

一三浦志摩守殿城下町神代屋小兵衛粹好五郎義京町田原屋伊兵衛方

へ逗留願去酉十一月廿三日指出候所猶又来亥三月迄逗留追願承り

届

一二階町組屋忠右衛門所持之自国受酒株寛政十一未五月廿七日相願

坪井町万屋佐助借り受商売仕候処猶又亥三月迄借受度追願承り届

同年十月十五日取成し中之町鉄田屋宗兵衛へ願渡候

一御奏者廻状到来左之通

当月十九日御用番松平伊頭守殿御宅へ御留主居御呼出^二而御

用之義有之候間翌十九日御一類中之内御老^一人四時御登城被成

候様被仰渡候仍之為御名代丹羽式部小輔殿御登城之處御縁廻^三

御願之通被仰出候右為御歎明後二日五半時御徒格已上^并登城

相濟候嫡子^二至迄登城可有之候

右御触書之趣組中へ相達町方へも廻勤候様申達候

一大目附廻状到来左の通

公儀御誕生有之舒^{ナラ}姫君様と奉唱御台様御養被仰出候右御名^二

差合候名可相改候

右御触書町中組中へ相触候

一南新座町臭橘摘込昨日迄^二相濟候段喜左衛門届出承り届

六月 小

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 佐々木主馬

大年寄 玉置六郎左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

六月朔^{庚子}旦 少雨

一御用登城申上候御用向無之

一御奏者番小須賀貢^一町人共御初入初^而御目見之節献上物八年頭御

礼之節之通何^成小三折^二相成候旨被相達其段大年寄へ申達候

一御奏者廻状到来左之通

伏見之駅^一へ飛脚到来大守横益御機嫌克被成御旅行明後三日御

城着被遊候間御徒格已上^并登城相濟候部屋住^二至迄染帷子半

袴着用五半時登城左之席々へ可被罷出候家督番代御礼無之面

々ハ罷出間敷候

御玄闔下座敷北之方^{有役}御家老 御中老 御年寄 御用人

桜之間御本間ノ内^{無役}御家老 御中老 御年寄 御用人
(西ノ方東向^二列居

御玄闔下座敷北ノ方 御奏者番 大番頭 大目附

御床前へ 大番頭老^一人

御広間詰 御使番老人 大番組頭老人
南ノ方末^江 大番組加番共十人

同所御障子際南ノ方 中奥目附

一 槍之間御旗竿之間虎之間椽之間藤之間金鷲之間松之間南御

縁座敷^ハ東御縁座敷迄引廻し二重側^ニ列居

但槍之間御旗竿之間計^者一重側^ニ列居

御徒格 御徒 小役人 月並小役人 大役人 小從

人組 大番組 医師 中奥組 御小性組 番外 御

使番格 寄合 惣頭 小從人頭 御徒頭 中奥頭

大目附格 御小性頭格 大番頭格 御奏者番格

右有役無役共尤登城相濟候部屋住古格相当之席^ニ列居

一 隠居之面々出仕^ニ不及候

右^ニ付明後三日御城着被成候段組中町中へ触為知候

一大目附廻状到来左之通

京橋御門^{御門}御修覆出来^ニ付明二日^ハ通行相始り且又宮川御門昼

分通行相成候

右之段組中町中へ為触知候

一 御帰城御当日寄七馬五疋入用之旨上原彦藏へ中達置郡代所へ及通

用候

六月二日 少雨

一 御用日^并御縁組御願濟恐悦申上^ニ付御徒格以上部屋住迄麻上下着

用五半時惣登城例之通於七間廊下御小性頭謁有之御奏者番^ハ三奉

行迄一同申上之畢^而三奉行一同^ニ御用所へ罷出恐悦申上之引懸ケ

大目附へ自分及挨拶畢^而槍之間^ハ罷出恐悦申上之但申上候御用向
無之

一 御城着之砌町分^并京町御注進以前^ハ御見へ被成候御懸り被成候と

兩様^ニ認有之候何れ方^ニ可然哉と小須賀貢へ相尋候所大目附中

扣^ニ御懸り御注進と有之候間其通^ニ為呼込候様被申開候

一 中奥目附出九太夫^ハ明三日御城着^ニ付御道筋御先例之通御座候間

先格之通取計候様通用申来候

一 二階町山本屋周右衛門所持之自国受酒株去酉六月^ハ東新町五明屋

文吉借り受商売仕候処猶又来亥五月迄借り受度追願承り届

一 京町田原屋伊兵衛義備中笠岡八軒町柳屋源五郎方へ四十五日計之

逗留^ニ明後四日出立願大年寄承り届差出^{七月十日}

一 御城着之砌拜見之もの共町触^ニ男子之分ハ庭へ下り拜見仕候様^ニ

相触来り婦人之義^者不及沙駄有之候是ハ町人之義故庭へ下り候様

^ニ相触候趣^ニ相見へ候御家中次男三男ノ分ハ店^ニ拜見候^而も不

苦義哉と大目附中へ相尋候所御家中たり共男之分ハ庭へ下り拜見

致来候事^ニ候旨被申聞左候ハ、婦人之義も如何成もの哉と申達候

所是ハ致来候通^ニ可宜銘々心得次第之義何れとも不及沙駄方

可然義哉と貢彦藏被申聞其段組之者へ心得候様申達候

一 安岡町明石屋庄七追込御初入^ニ付今晚差免翌朝御両所へ相届候○

且又組合過料銭昨日相納受取置

六月三日 雨

一 人馬問屋^ハ土居へ遣置候遠見之者今朝六時罷帰り昨晚七半時土居

駅へ御着被遊今晚七時之御立触御座候旨承り罷帰候段大年寄申出

一 御用日麻上下着用例刻登城

六月六日 雨

一 御先代様御初入被遊候節町方へ上々様之義ハ勿論御供之面々之批判仕間敷^并御供之面々面鉢不存ものへ不礼仕間敷兼^而被仰出候御法度之趣相守可申旨触書差出候義ニ付其趣相認大目附へ遂相談候

一 御用日麻上下着用登城
一 祇園会ニ付例年之通二階町元魚町北関貫四時迄開立番附置候段御所へ相届候
一 御用所檜之間衆^江御盃被下右御規式於柳之間有之候由御沙駄ニ候

趣ニも寄り被差出候事^ニ而も可有之此節^者先左様之触書差出候時節とも不相見候間先相止候様被仰出候

六月七日 快晴
一 御用日麻上下着用登城
一 吹屋町山城屋善左衛門方へ去ル五日夕裏土手^ハ盜賊遁入納屋^ニ在

一 大目附^ハ昨日被申聞候^者町家之もの共往来ニ干物いたし不埒^ニ付以来干物不仕候様申達廻之同心組^ハ心付候様可申付旨被仰出先

一 鍛冶町鍛冶頭又市郎義金毘羅參詣願昨夜差出承り届^{同十三日届}
一 林田町香々戸屋六之助借屋住音七義先月廿八日出奔致候届書指出

旦ハ御受いたし候得共都^而干物御差留被成候^而ハ甚差支^ニ相成候義故先例取調候処寛政十午五月十八日町触^ニ往還^ニ干物いたし候共往来之故障^ニ不相成様^ニ可致旨触書差出候先格有之候^ニ付猶又

百日尋申付候^{九月廿五院候}
一 御奏者番廻状到来左之通
明後九日初^而御城着為御祝義御目見被仰付候間御徒格已上^并

当年も右之通^ニ相触候^而ハ如何可有之哉と大目附へ申達候所左様^ニも存候ハ、御用番中へ相伺候様被申聞候付猶又御用番中へ相伺候処夫ハ甚間違趣意違候自是申達候^者内町通町^ニ麦干候^者甚見分不宜候間廻り之組之者^ハ為相止候様申達候^ニ候夫共安岡町王琳近く^ニハ不苦義^ニ候由被仰出其段大目附へ相達置廻り之組之ものへ

追^而左之通差上物有之候間小勘者へ可被相頼候
干鯛一箱ツ、 御使番格已上
干鯛一折五枚ツ、 番外^ハ番外之惣領迄
同 三枚ツ、 小従人組^ハ三組之惣領迄
扇子一箱三本入ツ、 大役人^ハ小従人組之惣領迄
但十五才以下之面々不及登城候已上

申付候様小頭へ申達^并大年寄へも相移置候

一 目明共出火等町役出人差出シ当人も目明役^ニ而其場へ罷出^ニ重^ニ役を勤候様^ニ相成難渋之趣内々相歎候趣相聞候付目明役中ハ右等

但番役之内出人足程悉免候様^ニ申達

之出人差免候様大年寄へ申達候

同 三枚ツ、 小従人組^ハ三組之惣領迄

一 式步中買頭板屋八十兵衛病死仕候付跡役伏見町古川屋太兵衛へ申付度旨大年寄伺出承り届

同 三枚ツ、 小従人組^ハ三組之惣領迄

一 小野田為治今日出勤いたし候

六月八日 晴

一 御用日今日平服而登城

一 御代官池田仙九郎殿支配所当国勝北郡上町川村兵吉妹いよ義二町

目龍田屋文治嫁ニ引受度人別人願例之通取計濟翌九日延延文差出

一 東新町今川土手道損届書指出大目附へ差出

一 大坂玉水町尾張屋七兵衛手代三郎兵衛上下四人今般御初入御用ニ

付来候間新魚町三沢屋与八方ニ逗留為仕度願承り届

一 二階町三保屋十右衛門家守備前屋九兵衛借屋住南屋早助俸久米吉

夫婦子供三人去々申二月廿二日相願大坂上本町四丁目備前屋与右

衛門へ出職仕候処罷帰候届書差出

六月九日 快晴

一 御用日并御初入初而御目見ニ付麻上下着用五半時登城御奏者番今

御使番格迄有役無役共於芥子之間干鯛箱差上於席々名披露有之御

目見御手〇鬨斗被下之候但御小性頭格迄ハ芥子之間御敷居之内大目

附今小従人頭格迄ハ芥子之間御敷居際外御縁座敷尤差上物ハ御敷

居之内ニ差置物頭今御使番格ハ差上物御縁座敷ニ差置御縁座敷敷

居之内ニ而御目見申上候事尤御鬨斗頂戴之節ハ脱劍ニ而罷出帰座

帯劍仕又平伏し引取尤番外以下大役人迄ハ松之間御縁座敷ニ而御

目見有之小役人御徒ハ植込之間群居御通り懸ケ御目見有之〇今日

登城之節旧格同心組一人若堂可召連所致失念不召連候以後ハ可召

連事
一 御初入御祝御先格之通配当場へ被下置候様御用番中へ申上候所御

開濟ニ付大目附へ達置大年寄江其段申渡候様申達入

一 大目附太田舍人今以来御装束御社參御仏詣并平日御仏詣并御鷹野

御野辺御出町分御通行被成候節并御先代様御晩年被仰出候節之通

ニ可申付并拜見等之義ハ御城着之節之通ニ相心得候様被申聞候

一 大目附佐々木主馬今御納涼櫓へ被為入候節通行仕候ハ、無油断心

付失敬無之様下人江も可申付旨被申聞類役へも演達いたし候

一 元魚町伊丹屋徳兵衛所持之自國請酒株去西六月同町若本屋新助借

り受候所尚又来亥五月迄借り受度願承り届其五月十七日取戻

一 三船藤四郎致出勤候ニ付明日今加人高木武兵衛差戻候段大目附へ

相届候

六月十日 晴

一 御用日登城申上候御用向無之

一 大守様御用所江初而被為入三奉行一同罷出候

一 大目附廻状到来左之趣也組中へ差出候

御出有之節并御出先之向寄ハ大勢相集乱舞等相催候義并武芸

并組之者弓鉄炮稽古も御帰迄ハ仕間敷事但御先代様之節之通

之御触也

一 牢舎扶持仕切証文差出内貸高四拾六俵有之差行メ五俵式升五合返

納并拾壹俵内貸証文差出し奥印書取計之尤七月へ壹斗五升持越積

也

一 桶屋町山城屋千太倅藤助義吹屋町山城屋善左衛門方米紛失之義ニ

付疑敷趣有之様ニ相聞候付番百藏喜和右衛門差向手錠懸ケ組合

預ケ申付候尤右之段翌十一日出仕之上御両所へ相届候〇同十月十八日指免候

六月十一日 快晴

一御用日登城申上候御用向無之

一明十二日三ヶ寺へ御装束御駕籠^ニ 御參詣之御沙駄有之^ニ 付加人

六人大目附へ申達候処太田舍人左之通被申聞候

一御旅御出^ニ 而無之候得^者 辻固同心組不及差出尤町役ハ辻々

固^ニ 一人ツ、御平日之通可差出旨被申聞其段大年寄へ申渡

候

一御先扨同心組已前ハ麻上下着用之処寛政三亥年ハ平服被御

出候^ニ 付大文字黒羽織^ニ 而可差出申達候所是ハ御装束之節

ハ麻上下着用差出候様被申聞其段小頭へ申達候

一御社參御仏詣等御出之節七間廊下へ三奉行罷出御通り懸ケ御目見

仕候段新御礼式ハ相止候段太田舍人被申聞候

一牢舍人新八療治二廻り相濟候処未相勝尚又修格へ申付候段双方ハ

申出候^{同廿五日休業}

一牢番足輕上野田助義病氣引込候段届出候^ニ 付加人大目附へ申達候

石井金治岡^{高直}本民^{右衛門}来

一中興目附渥美源五郎ハ明十二日五半時御供揃^ニ 而地藏院泰安寺本

源寺へ御仏詣被仰出御道筋例之通泰安寺御成御門中之横町ハ被為

入候段通用有之

一御小納戸石田新治ハ御出之節^者 中興目附ハ触出し可有之^ニ 付分^而

御小納戸ハ^者 不申達旨挨拶有之候

一院庄川留り戌刻過郡代所ハ申来大年寄へ申達入^{翌十一日辰中納戸申来右同敷取計}

六月十二日 曇少白雨

一御用日登城三ヶ寺御參詣^ニ 付御用所大目附中興目附御門番迄麻上

下之処御出^ニ 不預日參役人之分ハ麻上下不及着用旨^而 三奉行之

面々ハ平服^而 登城仕候

一二階町三保屋十右衛門家守備前屋九兵衛借屋住南屋早助^并 俸久米

吉夫婦娘右家内四人大坂上本町四丁目備前屋与左衛門方へ引越度

人別除願例之通取計濟

一大目附ハ明和九^五 年十二月廿日町方九拾歳以上之ものへ御酒代

被下候義有之候間右取扱之趣認出候様被申聞日記遂吟味候処名面

等も無之大年寄於宅相渡と計有之不相分候^ニ 付大年寄へ申達候所

左之六人之ものへ御酒代式匁ツ、被下置相渡と有之右名面書大目

附へ差出候

西今町檜物屋八郎兵衛 細工町屋根屋伝介母かん

桶屋町作人父内後家 吹屋町瓜生原や七左衛門姉

河原町長兵衛 同町五助娘する

一三ヶ寺御參詣^ニ 付御先扨時治幸治麻上下^而 差出候所無御滞相濟

一中之町山西屋要助義借金出入^ニ 付先月九日郡代所へ差出候所内濟

被申付候得共内濟不相整候由申出候趣^ニ 付郡代所ハ通用有之付家

財為相改書付取郡代所へ相廻候

一江戸浅草西中町箔屋幸七娘一人召連先月十六日二町目竹本屋宇兵

衛方へ来り逗留仕候処猶又廿日計之日延願承り届^{七月十七日届}

六月十三日 快晴

一御用日登城申上候御用向無之

一大守様御用所へ被為入三奉行一同罷出候

一真加部村説教者孫七方へ去ル六日夕盜賊這入衣類十四品代百三匁五分計外銀錢札六拾八匁計被盜取候触流取計候様大目附之違有之
町触取計本書ハ差戻候 同廿三日無之申出候

一作州東北条郡阿波村伊三郎女房久米四国逼路罷出下打穴村之送り出し古城村へ送り來候由郡代所之通用有之継送り候様大年寄へ申達候

一稻荷山下草御目通り程蒞候段三軒屋番届出候

一宗門帳取調ニ付当年ハ改錢五文ツ、取立候段大年寄届出承り置

六月十四日 快晴

一御用日登城

一大守様御用所へ被為入三奉行一同罷出候

一伯州久米郡倉吉中新町石脇屋太兵衛夫婦娘右家内三人新魚町魚屋

善次役介引受度人別人願例之通取計済

一大目附之左之通演達有之小頭 并 大年寄へ申付候

御家中之面々七拾歳以上 并 組中間市郷之もの八拾歳以上当月

中ニ書出し候様被仰出候

一御奏者番廻状左之通到來

明十五月初 而 御城着為御祝儀御目見被仰付候間隠居 并 登城相

濟候十五歳以下之面々染惟子十徳或ハ半袴着用辰ノ中刻登城

可有之候

六月十五日 快晴

一御用日緞子肩衣着用例刻登城

一隠居之面々柳之間紫陽花之間ニおゐて有之候由

一大阪長沢清左衛門之昨日返書到來菜種石数御届之過石之訳申達候所実意ニ有林申候 而 不宜義と相見へ昨年之御届間違 而 候由御

番所へ相届濟候由申來勿論当年之御届方猶又承り合可申越旨申越候ニ付右書面御用番中へ差出候所御前 立 入御覽候間右菜種取計之訳 取 取縮認出候様被仰出候 ○付返書七月四日呈道候

一徳守宮納涼ニ付昨夜菜治喜和右衛門差出候所無別条引取候段今朝届出候

一半浚昨十四日申付候所無別条旨又六伝藏届出候昨日之所ニ認落ニ付爰ニ記置

付爰ニ記置

一伊勢山田村田三太夫と申御師数年参り來候処不勝手ニ相成候付右

代りニ以來ハ同国同所結城弥惣太夫と申もの差越度願新職人町松

の屋十右衛門指出承り届

一林田町梅屋卯助娘龜義林田村万吉妻ニ指遣度人別除願下方引合相

濟候段申出承り届 五月十七日離縁

一大目附廻状到來左之通町方 并 組中へ相触候

享姫君様御病氣之処御養生不被為叶去ル四日午中刻御逝去ニ

付今十五日夕明後十七日迄三日之内鳴物停止被仰出候尤普請

ハ不苦候

六月十六日 快晴

一御用日登城

一菜種御届之振合昨日被仰出候通取計大意書認一学殿へ差出候所昨

日之大坂來 書 共被入御覽候処訳合能相分り相濟候由即刻御下ケ被

成大目附へ差出置候

一中之町綿屋勸兵衛義太田村八兵衛へ相懸り質入借物滞郡代所^ニ而
内濟被申付太田村喜平次扱^ニ而致内濟願下ケ願書指出承り届願書
差戻候

一西今町万屋市右衛門孫喜七義大坂雜唯場^{（ツ）}荒物屋八兵衛方へ当六月
合来ル子ノ六月迄三ヶ年之間奉公^ニ指遣度願承り届^{（子）}二月四日届

一御代官重田又兵衛殿支配所当国大庭郡赤野村権兵衛妹せき義西今
町直屋孫兵衛方へ逗留来居候所尚又十月迄逗留為仕度追願承届^{（子）}十月十二日届

一明十七日夕勤音^{（子）}付例年之通宮脇町関貫開置候段御所へ相届候
一無宿盗人幸吉義郡代所牢番預ケ申来出番幸治差向入牢取計之

六月十七日 曇

一御用日登城申上候御用向無之

一三奉行一同被為召於御座間一役ツ、別々ニ役筋之義一々御尋御座
候

一明十八日御対面所へ終日之御出ニ付御用日出仕無之旨大目附合通
用有之候

一新魚町作人万四郎義是迄林田上之町香寅寺旦那^{（子）}候処此度長安寺
へ寺替仕度願宗旨奉行合伺濟之段渡部相馬合通用有之此方へも願
書差出候付承り届候段申達候

一美濃職人町北側^{（子）}而三笠屋伊右衛門家屋敷表口五間裏行拾間但志
軒役也西隣ハ豊屋喜兵衛東隣ハ茂渡市之助也右家屋敷代銀札五百
匁^{（子）}相極同町作人登之介へ売渡度願大年寄指出し承り届^{（子）}同日宛券状出

一小頭江原文藏妻今朝出産男子出生ニ付血忌引込届出^{（子）}并妊娠届不仕
恐入相慎罷在候段百藏申出不及其義已来入念候様ニ申達候

六月十八日 快晴

一上紺屋町浅屋八十市弟子十吉と申ものを元大坂高津新地式町当時
無宿吾葉売松之助と申もの勾引連掃り候処を召捕目明へ引渡目明
合届出今日柳土手^{（子）}而下吟味いたし候処為指義も不申候由申出候
ニ付牢番預ケニ柴治差向取計之右之段明朝出仕之上御所へ可相
届候

一德守宮納涼^{（子）}而昨十七日夕例歳之通警固又六時治差出候所無別条
引取候段今朝届出候

届候

六月十九日 快晴

一御用日登城

一大守様御用所へ被為入三奉行一同罷出御用向申上之候

一坪井町美濃瀬屋作兵衛方へ去ル十五日夕盜賊這入錢箱持出し内^{（子）}
在之候銀札式三匁錢少々^{（子）}并戸棚^{（子）}在之候木綿切々老反計被盜取候
届書御用番へ申上大目附へ差出

一中之町綿屋勸兵衛方へ去ル十五日夕米式升計充^{（子）}来夜分之義故受
人無之候^{（子）}不買旨申候処西高下甚六方合持来候間明朝甚六合書
付持参代物可受取由申預け置候処其後不来候故西高下甚六方へ尋
遺候所同人合ハ不差越旨申越候付届書差出右同断取計済

一無宿松之助義上紺屋町浅屋八十市弟子重吉勾引候義右同断取計済
一油方之もの合以後之取締取計候段大坂へ申遣候所締取計之義ハ勿
論之義被仰下候^{（子）}不及兼^{（子）}約束之義共不筋立不埒之義殊^{（子）}ケ程之
懸合之義を紙面^{（子）}而申越不束^{（子）}付御紙面差出候義不相成候間急^{（子）}
登坂候様^{（子）}申越候^{（子）}付盆後可致出坂申遣可然旨申出候付其段申上

一懸合之義を紙面^{（子）}而申越不束^{（子）}付御紙面差出候義不相成候間急^{（子）}
登坂候様^{（子）}申越候^{（子）}付盆後可致出坂申遣可然旨申出候付其段申上

一懸合之義を紙面^{（子）}而申越不束^{（子）}付御紙面差出候義不相成候間急^{（子）}
登坂候様^{（子）}申越候^{（子）}付盆後可致出坂申遣可然旨申出候付其段申上

一懸合之義を紙面^{（子）}而申越不束^{（子）}付御紙面差出候義不相成候間急^{（子）}
登坂候様^{（子）}申越候^{（子）}付盆後可致出坂申遣可然旨申出候付其段申上

候処也益後ニ致出坂候程ならは爰ニ而彼是不申早々出坂いたし候方可宜旨御用番中御差図ニ付其段可申達処孫左衛門喜左衛門罷出猶又相考候所是迄懸合不置義共約束之様ニ申越段々無妹之義共申懸ケ何そ落目を付呼登候様ニ可致指合ニ而も可有之一向主意不相分義ニ候得者三人之もの共へ可申含様無之三人之もの共取扱も至而無心元奉存候間細井戸屋今年行司へ直申遣候様ニ申越候義故年行司へも兼而懸ケ合候事故細井戸屋得取次不致旨直ニ申遣候段年行司へ申遣候ハ、其内ニ者向方之指合之義も可相分候間先右之通ニ懸ケ合見可申哉と伺出候付其段一学殿へ罷越申上候所追而御指図可有之旨被仰聞候

一 東新町延屋重四郎妹龜義御領分久米南条郡大谷村市郎兵衛妻ニ差遣度人別除願下方引合相濟候段申出承り届ル

一 明廿日有徳院様御証忌日ニ付五ツ半時御供揃ニ而地藏院へ御參詣被仰出候段中奥目附渥美源五郎今通用有之候ニ付先格之通元魚町二階町北関貫ノ置町役附置候様ニ申付ル

一 江原文藏方此間出生之小兒不月足甚虚弱之処今朝相果候段届出部屋日附百歳へ改申付候処別条無之段申出勝手次第葬候様ニ申付候

六月廿日 晴

一 御用日登城申上候御用向無之

一 地藏院ニ御仏詣有之候

一 油方之もの共大坂ニ文通之義昨日伺置候処文通下案少々添削有之候之通宜取計候様被仰出其段蔵合孫左衛門へ申達候

一 老人共御尋ニ付左之通大目附へ申達候

一 私家内七拾已上之者無御座以上

六月廿日 増兒右門

一 組中支配之者遠吟味候処三軒屋番中村作治母八拾五歳ニ罷成候段申出候付書付差出候

一 町方遠吟味候処九拾五歳を頭ノ八十已上之者八十五人有之右名面帳差出候

一 大目附廻状到来左之通

今般御初入被遊候御祝義猶亦御縁組御願之通被仰出候為御祝義御赤飯吸物御酒被下之候依之来ル廿三日大番組已上五半時小従人已下坊主以上九半時登城可有之候尤年始八朔登城相濟候嫡子迄被下之候

六月廿一日 晴 曇 白雨

一 御用日登城申上候御用向無之

一 大目附左之通達有之小頭代百歳呼出申渡候尤小頭老人持夫中間召連御城へ罷出頂戴候様申付ル

今般御初入被遊候御祝義猶亦御縁組御願之通被仰出候為御祝義来ル廿五日組中間江御赤飯御酒引裂錫ニ而被下置候此段可被相達候

一 西今町柳屋茂吉義大坂大川町綿屋義兵衛方へ十五日計之逗留ニ而

明廿二日出立願大年寄承り届差出 七月八日始

六月廿二日 快晴

一 御用日ニ暑中御機嫌伺ニ付御徒格以上五半時惣登城

御奏者番今三奉行迄例之通七間廊下へ罷出御小性頭謁有之奉

伺御機嫌候

一 脇坂淡路守殿御預り所当国勝北郡植月村新之丞妹富義河原町熱田市正孫市治妻ニ引受度人別人願例之通取計済

一 材木町島野屋宗兵衛借屋住浜野屋きよ井妹はる右二人此度勝手ニ付備前岡山下之町浜野や半助方へ引越度願右同断取計済

一 仙石越前守殿領分当国勝北郡為本村治助娘つま義材木町万屋与三兵衛家守清兵衛借屋住音兵衛妻ニ引受度人別人願右同断取計済

一 御奏者番小須賀貢分左之通達有之大年寄月番へ申達夫々演達仕候様ニ申渡候

来ル廿五日町人共御目見被仰付候間其段申達諸事寛政五丑年
年頭御目見之通ニ可相心得候

尤明和五年御先代様御初入初御目見被仰付候節大年寄へ奉書を以申達候先格ニ相見へ候得共其後札元共も大年寄並と申趣ニ相

成当時ニ而ハ直奉書之形相成居銘々奉書ニ而も余り数多義御家中ニ而も御触達ニ而候事故右之通触達候様ニ申達候

六月廿三日 快晴

一 御用日井御初入井御縁組御願濟御祝頂戴ニ付麻上下着用御徒格以上惣登城三奉行八例之通御用所坊主部屋前廊下ニおゐて御赤飯御吸物御酒御肴三種燒玉子 肝切魚 石鯛付 置取有頂戴之畢而七間廊下ニおゐて御小性頭謁有之御奏者番分三奉行迄一同罷出頂戴物之御礼申上之畢而忤其衛頂戴物之御礼大目附役所ニおゐて御奏者番中へ申上之

一 御用日ニ付三奉行一同御用所へ罷出申上候御用向無之旨申上御用

所御下り之上退出

一 中之町西屋治右衛門家守倉敷屋伊助借屋住品田屋甚助娘とめ義御使組松永市三郎妻ニ差遣度人別除願指出勘定奉行へ引合之上承り届ル

一 御奏者番小須賀貢分明五日町人御目見席順久山勘八義諸吟味之上席ニ有之候得共名目無ニ披露致かたく無役ニ相成候得者当役之次席ニ可相成筋ニ付勘八義諸吟味之次御用達之部ニ入致披露候間其旨ニ相心得候様被申聞其段大年寄へ達置候

一 雲州神戸郡あし方村惣右衛門忤十太郎義伊勢參宮いたし同州河拜郡島原下村ニ步行不相叶同所分送り出し川部村へ送り来候段郡代所分通用有之候ニ付継送り候様申付候

六月廿四日 快晴

一 御用日登城申上候御用向無之
一 京町永くは屋伊助役介茂四郎義先月廿八日致出奔相尋候も行衛不相知段届出候ニ付例之通百日尋申付候○同十月十九日除帳

六月廿五日 晴 少白雨催

一 御用日井 寺社市郷御目見被仰付候付麻上下着用正五半時登城町人共も同刻登城大年寄札元町医大庄屋虎之間南御縁座敷小使部屋ニ溜居差上物紅葉之御杉戸際迄虎之間小使持運ひ夫分銘々受取御礼席迄持出銘々前ニ差置尤御礼席井指上物等左之通

△松之間南御縁座敷外 小三折一束 大年寄 蔵合孫左衛門
金鷲之間之横懸出し 小三折三束 町惣代 蔵合孫左衛門
落縁三重ニ群居但東 小三折一束 斎藤孫右衛門

を上として七八人ツ、同
並フ 同 玉置六郎左衛門
礼元 武田七郎兵衛

右市郷指上物鉤台 同 茂渡庄右衛門

老荷^ニいたし大年寄之 同 川口藤左衛門

書役を幸領^ニ付ケ 同 玉置卯左衛門

裏下御門迄差出し 同 山本三右衛門

兼^而中奥目附へ懸合置 同 山本三郎左衛門

右宰領之もの返礼持参 同 妹尾平兵衛

中奥目附所へ相届候得 同 茂渡藤右衛門

中奥目附^者持夫中間 同 玉置忠四郎

迎^ニ被指出裏下御門^者 同 山本房四郎

受取虎之間小使部屋へ 同 大庄屋

指出候事 同 御中惣代

△金鷲之門 町医師 北山修齊

南御敷居之内 差上物 高畠生齊

東を上として 無之 渡部玄端

列居 跡見春鷗

△裏中之口落縁板敷之間 小三折二帖^{諸吟味位} 宮田喜左衛門

東を上席として 同 久山勘八

二人ツ、竹之間杉戸へ 同 木屋大兵衛

向ひ三重^{同並}列居 同 熊野屋文五郎

但先格ハ北を上として 同 姫路屋甚右衛門

一列^ニ並居候所当年 同 同並 樫野屋茂一郎
初^而右之通

二人ツ、角違へ三重^ニ群居被仰付候○中之口御礼之町人共

古格ハ溜之小使部屋^ニ溜居候処寛政七年正月^者不残虎之間

小使部屋^ニ溜居候様被仰出当年も右之心得^ニ候処御用達共

差心得溜之小使部屋^ニ溜居虎之間の方ハ寺社御礼^ニ付甚混

雜いたし難繰出旁以溜之小使部屋^ニ差置候方并理宜^ニ付御

奏者番小須賀貢へ及噂置其俣^ニ差置候以来右之通^ニ而可然

事 右町人共当年ハ不参無之^ニ付口達^ニ而相揃候段御奏者番小須賀貢

へ相届置御礼以前^ニ御礼席へ町人共指上物持参指出得と為吞込指

上物ハ其俣指置又々休息所へ為引取寺社御礼濟少し前^ニ窃^ニ三ケ

所共御礼席へ繰込置寺社御礼濟候と直^ニ其段御奏者番中へ相届町

奉行郡代藤之間御縁座敷紅葉之御杉戸際^ニ南向^ニ御使番中奥目附

町奉行郡代同添役と相詰候右畢^而勝手次第引取候様町人共へ申達

候 一寺社御礼ハ黄帝之間^ニ而被為受候

一御用日^ニ付三奉行一同御用所へ罷出当役申上候御用向無之段申上

之候 一組中間^江御赤飯御酒被下置小頭一人牢屋下番中間持夫^ニ召連重箱

持参御城御台所へ罷出受取之於役宅頂戴之依之御酒一升鯨吸物差

遣之但右頂戴之御礼^{頭^者}不申上候

一泰安寺へ明廿六日五半時御供揃^ニ而御仏詣例^者ハ御早く被為入候

段中奥目附出九太夫ハ通用有之小頭ハ大年寄ハ例之通申違候

六月廿六日 白雨

一御用日登城大守棟御用所ハ被為入三奉行一同罷出御用向申上之

一 小性町柿屋伊助伊三郎義去酉十二月致出奔当三月相届百日尋申

付置候所最早百日余ニも相成候付除帳願御用番御聞濟ニ付大目附

へ差出置御聞届申違候

一 因州近江郡富安村助三郎役介与兵衛老人中之町玉置忠四郎家守木

和屋喜作借屋住富岡屋兵八引受度人別入願右同断取計濟七月初日住宅在
文意出

一 材木町万屋与三兵衛家守清兵衛借屋住庄藏姉くま義大久保安芸守

殿領分当国久米北条郡領家村百性亀吉養女ニ差遣度人別除願右同

断取計濟

一 泰安寺江御仏詣被遊御先弘又六時治差出候所無御滞相濟候段届出

候

一 戸川町松岡屋佐吉借屋住さな同人役介伴内同人娘きせ右家内三人

御領分大谷村政吉方へ引越度人別除願下方引合相濟候段申出承り

届

一 御初入為御祝義明後廿八日槍之間以上江御使被下候付御用所出仕

無之旨大目附ハ演説有之候

一 御用日登城

一 備前尻海村伝吉義去十一月魚荷持来於途中盜賊幸右衛門ニ打擲ニ

逢魚荷被奪取新魚町ニ而世話いたし候挨拶同村庄屋治郎左衛門ハ

書状ハ海老五百匁計新魚町年寄共へ差越候書状差出候付御用所へ

指出し無程御下ケ被成候ニ付大年寄へ差戻候

一 三浦志摩守殿城下勝山金田庄右衛門夫婦上下四人京藤孫右衛門方

へ来候付十日計逗留為仕度願書承り届ハ庄右衛門ハ六月二日極四七月八日不渡候被
殿届出候

一 左之通大目附廻状到来

一 惣而御使被下候節ハ為御礼御用所一統ハ組付之面々ハ支配頭

宅へ可致廻勤候

一 小頭江原文藏伺出候者出火之節下目附小頭杯も立付自分手薦ニ而

罷出候間以来右之通ニ仕度申出候付承り届候

六月廿八日 曇 少雨

一 御用所槍之間衆へ御使被下ニ付今日御用日無之

一 泰安寺へ明廿九日御仏詣被成候段中奥目附後藤郷助ハ通用有之小

頭大年寄へ例之通申違候

六月廿九日 風雨

一 御用日登城申上候御用向無之

一 泰安寺御仏詣御延引被仰出候段出仕之上承之大年寄へ申達御先弘

為治藤四郎へ引取候様当番を以申違候

一 関貫番賃銀例月之通相渡候

一 林田町河田屋忠助借屋住作人三平同人娘倅善吉右家内三人御飛脚

川野伊右衛門渡屋敷へ引越度人別除願承り届

一 西今町南側ニ而久保田屋利右衛門家屋敷表口三間裏行十五間但四

歩壹厘五毛役也東隣者菱屋治郎兵衛西隣ハ久保田屋利右衛門居宅

也右家屋敷代銀五百目ニ相極町内高松屋嘉右衛門へ壳渡度願承り

届七月三日宛書状出

一 牢會扶持拾三俵内貸証文差出奥書取計之石^ニ 而八月へ式斗六合式
勺五才持越積也

一 兼田川渡船留り候段申之中刻郡代所^ニ申来翌日巳ノ中刻渡船始り
申来前後共大年寄へ申達

一 院庄川留り酉中刻申来右同断取計候翌朔日申ノ中刻川明申来前後
共大年寄へ申達ス

七月 大

月番

御家中 ^山 田主膳殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 太田舍人

^{八日より}上原彦藏

大年寄 斎藤孫右衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

七月朔^戌 巳旦 少雨

一 御用日登城大守様御同所へ被為入三奉行一同罷出当役申上候御用
向無之且又御用所御居残^ニ 付勝手次^ツ引取候様大目附^ニ違有之九時
過退出

一 宗旨奉行^ニ例歳之通宗旨証文中句迄^ニ 差出候様廻状来ル

一 御駕籠者被召抱候間中句迄^ニ 申出候様中奥目附へ対談之上町触取
計候様大目附^ニ違有之中奥目附後藤郷助へ対談之上六寸以上之者
当月十日迄^ニ 申出候様町触差出

一 德守宮水無月^ニ私^ニ 付昨夜為治藤四郎齏固差出候所無別条引取候段
今朝届出候

一 御藏米六拾三匁 町米五拾九匁
七月二日 曇

一 御用日登城申上候御用向無之

一 御対面所へ八時_ハ被為入候御沙駄_ニ候

七月三日 晴

一 御用日登城申上候御用向無之

一 御城着之砌土居佐用へ罷越候御迎馬泊銭_并馬頭三人小指老人二夕

泊銭合拾五_ノ九百拾二文御弘方_ハ受取候旨喜左衛門_ハ届出候

一 御奏者番廻状到来左之通

別紙之通諸御札来ル七夕_ハ被為請候旨被仰出候

寛政六寅年十一月七ケ年之間差定候登城之義被仰出候所以来

諸御札左之通被為請候段被仰出候

一年頭御盆被下_并御流被下寛政四子年已前之通尤御時服被下

相止

一 御具足御祝右同断

一 御謡初右同断

一 若菜御祝義申上右同断尤御用所差上物相止

一 八朔寛政四子年之通

一 五節句朔望右同断

一年頭五節句等之着服先達_而被仰出候當時年中服付之通

一 嘉祥出仕追_而可被仰出候夫迄相止

一 玄猪御祝被下寛政二戌年之通

一 御吉事日御祝被下右同断

一 歳末檜之間以上差上物相止御祝儀申上寛政四子年之通

一 御名代参等着服是迄之通

一年始御祭礼御供養等御装束_ニ而御参詣寛政四子年已前之通

右之外差定候事寛政四子年以前之通

一 盆中之触書例年之通差出候

七月四日 晴

一 御用日登城申上候御用向無之

一 川端又六妻妊娠之由小頭_ハ届出候

一 備前児島郡宇野津村勇吉と申もの用事有之来候_ニ付百日計橋本町後藤屋佐市方_ニ逗留為仕度願承り届_{十一月三日}

一 山田主膳殿_ニ是迄出入奉公相勤居候原亨運義一人暇出候付伏見町

八出屋多助役介_ニ引受度人別人願承り届

七月五日 快晴

一 御用日登城

一 近來博奕野会有之由專相聞候付郡代と申談候処組払底_ニ付同心組

信用致度所望有之依之昨夜百蔵為治藤四郎幸治四人貸遣候所覗河

原宮川尻車場南_ニ而致参会居左之もの共召捕候由今朝届出候

父五兵衛義當時二階町住居_ニ候得共 船頭町永尋者油利七

出奔之砌八船頭町住居_ニ付船頭町元之組合へ預ケ申付尤父

五兵衛義も番等いたし候様申付尤手錠懸ケ候

手錠懸ケ組合預ケ 橋本町 惣七

右同断 元魚町米屋鹿之丞

郡代所_ハ牢番預ケ但又六時治取計之 無宿雲州者 新蔵

右之もの共郷宿元魚町豊島屋伝治方へ召連来有之対談之上又六時

治郷宿へ差向受取之右之通取計之且又右之場所_ニおゐて左之もの

共右四人之指口ニ付直ニ宿へ罷越左之もの共預ケニ取計候由届出候右之内初五郎ハ不致在宿候ニ付大年寄へ申達候

手錠懸ケ組合預ケ 橋本町山形屋才吉
右同断 京町原田屋嘉四郎

逃去り候ニ付急度尋申付ル 新魚町三ツ巴初五郎

右之外指口之者野部文治并帳外もの数多有之由ニ候右五人

人もの共組合預ケ申付置候段御用番并大目附へ出仕之上相届候

一馬持廿五人礼歳之通大豆老俵ツ、拝借願差出勘定奉行へ引合之上

御用番中へ申上候所御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一明六日四時御対面所へ被為入候ニ付御用日休日之由大目附御演

説有之

一八朔惣町入用帳面指出及一見別義無之ニ付差戻候

三貫百五拾五匁六分 但昨酉年三百三拾六匁六分六厘減ヌ

但志實文ニ付百式拾匁式分壹厘三毛三三

一大坂鍋屋町若狭屋左兵衛御当所元魚町美濃屋彦兵衛二文字屋嘉左

衛門へ菜種充懸ケ代滞り二度目致出訴候ニ付先日廿八日御町奉行

佐久間備後守殿御留守居御呼出ニ而再訴状御渡被成候由写大目

附所へ差出候由大目附中先格之通宜取計長沢清左衛門へ申遣候

様申来候付明六日五時右兩人罷出候様申達夫々手配申付候

七月六日 晴 少雨

一下役小頭部屋目附大年寄諸吟味立合左之通申渡之

大坂若狭屋左兵衛御 元魚町美濃屋彦兵衛
煩代 刀屋善助

再出訴御渡ニ付急ニ致登坂 京町二文字屋嘉左衛門

相済可申候 煩代 吉田屋喜八郎

右申渡候段御用所并大目附へ相届候

七月七日 晴 時雨

一七夕ニ付麻上下着用五半時揃惣登城御用所大目附三奉行於宮島之

間御目見申上之但御家老衆御取合セ尤宮島之間御縁座敷一間之間

を三段ニ定メ御敷居際御奏者番御小性頭迄真中通大目附御小從

人頭格迄御障子際物頭格御使番格迄右ニ付同席之もの計一同罷

出候義ニ付宇多四郎兵衛拙者二人一列ニ罷出御目見ニ仕候尤芥子

之間ニ而ハ一間之御縁座敷二段ニ相成御奏者番御小性頭格迄ハ

御敷居之内へ這入候事右（廊下）之櫓之間衆ハ柳之間頭分之面々ハ紫陽

花之間番外以下小從人組迄ハ松之間群居以下も於席々群居御礼有

之右畢ニ而三奉行一同御用所ニ罷出七夕御祝儀申上之引懸ケ大目附

へ及挨拶御用所御退出相待退出仕

一大目附御左之通達有之候ニ付今夕御非人一組召連目明一人御家中

屋敷不殘忍廻致候様小頭へ申付

椿高下竹之馬場辺ニ鳥散成もの居候由御沙駄ニ付今夕御非人

忍廻り申付候様被仰出候○八月七日忍廻り相止目明候も付免

一地蔵院泰安寺へ明八日五半時御供揃ニ而御仏詣被仰出候段中奥目

附藤堂融四郎より通用有之候ニ付小頭并大年寄へ例之通御先払掃

除辻固等宜取計候様申付候

一本多左門殿ニ出入奉公いたし居候野口喜平太夫婦娘二人右家内四

人此度暇出候付京町作人久助家内ニ引受度人別人願承り届

一新魚町福本屋太兵衛所持之古道具屋株去ル申ノ四月ノ二階町立花

屋伝吾へ貸置候所此度取戻候届差出承り届

一福渡町伯耆屋佐吉義此度野上玄養と相改産科仕度願書差出承り届

七月八日 夜白雨

一御用日登城

一地藏院泰安寺へ五半時御供揃ニ 而御仏詣被遊百歳喜和右衛門御先
私差出候処無御滞相済候段届出候

一松平達江守殿領分播州完粟郡千草町鍛冶屋利兵衛妹八重義伏見町

平佐屋兵藏妻ニ 引受度人別人願例之通取計済同廿一日在名在文差出候

一宗判取町分寺院来ル十八日ノ廿日迄在中寺院廿一日ノ廿三日迄取

計度旨例年之通書付指出寺社取次野条金平へ相渡候

一東新町北側ニ 而江戸屋利兵衛所持之家屋敷表口式間裏行拾七間但

三步三厘役也東隣者 日笠屋市郎兵衛西隣ハ鍛冶屋甚四郎家也右家

屋敷四年以前未九月十二日質物ニ 書入銀札五百匁借用仕候処今般

元利返済受返し届書指出承り届同廿一日在名在文差出候

一右同人家屋并 喪ニ 三間ニ老間半之納屋老ケ所相添右家屋敷町内船

本屋兵助取次ニ 而又々質物ニ 書入銀札六百匁来亥七月切老ケ月老

歩ツ、之利足ニ 而借用仕度願書差出し承り届同廿二日本在文差出候

一明九日五時御供揃ニ 而押入御築場塀風岩刃鯉狩ニ 為入御帰百間敷

ニ 雀網御覽被成候旨北御門ノ御出被成林田上之町通しづな越押

入江 被為入御帰百間敷之肩ノ町分御懸り被成本町通御早く候得者

朝日御門遅候得者 京橋御門へ御帰被成候旨中奥目附出九太夫ノ通

用有之大年寄へ御道筋掃除并 辻堅等夫々申付御先私差出候様小頭

へ申付ル

一大坂北鍋屋町若狭屋佐兵衛ノ元魚町美濃屋彦兵衛京橋ニ文字屋嘉

左衛門へ相懸り菜種代差滞再出訴御渡被成候段申渡候所今以病氣

ニ付今暫日延願書差出候先格之通奥印書いたし大坂長沢清左衛門

へ相廻候尤右之段御用番中へ口達ニ 而伺済之上取計其段大目附江

も相届置候

一大目附ノ盆中之御触例年之通来組中へ差出候

一御小性頭川上藤九郎引込ニ付太田舎人御小性頭被相勤候ニ付大目

附月番今昼後ノ上原彦藏被相勤候由

一明九日終日御出ニ付御用所無之旨大目附ノ違有之候

七月九日 朝少時雨 昼後晴

一兼田川留り六時申来四時明申来前後共大年寄へ申達候

一五時御供揃ニ 而北御門ノ上之町通押入刃へ御殺生被為入候ニ 付九

時ノ御先私為治藤四郎東新町へ差出置候所晚方玉琳ノ東新町通百

間敷江 被為入雀網相済夫ノ土手通り中之町ノ町通り朝日御門へ御

帰被成御滞無御座相済候段暮前時為治藤四郎届出候

一牢屋下番中間乙吉引入候ニ付割場ノ代中間来候段牢番清右衛門届

出候八月十六日出勤届出候

一兼田川院庄川丑ノ中刻留り申来翌十日午ノ中刻過両川共明申来前

後共大年寄へ達ス

七月十日 雨

一御用日登城

一元魚町久保木屋嘉兵衛後家正孫熊七義去々申十一月義絶勘当仕候

処当時久世辺ニ罷在先非を悔相歎心底取直候間義絶勘当指免度願御用番中へ何濟大目附へ差出置御聞届申達ス

一 備前岡山出水町立具屋喜太郎弟伊助義去酉四月京町大村屋武兵衛後家方へ引受候処此度差返し度人別除願右同断取計済

一 内藤山城守殿領分当国久米北条郡上口村六兵衛弟久五郎義上紺屋町作人太兵衛後家養子ニ引受度人別入願右同断取計済同廿四日住宅証文並

一 坪井町日野屋五助借屋住中市屋類助義脇坂淡路守殿預り所当国久米北条郡宮尾村福本屋兵助方へ引越度人別除願右同断取計済

一 油方之ものゝ先頃大坂油年行事へ書状差遣以後取締之義懸合候所不及返書細井戸屋より高雄屋藤助方へ書状差越当所油方引受之もの共不埒之取計ニ付何分藤助義中ケ間内老兩人同道ニ而登坂候様ニ申越右返書下案相認委敷弁書いたし喜左衛門の差出候付御用番中へ差出候

一 大目附の左之通演達有之

一 盆中例之通十三日夕十五日迄休日被仰出候并御用日盆後今半日ニ被仰出候間十七日可罷出候

一 目明共御家中忍廻リニ付昨日の源之丞へ仮役申付候八月七日掛免條

一 中之町備前屋幸藏義去ル申越の大庭郡大庭村源兵衛方へ奉公ニ参居候所此度罷帰り候届書差出候

一 福渡町森永屋岩助義御箱訴いたし御初入御祝儀として御有代金式百疋差上候ニ付右御取計考差出候様一昨八日大目附の違有之候ニ付御受納被成被置来春御参府前ニ銀式枚被下置可然旨郡代兩名ニ

而 大目附へ差出候同廿一日之通時差演達候御出候

一 伏見町能勢屋源助義和州大峰山へ廿五日計之逗留ニ而十六日出参詣仕度願承り届八月五日届

一 兼田川院庄川留り同時ニ申来大年寄へ達ス尤未ノ中刻過申来翌十一日巳ノ中期川申来大年寄へ達ス

一 牢屋弘式拾八匁六分内貸証文指出奥書取計小頭へ相渡

一 目明仮役酒代拾四匁非人小屋ニ而無宿者賄代式拾匁之証文小頭差出奥書取計之

七月十一日 快晴

一 御用日登城大守様御用所へ被為入三奉行一同罷出御用向申上之

一 備前備前郡石蓮寺村庄右衛門甥定吉一人堺町西川屋善助引受度人別入願御用番御聞済ニ付大目附へ差出置御聞届申達候同廿日住宅証文並

一 鍛冶町鍛冶利左衛門四十四才老母七十四才妻四十三才梓竹治十六才二男寅吉十一才右家内五人之処利左衛門義当二月の石麻相煩必至ニ難泔仕町内組合の合力仕候得共永々之義行届兼候間老人子共二人利左衛門快氣迄御救被下置候様組合の歎書指出先例遂吟味候

一 処天明五巳年五月廿三日京町大工十歳義家内五人共疫病相煩必至之難泔ニ付八木三俵被下置并福渡町沼屋佐七家内四人右同様ニ付八木三俵被下之候例有之ニ付右理左衛門義八十式俵被下置候様御用番中へ申上候所御聞済ニ付大目附へ差出置勘定奉行江及通用置御聞届被成八木式俵被下置候段大年寄へ申達候

一 盆中三夜例歳之通惣町関貫九時迄開立番付置候段御両所へ相届候一來ル十四日町方為示廻町仕候段御用番中へ申上右ニ付御貸人馬之義大目附へ申達候

一 林田町上田屋久平借屋住亀屋吉右衛門義今般割御中間ニ被召抱候

二付人別除願書指出御中間頭北島唯七へ懸合之上承り届

一萩野喜和右衛門不快引込小頭へ届出候

一伏見町南側^二平佐屋兵藏家屋敷表口三間半一丈尺寸裏行式拾壹

間但八歩八厘役也東隣ハ大坂屋利七西隣ハ飾磨屋新七也右家屋敷

土蔵共質物^二書入町内古川ヤ忠兵衛取次^二銀札壹貫五百匁一ヶ

月老歩半之利足^二而當七月來ル子ノ十二月迄三ヶ年之間借用致

度願承り届^一聖十二日陸支差出候 文化六己二月十四日引取 五拜名迄七届書出矣

一御家中家来或役介等町住居之ものハ今般改^而願書指出承り届候上

指置可申旨先月相触候処左之通願書指出承り届ル尤以後指置候ハ

、主人へ奉行所へ通用有之候様^二申達

永見酒造助殿家来、主人へ案内有之印

^{（奉書）}松本鍋四郎家内四人京橋二文字屋常八郎同居願

小林延四郎老人西今町万屋市右衛門同居願^{（奉書）}三月十二日西今町へ人別人

戸田理庵家内四人三町目草津屋虎五郎借屋次田屋秀次郎同

居願^{（奉書）}四年八月三日引取

安藤丹後殿家来

^{（奉書）}江田幸左衛門家内六人伏見町奥庵後家同居願

、長谷川此右衛門家内三人下紺屋町作人熊吉同居願^{（奉書）}其十月六日屋敷

鈴木熊吉老人小性町藤屋与一兵衛同居願^{（奉書）}去戌移御家老祖^二相成候由

佐久間兵右衛門家来

村瀬与左衛門老人中之町香山屋勘兵衛同居願^{（奉書）}戌移御出候町方^{（奉書）}八月二

小須賀一学殿家来

三木文吾老人二階町阿賀屋父助同居願

坂手文吾老人西今町中野屋太郎兵衛同居願

伊達与兵衛殿家来

^{（奉書）}中島文吾老人戸川町作人文六同居願

^{（奉書）}岡田忠助家内四人茅町作人松太郎同居願

^{（奉書）}八木紋右衛門老人二階町塗師屋屋守作人市右衛門借屋住作

人喜助同居願

^{（奉書）}植月喜三治老人戸川町作人惣七同居願

^{（奉書）}真北夫左衛門老人新魚町作人万四郎同居願

本多左門殿家来

^{（奉書）}川崎平左衛門家内五人京町塗師屋熊吉同居願

^{（奉書）}佐々ノ木重郎兵衛老人中之町作人茂助同居願

^{（奉書）}本郷利右衛門老人戸川町作人伝之助同居願

佐々木左伝老人京町甲斐屋源藏借屋住作人太兵衛同居願^{（奉書）}戊午申出候

黒田要人殿家来

^{（奉書）}内田儀助家内四人細工町作人勘治同居願

河野祐治老人美濃職人町鉄屋治兵衛借屋^{（奉書）}八同居願^{（奉書）}其二月三日

海老原極人殿家老

、中村藤兵衛老人京町多賀屋鶴治同居願

大橋十太夫殿家来

^{（奉書）}長谷川利右衛門家内式人下紺屋町作人熊吉同居願^{（奉書）}子三月三日主人

小沢又右衛門家来

武田文内老人小性町作人録同居願

小林豊治老人二階町高田屋治助借屋住魚崎屋権右衛門同居

願 四月二十九日

近藤伊左衛門家来

坂口林藏老人二階町小原屋伊八借屋住作人勇治同居願
佐々木主馬役介

、佐々木万里歩義伏見町作人勘六家守大工屋利介同居願
松岡治部助家来

、川村久四郎老人桶屋町虎屋佐助同居願 三月七日主人合婚有之
古市主殿家来

下山藤吉老人下紺屋町作人熊吉同居願 十一月二日主人合婚有之
渡部相馬家来

、川端利吉老人河原町作人近同居願 文前編傳其節同居也
西尾準大家来

、塩谷曾内老人西今町万屋市右衛門同居願
宮地東庫役介

、宮地又之丞家内式人林田町作人治吉同居願 癸亥六月引取
七月十二日 快晴

一 御用日登城申上候御用向無之
一 関貫番貨銀例年之通相渡

一 鍛冶町鍛冶利左衛門病氣付御救式儀被下ニ付拙者証文勘定奉行へ
差出受取大年寄へ相渡

一 大坂表先月廿九日合当月六日迄も洪水実ニ前代未聞之義ニ候由右
ニ付公儀合御救御手当等御取計行届候趣大坂御役人合申越候書面
当役へ為見置候様御用番御申之由ニ而大目附合相廻り致披見三浦

士へ相廻候

七月十三日 快晴

一地藏院本源寺泰安寺妙法寺へ明十四日五時御供ニ而御仏詣披仰出
御道筋西今町通妙法寺夫合御婦細工町通三浦十郎左衛門横御通披
遊候旨中奥目附出九太夫合通用有之候ニ付大年寄小頭へ例之通申
達候

一 大坂細井戸屋合油方之義ニ付二町目高雄屋藤助方へ書状差越右返
書下案去ル十日御用番中へ相伺候処翌十一日思召披仰出猶又認直
し差出候付紙面ニ而御用番中へ差出相伺候
一 牢屋取計之節酒代六匁四分小頭へ相渡候

七月十四日 時雨

一 四ヶ寺へ昨日披仰出候通御仏詣披遊御先弘藤四郎幸治差出候所無
御滞相濟候段届出候

一 宮川新洲之上之四間計之檜去ル十一日丑ノ中刻根こげニ倒候由三
軒
■屋番届出大目附へ相届候認落候ニ付爰ニ記置候

一 盆中為示例年之通七ツ半時出宅致廻町帰り懸御用番へ相届大目附
へハ馬脇合以使相届ケ五ツ半時過致帰宅候供立例年之通藤四郎幸
治罷出候

七月十五日 白雨

一 明後十七日五時御供揃ニ而地藏院へ御社參披仰出勿論御裝束服忌
御改之由中奥目附藤堂融四郎合通用有之元魚町二階町辻堅之義ニ
■大年寄へ申達候
一 脇坂淡路守殿領分播州揖東郡大住寺村林淳藏母義坪井町小倉屋百

々吉借屋住伊織屋藤吉伯母^ニ 候処昨十四日用事有之来候^ニ 付当
月中藤吉方^ニ 逗留為仕度願承り届^{八月四日届ル}

七月十六日 終日雨

一新魚町紙屋元吉借屋住人亀吉義母召連四国廻路^ニ 罷出度百日計
之逗留^ニ 而 来ル廿日出立仕度願承り届^{十月廿日届}

一坪井町山際屋平六義大峰へ参詣廿日計之逗留^ニ 而 明後十八日出立
願大年奇承届指出^{八月六日届}

一非人躰之ものへ大人小児共石打候様粗相聞候付西今町元魚町迄
之町々右之通狼藉不仕様可申付旨去ル十一日六郎左衛門へ申達候

七月十七日

一御用日登城

一大守様御用所へ被為入三奉行一同罷出当役申上候御用向無之

一御装束^ニ 而 地藏院へ御社参披遊候

一佐用駅人馬間屋御用^ニ 付来居候所御先番小島定人^ハ以来廿五疋之
馬指出可申段受書いたし候様被仰聞候得共元来十疋之外ハ無之候
間当年之通拾五疋爰元^ハ相廻與候ハ、御受書可指出候様以来御通
行之御ハ無間違拾五疋ハ相廻與候哉と指詰り相尋候如何相答可申
哉と人馬間屋伺出候旨大年奇申出候^ニ 付大目附上原彦藏へ申達候
所御頼之義^ニ 候得^者 以来年々当年之通相廻可申旨及返答候様可申
付旨被申聞其段大年奇へ及差図候

一大坂細井戸屋へ高雄屋藤助^ハ返書下案去ル十三日御用番中へ何置
候所又々思召^ニ 不相叶候^ニ 付大目附へ被仰達候間遂対談候様御用
番中被仰聞右書類上原彦藏へ指出候

一曲馬興行仕度願書新魚町鳥屋与三兵衛差出夏芝居之義御停止之事

^ニ 候得共軍馬曲馬と申候得^者 芝居とも違殊^ニ 御在城之義^ニ 候故大
目附へ及対談候御用番中へ相伺候様挨拶^ニ 付於別席御用番中へ
相伺候処自是可被仰聞旨御申之処大目附^ハ右曲馬ハ芝居同様之義

歟又ハ淨瑠璃三味線無之事哉委敷申聞候様被申聞其段大年奇へ申
達置候^{○除障難不相用書付十九日差出候}

一御初人為御祝義市郷へ御酒代被下^ニ 付町方軒別竈敷荒増取調指出
候様勘定奉行平井半平申聞候付大年奇へ取調申付候<sup>○十九日届書二千八百拾三
軒有之候書付半平へ差置候</sup>

七月十八日 快晴

一東新町馬持甚右衛門持馬落候段届出勝手次第取捨候様申達又

一林田町北側^ニ 而 中村屋平兵衛家屋敷表口式間裏行拾六間但四步役

也東隣ハ作人文平西隣ハ松田屋平七也右家屋敷代銀札式百六拾匁^ニ
相極町内鍵屋儀右衛門へ売渡度願書大年奇差出承り届<sup>八月十七日宛書
状差出</sup>

一東新町善吉借屋住市左衛門一人御領分東南条郡日上村市右衛門方
へ引越度人別除願承届

一林田町若狭屋庄兵衛孫しけ義林田上之町作人長吉養女^ニ 差遣度人
別除願承届

一牢浚申付候処無別条旨百蔵藤四郎届出候

一^二ノ宮^江 御遠乗四時御供揃^ニ 而 京橋御門^ハ本町通被為入御婦猶又

本町通り八百町^ハ二階町御門へ被為入無御滞相濟候段御先私為治

幸治暮過時罷帰相届候尤昨日中奥目附^ハ通用有之御道筋辻堅掃除

等申付置候事

一中之町^ニ 而 百万辺興行申出夜廻り組之者へ申達置候

一中之町^ニ 而 百万辺興行申出夜廻り組之者へ申達置候

一中之町^ニ 而 百万辺興行申出夜廻り組之者へ申達置候

一中之町^ニ 而 百万辺興行申出夜廻り組之者へ申達置候

七月十九日 快晴

一 御用日登城

一大坂長沢清左衛門ハ返書到来美濃屋彦兵衛二文字屋嘉左衛門日延願去ル十三日御番所へ相届濟候段申来御所へ相届候

一 大年寄共水火ニ付役夜分ハ高張挑灯有之候得共昼分印無之ニ付

小昇相用申度之旨弁書指出大目附へ対談之上御用番中へ差出候

同廿五日御届成候

一 石名伝藏義病氣引込届出候ニ付加人一人大目附へ申達候処山形林

藏来ル八月四日返又

一 御乗馬五十八ニ被仰出候旨中奥目附承之

七月廿日 快晴

七月廿一日 白雨

一 御用日登城

一 上山天皇横部加賀守ハ当町へ配札仕度旨檉野屋茂一郎を以願越候

段孫左衛門ハ指出候付御用番中へ指出置候尤年々町役へ致配札町

役ハ惣町中初尾式百疋計差遣候様仕度旨ニ候

一 安岡町松田屋三助後家義悻徳兵衛婦住居歎致箱訴右者永尋ものニ

付召捕可差出旨可申付旨去ル十一日弁書指出候所伺之通被仰出候

ニ付其段大年寄へ申付候

一 福渡森園屋岩助御箱訴を以御初入之為御祝金子貳百疋差上候付来

春為御賞銀二枚被下置候様去ル十日申上置候所當時伺之通差遣候

様御用番中被仰出大目附へも相達被下物相廻り候様申達置候右御

品相廻り次第可申渡事

一曲馬見せ物之義伺置候所夏芝居ハ兼而不相成御建ニ付御許容不被

成候段大目附ハ違有之依之右願書指戻候

一 御藏米 六拾五匁五分 町米六拾壹匁五分

一 明廿二日呼出もの有之候ニ付加人老人大目附へ相達置候所荒木源

四郎来其外手配夫々申達候

一 下田邑村川東八藏方へ去ル十二日盜賊道入衣類三ツ盜取代拾四匁

位之由触流取計候様大目附ハ違有之町触取計本書ハ差戻候同廿八日御方ニ候之旨届出候

一 洪水防之手当郡代所と遂相談今日町触差出し委細者触書留ニ有之

ニ付略之

一 牢舍人藤八幸吉郡代所ハ呼出申来昼廻柴治林藏出番藤四郎差向出

入取計之

一 戸川町孤独文吉母冬義老病指重り候段届出部屋目附百藏差向為遂

見分候所手当も行届候趣無別条旨先格之通容鉢書并見分一札差出

候所無程落命いたし候段大年寄ハ届出候ニ付勝手次第取葬取計候

様及差図明後廿三日出仕之上可及御沙駄候

七月廿二日 時雨

一 加茂川筋へ御川狩明廿三日五時御供揃ニ而御出被成御婦町通宮川

御門へ御婦被成候段被仰出候旨中奥目附後藤郷助ハ通用有之候ニ

付先格之通掃除并辻堅等之義大年寄へ申達小頭へ御先弘差出候様

申達候

一 右御出ニ付明廿三日御用日休日ニ相成候段大目附ハ申来候

一下役新左衛門小頭文藏部屋目附百藏大年寄孫右衛門諸吟味喜左衛

門出番為治幸治立会九時ハ左之もの共呼出申渡并吟味等取計候

御初入恐悅御祝申上御肴料金貳百疋 福渡町森原屋 岩助

御箱訴ニ而指上奇特之至ニ候依之 為御賞白銀貳枚被下之候

右申渡相濟候段御所へ相届候

先年博奕吟味之節致出奔今般立帰リ

船頭町 油 利七

観河原^ニ 博奕致参会候^ニ 付吟味中牢番預ケ申付候

是又御所へ相届候

橋本町 惣七

元魚町米鹿鹿之丞

林田町山形屋才之丞

京町原田屋嘉四郎

桶屋町山城屋藤助

牢舍人無宿松之助

上紺屋町浅屋八十一

下人 十吉

〔 卷つ 〕

但紺草浅黄縞

一同麻肌着 式つ

東一宮村山方五郎右衛門被盜候品之内

一 女着綿入 壹つ

一 備中部郡早島金田屋伝蔵手代栄八一人例年之通うん才もんば足袋
御売来候段新職人町松の屋十右衛門宿切手指出 上 七月廿九日届

七月廿三日 曇少雨

一 毛受時治義昨夜夜廻り之処在宿不致行方不相知仲ケ間中合間を合

置^并 今日御先私之義相役へ申通候様小頭合申達置候処無其義昨夜

夜半過^ニ 罷帰^リ酒^ニ 給醉致忘却候由申候趣小頭合届出候付左之通

申付候

其方義昨夜夜廻之処酒^ニ 給醉 毛受時治へ申渡

致忘却其上今日之御先私之義

相役へ可申通所無其義常々不心懸ケ之処右躰之不埒致出来

重々不届至極^ニ 候依之追込申付候相慎可罷在候

右代加人老人大目附へ申達候所山本治三郎来 八月四日届候

一 御蔵米六拾八匁 町米六拾四匁

一 加茂川筋五時御供揃^ニ 而上之町通御川狩被為入九時合御先私又六

栄治東新町へ差出置候所夜^ニ 入町通朝日御門へ御帰被成無御滞相

七月廿四日 曇少雨

一 牢舍人新蔵幸吉郡代所合呼出申来出番栄治林蔵差向出入取計之

一 坪井町倉敷屋利八義安藤丹後殿御宿元^江之届状遲滞之義^ニ 付四月

朔日大坂合頼来右利八呼出候所大坂^ニ 而病氣之由断出候所於同所

去月罷出行方不相知仕候哉と届書指出候付例之通百日尋申付候 十一月十三日届候

一 二町目福永屋藤助義播州姫路龍野町壹丁目庄久左衛門方へ往来

十五日計之逗留^ニ 而明廿五日出立願承り届 八月九日届

一 洪水之節東西新町中之町新魚町合牢屋へ人足指出来候所右四町共

水入之町^ニ 而人足難指出^ニ 付右為代元魚町戸川町合下地出し来之

上猶又式人つ、増差出林田町二階町坪井町西今町合式人つ、指出

候様^ニ 申付候

一 船出入西川懸ケ合之一件手扣帳蔵合孫左衛門合指出受取置候

七月廿五日 晴少雨

一 御用日之処自分義少々不快^ニ 付三浦士を以当病御断相届^并 御用向

頼遣候

一戸川町孤独文吉母病死見分一札三浦士を以差出大目附へも相違勘定奉行へも及通用候

一林田町勝間田町土手繕^ニ付宮川大橋辺之土取度旨伺出三浦士を以大目附へ相届候所承知^ニ而堀溜^ニ不相成様平等^ニ取候様被申聞候段三浦士^ノ申来大年寄へ申達候

一大年寄共水火出役之御昼分目印無之^ニ付銘々定紋付小昇相用度并書去ル十九日御用番中へ指出置候所大目附上原彦藏^ノ伺之通勝手次第^ニ相用候様申来其段切紙を以大年寄共へ申達候

七月廿六日 白雨

一今日御仏詣被仰出無之候

七月廿七日 快晴

一御用日登城

一安岡町岡崎屋善吉後家借屋住平六義四月三日出奔届出尋申付置候所除帳願差出御用番御聞濟^ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一二階町紙屋兵助美濃職人^{シヤ}幾義懸り合段々遂吟味両人とも手錠預ケ申付置候所両人とも不埒之義訴出不調法之段先非を悔内濟仕度旨組合之もの共へ相歎候由^ニ而組合之もの共^ノ願下ケ歎書指出元^ノ及御沙駄候義^ニ無之候得共度々呼出吟味詰り最早口書印形取候計^ニ仕寄候義^ニ而余りばつと致候義^ニ付於別席御用番中へ内々及御沙駄候処歎書之通内濟承り届候様御差函^ニ付今日御用所^ニ而右内濟歎承り可届旨及御沙駄大目附へも及噂置其段大年寄へ申達小頭出番大年寄宅へ差向手錠差免候

一昨夜更廻り関貫改文蔵為治又六幸治治三郎差出候所無別条段今朝

届出候

一勝間田町土手水門之上痛^ニ御修復届書先達^ニ差出候所未出来^ニ付再届書指出大目附へ差出候

一船頭町谷屋庄次郎倅正助義今般御駕籠者^ニ被召抱候^ニ付人別除願差出御中間頭へ引合之上承り届

一桶屋町菊屋伊助倅庄助義今般御駕籠之者^ニ被召抱候^ニ付人別除願右同断承り届

一材木町今井屋伊助倅忠兵衛義去酉九月十二日大庭郡久世村和口屋安五郎方へ奉公^ニ罷越候処此度罷帰候届書差出候

一加茂辺^ニ似銀札出来候由^ニ付目明孫兵衛差遣度平井半平^ノ挨拶有之依之當時忍廻り有之候^ニ付仮役明石屋庄七へ申付ル^{○八月四日指免候}

一一ノ宮村里上組利八方へ去ル十七日盜賊遣入脇差壹腰代六拾匁位之品被盜取候触流取計候様大目附中^ノ違有之町触取計本書ハ指辰候^{町方ニ無之旨八月七日申出候}

七月廿八日 快晴

一御蔵米 七拾匁 町米六拾六匁

一境町稻実屋義七郎義眼病^ニ付播州宿村谷川良益方へ廿日計之逗留^ニ而明後晦日^ニ立願大年寄指出し承り届^{八月廿日十五日計之通聞承り届○九月二日免}

一牢番上野団助養母致病死昨日迄^ニ而七日^ニ相成候^ニ付今日^ノ忌差免候段申達明廿九日^ノ出勤候付加人金治為右衛門差戻候段翌日出仕之上大目附へ相届候但六月十一日^ノ引込候

一明廿九日吟味取計候付当日切加人一人大目附へ申達候所荒木源四郎来

一 御対面所へ御出被遊候御沙駄有之候

一 牢舎人堅益明日呼出候付受人差出候様北郷門太夫へ申遣其外手配申付候

七月廿九日 快晴 少雨

一 御用日登城

一 豆腐屋共は是迄十六文売之処大豆高直ニ相成候ニ付以来十七文ニ

一 売申度願御用番御聞濟ニ付大目附へ指出置御聞届申達候

但老箱付老奴六分二厘也 大豆式升代老奴六厘 薪代三分

手間代式分七厘

一 伏見町田邑屋卯左衛門義借銀指滞土井大炊頭殿領分弓削役所へ出

訴仕度添簡願出右下案指添御用番中へ指出置候

一 林田上之町忠蔵子共迎ニ戸川町文吉阿州へ罷越候年月大目附令尋

有之候ニ付寛政十^{戊午}年十月六日と認指差候

一 大目附令左之通違有之候

加茂^ニ而似七札仕候もの兩人目明孫兵衛召捕居候由銀札場方

令申達有之候間同心組指遣召運可来旨被仰出候右ニ付御用所

御差合之御底意相何度旨申達候所猶又御用番中へ伺之上元来

内扱ニ被成度御指合ニ付時宜ニ寄様子宜敷以後之不締ニも不

相成様ニ成候事ニ候ハ、板木^并銀札等取上ケ内済ニいたし済

来可申左様も不相成趣ニ候ハ、召運来候様被仰出候旨違有之

候

依之小頭文蔵御城^江呼出右之意味合得と申合百蔵幸治兩人^并繩取

非人三人弓削可差遣右入用百五拾匁計孫右衛門取かへ可差遣旨申

付候処未ノ刻罷立候

一 右ニ付加人兩人大目附へ申達候所土井万兵衛高木武兵衛来

一 神田栄治病氣引込届出候付加人申達候所日下勇助来 八月九日届

一 中山百蔵義加茂へ指遣候付留主中部屋目附飯役川端又六へ申付候

一 今九時令新左衛門文蔵又六孫右衛門喜左衛門出番藤四郎源四郎立

舎左之もの共遂吟味候

硯河原^ニ博奕参会

之ものニ付吟味中

牢番預ケ申付候

寛政九年城代町茂吉方博奕参会仕

迹去り永尋者^ニ候処今般同人母令箱訴いたし住所相知候趣申

上候付組合共へ召捕差出候様申付候処召捕来候段申出候付呼

出し牢番預ケ申付候

右四人牢番預ケ申付候段御両所へ相届候

福渡町博奕参会之ものニ付

口書印形取之

人勾引ニ付口書印形取之

硯河原博奕参会遂再吟味候

藤八と喧嘩之様子遂吟味候

一 林田町山形屋才之丞義硯河原博奕吟味ニ付手錠懸ケ組合預ケニ申

付置候所今朝取逃し候段届出候ニ付組合共急ニ尋出候様申付置其

段出仕之上御両所へ相届候尤今朝取逃候節之番人辰之屋喜助かき

や勘七後家人

及白状

右同

不及白状

元魚町米屋鹿之丞

橋本町作人惣七

京町原田屋嘉四郎

福渡町福崎屋庄吉妻いき

牢舎人茅町 柴治

同船頭町西村屋茂助娘松

牢舎人無宿松之助

同船頭町 油利七

牢舎人北郷門太夫長屋住

六車堅益

一吹屋町柳瀬元柳後家義先達而歎書指出元柳子共幼年ニ付渡世難仕
何卒御捨扶持被下置候様歎書指出候付小須賀貢へ及内談置候所右
歎書御取上ケニ不相成筋ニ付指戻候様被申聞大年寄へ指戻候

一美濃職人町百万遍届出夜廻りへ申達候

一牢舎扶持拾三儀之内貸証文差出奥印書取計之但是而米三升九月
へ持越候積也

一明晦日泰安寺御仏詣御延引被仰出候旨中奥目附出九太夫令通用有
之候

一院庄川留り亥ノ刻申来大年寄へ申達候翌日申ノ期明申来又申ノ中刻留り申来候

一兼田川留り子ノ刻申来大年寄へ申達翌日申ノ期明申来大年寄へ申達又

七月晦日 曇

一毛受時治追込昨日迄而七日ニ相成候間今朝差免候

一西今町永田屋喜兵衛義大坂心齋橋筋大川町玉子屋九郎兵衛方へ廿

日計之逗留而来月三日出立願大年寄承り届差出八月十九日始

一洪水防土儀之土取場茅町立具屋利兵衛持分之畑地之土取度旨伺出
候付郡代江懸ケ合候所承知之旨申来大年寄へ申達候

一院庄川留り申ノ中刻申来翌日申ノ期明申来候

一高倉村庄兵衛倅鉄治と申者林田町岩佐屋善七養子ニ引受居候所

此節新元へ帰り居候所於同所備前大工と致喧嘩村方之もの供々備

前大工を致打擲備前懸ケ合ニ相成候及支義候然所右鉄治人別之義

者如何ニ候哉相糺呉候様郡代所令申来町方相糺候所下高倉親元江

差戻候得共未除帳不相願林田町人別之者之由申出其段郡代所へ申

遣候所右喧嘩相手手錠組合預ケニ申付候間当役令も組差向可申哉

又八向方而一緒ニ取計可申哉と申来候ニ付此方令八分而組差出
間敷候間宜御取計被下候様申遣置候所翌朔日在方而八組合預ケ
不相成候間町方へ引取候様ニ申来其段御両所へ及御噂林田町岩佐
屋善七方へ引取組合預ケ申付候段大年寄へ申渡候八月十六日内預相済

八月 大

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 伊達与吉郎

大年寄 玉置六郎左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

八月朔^巳 旦 日食九分^{申ノ二刻} 雨

一八朔ニ付五時揃六ツ半時麻上下着用登城

今日^者御不例ニ付御札不被為請謁ニ相成候旨御達有之御奏者番^ハ

三奉行迄例之通七間廊下ニおゐて御小性頭謁有之畢^而御用所へ罷

出当日御祝儀申上引懸ケ大目附へ自分及挨拶畢^而御用向申上之〇

俸其衛当病断御奏者番へ口達^ニ 相届御使番^江 書付差出

一伏見町田邑屋卯左衛門弓削へ出訴思召無之ニ付宜取計候様被仰出

候

一林田町岩佐屋善七俸下高倉村^ニ 備前大工と喧嘩之趣御兩所へ相

届候

一御家老当職永見造酒助殿願之通御役御免御上下^并御帷子一重被下

置候

一真加部村説教者孫八方へ先月廿五日押込這入式拾六品都合七百匁

余奪取候触流取計候様大目附^ハ違有之町触取計本書ハ差戻候

同十三日町方ニ無之旨届出候

八月二日 雨

一賈札師召捕^ニ 去ル廿九日加茂塔中へ差遣候百藏幸治今八半時賈札

師茂七仙左衛門兩人召捕^并 植月村ニ 隠置候判木^并 摺立之銀札共取

上ケ罷帰^リ 尤植月村ニ 同類兵吉半次郎庄助三人有之由^ニ 而兵吉ハ

判木預^リ「」^ニ 而半次郎も兼^而 存居候計之義^ニ 而召捕候程之義^ニ

無之ニ付一札取置庄助義ハ先年も賈札いたし候もの^ニ 而今般ハ携

ハ無之候得共拵様伝授いたし候もの^ニ 候処致出奔居不申候由^ニ 而

庄屋^ハ帰^リ 次第注進可申と云一札取罷帰^リ 候^ニ 付右兩人共又六勇

助差添牢番預ケ申付置其段御用番^并 大目附へ相届候委細^者 明日出

仕之上申達判木書類可差出候

一河原町檜皮屋まさ娘かう義御使組山形林蔵妻^ニ 差遣度人別除願承

届^{七月改}入

一御領分久米南条郡八出村茂右衛門後家孫しげ義河原町檜皮屋まさ

役介^ニ 引受度人別人願下方引合相濟候段申出承^り届^{七月改}入

一加人土井万兵衛引込^ニ 付代井汲兵四郎来^{同六月改}入

八月三日 雨

一御用月登城昨日之賈札師召捕候一件御用所^并 大目附へ委細^ニ 申達

右書類御用所^江 差出判木ハ勘定奉行へ相渡候右之外申上候御用向

無之

一元魚町紙屋太兵衛義大峰へ参詣廿日計之逗留^ニ 而明四日出立願大

年寄承届指出^{同廿五日届}

一町方宗旨証文指出例年之通奥書取計宗旨奉行へ指出尤人別^ハ高左

之通

一天台宗九百九拾四人 一真言宗式千九拾三人

一禪宗四百四拾五人 一浄土宗六百四拾三人

一浄土真宗四百五拾五人 一日蓮宗式千式百四拾式人

ノ 惣人数合 六千九百七拾式人 内男三千五百五拾七人 女三千三百十五人 〇去四年今八人増

一御先代様御世老人共へ御酒代被下義有之候右 者 八十才以上御選ニ

而九十歳以上六人ニ御酒代被下候哉又ハ九十歳以上御吟味ニ 而被

下候哉致吟味候様大目附佐々木主馬ハ被申聞候付当役日記ニ 者 明

和九辰十二月廿日町方九拾歳已上之者へ御酒料被下則孫左衛門へ

申渡と計有之委敷義不相知旨申候処大年寄共記録ニ 者 無之哉又ハ

考人共ハ覚居可申ものも可有之候間下方遂吟味申出候様被申聞其

旨大年寄へ申付候処孫左衛門日記ニ 明和九辰九月八日八拾歳以上

之帳面差上ルと有之同十二月九拾歳以上之ものへ御酒代被下と有

之由申出さすれハ八拾歳以上御吟味ニ 而 九拾歳以上計へ被下候と

相見へ候段今日佐々木主馬ハ申達候

一林田町山形屋才之丞義親河原博奕吟味ニ付手錠組合預ケ申付置候

処先月廿九日取逃候ニ付嚴敷尋申付置候処召捕連帰候段同町ハ届

出候付此番林藏差向牢番預ケ取計置其段御用番 井 大目附へ相届候

八月四日 曇雨

八月五日 晴 夜大雨

一御用日登城

一無宿松之助御裁許伺御用番中へ差出

一東新町綿屋忠兵衛義寛政元年ニも魚商充仕新魚町「懸ケ合誤一札

等仕候処先々月鯖ヲ在方之ものへ売候由右受取手形を取新魚町ハ訴出候ニ付綿屋忠兵衛相糺口書取指出候ニ付十日追込伺御用番中へ差出尤御咎先例遂吟味候処寛延二年右同様之御咎追込有之候得共日数無之

一林田町山形屋才之丞取逃候組合共兩人御裁許伺御用番中へ指出

一西新町ハ土手上ケ之石砂八出河原ハ取候所運送并理ニ付腰石垣ハ

板道を懸ケ取越度願書指出候付口達ニ 而 大目附へ申達候所承知ニ

付勝手次第申渡 井 八出河原ニ 而 石砂取候義村方へ懸ケ合之上取越

候様郡代中被申聞其段も申達候

一贗札師一件之書類御用番中御下ケ被成大目附へ差出候所即刻相戻

候

一玉琳ニ 而 大商買いたし候付差留度願東西新町ハ差出郡代所へ相廻

懸ケ合置

一東新町田原屋新右衛門所持之自国受酒株三町目福永屋常五郎へ讓

渡度願書差出承り届

一加人御使組兩人昨日差戻候段今日出仕之上大目附へ相届候

一銀札場奉行ハ錢三拾五箇川下ケ申来奥書取計候

一石名伝藏義明六日ハ出勤届出候ニ付加人兵四郎差返候様申付置大

目附へ相届候

一大目附廻状到来左之通

一 来月中武芸御覽 井 素説被為聞候旨先格之通之御文段

一 御側近罷出候三奉行以上 井 中奥目附家内痾瘡人有之面々酒湯

相濟候迄御目通遠慮之事右之外御供方 井 当番「御目通へ罷出

候者右同断心得候事

一 九半時御供揃ニ 御対面所へ被為人候御沙駄ニ 候

一 石州那賀郡胡治本郷村勘重文六式人京都本願寺參詣帰懸ケ川部村

ニ 足痛いたし医療差加候処余病無之足痛計之義ニ 付国元へ送り

願出送出候段郡代所へ通用有之大年寄へ継送り申付候

八月六日 雨 暮方大風雨

一 洪水防水俵ニ 仕立候土東新町八林田村山根金十郎持分畑之土取度

旨申出郡代へ懸ケ合之上承届

△ 右同断西新町八八出河原ニ 取度旨申出是ハ兼ニ 郡代中差図之

場所ニ 候得共猶又懸合之上承届

△ 右同断中之町八同町三室屋宗兵衛持分土手下畑之土取度旨申出

川床之義故如何ニ も被考其段郡代所へ懸ケ合候処不苦旨申来候付

承り届

一 牢舎人幾助新八兩人病氣申出大年寄へ申達候処岩佐孝順へ申付候

段届出候 慶助九二一休務

一 牢屋下番中間久五郎引込代割場来候段届出候 九月四日出居届ル

一 兼田川亥ノ刻留り申来大年寄へ申達 八月九日五ツ半時川明相乗候

一 院庄川子ノ刻留り申来大年寄へ申達 右同断

八月七日 雨 昼後晴

一 昨晚方大風雨夜半頃至ニ 烈敷候処寅刻頃大川筋洪水之旨注進有

之其段御用番并 大目附へ右ニ 付出馬仕候段相届并 大目附へ御貸人

馬之義申達夫々致手配卯之刻前致出馬候処大年寄共兩人喜左衛門

船頭町土手へ罷越土俵等夫々手配相調居勿論雁木者 二ツ程出居候

所追々水勢も減候趣ニ も相見候得共猶又南新座切通之辺へ追廻し

迄之間得と及見猶又土俵并 人足等之及差図候尤今般之洪水手等未

土俵土無之ニ 付人足計罷出候而 も無詮義ニ 付旧例之通町々土俵申

付相防候由ニ 齋藤孫右衛門玉置六郎左衛門并 宮田喜左衛門共ニ

船頭町土手ニ 罷在候ニ 付今般新定之町々人足召連六郎左衛門義ハ

林田土手筋孫右衛門義ハ安岡町土手筋へ罷越候様猶又及差図蔵合

孫左衛門義ハ不快ニ 不罷出依之右為代喜左衛門を船頭町ニ 残置

最早氣遣敷趣も無之ニ 付林田百間蔵迄罷越及見候所別条無之暫郡

代と及対談直ニ 引かへし猶又追廻しニ 土手筋猶又見届候所水も式

尺計も引候様ニ 相見へ夫ニ 鉄砲町土手筋安岡町迄及見候所別条無

之最早三尺余りも水引候様ニ 相見へ諸出役も引取候由夫ニ 直ニ 引

かへし船頭町土手筋人足為引取候様喜左衛門へ及差図直ニ 引取引

懸ケ御用番へ相届大目附へも以使相届候尤今日ハ大目附出役無之

ニ 付朝日御門外御堀水湛候ニ 付水門之簀被取込候様大目附月番へ

申遣諸事相濟五半時帰宅仕御用日ニ 付直ニ 登城候○昨年之水ニ 式

尺計もひくく候

一 御用日登城申上候御用向無之

一 先日以来目明共非人召連御家中忍廻り最早相止候様大目附ニ 達有

之小頭へ申達候

一 左之もの共御裁許一昨日何置候処宜取計候様御用番中御差図ニ 付

大目附へも達置

大年寄宅へ小頭部ヤ目附出番時治差向左之通申渡相濟候段御両所

へ相届候

新魚町之外他町^ニ 而ハ魚商売停止之処 東新町綿屋忠兵衛
魚致商売不届至極^ニ 候依之追込申付候 但日数十日

山形屋才之丞番乍致取逃し 林田町山形屋才之丞組合
不届至極^ニ 候依之手錠懸ケ 辰野屋喜助
追込申付候 但日数十日 鍵屋勘七後家名代
利兵衛

一孫独扶持式百三拾七匁分七厘七毛御勘定所下代々相廻大年寄へ
相渡候

一橋本町年寄山形屋藤吉義大坂大川町定屋橋美作屋辰三郎方へ廿五
日計之逗留^ニ 而明後九日出立願大年寄差出承り届^{同廿九日届ル}

一左之町々人足今日洪水之節船頭町へ罷出相働尚又東西へ立分り兩
度迄出精骨折候^ニ 付賞詞申達度旨大年寄伺出承り届

元魚町
二階町
今朝洪水防之節兩度迄出精相働
太儀之事候依之賞詞申達候 鍛冶町
福渡町

一明八日御仏詣御延引被仰出候旨中奥目附々案内有之候

八月八日 快晴

一種油三匁七分売之処三匁八分売仕度願承り届
一西今町万屋市右衛門孫定吉義小林定四郎と相改永見造酒助殿へ住
込奉公仕度人別除願承届

一元魚町福渡町^ニ 而百万遍執行届出夜廻り之ものへ申含候
一御堀掃除料例歳之通式百八拾九匁分四厘大年寄差出御作事奉行
へ相廻候

一神田栄治義明日々出勤届出候^ニ 付高木武兵衛明日々差返候段申達
大目附へハ出仕之上相届候

八月九日 快晴

一御用日登城

一三町目平野屋広蔵所持之酒造株石高四拾式石五斗酒造米石高百壹
石五斗之株此度同町佐和屋孫四郎へ相譲度願書御用番御聞濟^ニ 付
近便^ニ 江戸御留主居へ申遣御勘定所へ御届取計候様^ニ 申上候処宜
取計候様被仰出大目附へも及御噂候処江戸表へ申遣濟候上願書指
出候様^ニ 申談置候

一兼田川院庄川明キ五ツ半時郡代所々申来大年寄へ申達

一追廻し土手切所有之候付御繕被仰付候様大目附へ申達候

一川端幸治引込届出候^ニ 付加人大目附へ申達候所末吉折治来

一贗札師茂七仙左衛門召捕^ニ 百蔵幸治加茂^ニ 差遣候人用百拾九匁三

分之証文與書取計候

一林田町岩佐屋善七養子鉄治義去ル晦日下高倉村^ニ 而致喧嘩郡代所

^ニ 而手錠被申付預ケハ林田町組合へ申付置候所内濟懸ケ合^ニ 付下
高倉村へ指出候様申来組合町役召連參候様申付候

一二町目百万遍執行申出夜廻り同心組へ申含候

一御対面所へ九半時御供揃^ニ 而被為入候但御花火等有之候

八月十日 雨

一牢舎人藤八郡代所々呼出申来昼廻百歳時治出番藤四郎出入取計之
一洪水防土俵土河原町小性町船頭町京町堺町五丁ハ宮川大橋上下^ニ
而取可申届出先日三浦々大目附へ及噂相濟居候義^ニ 付勝手次第之

旨及差図候処右ニ付土升拜借仕度旨町々申出候越大年寄申出候

付御作事金井長平へ懸合候処承知ニ付御作事へ取ニ出候様申達

一三町目浜野屋源五郎義備前岡山久山町松原屋源兵衛方へ十五日計

之逗留ニ而明十一日出立願書大年寄差出承り届同廿七日届

一京町田原屋伊兵衛義備前岡山西中島町松本屋又八郎方へ三十五日

計之逗留ニ而来ル十三日出立願大年寄承り届差出候九月十一日届

一林田町岩佐屋善七伴鉄治義昨日下午倉村へ召連罷越候処喧嘩一件

内消相整今日組合年寄召連帰候段大年寄申出候郡代所へも右之通

噂有之猶又備前懸ケ合済候上手錠可差免之由ニ候

八月十一日 快晴

一御用日登城申上候御用向無之

一黒田要人殿今日東武々御帰着ニ付一同罷出候節御家老中御挨拶済

候而何及要人殿之方へ少向御勇健御帰着被成目出度旨及御挨拶畢

而御用向申上之

一洪水防土俵藺田川限ニ而難取ニ付新職人町桶屋町新魚町吹屋町四

町へハ樫原前より築出迄之内御蔽之北平捨土大分有之候ニ付取度

旨伺書指出其段口達ニ而三浦十郎左衛門へ申達候所同人へ大目附

へ対談有之不苦旨返答有之候ニ付勝手次第之旨大年寄へ申達候

一朝日御門外御堀水門拔候義洪水之節役筋へ申達夫々手延ニ相成急

水出之節間ニ不合候間以来御差図を不待御作事ニ而拔取候様被仰

付被下候様大目附へ相達候

八月十二日 晴

八月十三日 晴

一御用日登城

一因州八上郡船岡村沢兵衛娘同孫女右二人上紺屋町門乘院借屋住作

人善兵衛妻子ニ引取度人別人願例之通取計済同十七日住宅支指届

一三浦志摩守殿領分勝山仲町松屋新次郎伴松兵衛一人新魚町金屋庄

吉役介ニ引受度人別人願右同断十一月廿三日住宅支指届

一生野御代官布施孫三郎殿支配所当国西々条郡下斎原村医師有田養

益伴養庵義一人当二月廿八日上紺屋町浅屋幸右衛門引受候所此度

離縁仕親元へ指戻度願右同断

一安岡町初屋伊兵衛方へ去ル十日夕盜賊遁入脇指ニ腰木綿壹束余り

被盜取候届書勿論脇差拵不相覚木綿ニも目印無之義ニ付町触難取

計旨申上右同断取計

一川端幸治今日へ出勤ニ付加人末吉折治差戻其段大目附へ相届

一船頭町南側ニ而瓜生原や兵吉所持之家屋敷表口三間裏行七間五寸

但本役也東隣ハ錢亀屋孫四郎西隣ハ高松屋藤吉也右家屋敷代銀札

式百目ニ相極同町錢亀屋岩吉へ売渡度願承り届同十八日免狀扶指出候

一当国大庭郡河内村文左衛門娘召連伊勢參宮いたし候所大坂町御奉

行支配所撰州武庫郡西宮ニ而右文左衛門病氣差起り歩行不叶送り

来候段郡代所へ申来継送り候様申達ス

八月十四日 雨

八月十五日 雨

一当日ニ御用日登城之処自分義孫女疱瘡序熱之趣ニ付差扣三浦十郎

左衛門を以当病御断申上候并御用向も頼遣候

一式目御礼被為受候処御礼申上も有之由ニ而群居御祝ニ相成候由

一院庄川留り辰ノ中刻申来大年寄へ達ス

一兼田川留り巳ノ刻過申来右同断取計

一美濃職人町米屋伊助借屋住高田屋佐四郎夫婦二人当四月廿八日出

奔届出百日尋申付置候処弥行衛不相知最早百日余ニも相成候付除

帳願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出候由三浦ノ申来御聞届之趣大

年寄へ相達候

一三浦志摩守殿領分真鳥郡茅部村神田朝負娘伊賀義伏見町古川屋忠

兵衛妻ニ引受度人別人願右同断取計濟同十八日住毛文指出

一上紺屋町作人久五郎義割場御中間ニ被召抱候ニ付除帳願御中間頭

北島唯七へ引合之上承届

一大川土手筋為洪水防先年枕土手出来候処鍛冶場ノ東追廻し宮川辺

迄無之ニ付並之通枕土手被仰付被下候様材木町伏見町京町河原町

小性町船頭町六町ノ願書差出郡代所へ相廻置候

一種油三匁八分克之処今日ノ四匁克ニ仕度届出承り届

一三町目広野屋広藏酒造株同町佐和屋孫四郎へ讓受渡之義今晚仕廻

之御便ニ江戸表御留主居田中幸助へ申遣候

一油方之義蔵合孫左衛門ノ風説書指出候ニ大坂油屋其他領之絞油屋

共呼登引付置其上ニ而絞油屋共稜之高ニ不杓銘々人前ノ絞立候

水油三石六斗計之年々大坂へ指登候様難題申懸候由之御沙駄ニ相

聞左候得者当町ニ而も一ヶ年四貫目位之損失ニ相成相統難仕もの

ニ付右等之義申懸ケ候共相對ニ而者決而承引不為仕筋と存候旨弁

書指出候ニ付御用番中江差出候所右ニ付当役考申上候様ニ被仰出

候ニ付翌十六日高雄屋藤助返書延引之義ノ書出し絞油指廻候様申

候者幾重ニも可及断筋と弁書相認差出候所御尋無之義申上候趣之

由以之外御存寄ニ不相叶趣之返書来候付即刻絞油相對ニ而ハ可相

廻筋無之段ハ大年寄共と同意之旨申上候所御承知之旨申来候

一院庄川留り辰ノ中刻申来大年寄へ申達翌十六日巳之刻明キ申来大

年寄へ申達ス

一兼田川留り巳ノ刻過申来大年寄へ申達同日戌之刻明キ申来大年寄

へ達ス

八月十六日 晴

一下高倉村ニ而備前大工を致打擲候喧嘩一件備前懸合之上内濟承り

届候付今昼林田町役方へ内抱組差向岩佐屋善七忤鉄治手錠可差

免間町役宅へ九時頃鉄治差出置候様郡代所ノ申来其段大年寄へ申

達候

一上原彦蔵ノ呼ニ来相越候処高雄屋藤助義大坂油屋細井戸屋へ返書

之義段々行繼延引ニ相成候所御役筋へ御任セ被成候間いか様共勝

手次第取計候様被仰出候旨被相達候ニ付御達之趣承知仕候所於私

も今更指図之仕方も無之下方へ対候ニ而も面目も無之程ニ存候間此

上ハ下方へ打任セ如何様共宜様ニ取計候様申達最早返書も見申間

敷候間其旨御聞置被下候様申達置其段新左衛門を以蔵合孫左衛門

へ申達候

一明十七日五ツ半時御供揃ニ而地藏院江御社參被仰出候段中奥目附

後藤郷助ノ通用有之候ニ付大年寄へ例之通元魚町二階町辻堅申付

候様申達ス

八月十七日 雨

一御用日登城之処自分義孫女弥疮瘡^ニ相成候^ニ付差扣登城不仕引込候段三浦十郎左衛門を以大目附へ相届候

一林田町辰野屋喜助同町鍵屋勘七後家代人利兵衛手錠追込^并東新町綿屋忠兵衛追込昨日迄^ニ而十日^ニ相成候付今朝大年寄宅へ呼出文蔵勇助差向追込指免其段御両所へ相届候

一関貫番質銀百四拾九匁六分真北類蔵^ハ指越受取置候

一明目甚七小頭を以申出候^者成道寺下人客僧之金子式拾両計盜取今朝逃去り右^ニ付追手を被相頼候旨伺出随分出精召捕候様^ニ申達又

一小須賀一学殿^ハ一昨日差出候油方大坂懸ヶ合風説書御紙面^ニ而被

差戻宜取計候様被仰出候仍^而絞油大坂へ相廻候様懸合来候ハ、

相對^ニ而ハ受申間敷從公儀被仰出候ハ、無是非義^ニ候得共勿論当

時之姿兵庫^ハ相改絞油屋共余慶ハ無之趣^ニ相成居候間縦令公儀^ハ

被仰出候共余慶有之可相廻とハ御請不相成筋之義^ニ候

一上山神主横部加賀守配札之義七月廿一日御用番中へ伺置候所伺之

通勝手次第宜取計候様^ニ御用番中被仰出候旨三浦十郎左衛門^ハ申

来其旨六郎左衛門を以孫左衛門へ申達候且又郷中配札之義町方^ニ

而ハ支配違故不及貪着趣^ニも相見へ候処幸十郎左衛門^ハ初尾買数

之義共申来候付何卒郷中也配札御承知被下候様^ニ懸合候様^ニ懸合

置其段も心得之為孫左衛門へ申達候様^ニ六郎左衛門へ申達候

一河原町土橋損届出候付大目附へ紙^ニ而差出候

一材木町谷屋三六裏御堀石垣崩届右同断取計之

一橋本町徳島屋長十郎後家借屋住人佐七後家梓庄吉義御領分東北

条郡大笹村源蔵養子^ニ差遣度人別除願下方引合相濟候段申出承り

届

一植木佐士組北村多吉渡屋敷住佐吉伴乙吉義桶屋町谷屋佐七養子^ニ

引受度人別人願承り届

一宗旨奉行古谷嘉左衛門^ハ町方宗門帳式冊直申来大年寄へ相渡

一明十八日九時^ハ於御用屋敷吟味取計可申付夫々手配申達候

八月十八日 雨

一^今九時^ハ於御用屋敷下役小頭部屋目附六郎左衛門喜左衛門出番又

六時治立合左之もの共遂吟味候

此五人覗河原

博奕参会 口書印形取之

之もの共也

遂吟味候

同 林田町山形屋才之丞

同 安岡町松田屋徳兵衛

同 北郷門太夫長屋住

同 六車堅益

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

八月十九日 雨

一御用日ニ候得共孫疱瘡ニ付登城遠慮仕候尤つど、不及御断候事
一於御用所御用番御年寄左之通申渡之大目附出席之由三浦十郎左衛門
門ノ通用有之

塩屋清右衛門義札元見習被仰付候依之三人扶持被下之候

右ニ付大年寄へ奉書指遣折節座敷故障ニ付於小座敷新左衛門文蔵

六郎左衛門喜左衛門立合申渡之右申渡相濟候段御所へ相届候

一國分寺へ去ル十二日盜賊遁入仏具〔盜取候触流取計候様大目附

違有之候段昨日十郎左衛門ノ通用有之今日町触差出尤本書ハ書

拔ニ付不相戻候○町方ニ無之旨同略日届出候

一牢舎人鹿之丞病氣申出候付大年寄へ申付候所〔高道齋〕申付候段届

出候同廿四日休業届出候

一牢舎人幾助療治ニ廻り濟候ニ付岩佐〔申付候段申出候

一牢舎人新八右同断ニ付高道齋へ申付候段申出候九月四日代候申付九月十二日休業

八月廿日 快晴

一二階町山本屋周右衛門所持之自国受酒株当六月二日東新町五明屋

文吉へ貸候所取戻候段届出候

一播州龍野下町半田屋重蔵と申者用事有之堺町西川屋善助方へ來候

ニ付廿日計逗留為仕度願承り届九月十二日町書届

一村山平学長屋住源蔵夫婦并 悴市之丞右家内三人元魚町肥後屋吉太

郎借屋住利八役介ニ引受度人別人願承り届

一橋本町牢舎人幸助妻永々組合預ケ之所町内ニ而も養兼候ニ付諸道

具ニ而も売払助勢ニ仕度旨組合共々歎書差出承り届明日昼廻りノ

封印解せ候様申付翌廿一日為治案治令不致解渡候

一去ル六日之大風雨洪水ニ而 在方ニ若 潰家打連死三人も有之其外余

程之破損ニ付御届書指出候旨通用有之町分遂吟味候処左之通書付

指出郡代所へ相廻候

一去ル六日夜洪水船頭町注進石ノ水之高サ壹尺五寸

一同夕大風ニ付二階町疊屋義助居宅西向表口五間裏行建物六間

半之処東西四間南北二間半崩申候

右之外風雨損し無御座候勿論町方ニおみて人之損無御座候此段

御届申上候以上

戊八月廿日 月番玉置六郎左衛門 印

八月廿一日 晴

一御用日之処孫疱瘡ニ付不能出候

一牢舎人幸助病氣申出大年寄へ申達候所岩佐孝順へ申付候段申出候九月二日休業

一大目附左之通達有之候段三浦士ノ通用有之

坪井町北浜屋佐七義他所取遣りいたし候段銀札場奉行ノ届出

候間可被遂吟味候

右ニ付大年寄へ吟味申付候

一大目附左之通達有之候段三浦士ノ申來候

大坂長沢清左衛門ノ書狀到來昨十五日町御奉行佐久間備後守

殿御役所へ御呼出ニ付罷出候所此表久左衛門町大和屋弥三郎

其表新魚町三巴初五郎始十一人之もの共相手取預ケ金滞出

入訴狀御渡申分有之候ハ、所之者付添罷出致〔附決候様御達〕

御座候則訴狀写相廻申候尤其表ニ而 申渡之日御届仕候間例之

通御取計可被下候

右拾老人之相手名面 新二町三巴初五郎 西今町松田屋佐助

中島村利助 安岡町山〔屋新七 同町小倉屋卯吉

二ノ宮吉原屋佐七 同所松井屋新藏 同所魚屋義兵衛

同所析之丞 同所福藏 茅町浅田屋松之助

右ニ付明廿二日八時〆呼出可相糺間町方四人之者召連罷出候様大年寄へ申達其外手配申付候右之内三巴初五郎ハ出奔仕尋中之もの也

一 大目附廻状到来左之通即刻町方^并組中へ相触候

太田原飛驒守殿様御病氣之処御養生不被成御叶去ル十一日卯

ノ刻御死去被成候依之今廿一日〆明後廿三日迄三日之内鳴物

高声停止之事情尤普請ハ不苦候

一 式歩中買明キ株五ツ有之是迄仲ケ間内預り相勤居候所此度板屋武

兵衛 古川屋代吉 板屋八十兵衛 因幡屋茂市 榎屋万吾 右五

人ニ為相勤度旨式歩中買共〆願書差出承届

八月廿二日 晴

一 牟凌申付候所別条無之旨又六伝藏届出候

一 今八時〆於御用屋敷下役小頭部屋目附大年寄諸吟味出番為治加人

惠助立合左之通申渡

大坂久左衛門町若屋繼藏代判^{右衛門} 西今町松田屋佐助

家守大和屋弥三郎〆市郷十一人之もの 安岡町山田屋新七

金子元利三拾七両式歩訴状之趣説為聞 同町小倉屋卯吉

候所相違無之旨申候ニ付六十日限り 茅町浅田屋松之助

濟方可仕若又申分有之候ハ、早々登坂仕可申被候

一 右連中之内ニ三巴初五郎有之候得共彼義ハ硯河原博奕之砌迹去リ

當時尋中ニ付不能其義候右申渡相濟候段御用番^并大目附へ紙面ニ

而相届右之趣近便大坂へ可申遣段申遣候

博奕打候義及白状口書印形取之 牢舍人林田町山形屋才之丞

一 加人日下勇助義外御用有之由ニ^而昨廿一日〆右代橋本惠助来

一 御領分西北条郡小原村嘉右衛門娘志津義桶屋町大坂屋彦市嫁ニ引

受度人別入願下方引合相濟候段申出承り届

八月廿三日 雨

一 御用日之処痲瘡病人ニ付登城不仕候尤申上候御用向無之

一 成道寺下人太兵衛義三徳老ツ盗取致出奔候由右三徳之内ニ金子式

拾両式歩余有之其外印形書物等有之候由不及触流候得共目明共へ

差心得候様可申達旨大目附小須賀貢より伝達有之候由近藤伊左衛

門〆通達有之尤三浦〆右届書相廻り及披見差戻候勿論右之旨ハ目

明共存知之事ニ候得共猶又申付候様小頭へ申達候

一 大坂久左衛門町大和屋弥三郎〆当所市郷之者へ借金差滞出訴之趣

昨日申渡候段大坂長沢清左衛門へ郡代連名ニ^而申遣候処御飛脚廿

八日迄延候間其節可差遣之旨三浦士〆申来候

一 船頭町船本屋佐助倅清吉義此度中沢清治と相改後藤郷助へ出入奉

公為仕度ニ付人別除願勿論以後父佐助方ニ同居為仕度願書指出^并

後藤郷助〆も断有之ニ付承り届候

一 二階町山本屋周右衛門所持之自国受酒株当八月〆来亥七月迄三町

目南屋理兵衛借り受商売仕度願承り届

其八月六日取戻候

一來ル廿六日泰安寺へ御仏詣可被遊廻疱瘡病人無之町へ御出可被遊
付細工町西今町蘭田町^ニ 疱瘡人有之候哉内々相尋候由御供頭
須川半^ハ三浦伴左衛門へ伝言有之候由三浦十郎左衛門^ハ申來大年
寄へ申達候所^{（蘭田町）} 何れ之町^ニも老兩人ツ、有之処西今町之内^ニも蘭
田町計^ニ無之旨申出其段十郎左衛門へ申達候所明後日出仕之御須
川半^ハ尋可有之候間其節申達候様申來候

八月廿四日 快晴

一牢舍人新藏義郡代所^ハ呼出申來采治幸治差向出入取計之

一牢舍人幸吉病氣申出大年寄へ申達候所藤木良全へ申付候段届出候

九月八日 快晴

八月廿五日 快晴

一御用日登城拙者孫娘疱瘡昨日酒湯相濟候^ニ 付今日^ハ出勤仕出仕之
上大目附へ相届

一安岡町松田屋徳兵衛御裁許伺書御用番中へ差出候

一福渡町福島屋庄吉方博奕参会之者御裁許伺右同断

一観河原博奕参会之者郡代所引合之上御裁許伺右同断

一北郷門太夫長屋住六車堅益義布原村藤八と喧嘩一件御裁許伺郡代
所引合之上右同断

一坪井町北浜屋佐七義他札取扱候御裁許伺三役相談之上右同断

一大目附伊達与吉郎^ハ左之通伺濟候間以來左之通^ニ 相心得候様演達
有之候

札元共在役中首尾好相勤老衰或ハ病身等^ニ 而役免願書指出候
節^ニ 大年寄同様役義被差免帶刀被成御免可然奉存候

一右同断急^ニ 病氣指重り候節^ニ 右被仰渡無之共在役中之勤振宜

キ趣^ニも御座候^ニ 葬送之節刀為持候義不苦旨町奉行^ハ伺之上
指図仕可然奉存候已上

六月 上原彦藏

右之通^ニ 大年寄札元御差図相極候^ニ 付大年寄役免之節当役^ハ不申
上帶刀御免被仰出札元共ハ勤向之振合を相考役筋伺候様^ニ 与吉郎
^ハ被申聞右勤振善惡当役^ニ 而ハ不相知義^ニ 付其段勘定奉行懸ヶ合
置其節^ハ被申聞候様相違置候

一明廿六日泰安寺へ御仏詣田町御門^ハ大熊殿横町を北へ国島角^ハ西
へ大村横町^ハ竹馬場通り江口裏^ハ大番所前蘭田町栄厳寺門前を西
へ御成御門^ハ被為人候段中奥目附渥美源五郎^ハ通用有之大年寄^ニ
小頭^ニ堅御先私之義例之通申達候

一牢舍扶持拾六俵内貸証文奥書取計之右^ニ 而九月賄言斗五升七合五
勺十月へ持越積也

一勝間田町浜野屋伴治義因州鳥取四丁目有本屋伊三郎方へ十二日計
之逗留^ニ 而明後廿七日出立願大年寄承り届指出^九 一^ル 節

一下紺屋町長江朝庵借屋住作人文七義一千ヶ寺詣三ヶ年之逗留願承
り届

一三町目佐和屋孫四郎所持之酒造株寛政八年十月平野屋広藏^ハ福永
屋孝藏へ貸置候所今般取戻候届書指出承り届

一元魚町美濃屋彦兵衛^ニ 京町二文字屋嘉左衛門へ相懸り大坂^ハ之出
訴向方^ハ手代来り内濟懸ヶ合相濟候由一札写差出翌廿六日御用番
へ差出大目附へ相届候^{（同廿八日大坂へ申渡候）}

一備中下道郡秦下村源左衛門と申もの回国罷出因州八上郡渡一木村

ニ相煩同所送り出し野村へ送り来候段郡代所申来継送り候様大年寄へ申達候

八月廿六日 快晴

一 泰安寺へ御仏被遊町分無御滞御通行相済候段御先弘又六伝蔵の届出候

一 種油四匁売之処大坂油高直ニ相成候ニ付今日の四匁式分売仕候段届出承り届

八月廿七日 快晴

一 御用日登城

一 豆腐直段七月廿九日の拾七文売ニ仕候処大豆高直ニ相成候ニ付拾八文売ニ仕度願御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候但直段割合左之通

老箱分拾丁ニ付壹匁七分三厘大豆式升代五拾六匁五分相場ニ

而代壹匁分三厘薪代三分手間代三分

一 三町目久美屋重右衛門所持之酒造株石高百壹石八斗七升五合酒造米石高百拾四石三斗之株町内參河屋嘉左衛門へ譲渡度願御用番御聞濟ニ付公辺御届之義明廿八日仕廻御飛脚便ニ御留守居田中幸助へ可申遣旨申上大目附へも同断及御噂置御聞届申達候

公辺御届十月廿一日相済候段十一月十一日申来候

一 於御用所大目附出席御用番小須賀一学殿の左之通被仰渡候

町奉行へ

町大工棟梁伊兵衛弥五郎義御初入前御普請多候処出精相勸候

ニ付鳥目五百つ、被下之候此段可被申渡候

右之通大年寄宅ニ而為申渡相済候段御両所へ相届候

一 坪井町北浜屋佐七御咎伺之通被仰出候ニ付左之通申渡

備因札八匁つ、兩度取遣りいたし 坪井町北浜屋佐七

不届ニ付右兩度之員数拾六匁過料申付手錠懸ケ追込申付候

但日数十日

右ハ大年寄宅へ小頭部ヤ目附出番藤四郎差向申渡之取計相済候段御両所へ相届候

一 今九時御供揃ニ而御対面所「御出被遊大石栄治相圖火被仰付候由御沙駄ニ候

一 明廿八日五ツ半時御供揃ニ而中島辺へ御川狩被為入御道筋田町御門の平井半平前の竹之馬場通江口裏の大番所前藺田町鉄砲町土手通り広瀬橋へ御出被遊御帰二ノ宮より御船ニ而鍛冶場の御上ケ被成土手通追廻し大熊殿下屋敷前の朝日御門へ御入被遊候旨中奥目附後藤郷助の通用有之仍而御道筋掃除并辻堅并御波戸場へ御紋付高張挑灯二張差出候義旧格之通御蔵元可申付旨大年寄へ申渡并小頭「御先弘大番所の藺田町南角迄并築出の鍛冶場辺追廻迄又東大番所の朝日御門迄御先弘相勸候様申渡候尤安岡町土手筋八同心組のハ不相勸候事

一 大目附の例年之通御年貢不相濟内ニ米買取候義御停止之旨町方へ相触候様御書付相渡り町方へ相触候

一 今日御道中御供之面々皆勤御賞有之并川上藤九郎三拾石御加蔵大番頭秋元三左衛門番外今枝流師役正木兵馬大番組信沢仁左衛門大番組渡部貞順高直り被仰付候

一 細工町作人幸助義諸国一千ヶ寺參詣仕度三ヶ年之逗留ニ而来ル廿

八日出立願承り届三月四日始り届

義申遣候

一新魚町油屋辰三郎義備前札取扱候義相札候様大目附付達有之候

一三町目組屋重右衛門酒造株三河屋嘉左衛門へ譲渡候御届之義御留

一郡代所付明日御出付鍛冶場御波戸場之義大目附付被仰出横山村

主居田中幸助へ申遣候

へ申付候所鍛冶場御波戸場之義八町方付致来之旨申出候由申来下

八月廿九日 雨

方相札候所相覚候者無之大年寄日記くり候処寛政二戌六月廿三日

一御用日登城大守様御用所へ被為入三奉行一同罷出候

取計候様も相見へ候得共耽と不相分旨大年寄申出当役日記見改

一大坂長沢清左衛門付昨日来着之書状両通共御用番中へ差出置候

候処町分取計先例も有之付何分差懸り候義故明日之処八町方付

一新魚町油屋辰三郎義備前札取遣りいたし御裁許何御用番中へ差出

取計候様及差図郡代所も其段及返答候

候所後刻大目附より伺之通宜取計候様被相達昼後於御用屋敷新左

一明御出付御道触取計候所藺田町付疱瘡人出来候段大年寄届出候

備前札付取遣りいたし其上他領もの 新魚町油屋辰三郎

付其段御供頭須川半紙面申遣候

一宿為仕茶代等致受納旅籠屋同前之致方重々御法相背

一大目附伊達与吉郎付北郷門太夫長屋住六車堅益口書門太夫付指出

不届至敷付右員数取上ケ手錠懸ケ追込申付候 但日数十日

候弁書と不致符合候間今一応相札候様付達有之候付左候ハ、門

右申渡相済候段御両所へ相届候

八月廿八日 雨

一今日中島村付御川狩御出御延引被仰出候旨中奥目附後藤郷助付申

一博奕御裁許数通伺置候所大目附中付不残被指辰博奕御裁許以来ハ

来夫々付申達

夫役付御仕被成候様付被成可然哉之旨御用所思召付右過役付召

一大坂長沢清左衛門付書状到来道修町伏見屋半右衛門付京町二文字

仕候日数等得と両役申談相伺可申旨被申聞候

屋嘉左衛門へ相懸り菜種代差滞再出訴御屋敷へ指出候旨再許相廻

一大目附廻状到来例年之通切手納り無之為替米取申間敷御触組中へ

り候明日及御沙駄候上可申付候九月八日申付候

一今八時過付於御用屋敷前文之もの共立合左之もの共遂吟味候

一右同人付菜種御届振合之義申来候処少々難解義も有之三浦へ相廻

両人共口書印形取之 牢舎人無宿似七礼師茂七

置候追而委敷可記置候

右同断 仙左衛門

一今晚仕廻之御使付長沢清左衛門へ此間申来候市郷十一人之ものへ

一ニノ宮村龍沢寺来春開帳之願相済候付東西大橋へ建札伺済之旨郡

相懸り出訴申渡候段郡代連名付差遣并美濃屋二文字屋致内済候

遂再吟味候

牢舎人北郷門太夫長屋住六車堅益

代所ハ申来両町年寄ヘ申達置候様大年寄ヘ申遣候

一 牢舍人吉五郎病氣申出大年寄ヘ申達候所藤木良全ヘ申付候段届出

候 九月十三日中島宗元ヘ申付ル

一 二町目高雄屋藤助ハ大坂油方細井戸屋惣左衛門方ヘ態飛脚を以返

書指遣候処今日飛脚者罷帰り返書指越以来内懸ケ合致間敷と手切

之返答申越候書面喜左衛門より指出上原彦藏ヘ差出候

一 御領分東南条郡林田上之町伊之助借屋住文助并三之丞右二人西

新町田邑屋宇助方ヘ引受度人別入願下方引合相濟候段申出承り届

一 小性町阿波屋定右衛門借屋住安永屋長平義伊達駒之助ヘ出入奉公

仕度島津喜八と相改度人別除願勿論以来安永屋いそ方ニ同居為仕

度願差出尤駒之助ハも断有之ニ付承届ル

一 二階町田原屋武兵衛借屋住林之丞義此度太田村長七智養子ニ指遣

度人別除願下方引合相濟候段申出承り届

八月晦日 快晴

一 今日御仏詣無御座候尤何方ハも通用無之

一 二階町ニ而 百万遍執行届出夜廻りヘ申合候

一 関貫番質銀例月之通相渡候

九月 大

月番

御家老 山田主膳殿

御年寄 黒田要人殿

又十四日

大目附 太田舍人

九月五日ハ 小須賀貢 同九日ハ伊達与吉郎

大年寄 斎藤孫右衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

九月朔丁巳 快晴

一 式日御礼并御用日ニ付五半時揃惣登城三奉行以上於宮島之間銘々

席々ニ而 御礼申上之但七夕御礼之通

一 二町目伏見屋茂七并三四郎義去々申二月義絶勘当仕候所此節当国

才谷村辺ニ致流浪罷在当時ニ而 ハ心底取直し先非を悔相歎候ニ付

勘当差免度願御用番御聞濟ニ付大目附ヘ差出置御聞届申達候八月改入

一 戸川町稲屋磯娘徳義去々申二月勘当仕候処当時久世辺ニ致流浪罷

在心底取直し先非を悔相歎候ニ付勘当指免度願右同断取計済八月改入

一 明二日五時御供揃ニ而 中島村ヘ御川狩朝日御門ハ追廻し通今津屋

御渡り被成御帰リ二ノ宮ハ御船ニ而 鍛冶場ハ御上リ被成土手通追

廻しハ朝日御門ハ御入城被遊候旨中奥目附出九太夫ハ通用有之此

間之通夫々江申達候

一御城ニ罷在候所屋敷番之組之者罷出申聞候者神戸村喜与八と申もの、召仕下女老人直訴ニ罷出同人弟伝蔵と申もの昨夜市村随波屋敷ニ被打殺相果居候付御吟味被下候様願出候委細之義者不相分候得共長屋者三四軒も有之由右女申候由申出候付其段大目附へ申達早々組之者差向長屋者不残召捕可申哉と申達候所其旨早々取計候様被申聞候ニ付御用番中へも及御沙駄可申哉と申候所御用番中へ自是可申達候間早々取計候様被申聞候付組之者惣出二いたし小頭召連罷越候様及差圖置御用所御退出を相待居候得共隙取候付最早御用も無之候ハ、罷帰り及差圖度旨大目附へ申達候所御用番へ同之上勝手次第引取候様被申聞引取候処追々左之もの共召捕罷帰り并右女も相糺候上郡代所へ差遣候

此者共遂吟味候処昨夜伝蔵罷越候節
男之分ハ不残在宿不仕婦人計居合候付
近辺之者相頼幸三郎民治ハ一ノ宮ハ

罷帰り其外町方へ出居候而追々ニ罷帰
り候由
喜三郎 独身
十五郎 独身
三郎 独身

神戸村姉三方へ注進ニ幸三郎民治

喜三郎三人罷越候由ニ候

右之内齊兵衛ハ老耄十五郎ハ膝行同前之者二田郎ハ申口疑敷義

無之付其俵差戻幸三郎民治喜三郎三人ハ牢番預ケ申付右請人共

牢賄申付并幸三郎民治妻子預ケ候段申渡

右引合ニ付追々呼出候もの左之通

松山春庵屋敷嘉七妻

一ト通り相糺差返し候

小田中村権太郎猶子

備中者 和兵衛

土岐雄助長屋平三郎

細工町 久治

神戸村 喜代八

同人召仕下女 きよ

同人弟雲州しゆと郡かんだち村

又治倅又十事当時伝蔵義去酉ノ六月当地へ来居候所市村長屋

鏡磨幸三郎へ銀札拾式匁貸有之右銀札取返しニ參被打殺候旨

訴出候右清義ハ四年已前当所へ来候

一右取計組惣出付今日ハ昼廻り夜廻り不差出候○右之通取計候段御

両所へ相届候

一土居村妹尾三郎平倉敷春名代二郎兩人今日登城被仰付御通り懸ケ

御目見於中之口被仰付候由

九月二日 雨

一昨日之もの共呼出終日遂吟味候立合例之通出番柴治伝蔵也尤雨天

ニ付昼後より御用屋敷へ罷出候

一市村屋敷ニ相果候死骸為見分御徒目附吉村要蔵下目附小林還右

衛門昨夜相改候処疵所無之旨改届書大目附被相廻及一見差戻候

一右取計ニ付加人兩人当日切大目附へ申達候所吉田藤太日下藤右衛

門来

一松山春庵長屋嘉七義被差出候様大目附へ相達候所同人義ハ倉敷へ

先日已来罷越留主之由申来候付内懸ケ合ニ同人妻呼出し相糺候

所何之様子も不承由申候

一牢舍人布原村藤八義郡代所呼出申来出番柴治伝蔵出入取計之

一 大守様雨天^ニ ^而も中島村へ御川狩被爲入無御滞御掃被成候段御先
私藤四郎時治届出候

一 昨夜大年寄^ハ内々申出候^者 明日土手通御出被仰出候所土手筋^ニも
庖瘡人有之候間御通候節^者 戸を閉置可申哉と申出候付伺之通取計

可然旨及差圖置右庖瘡人有之義極内々^ニ ^而御供頭須川半へ昨夜申

〔〕候

九月三日 晴

一 御用日登城

一 浚明院様来ル八日十七回御忌^ニ 付配當場御布施願出御用番へ相伺

候所御聞濟付大目附へ達置御聞届申達候

一 大目附廻状到来左之通

来ル八日浚明院様十七回御忌^ニ 付於地藏院御供養被仰付候

右之段組中へ相触町方両日自身番仕候様^ニ 申達候尤寛政十年之通
也

一 牢屋^并 牢番長屋破損書指出し大目附へ指出候

一 市村屋敷^ニ ^而伝藏頓死^ニ 付雲州へ右吟味爲立合被相越候様可申遣

旨下案相認御用番へ相伺候所御忝削有之其旨相認御飛脚之者大目

附へ相達候所御飛脚村上吉右衛門来委細申含書状相渡申ノ中刻罷
立候

一 材木町伏見町京町河原町小性町船頭町^ハ銀冶場^ハ追廻し迄外並之

通枕土手被仰付被下候様願書指出去月十五日郡代所へ懸ケ合置候

所右枕土手ハ御普請方^ニ ^而申立候間右願書ハ郡代所^ニ 預り置候由

其後右之段両名^ニ ^而相伺被仰付被下候様并書指出尤御入用も三貫

目余相懸り候由之所今日太田舎人^ハ上御入用計^ニ ^而被仰付候筋^ニ

^者無之町方之者銘々防之義^ニ 候得^者 供々町方^ハも可〔〕筋^ニ 候間其

越^ニ 考付指出候様一学殿被申聞候由被相達候

一 大目附^ハ左之通達有之

御初入爲御祝儀大年寄三人^江 金貳百疋被下之

右同断爲御酒代惣町へ白銀五枚被下之候^〇 ^但惣町へハ八人御計^ニ ^而被下之

右之段月番大年寄へ申渡之爲御礼大年寄共麻上^ニ ^而廻勤仕候右

申渡相濟候段御用番へ相届大目附へハ不相届旨申談濟^〇 ^{大町} ^ハ ^年 ^其 ^翌 ^日 ^申 ^上 ^下 ^二 ^間 ^御 ^出 ^候

一 町大工棟梁^江 五百文つ、被下今日勤者^ハ相廻り大年寄へ相渡候

一 市村屋敷^ニ ^而雲州もの伝藏相果候義市村九助野村圭左衛門^ハ指出

候并書大目附^ハ被相渡遂一見指戻候

九月四日 晴

一 牢舎人新八療治^ニ 廻り相濟候^ニ 付藤木良全へ申付候段大年寄届出
候

一 稻荷山下草今日^ハ刈候段三軒屋番届出候^〇 ^四 ^{十七} ^日 ^相 ^濟 ^候 ^段 ^届 ^出 ^候

一 大目附佐々木主馬^ハ三役連名^ニ ^而手紙到来明五日終御出^ニ 付御用

日休日^ニ 相成候段申来下役^并 小頭^江 も不及出仕候段申達候但明日

之御出ハ高倉辺御茸狩^ニ も御座候哉之御沙駄有之候所町分御通行
ハ不被成候哉何方^ハも御掃除触無之候^〇 北御門^ハスクモ塚志戸部

之方へ御出

一 河原町南側^ニ ^而作人定七家屋敷表口五間裏行拾間但本役也東隣ハ

志茂屋藤左衛門西隣ハ橋田屋勤兵衛也右家屋敷西之方二間半但五

步役添代九拾匁^ニ 相極町内小西屋庄兵衛へ壳渡度東ノ方二間半口

五歩役添代銀札九拾匁ニ相極小性町米屋いくへ売渡願承り届即廿一日宛狀提出

一札元妹尾平兵衛義一ノ宮牛馬寄今日切ニ而無滯相済引取候段届出候

一大目附合鍛冶町鍛冶松兵衛義他所札取遣りいたし候段銀札場奉行合届有之候間相札候様御達有之大年寄へ申達候口書取之向七日御取計也御士を以相同候

九月五日 晴

一京都東川端仁王門上ル町若林鎌斎同居下村右膳と申易者老人用事有之罷越候ニ付三十日計逗留為仕度願元魚町笹屋友治借屋住松江屋勝左衛門願承り届十月十五日届

一播州今市綿屋嘉市郎一人例年之通具服物売来候段新職人町松の屋十右衛門宿切手差出候十月廿九日届

一備前岡山小畑町鼠屋甚八俣清兵衛一人例年之通元結卸売来候段右同人宿切手指出右同断

一明六日四時御供揃而川辺御茸狩被仰出御道筋北御門の上之町通薬師堂前合本通り夫合御順路御出被遊候旨中奥目附出久太夫合通

用有之依之林田横町く辻堅等之手当先格之通取計候様大年寄へ申達且又御様子ニ寄本町通御帰可被遊義も難計候間右之用意も致置候様申達ス尤町分御通行無御座ニ付御先私ハ不申付候

九月六日 晴

一河原町年寄合先達而相願候町内東横丁土橋石橋ニ相成り今日合御作事取懸り候ニ付伏見町堺町之横丁往来留繩張いたし候段届出候

九月七日 快晴

一御用日登城之処孫義袍瘡序熱之趣ニ相見而候ニ付差扣当病御断ニ

仕候仍而御用向も三浦士へ頼遣

一坪井町北浜屋佐七手鏡追込昨日迄十日ニ相成候ニ付大年寄宅へ出番幸治差向指免其段御用番并大目附へ紙面而相届候

一札元山本三右衛門実母相果候ニ付三右衛門并俣房四郎御定式之服忌引込候段大年寄合届出候付其段御所へ相届候

一御代官布施孫三郎殿支配所当国勝北郡植村音八俣庄蔵夫婦式人河原町高瀬屋治三郎役介ニ引受度人別入願例之通取計済候段三浦士合申来御聞届申達候十月十九日住宅宛文提出

一脇坂淡路守殿預り所当国英田郡倉敷村久治郎娘みを義上紺屋町灰屋与右衛門妻ニ引受度人別入願右同断取計済同廿五日住宅宛文提出

一林田町之内袋町河田屋忠助隠居所へ去ル四日夕盜賊遁入衣類九品代ニ積り四拾壹匁計之もの被盜取候由届出右同断取計市郷触流伺済ニ付町触取計候同廿九日町方ニ無之旨届出候

一鍛冶町鍛冶松兵衛他所札取遣りいたし候御裁許伺三浦士を以差出候

一大坂長沢清左衛門合昨日書状到来業種御届石数之義先日申越候所兵庫灘屋吉三郎合も御蔵屋敷へ以来ハ散種共之石数御届被下候様願出候間其通ニ又々相伺候而も可然候間存慮承度旨郡代兩名ニ

而来今日三浦合御用番中へ被差出候処宜取計候様被仰出候旨申来明日可及返書候

一公儀御触書左之趣大目附中合被相渡造酒屋共へ相触候

諸国洪水ニ而凶作米穀高価諸人可為難義ニ付酒造米天明八申ノ年之半減造ニいたし候様被仰出候然而天明六年之造酒高ニ

相成候事

一 萩野喜和右衛門義明日の出勤届出加入可差返所大隅宮祭礼芸台等
出度趣も相聞へ右之通^ニも候へ^者又々加入入候事故先留置候
一 安藤丹後殿の御赦^ニ付死罪被差免候もの、名面御入用之由内々差
出候様被仰聞直^ニ差出候

九月八日 雨

一 大隅宮祭礼^ニ付東新町の俄踊り子共四人為踊度^ニ付芸台指出度願
書指出候御用番中へ持参相伺御聞届被成候ハ、右芸台^ニ附添候同
心組式人警衛^ニ指出候先格之旨申上置候処暮方御聞届被成候旨被
仰出其旨寺社取次を引合来候付及通用置御聞届申達候右^ニ付同心
組明日之役割左之通小頭を差出候

與^為治^治 獅子^舞治^治 芸台^又治^治

一 大隅宮宵祭^ニ付林田六町挑灯差出候段大年寄届出承り届
一 大坂玉子屋九郎兵衛の当所町人拾人^江滞銀出入寛政十二申ノ年八
月十三日大坂御屋敷^江訴出候内坪井町市瀬屋与市事当時美濃瀬屋
作兵衛義相濟候段濟書を以届出候付御用番中へ持参指出右之段重
便大坂へ可申遣旨伺置候^{同十一日相戻り大目附へ三浦を差出候}
一 二階町組屋忠右衛門持之宮川尻水車へ去ル六日夕盜賊遁入米式俵
被盜取候届書指出し是又同様御用番中へ指出候^{同十一日相戻り大目附中へ三浦}
一 大坂長沢清左衛門の先月廿八日^并去ル七日菜種御届石数之義申越
返書相認御用番中^江相伺候所思召^ニ不相叶先書附札之趣解不申候
間清左衛門^ニ如何相弁居候事哉存寄申越候様申遣右之訳承り候
上^ニ後之返書ハ可致旨申遣候様御指図^ニ付其段郡代兩名^ニ申

遣

一 新魚町油屋辰三郎手鏡追込今日迄^ニ而十日^ニ相成候^ニ付明朝可差
面所明日^者節句^ニ付今日夜^ニ入小頭部屋目附夜廻り又六栄治大年
寄宅へ指向手鏡追込指免候但御所^江明朝指免候趣^ニ相届候
一 大坂伏見屋半右衛門の京町二文字屋嘉左衛門へ壳掛滞り再訴先月
廿八日長沢清左衛門の申越御用番中へ伺置候処右状昨日御下ケ被
成候^ニ付今日大年寄宅^ニ而為申渡候

九月九日 雨

一 重陽^ニ付惣登城之処孫武太郎義抱瘡仕候^ニ付差扣登城不仕旨三浦
十郎左衛門を以相届候且又俾其衛義も右^ニ付登城不仕候段三浦十
相頼相届候

一 新魚町油屋辰三郎手鏡追込指免候段御所へ相届候
一 北山修齊俾繫吉義松山春庵役介^ニ指遣し度人別除願指出承り届
一 明十日御証月^ニ付泰安寺へ御仏詣被遊候処二階町御門の庚申堂三
浦前細工町蘭田町^江御出可被成御積^ニ御座候処右御通筋抱瘡人ハ
無之哉聞繕申聞候様御供頭須川半の申問候段三浦十の申来大年寄
へ申付相糺候処二階町下紺屋町細工町^ニ有之西今町中ノ横町合
関貫迄之間蘭田町御堀端元魚町分^ニ當時無之旨申出其段三浦へ
申遣候
一 明十日五半時御供揃泰安寺へ御仏詣被仰出御道筋御堀端三浦十郎
左衛門前真直^ニ竹之馬場蘭田町の御成御門へ被為入候旨中奥目附
藤堂融四郎の通用有之大年寄^并小頭へ例之通取計候様申付ル
一 牢舎人山形屋才之丞義先月廿四日病氣申出高道齋へ申付置候処一

昨日迄^ニ 而^二 廻り相済候処未相勝中島宗元へ昨日申付候段届出候先月認落^ニ 付爰^ニ 記置候^{同廿三日御文宗元へ申付候}

一 中奥目附瀧美源五郎分明日之御仏詣御故障^ニ 付御延引被仰出候旨通用有之夫々^江 申達候

一 大目附伊達与吉郎分左之通手紙^ニ 而^二 郡代兩名^ニ 申来候

左之通被仰出候間夫々^江 可被申達候

御鷹野御川狩等惣^而 御慰御出之節農業いたし候もの縦令御通

筋たり共かふりもの取候得^者 御目通^ニ 而^二 も農業出精候義^者 不

苦却^而 御喜色思召候筋^ニ 候間末々^ニ 至迄御忍徳難有奉存候^而

弥出精候様村々庄屋共分精々可申聞候尤不礼我察之義無之様

是又可申付候以上

右之通町中組中へ相触候

一 大隅宮祭礼指出候警固之者六人無滞相済引取候段届出先格之通承

置

九月十日 曇

一 大目附伊達与吉郎分呼^ニ 来相越候処左之通御達有之候

一 三軒屋敷番中村作治母長寿を御祝被成鳥目三百文被下之候

一 一町方八十歳以上之者八十五人^江 右同断銀式匁つ、被下之候

右^ニ 付中村作治呼出小頭立合申渡之町分之義ハ大年寄へ申渡候右

取計済御所へ相届候○右八十五人ハ六月廿日調出候者共^ニ 而^二 名

面別帳^ニ 在之仍^而 略之

一 播州加古川ねちわく細工人九郎兵衛長治式人例年之通呼寄極月迄

逗留仕度願^ニ 二階町川島屋藤吉差出承り届^{十二月十日}

一 雲州へ差遣候飛脚夜^ニ 入罷帰り雲州出雲郡神立村へ罷越庄屋へ懸合候処右伝蔵^并 姉清共^ニ 出奔もの^ニ 而^二 除帳^ニ 相成向方指構^者 無之旨村庄屋一札取罷帰り候^ニ 付御用番へ指出大目附へも相届候

九月十一日 晴

一 御用日之処孫義砲瘡中^ニ 付登城差扣御用向三浦士へ頼遣候

一 同心組加人橋本恵助今日分差戻其段大目附へ相届候

一 江戸御留守居田中幸助分返書到来広野屋広蔵分佐和屋孫四郎^江 造

酒株讓渡之御届八月廿八日相済候段申来御用番へ指出

一 大坂長沢清左衛門分返書到来若狭屋屋左兵衛分^ニ 文字屋嘉左衛門

美濃屋彦兵衛へ相懸り滞銀出訴致内済候段佐兵衛分も届出候付右

訴状御番所へ返上いたし相済候段申来御用番中へ指出

一 林田町鍵屋義右衛門借屋住中村屋平兵衛一人土岐山城守殿領分当

国英田郡榎原村喜三郎方へ引越度人別除願御用番御聞済^ニ 付大目

附へ差出候段三浦分申来御聞届申達候

一 浚明院様御法事御布施配當場頂戴之請書右同断取計済

一 御初入^ニ 付惣町へ銀五枚大年寄へ式百疋被下銀今日勤者分相廻り

大年寄へ相渡候尤惣町人別割^ニ 割渡候由大年寄申出候^{○右様下申渡入去ル三日申渡之候}

一 大坂長沢清左衛門分返書到来久左衛門町大和屋弥三郎分当所市郷

十一人^江 相懸り滞銀出訴去月廿二日六十日限済方申渡候段去ル四

日御番所へ相届候段申来候右状三浦へ差戻候

一 市村屋敷^ニ 而^二 相果候雲州者伝蔵義昨日飛脚之者罷帰り候除帳之一

札大目附中分被指戻右死骸吟味中^ニ 付仮埋取計置可然哉愚感御尋

^ニ 付大目附へ直^ニ 及返答候様三浦士より伝達有之仮埋被仰付可然

旨御同意ニ存候段大目附へ手紙ニ相届候

一似七札師茂七御裁許伺大目附へ戻り永牢之姿ニ如何成ものニ付
敲弘等ニ相成間敷哉再考申上候様三浦公伝違有之追考可申違
候

一昨夜私宅門前ニ落弁有之懸ケ合問屋有之ニ付町方致衰微在方出買
之小商人必至之難渋ニ相成候ニ付御停止不被下候得者来ル十五日

ニ懸ケ合問屋打めき候由在方出買之者共ト云書付有之候付蔵合
孫左衛門呼出懸合問屋有之出買之もの共之故障ニ相成候訳難解旨
存寄申聞候様申違候所同人義も同意之考ニ付何分得と致監察申聞
候様申付置候処大目附伊達与吉郎右同意之張弁御用所と有之書
面被相渡候ニ付私方も右之通之書附有之早速も可申上答も
候得共下方考も承り糺候上ニ可申上と存居候所右同様之義ニ付
先差出候段申違伊達与吉郎へ差出置候然ル所夜ニ入蔵合孫左衛門
右懸ケ合問屋之義監察仕候処昼程申聞候通在方出買小商人之故障
ニ相成筋ハ弥無之当年金銀差詰りニ付繰屋共も買込候力無之ニ付
小商人へ得借し不渡趣ニ相聞候段弁書差出候右弁書明日御用番中
へ可差出候

九月十二日 快晴

一懸合問屋ハ在方出買之故障ニ不相成と申孫左衛門昨夜差出候弁書
御用番中へ持参指出懸ケ合問屋之義ハ兼不正之筋ニ博奕同様
之義も可有御座間御止被下候様も折を以可申上哉も奉存
居候得共爰ニ御停止被仰出候得者金銀を他へ持出衰微之基
も可相成且ハ米穀はけあしく相成差支之筋も可有之哉も及年大

年寄共も差支無之趣ニ申聞候ニ付其候いたし置候処今般御止被

下候様相願ニ幸之義ニ御停止被仰付可然哉も奉存候得共下
方右筋不届之願方ニ御聞届被下候も如何も奉存候間先此
候此場ハ被指置来ル十五日之夜ハ窃ニ同心組等差出置候も

可然哉も奉存候且又一ト通り之所ニハ先右之通之ものも可
有御座哉も奉存候得共猶又得と相考候得御政道之義下之故
障ニ不相成不苦義ハ下之好通ニ被成被下候義も可有御座

さすれハ上ハ我意之御取向ハ有之間敷候得者力味を離れ不届之
願方を御免被下さつぱりと爰ニ御免被下候も御真直之道理
も相当り可申尤懸合問屋相止候も指当り下方故障不緊昌之基と
當時可申立義も無之候得者元来下方之勝手ニ成候趣ニ其節ハ相
願候被仰付候義も可有御座候得者又此節時節違御指止被
下候ニ相願候得御聞届被下候至極宜義とも奉存候間此段同様
ニ奉伺候段申上置候○右懸合問屋中絶候所置段十一未年六月八日合相始候事
一 大目附伊達与吉郎左之通捨弁佐々木主馬門前ニ有之由被相渡候
懸ケ合問屋御差留被下候様惣繰屋共願
右之通文段ハ夫々違候得共何同意之書面也
一 御用番中ハ市村随波屋敷ニ相果候伝蔵死骸吟味中之義ニ付仮埋
被仰付候然ル所右伝蔵義雲州ハ帳外之由申来勿論追々可速吟味候
間右死骸仮埋申付置候段伝蔵姉神戸村喜代八下女きよへ申聞候
其上ニ仮埋可取計筋と被仰聞候付早々郡代所申遣右きよ呼出
し右之旨申渡相濟候段御両所へ相届野村左衛門へも及通用候
尤左左衛門義大目附差函之由ニ仮埋取計方相談有之川向惣墓地

面八郡代所支配之義^ニ 付郡代所へ御懸ケ合之上御取計被成候様申候

一新屋敷荒神宵祭^ニ 付例年之通安岡町挑灯差出候段大年寄届出候

一中奥目附渥美源五郎^ノ明日杉山へ御出之御沙駄有之候所宮川御門

ノ追廻し土手通今津屋橋之間町分痘瘡人有無相札申聞候様申来候

付大年寄へ申達候所材木町万屋借屋^并 関貫際^ニ も有之候得共右^キ

門前御通りハ不被成万屋借屋^ニ 窓有之候^一之義^ニ 而其外^ニ 無之

旨申出其段源五郎へ及返答候然ル所夜^ニ 入右同人^ノ明日十三日九時

御供揃^ニ 而右之御道筋杉山^江 御出被仰出候旨通用有之大年寄へ御

道筋掃除辻堅小頭へ御先私之義先格之通申付候

九月十三日 快晴

一御用日之処痘瘡病人有之^ニ 付出仕差扣候尤申上候御用向無之

一蔵合孫左衛門罷出申聞候^者 徳守宮祭礼^ニ 付鍛冶町元魚町^ノ野台差

出度願書指出候処当年^者 甚之困窮中々野台所^ニ も無之町内^ニ 而も

不承知之もの多有之候得共若キもの共承引不致指留候得^者 打めき

可申杯と申棟之趣^ニ 而年寄共も防兼殊^ニ 当年^者 御覽も可被成御移

も御次向^ノ承り候杯と申風聞も申聞候付年寄場合^ニ 而ハ弥難黙止

候^ニ 付印形も不致内々相伺度申出候由尤大年寄共存寄^ニ も先年被

仰出候義も有之旁^者 指留度奉存候得共弥風聞之通之義も有

之候得^者 恐入候義故内々相伺候旨申出候付御用番中へ罷越右之段

委細^ニ 申上置候尤未願書ハ不差出候得共右之外^ニ 七八町も相願候

様^ニ 相聞候段申上候処何分明日可被仰聞旨^ニ 御座候

一老人共へ長寿御祝義被下申渡候処年齢改後左之四人戸川町文吉母

冬 川原町福本屋喜兵衛 京町仕立屋新助母儀 林田町山本三右

衛門母仲病氣仕候段大年寄申出候付其段伊達与吉郎宅へ罷越相届

候所改後死去之ものへも被下候間相渡可申尤右死失之名面書明日

ノ太田舍人月番相勤候^ニ 付同人方へ明朝被指出候様被申聞候付相

渡候様大年寄へ申達右名面書翌十四日太田舍人^江 指出候

一杉山御茸狩御出被遊御往来共町分御通行相濟候段御先私又六為治

夜^ニ 入届出候

九月十四日 快晴

一徳守宮祭礼^ニ 付野台指出度旨願出候付昨日御用番仲へ委細^ニ 御内

意申上置候所今日呼^ニ 来罷越候処右野台之願何分奥書致明日差出

候様被仰出其段大年寄へ申達候

一河原町鎮守小椋明神宵祭^ニ 付同町^ノ揚挑灯一ヶ所差出候由大年寄

届出承置

一福渡町皆木屋甚助妻去ル七日致出奔候段届書指出例之通百日尋申

付候^{其正月十三日延出}

九月十五日 雨

一式日^并御用日之処痘瘡病人^ニ 付差扣登城不仕御用向三浦士へ頼遣

一久世御代官重田又兵衛殿支配所当国大庭郡久世村増田屋甚左衛門

娘もよ義坪并町備中屋定吉兄喜兵衛妻^ニ 引受度人別人願御用番御

聞濟^ニ 付大目附へ差出置候段三浦士^ノ申来御聞届申達候^{十月廿一日住宅}

一徳守宮祭礼^ニ 付野台指出度願 鍛冶町 元魚町 新魚町 坪井町

伏見町 二町目三町目申合一 西今町 京町 右八町^ノ指出三浦

士^ノ被相伺候処御聞届被成左候^者 十八日於赤座屋敷御覽可被成候

間其旨取計候様被仰出候段申来其段大年寄へ申付候右ニ付野台引
様等先格も有之事ニ候得共下方之好も可有之候間取調可申聞勿論
当年八十八九日兩日ニ候間前夕町内挽回候義ハ不相成尤先格之通
芸之長短ニ寄り一二三可相定候間十七日小頭部ヤ目附可差出候間
其節為立合諸吟味宮田喜左衛門罷出候様可申付之旨大年寄并小頭
へ申付置右取計之大意序も有之ニ付御用番并大目附へ及御沙駄置
候

一 林田町川田屋忠助去ル四日被盜取候古挾箱沼村野山ニ在之候由同
村為知越参見改候処無相違旨届出候付郡代所へ懸ケ合候所取ニ
指出候様申来其段大年寄へ申付候尤受取渡相濟候上両役可相届
旨申談候

一 懸ケ合之義捨弁有之一件ニ付一昨日委敷御用番中へ申上置候所昨
日御用番中御指留被下可然ものニも有之候得共打めくと申ニ付
御指留被成候様ニ而以後之示ニも不相成候間先初之趣意之通忍ニ
組差出置用心いたし候様被仰出尤追而御指留も可被下候間徳失之
訳認出候様被仰出依之今夕夜廻り藤四郎幸治出番百歳時治四人伏
見町へ出張忍居候様申付置并御用番中へ罷越若打こわし候趣も有
之候ハ、私義も出役仕可然哉と奉存候所先年伏見屋騒動之御御差
図之上出馬仕候様相見へ候得共右躰ニ仕候得并弥隙取間ニ不合様
ニ相成候間御指図を不待罷出度旨相伺候処其通ニ被致候様御指図
有之候ニ付左候ハ、御貸人馬并同人組加人等之義大目附ニ談置可
申哉之旨相伺候処是又何之通被仰出候ニ付其旨大目附太田舎人
談置加人八十人以上御使組有丈差圖被下候様ニ相談仕今夕自然罷

出候様御座候ハ、御貸人等之義口上ニ而可相届旨委細ニ申談置候
一 牢舎人吉五郎病氣差重り候段申出容躰書指出候様申付ル腸癰之由
容躰書中島宗元指出四廿六日合積月五編

一 当年御初入并浚明院様御年回ニ付永牢之姿之ものも有之死罪ニ相
極り居候ものも有之右等之もの御赦ニ付髮杯剃追払ニ而も可相濟
ものハ有之間敷哉又ハ一向難指免ものも可有之哉而役考候様ニ御
用所御沙駄有之候間差考候様太田氏被申聞候段三浦士合通用
有之十月三日御初ニ付御教と申義ハ不被成候間其旨相心得候様田舎人旅中問候

一 鍛冶町宗道宮宵祭ニ付同町并美濃職人町例年之通家並挑灯出候
段大年寄合届出候

一 京町甲斐屋源藏義去西十一月九日四国遍路ニ罷出当四月三日追願
指出候所又候百五十日日延追願指出承り届癸酉五月廿八日届

一 徳守宮祭礼ニ野台八ツ指出候得并同心組加人十三人入候間十八九
兩日右之通加人被仰付候様大目附へ申達候

一 二階町野台指出度願書指出最早及深更候ニ付御用番へ持参仕取
次ニ相渡置候

九月十六日 快晴

一 二階町野台指出度願書指出候段御用番申来大年寄へ申達
ス

一 昨夜伏見町へ藤四郎幸治百歳時治差出置候所無別条引取候段今朝
罷帰り相届候付其段御用番中へ相届候

一 九町合指出候野台芸之外題役者付帳面差出候ニ付御用番中へ持参
指出若又御次御入用ニも御座候ハ、此帳面被指上被下候様申上猶

又願番付ハ明日見改させ候上^ニ 而可差出旨申上置候且又前日芸台之上^ニ 而仕組ならし不致候^而 ハ申合出来兼御覽之節不都合^ニ 可相成候間前日野台指出し於町内ならし致度旨願書無余義趣^ニ 相聞へ右之段具^ニ 御用番中へ申上候所御聞濟^ニ 付大目附中へも達置勝手次第之旨及指図候

一 牢舎人松之助俄致服痛候段申出大年寄へ申付候^{同廿六日休業}

一 野台相増候付又々加入式人都合拾五人被仰付候様大目附へ申達候

一 中山百藏不快引込届出加入大目附へ申達候所寺坂兵治来

一 部屋目附中山百藏引込^ニ 付部屋目附飯役川端又六へ申付候様小頭へ申付候

九月十七日 快晴

一 御用日之処孫武太郎義昨日酒湯相濟候^ニ 付今日夕致登城其段大目附へ相届候

一 小性町肥地屋繁藏借屋住作人金治夫婦仲初治娘式人右家内五人備前上道郡西大寺村鹿屋七兵衛方へ引越度人別除願例之通取計濟

一 德守宮祭礼^ニ 付例歳之通来ル十八日夕惣町関貫開立番付置候段御両所へ相届

一 右同断^ニ 付町中挑灯例年之通差出候段届出承り置

一 明日六半時御供揃^ニ 而赤座屋敷へ被為人候間其旨心得ねりもの、義宜取計候様大目附中違有之候^ニ 付先格之通町々野台六時前迄^ニ 宮川御門前へ挽付置諸出役六時揃と大年寄小頭へ申付候

一 上山天皇神主横部加賀守市中配札之義ハ先月十日^七日伺濟候所郷中配札之義も相願候^ニ 付其段郡代所へ懸合置候処兼^而 在方へハ初尾

取相廻り二重^ニ 而難相成旨郡代所申来其段蔵合孫左衛門へ相達在方之義ハ及断候様^ニ 申合候

一 德守宮祭礼^ニ 付野台指出候付加入拾五人申立候処左之もの共来

御使組 荒木源四郎 杉本左惣治 中村作治 日下藤右衛門

尾崎広助 橋本恵助 山本治三郎

伊藤組 高本甚藏 原惣兵衛 当具其助

植木組 日下新八 曾川八右衛門 北村多吉 上田治兵衛

古市組 谷村与市 拾五人^{尤野台野台七時立止二階町品屋車十部方へ罷出候}

一 野台芸之長短下見江原文蔵川端又六宮田喜左衛門差出候処夜^ニ 入罷掃左之通相極尤芸之短キを初へ出候

壱番二階町 式番伏見町 三番西今町 四番鍛冶町

五番二丁目三丁目 六番元魚町 七番坪井町 八番京町

九番新魚町

右番附御用番^并 大目附へ指出候

一 大目附廻状到来德守宮祭礼ねり物出候付役義止し見物可致旨先年之通之文段^ニ 而御触書来ル

九月十八日 晴

一 大坂長沢清左衛門夕返書来菜種御届之義是迄之通^ニ 相届置若又過石之察度有之候節^者 去年之通^ニ 届間違と申立候^而 相濟筋と与力申事^ニ 候由申来候明日可及御噂事

一 林田町川田屋忠助去ル四日夕被盜候古挾箱沼村^ニ 捨有之郡代所へ懸ケ合候所拾もの、義^ニ 候間沼村へ取^ニ 指出候様申来組合壱人差添沼村へ受取^ニ 参り受取渡相濟候段届出候^ニ 付其御両所へ手紙^ニ

而相届候

一野台警固ニ指出候もの共七時出宅立宿ニ階町品屋恵十郎方へ罷出
正六時野台ニ指添致警固於赤座屋敷御覽無滞相済内山下ニ而五
ツ計も夜ニ懸り候由四時過引取無滞相済候段届出承り置宮警固も
九時頃引取届出候但届後目附山本第七下目附原左近

一今日相勤候表組八人之もの共八今日切ニ而引取候由左之通り代り
来

御使組 河村新吾 中村栄治 土井島右衛門

伊藤組 中村直助

古市組 西村文太 日下喜助

植木組 水島元治 井上源右衛門 八人

九月十九日 快晴 夜分時雨

一御用日登城申上候御用向無之

一川崎村庄屋弥助方へ去ル十六日盜賊遁入衣類八品代四拾六匁位之
品被盜取候届書触流取計候様大目附之違有之町触取計本書ハ指戻
候同廿九日町方ニ無之旨届出候

一徳守宮祭礼警固先格之通七時出宅差出候所野台芸五時過之相始勿
論昨日壹番八元魚町孫右衛門前迄挽付末者漸ニ階町御門外へ挽出
候迄ニ而其俣有之今朝者右之挽出之俣ニ而相始候様及差図候処ニ
階町野台損候付九番へ伏見町を第一番として引出候由届出候所漸
始之伏見町之野台宮脇町迄引候処及暮第九番ニ階町野台ハ二町目
ニ而及暮相止候由祭礼之警固迄も何れも無別条相済引取候段四時
前罷帰り相届候付其御用番并大目附へ相届候

一祭礼ニ付野台等差出候得者寺社之方も願入候ニ付引合も可有之

処其義無之旨寺社取次野条金平并寺社奉行小須賀貢沙駄有之候
得共是迄引合之義無之ニ付兩願ニいたし候事哉下方承り糺候所町
々々ハ神主へ願候義ハ無之組頭共一名ニ而野台指出候義当役所へ
相願候段相認届候計ニ而尤右ニ付御賽銭として銀札拾式匁相納候
迄之義ニ而年寄共取計候義ニ而無之旨申出候付其段小須賀貢并
達候所甚不承知ニ而猶又社方可相糺由被申聞候同廿五日野条金平へも之旨申達候候

九月廿日 快晴

一毛受時治義一昨日野台警固罷出酒ニ給酔昼頃之警固不相勤ニ階町
御門番所へ遁入夜ニ入候迄臥居候由甚不埒之趣ニ付相糺中相慎居
候様小頭へ申付候依之加人老人大目附へ申達候所飯島作右衛門来
一坪井瀧口与次右衛門之吉井要助交代ニ来候段例年之通案内書状来
及相答候

一尾州和田郡島崎之内寺元村陰陽師高橋伊豆例年之通来候段新魚町
三沢屋喜八郎宿切手差出候

一牢舎人関助病氣申出大年寄へ申付候所岩佐孝順へ申付候十四日休業
一牢舎人幾助病氣申出大年寄へ申付候所右同断右同断

一去ル三日太田舎人今被相達候追廻之辺川土手ニ枕土手並之通被仰
付被下候様願出候得共銘々之難義を防候義ニ候得者上江もたれ候
筋無之而役へ考被仰付候義ハ下方ニ而割合等差出候様御合之旨御
達之趣余之御不憐愍甚御失言之被仰出ニ付今日舎人宅へ相越存寄
委細申達候所御尤之由何分同役共遂相談可申旨挨拶ニ候

九月廿一日 快晴

一御用日登城申上候御用向無之

一 小須賀一学殿今日被為召御中老格御城代役被仰付御上下御小袖被下置候尤町方へ相触候

一 鍛冶場土手下御船蔵脇川原地面ニ町分持之飛地東西三拾五間老尺

南北八間右地面八軒ニ割卷ケ所ハ古船頭小屋有之当子持手無之空地ニ相成殘七軒ハ持主有之何も半役ツ、付町方菜園地ニ相成居候

所追々川瀬北へ寄御登七米積出候川原地面無之差支候ニ仕右地面

西ノ端川戸西口下口船本屋〇持之地面右船頭小屋之空地と引替ニ

致度旨勘定奉行栗田辰右衛門申聞候付下方へ申付庄屋年寄立合地

面相改絵図指出猶郡代^江も遂相談候処故障無之ニ付其段御用番伺

濟ニ付大目附へも達置右船頭小屋空地四間ニ八間丈船本屋まんへ

替地申付候段申渡引替相渡候様大年寄へ申渡候

一 伏見町田邑屋宇左衛門弓削へ之出先達^而願濟之処明日出立仕度旨

申出添簡相渡候

一 摂州兵庫水車受負人代成尾屋善右衛門油屋庄左衛門菜種問屋羅屋

吉三郎^井下人老人召連來候付廿日計逗留為仕度願元魚町紙屋助右

衛門差出承り届其段御両所へ相届^{十月七日場ル}

一新職人町竜程後家借屋住備前屋文治娘しけ義御領分東北条郡下横

野村新吉妻ニ指遣度人別除願下方引合相濟候段申出承り届

一 牢舎人政女病氣申出大年寄へ申達候所岩佐孝順へ申付候^{十月五日候}

九月廿二日 曇

一 明日御出之御差合被為在ニ付宮川御門の追廻し土手筋鍛冶場橋迄之間庖瘡人之有無相糺申聞候様中奥目附飯役海老原源三の昨日申

聞猶又今日も後藤郷助の催促申來候処材木町万屋借屋^若三四人

も有之候得共其外土手筋^若無之旨申出其段郷助へ申達候

一 明廿三日五半時御供揃^而御川狩御出被仰出候旨太田舎人の通達

有之候

一 御蔵米六拾三匁 町米五拾九匁

一 大目附太田舎人の明廿三日五半時御供揃^而二ノ宮辺御川狩被仰

出御道筋宮川御門の追廻し土手通鍛冶場橋の川向^江御通行被成御

帰御船^而鍛冶場迄御帰り被成夫の御出御道筋之通土手通り追廻

し宮川御門へ御帰被成候段被仰出候依之御船之義ハ御船奉行へ被

相達候間御波戸場之義宜取計候様申來中奥目附郷助の同様ニ申

來候ニ付大年寄^井小頭へ先格之通申付候尤御船奉行渡部相馬のも

御波戸場之義申來候

一 御領分東南条郡沼村平治後家^井孫龜右二人西新町木屋与次右衛門

引受度人別人願下方引合相濟候段申出承り届

九月廿三日 晴 時雨

一 御用日之処終日御出ニ付御用所無之仍^而不罷出候

一 今日之御川狩^而も被成候様御沙駄ニ付左候得^若御船鍛冶場迄

引上ケ候得^若御手間取被成候ニ付^而御波戸場被仰付候様御船奉

行の御伺有之由ニ御蔵元申出右ハ横山分の可拵^答答^答ニ^而町方取計

候先例無之ニ付郡代所へ及通用候処郡代所^而も承り合有之候処

未夫々達し無之候得共指懸り候^而ハ難出來ニ付拵置候様ニ申來未

御不定之義ニ候得^若鍛冶場^而も拵置候様大年寄へ申付候

一 今日之御出二ノ宮之方^若御早く御下り被成丸洲迄御出被遊横山路

〆御歩行^ニ 而 鍛冶場土橋へ御通行被遊御出之道筋宮川御門へ御入
被成候由御先弘伝藏幸治届出候但七半時御帰被遊候

一 御赦之御差含^ニ 付牢舍人取調書大目附へ差出

一 牢舍人山形屋才之丞療治二廻り相済未相勝候^ニ 付猶又中島宗元へ
申付候段双方〆届出候

一 德守宮祭礼前日野台醫固之組安藤丹後殿^ニ 而 不束之義も有之候哉
之様^ニ も粗相聞候所今日執権長谷川此右衛門〆小頭文蔵呼^ニ 来同
心組運參^ニ 而 野台芸隙取不束之旨得御意置候所何^ニ 御挨拶も無之
如何之義哉と察度有之候^ニ 付如何様運參之段被仰聞候得共格別運
參ハ不仕尤御屋敷^ニ 而 御弁当御酒被下右之間之義候得^ニ 御断^ニ 可
及義も無之旨申出候付不及其義段申述候所左候ハ、主人^ニ 可申聞
旨此右衛門申候由文蔵申出候^ニ 付丹後殿^ニ 參り直^ニ 内々承り候所
丹後殿〆ハ酒被下候挨拶^ニ 来候哉御尋有之候由咎筋之義^ニ 而 ハ無
之旨被仰聞候付其段文蔵へ申付尤其節安藤山田小須賀川上^ニ 而 御
酒出候由^ニ 付右四軒御礼^ニ 罷越候様文蔵へ申付即刻差遣候然ル所
此右衛門来右一件拙者聞込違之義も有之哉^ニ 丹後被存候間右為御
挨拶罷出候段申聞候^ニ 付入御念候義と及答相済候

九月廿四日 快晴

一 同心組石名伝藏神田栄治川端又六小野田為治川端幸治五人引籠候
ニ 付加人四人目附へ申達候処荒木源四郎山形林蔵真北岩蔵福田
政助来

一 八出村天神宮宵祭^ニ 付川原町東詰^ニ 例年之通揚挑灯差出候段届出
候且又廿七日^ニ も稻荷宮宵祭^ニ 付右同所^ニ 揚挑灯指出候段届出候

一 中奥目附渥美源五郎〆来ル廿六日御仏詣之御指含^ニ 付細工町藪田
町西今町三町^ニ 疱瘡人之有無尋来大年寄へ申付候所三町共^ニ 有之
段申出其趣及返答候

一 兵庫油方之もの共此間来候^ニ 当所之穿鑿^ニ 来候^ニ 而 ハ無之久世之
淀川屋清次と申もの大坂へ馴合姦曲之悪巧いたし候付右為吟味来
候事^ニ 而 候由蔵合孫左衛門書面を以申出其段御用番中へ御内々及
御沙駄置候

一 同心組共中山百蔵不埒有之由^ニ 而 一味徒党いたし百蔵不埒と申出
候得共聡といたし候義も不相聞候^ニ 卒忽之申立之旨再往及異見候
得共不致承引既^ニ 今日ハ五人迄宍度^ニ 引込候次第^ニ 付不得止事候
ハ、宍度暇遣候様成行候程も難計此段ハ不及御届義^ニ 候得共品^ニ
寄一同^ニ 暇遣候得^ニ 目立候義^ニ 付此段御内々及御噂置候段御用番
大目附へ及御噂置候

九月廿五日 晴

一 御用日登城

一 御代官大和新之助殿支配所播州^{（播磨）}完栗郡備後村新次郎惣惣兵衛夫婦
式人西今町橋本屋儀八役介^ニ 引受度人別人願例之通取計済^{（十月八日付）}
一 生野御代官布施孫三郎殿支配所当国西々条郡番麦尾村十右衛門倅
菊五郎一人上紺屋町作人清助役介^ニ 引受度願右同断取計済^{（十月四日付）}
一 小性町杉屋七兵衛借屋住しつ方へ去ル十四日夕盜賊遁入衣類五品
代式拾八匁之品被盜取候届書触流候義御聞濟^ニ 付大目附へ差出町
触取計済^{（十月六日付）} 觸^{（觸）}之旨届出候

一 林田町番々登屋六之助借屋住音七義六月七日出奔届出百日尋申付

候所弥行衛不相知除帳願例之通取計済

- 一 隆照院様御初入年寛保二戌年之御檢約触^并明和五子年頭徳院様御初入年被指遣候御儉約触差出候様大目附佐々木主馬^三浦十郎左衛門へ先達^而伝達有之遂吟味候処明和五年之触ハ有之候得共寛保二年之御触扣ハ役所^并大年寄^二も無之候^二付大年寄場合^二而下方遂吟味候処小性町屋根屋喜助致所持居写差出候付右両通共大目附佐々木主馬へ指出候

- 一 伏見町田邑屋宇左衛門弓削へ出訴添簡遣候所昨日返書取罷帰り公儀被仰出^二付不取上筋と返書申越不札之返書^二付右質入之詛江戸御留守居へ尋遣候上^而又々可及懸合哉之旨御用番中へ相伺候候其通^二取計候様被仰出候

- 一 林田上之町御作事預り屋敷^二居候作人卯之助^并同人父幸助^并卯之助妹右家内三人林田町備前屋武兵衛方へ引受度人別人願承り届
- 一同心組争論出来^二付不残呼出し相糺候

九月廿六日 晴風

- 一 西今町直屋孫四郎父市郎左衛門義京都鳥丸返六角下ル二文字屋九兵衛方へ四十五日計之逗留^二而明廿七日出立仕度願大年寄共承り届指出^{十月十九日届}

一 牢浚申付候所無別条藤四郎兵治届出候

- 一 牢舍人吉五郎療治今日^{十月十五日}植月友輔へ申付候段届出候^{十月十五日^并替替出候^三中付}
- 一 明廿七日九時御供揃^二而杉山御茸狩御出被仰出御道筋表御門^三山田殿後通り宮川御門夫^三宮川橋東渡り詰^三南へ土手通り八出渡場夫^三御順路御出被成候旨中奥目附出九太夫^三通用有之例之通大年

寄へ申達小頭へも御先払之義申付候

- 一 奈良今井町墨屋伊兵衛手代源介一人例年之通筆墨白粉売^二来候段新職人町松の屋十右衛門宿切手指出^{十月廿三日届}
- 一 中之町三室屋惣兵衛所持仕候他国受酒株去酉十月^三安岡町鶴屋茂兵衛借受居候所又候来亥九月迄借受度願承り届^{九月迄借受}
- 一 御領分西北条郡山北村善藏娘充同孫延右二人坪井町備中屋定吉妻^二引受度人別人願下方引合相濟候段申出承り届
- 一 勝間田町栄屋与三左衛門娘常義御領分大笹村安黒政太郎妻^二指遣度人別除願右同断申出承り届

九月廿七日 晴

一 御用日登城

- 一 伏見町田邑屋宇左衛門弓削へ致出訴候処右質物一件ハ取上ケ^二不相成旨申越候^二付山林田畑家屋敷等之出入可取上と不取上と之詛合如何之義^二候哉と田中幸助へ問合之下案相認御用番中へ相伺候所思召無之^二付右弓削^三差越候瀧六郎太夫返書写と宇左衛門方へ取置候証文写指添今夕之御飛脚便^二田中幸助へ差遣候

- 一 九時御供揃^二而杉山御茸狩被為入御先払源四郎岩藏差出候所暮過御焼灯^二而御掃被遊候由御先払届出候但八出御渡船場御紋御焼灯ハ不差出先格也

- 一 大熊鞆負殿御年寄役見習大橋十太夫御年寄当役被仰付大目附^三演達^及有之御用所へ罷出御悅申述之尤年寄共へも例之通為相知候
- 一 三船藤四郎萩野喜和右衛門兩人今朝^三引込候^二付加人式人大目附へ申達候所山本治三郎土井島右衛門来

一 林田上之町又兵衛妹沢義船頭町新屋伊三郎妻ニ引受度人別人願下

方引合相濟候段大年寄申出承り届

一 島田軍治兵衛娘先義去々申十二月上紺屋町渡部玄端妻ニ引受候所

離縁仕度人別除願聞届

一 黒田要人殿添御城代役今日御免被成候由大目附合演違有之候

一 勘定奉行栗田辰右衛門当暮大坂御用出坂被仰付候

九月廿八日 晴

一 中奥目附出九太夫今明後晦日御仏詣御差含ニ付細工町今町蘭田町

癩瘡人之相糺候様申来大年寄へ申達相糺候所何れ之町ニも式三人

ツ、有之旨申出其段及返書候

九月廿九日 快晴

一 御用日登城申上候御用向無之

一 今日ハ御家中素説被為聴候付御用所退出無之而も引取候様大目附

合違有之

一 小頭於宅左之通為申渡候俱去ル廿五日夕時出候段其不敬有之候

其方義及過言其段申聞候而も断も不申出 同心組川端又六江 申渡

全躰上を不憚趣不敬至極之事候

依之永之暇差遣候尤以来役所出入差構候

右之段大目附太田舍人江及噺置勘定奉行へも及通用候処同人義扶

持方之取越有之給米ハ不足有之右差引ノ左之通御蔵へ致上納候様

近藤伊左衛門合申来即刻小頭へ申付候

式斗九升六合五勺六才

一 半舍扶持五俵之内貸証文差出奥書印取計之

九月晦日 快晴

一 下紺屋町長江朝庵義因州若桜近江屋周助方へ四十五日計之逗留ニ

西 朔日日出立願大年寄承り届指出十一月九日始ル

一 下紺屋町一文字屋市六義去々申ノ八月真島郡垂水村高崎屋芳右衛

門方へ奉公罷越候処限年ニ付罷帰候段届出候

一 播州姫路大津屋文蔵と申もの用事有之中之町福茂屋武兵衛方へ来

候付三十日計逗留為仕度願承り届十一月三日計之逗留日延願出十一月廿三日始

一 関貫番質銀例月之通相渡候

十月 小

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 黒田要人殿

大目附 黒田忠三郎

三行名

大年寄 蔵合孫左衛門
諸吟味 宮田喜左衛門

十月朔^巳 快晴

一 式日^井御用日^ニ付五半時揃登城於宮島之間例之通御目見被仰付當日御祝儀申上候事

一 安岡町岡崎屋善吉後家借屋家守作人太助役介柳助義五月九日出奔届出尋申付置候所行衛不相知最早百日余^ニ相成候^ニ付除帳願例之通取計済^{九月改^ニ入}

一 札元山本三右衛門義忌御免被成候間明朝^ハ出勤候様御用番中被仰出其旨大目附^江達置先格之通忌御免之奉書指遣候其段大年寄へも申達候

一 札元武田七郎兵衛孫死去仕七歳未滿^ニ付今日一日遠慮引込候段大年寄届出候^ニ付其段御用番^井大目附へ相届候

一 孤独吹屋町木屋喜助借屋住嘉兵衛義八拾貳歳^ニ罷成一昨年申四月^ハ孤独扶持被下置候処病氣指重り候段届出為見分出番寺坂兵治差

向見改候所老病^ニ相違無之看病も行届候趣^ニ而見分一札^井容鉢書取罷帰候処無程落命仕候段届出候追^而可及御沙駄候

一 玄猪御祝御手餅被下^ニ付七半時揃登城御家老^ハ大役人迄泥引之御間御上段^ニ而御手自頂戴之月並小役人^ハ御徒格迄^ハ御目通柳之間御縁座敷^ニ而自身頂戴之尤芥子之間御縁座敷這入口^ニ而脱剣仕御縁座敷通りを柳之間^江罷出西側^江付御右之方へ罷出頂戴之仕右へ廻り引取候尤御礼申上無之

一 加人寺坂兵治御用^ニ付為代橋本惠助来
十月二日 晴

一 御蔵米 六拾三匁五分 町米 五拾九匁五分

一 同心組中山百蔵義不埒有之旨^ニ而仲ヶ間致一統卒忽之申立有之加教諭候得共我意^ニ募一同引込不届至極之処一同誤入候段小頭を以歎出候^ニ付承り届指免候段申付候所今日出勤仕候^ニ付小頭宅^ニ而左之通申渡之尤右一件取計之趣大目附太田舍人^江内々及噂候

一 其方共義今般仲ヶ間一統申立候筋有之
理解申聞候得共我意^ニ募一同申合引入候
始末全上を不憐^ハ処^ハ右鉢之及
支義上^江対し不敬之至不届至極^ニ付
急度可申付処何^成心得違不調法之段
誤入候旨一同相歎候^ニ付此度ハ格別之憐
川端幸治
石名伝蔵
三船藤四郎
神田栄治
小野田為治

一 前後ハ右同文言^ニ而中^ニ左之文段相加へ候
其上其方義者兼々嚴重^ニ申付置候町廻り 萩野喜和右衛門

去ル九日之夜不相勤候段申付を相背重々不届至極^ニ付

一其方義今般仲ケ間一統申立筋有之

毛受時治

理解申聞候得共我意^ニ募候始末全

上を不憚処^ハ右躰之及支義上へ対し不敬之至其上其方義^者

兼々過酒之義急度申付置候所徳守宮祭礼之砌及過酒野台

警固をはづし重々不届至極^ニ付急度可申付所何^及心得違不

調法之段誤入候旨一同相歎候^ニ付此度ハ格別之憐愍を以追

込申付候已来急度可相慎候

一其方義内意之趣承り届

中山百蔵

番代申付候急度御用^ニ相立候もの可願出候

一右門義明日被為召候旨一名之御奉書到来仕候

一今日五時御供揃^ニ而北東在^江御茸狩御出被遊候由^ニ候

十月三日 晴

一御用日^并右門義被為召候^ニ付例刻登城

一於焚火之間御用番中^ハ左之通被仰渡候

俾其衛義槍術出精之旨達御聴一段之事^ニ候

右為御礼御用所へ罷出申上之引懸ケ大目附^江も同断尤俾不及廻勤候

一大目附太田舎人^ハ去ル十五日浚明院様御年回^并御初入^ニ付御赦取

調伺候様被仰出候得とも御初入^ニ付御赦ハ不被成候間以来左之通

^ニ相心得候様達有之候

公儀御代々様御手前御代々様御年廻之砌ハ御赦被仰付候間以

来ハ被仰出無之共取調相伺可申若又御赦取計もの無之候ハ、

其旨可届出候

一大目附中引込多^ニ付暫之間月番ハ当番持^ニ被致候間諸事役名^ニ而

御城^江申越候様小須賀貢被申聞候

一此間差出置候御赦調書大目附中下ケ札有之候^ニ付尚又下ケ枚いたし指出候

一大目附廻状到来左之通町中組中へ相触候

西丸御老中水野出羽守殿去月廿日御卒去被成候依之今日^ハ明

後五日迄三日之内鳴物高声停止被仰出候尤普請ハ不苦候

一加人山本治三郎忌中引込^ニ付為代佐藤亀治来^而六日治三郎出動^ニ交代いたし

一御払米三百俵 正銀六拾三匁六分三厘 落札綿屋左助

一御蔵米 六拾三匁五分 町米五拾九匁五分

一兵庫灘目^ハ油方之もの三人来候^ニ付宮田喜左衛門差出今般ハ如何

様之義^而来候哉且又大坂^ハ絞油相廻候様他領油屋^江申懸ケ候

由^ニ相聞候右ハ如何之訳^而候哉と為相尋候処今般ハ他領油屋共

久世淀川屋清治と申もの、悪巧^ニ被引込大坂^江手を入絞油杯可相

廻と懸合候由^ニ付右不埒を糺^ニ来候義^而御当地ハ御仕向宜難有

義^ニ御座候元^ハ兵庫引受之御国^ニ候得^而大坂^江絞油可相廻謂無之

大坂^ハ如何様^ニ申懸ケ候共不及御貪着義^而年分大坂油多少不限

買受商買いたし候得^而大坂^ハいろいろ候事ハ決^而不相成義^ニ御座候

先達^而大坂^ハ呼^レ来候節御出無之呉々も御仕向宜致大慶候由申聞

候旨喜左衛門^ハ弁書指出候追^而可及御沙駄事^尤四日御用番中へ差出候

一林田出火之沙駄有之火之手ハ不見候得共御貸馬来無相違趣^ニ付五

ツ半時頃致出馬候処西新町馬持升屋長治裏土手端之納屋^而一字

致焼失最早及鎮火居候ニ付火消之面々例之通会尺引取懸ケ御用番中へ相届大目附^江 *手紙^ニ 而御城^江 相届候尤四半頃帰宅仕候

十月四日 晴

一西新町升屋長治昨夜之出火手あやまりニ無相違旨届書指出候付先格之通三日追込可申付何書指添御用番中へ指出候処夜ニ入何之通被仰出候

一元魚町北関貫番人彦治定右衛門一昨夕九時前小門開置兩人共不居合旨廻り之組者申出大年寄へ札申付不埒之義^ニ *候得共不得止事暫時明ケ置候様之義^ニ も候ハ、場合切^ニ 叱置以来急度不埒無之様申付候様申達候所其旨^ニ 取計候段届出候

十月五日 晴

一御用日登城

一大守様御用所へ被為入三奉行一同罷出候

一出火御咎昨晚何濟^ニ 候処夜^ニ 入候^ニ 付今朝大年寄宅^ニ 而左之通申渡之但小頭不差出例也

手過子致出火不埒^ニ 付追込申付候^也 西新町 升屋長治

右今朝取計候段出仕之上御両所へ相届候

一御代官重田又兵衛殿支配所当国大庭郡久世原方朝野屋佐兵衛役介いく義一人西今町角屋徳兵衛役介^ニ 引受度人別人願例之通取計濟

同八日住宅修文出届

一中興目附仮役藤井嘉津馬今明日御出之御含^ニ 付宮川御門今追廻し通銀治場橋迄之間抱瘡有無相糺候様申来大年寄へ申達候所材木町万屋借屋^并 橋本町土手端^ニ *有之候へ共其余船頭土手筋^ニ *無之段申出其段同仮役海老原源三^江 申達候所明六日五時御供揃^ニ 而

杉山辺御鹿狩御出被仰出御道筋官川御門今追廻し土手通銀治場へ御往来とも被為入候旨通用有之大年寄へ御道掃除^并 辻堅等夫々先格之通申付小頭^江 も御先私申付候

一牢舎扶持仕切証文指出五拾八俵受取候処五俵壹斗五升七合五勺返返有之候^并 拾四俵之内貸証文指出兩通共奥印書取計之

一大坂谷町二丁目御代官池田仙九郎殿手附奥野右源太手代上野戸作今例年之通米相場書頼来旧例之通及返書

一大坂長沢清左衛門今書状到来菜種御届之義ハ逐一致承知候^ニ 付追而可申越且又大坂油屋共今御蔵屋敷へ願書指出当所油屋共不埒有之^ニ 付油方引受之三人之もの共呼出呉候様申出候願書写指越宜取計候様申来候^ニ 付何分下方存意承り札返書可伺旨紙面を以御用番中へ差出候処翌六日伺之通被仰出候

一御払米三百俵 正銀六拾三匁叁分三厘 落札綿屋左助

一御蔵米六拾三匁五分 町米五拾九匁五分

一京都易者下村右膳逗留願九月五日元魚町笹屋友治家守松江屋勝左衛門差出候処猶又二十五日計逗留願指出承り届^{十月廿日届}

一備前岡山中之町五明屋八郎兵衛手代全兵衛一人例年之通元結卸売来候段新職人町松の屋十右衛門宿切手指出^{十一月二日届}

一播州網干新在家村加賀屋善七手代善兵衛一人例年之通小間物卸売来候段西新町山家屋利右衛門宿切手指出^{翌年正月十二日届}

一播州加藤郡三木町形屋与兵衛手代藤兵衛一人例年之通紺屋形売^ニ 来候段右同人宿切手指出候^{右同前}

十月六日 快晴

一五時御供揃^ニ 川向へ御鹿狩被爲入御先弘源四郎政助差出候所御
機嫌克暮過御帰被遊候段届出候

一御使組山本治三郎義致出勤候付佐藤龟治と引替候段申来候

一徳守宮祭祀之砌加人御使組河村新吾及過酒警固不相勤由^ニ 付其段
勘定奉行中^ニ 及通達候所追込申付候得^テ 不伺候てハ難取計同心組
時治義ハ無伺取計之義^ニ 候得^テ 同様之事^ニ 而一人計伺候も如何哉^ニ
も大目附中も被申聞候間急度叱^ニ 而も可然哉と平井半平相談
有之随分存寄無之旨及返答候

一西今町湯田屋太郎左衛門義菜種買子川向熊吉と申ものと及出入内
濟不相整願書指出郡代所へ懸ヶ合候所猶又兩役場合内濟申付度
申来其旨申付候

一西川役人平沢助八大谷代藏今例年之通米相場書頼来及相答候
十月七日 快晴

一御用日登城申上候御用向無之

一射衛御覽有之候

一御払米三百俵 正銀六拾貳匁七分六厘 落札岡崎屋伊兵衛

一御蔵米六拾三匁五分 町米五拾九匁五分

一牢舍人山形屋才之丞義未相勝猶又中島宗元へ療治申付候段双方
届出候 同十四日休業

一札元塩屋清右衛門義同居之伯父文藏と申もの死去仕候付定式之服
忌廿日引込候段届出御用番中へ相届大目附へハ翌八日相届候

一兵庫水車受負人代成尾屋善左衛門油屋庄左衛門業種問屋灘屋吉三
郎義先月廿一日来候所用事相濟今朝出立罷帰候段紙屋助右衛門届

出御用番中へ相届大目附^ニ 翌八日相届候尤他領油屋共不殘相誤
詫言いたし誤一札取済し帰候由也

一大坂長沢清左衛門油屋共今当所油方三人之もの共
呼出呉候様願出候書面大年寄^ニ 相渡弁書指出候様申付置候所春以
来之懸ヶ合之大意相認面段之趣意申越候ハ、可能出旨及返書候所
甚立腹^ニ 而最早三人之もの共へハ不懸合旨手切之挨拶申越候趣相
認此趣を飛脚を以兵庫吉三郎方へ申遣同人返書承り候上^ニ 而大坂
へ御返書有之候様仕度旨申出候付其段翌八日御用番中へ相伺候
一牢屋下番中間久五郎引込候付今日今加入取候段清右衛門届出候
同十四日出候届出候

十月八日 雨

一同心組為治栄治藤四郎伝藏幸治追込今朝差免候依之加人政助島右
衛門作右衛門源四郎恵助五人指戻候段大目附へ相届候尤右同心組
追込日数甚不足^ニ 候得共此節至^ニ 而御人私底御用御差支^ニ 付何卒早
々指免候様^ニ 相成間敷哉と昨日大目附上原彦藏被申聞候付俄
指免候

一西新町升屋長次追込昨日迄^ニ 三日^ニ 相成候付今朝指免其段御兩所
へ相届候

一大目附太田舍人今明九日五時分御出被仰出候付御用所出席無之旨
通用有之候

一油方之義今般久世淀川屋清次と申もの不埒有之兵庫今先日日来居候
水車方^ニ 灘屋吉三郎今相糺候趣当所油方之もの立会候由^ニ 而他領
油屋共一札^ニ 淀川屋清次油屋へ懸合之書類等写指出候^ニ 付御用
番中へ指出候

一 大坂長沢清左衛門へ此間返書當所油方之もの呼出呉候様大坂油屋
の願出候旨致承知猶相札候上可及返書旨今晚之御使ニ申遣候

十月九日 雨

一 大目附太田舎人の今日之御出雨天ニ付御延引被仰出依之御用所出
席有之候段申来依之例刻登城申上候御用向無之

一 痲瘡ニ而 死失多由ニ付先月之死失人員數調差出候様此間丹後を被
仰聞依当正月の九月迄之死失調書指出候尤大躰平月均し十人計之
生死ニ候処九月ニ^ニ死失人六拾人有之候

一 油方之義去ル五日申付置候大坂へ差遣候弁書同日指出御用番中へ
差出兵庫灘屋吉三郎義最早罷歸候付右清左衛門の差越候大坂油屋
の御屋敷へ差出候願書写^并右弁書飛脚を以吉三郎へ一ト通り為見
候上^ニ而 大坂へ被指遣候様仕度旨申出其段申上置候処右弁書文段
ニ思召有之少々ツ、致添削候処其趣^ニ而 吉三郎方へ相談ニ遣候様
被仰出其旨大年寄へ申遣候

一 左之もの共備前札取遣りいたし候付先日御裁許伺置候処今日伺之
通被仰出左之通申渡之

備前札取遣りいたし候付其員數 鍛冶町 鍛冶 松兵衛
式錢目取上ケ手錠懸ケ追込申付候但日數十日
右小頭文蔵出番為治大年寄宅へ差向申渡之相渡候段御所へ相届
候

一 大目附廻状左之通到来

御近習外様分別之義先達^而被仰出候処以来出会御免被成候
一 太神樂岡田忠太夫例歳之通昨晚来候段届出候付仕之上大目附へ

相届候

一 米相場書御近領へ相廻し入用ニ付例歳之通青繩油紙指札大目附上
印取之大納戸の受取之^并御作事^江も挾板申遣候

十月十日 雨 昼後晴

一出懸り^ニ而 小頭文蔵立合左之通申渡之

部屋目附役申付候万端入念可相勤候 三船藤四郎

一來ル十二日御給米役料等相渡候段御蔵奉行の申来小頭へ申渡

十月十一日 快晴

一 御用日登城

一 懸ケ合問屋御指留被成候^而も可然旨弁書指出候

一 大坂長沢清左衛門の書状指越先達^而申越候伏見屋幸右衛門の二文
字屋嘉左衛門へ相懸り滞金出入今以否不申越候間御番所へ可訴出
哉と申出候ニ付今一応否申越候上^ニ而 訴候様ニ清左衛門指留置候
趣申越候ニ付御用番中へ指出候

一 御役替有之 御物頭石田新治 御小納戸大沢長平

御小性御近習勤永井要蔵 奥御用取次村山半八

一 御廻米初積取計候由御蔵元届出候

一 御払米三百俵 正銀六拾壹匁七分六厘 落札小倉屋茂兵衛

一 御蔵米 六拾式匁 町米五拾八匁

一 戸川町北側^ニ而 野本屋藤右衛門家屋敷表口式間裏行拾七間但半役
也東隣ハ永野屋多助西隣ハ野本屋藤右衛門居宅也右家屋敷代銀札
式百目ニ相極町内中屋庄兵衛へ売渡度願承り届^{四日宛致候}
一 中奥目附飯役海老原源蔵の明後十三日御仏詣之御積ニ候処細工町

蘭田町刃疮瘡人ハ如何哉承リ糺候様申来相糺候所阿町共ニ有之段
申出其旨申達候

十月十二日 快晴

十月十三日 快晴

一御用日登城申上候御用向無之

一大目附上原彦藏ハ昨日手紙ニ而御赦取計於御寺有之候節出役不相
知候間調出候様申来取調候処宝曆二年十一月十一日智円院様御法
事御当日於泰安寺盜賊長治郎と申もの助命取計之諸出役有之候例
書日記之通認差出候

一大坂長沢清左衛門ハ差越候伏見屋半右衛門ハ二文字屋嘉左衛門ハ

滞銀催促之書状御用番御戻被成候ニ付其段嘉左衛門ハ申付否返答
申出候様ニ申達候

一御払米三百俵 正銀六拾貳匁七分七厘 落札綿屋与七郎

一御蔵米 六拾貳匁 町米五拾八匁

一牢舎人新八病氣申出大年寄ハ申達候処修格ハ申付候段申出體又廿七日指
三ハ申付候

一牢舎人吉五郎義追々病氣差重り候段申出御所ハ申達候

十月十四日 快晴 夜雨

一今日劍術御覽有之候由

一郡代所ハ無宿盗人刀藏召捕候ニ付入牢手形相廻り右手形認かハ出

番時治差向取計之

一牢屋下番中間久五郎出勤届出候

十月十五日 雨

一式日ハ御用日旁ニ付五半時登城例之通於官島之間御目見申上之尤

申上候御用向無之

一山田主膳殿来春御參府御供被仰付大橋十太夫殿来春出府被仰付候
由大目附ハ演達有之一同罷出候節御所御悅申述之候

一三奉行一同被為召七時頃ハ於備中櫓御酒被下置夜ニ入退出仕候

一御払米三百俵 正銀六拾貳匁六分五厘 落札甲屋幸助

一御蔵米 六拾貳匁 町米 五拾八匁

一二町目富屋倉治仕来候式步中買株坪井町井ノ口屋利兵衛讓受相勤
度願承り届

一林田中之町備前屋太兵衛仕来候式步中買株同町久屋安右衛門讓受
相勤度願承り届

一二階町組屋忠右衛門所持之自国受酒株当六月坪井町万屋佐助ハ貸
置候所此度取戻し中之町秋田屋宗兵衛ハ相讓度願承り届

一二町目福永屋栄三郎所持之他国受酒株当戊十月ハ来亥五月迄八ヶ
月之間坪井町万屋佐助借り受商売仕度願承り届其間五月六日取戻候

一牢舎人吉五郎義追々病氣指重り晩方落命仕候段届出候付御用番中
ハ相届大目附ハも申達右ニ付明朝死骸為見分御徒目附被指出被下
候様申達候所明四時御徒目附下目附可差出旨申来り其段小頭ハ申
達牢屋ハも人足指出置候様申付候

一萩野喜和右衛門義嘉七と改号仕度伺書指出承り届

一牢死人吉五郎死骸為見分御徒目附吉村要藏下目附土井左市同心組
小頭江原文藏部屋目附三船藤四郎立合遂見分候処病氣相違無之旨
届出候ニ付其段御用番中ハ申上先例之通川向惣墓ハ取捨可申付相

十月十六日 晴

一牢屋下番中間久五郎出勤届出候

一式日ハ御用日旁ニ付五半時登城例之通於官島之間御目見申上之尤

一今日劍術御覽有之候由

一郡代所ハ無宿盗人刀藏召捕候ニ付入牢手形相廻り右手形認かハ出

番時治差向取計之

一牢屋下番中間久五郎出勤届出候

一十月十五日 雨

一式日ハ御用日旁ニ付五半時登城例之通於官島之間御目見申上之尤

一今日劍術御覽有之候由

一郡代所ハ無宿盗人刀藏召捕候ニ付入牢手形相廻り右手形認かハ出

番時治差向取計之

伺候処伺之通被仰出其段申達取計相濟候旨届出候。付其段御所
へ相届候

一 大年寄於宅部屋目附藤四郎差出左之通申渡之尤小頭故障。付不指
出候且又取計濟御所へ相届候

雲州九市事六左衛門と申もの雲州 桶屋町桶屋市右衛門

而御尋もの、処出処も不相札引 同人役介市之丞
受人別人願出不埒至極候
依之追込申付候但日数十日

右同断。付追込申付候但日数五日 同人組合

右同断。付追込申付候但日数三日 右町役彦市

右同断。付追込申付候但日数三日 右九市事六左衛門請人
元魚町松江屋勝左衛門
桶屋町水内屋半八

一 久世御代官重田又兵衛殿手代曾根源治郎板本宗八飯沼才次郎。例
年之通米相場書頼来月取。被指越候様及返書候

一 先達。以来疱瘡一般致流行候。近來死失多旨達上聽思召を以八幡
宮地藏院石松院三ヶ所。おゐて御祈禱被仰付候旨伝承仕思召之段
難有義。付大年寄と申談御札被下置候ハ、町々へ頂戴為仕段大年
附へ遂内談置候。今日三ヶ所之御札都合三拾三枚寺社奉行小須賀

貢。相廻候由十郎左衛門。伝達有之大年寄へ相渡候。然ル所為右
御札大年寄諸吟味。町々年寄共も罷出候

一 明十七日五半時御供揃。而地藏院へ御社參被仰出御道筋田町御門
。被為入候段中奥目附渥美源五郎。通用有之元魚町二階町関貫。
町役相詰候様大年寄へ可申達所自分義致失念候得共御出之御様子
元魚町。奉見。御間を合候所大年寄申出自分不調法之段申達元魚

町。御間を合候段賞之申渡候様大年寄へ申達候

一 小頭文藏部屋目附藤四郎立合左之通申渡之候

部屋目附助申付候 神田栄治

十月十七日 雨

一 御用日登城申上候御用向無之

一 太神樂岡田忠太夫義小頭文藏迄申出候。御先代様御初入之節。於

御対面所御祈禱被仰付御初尾白銀壹枚被下置候御例も御座候間何

卒当年も被仰付候様奉願候由申出候段伺出其段大目附当番小須賀

貢へ申達候

一 中之町秋田屋宗兵衛所持之自國受酒株当戌十月。来亥十月迄西今

町松田屋佐助借り受商売仕度願承り届。其七月廿九日取戻候

一 元魚町竹本屋全兵衛所持之古道具屋株西新町高松屋多助讓受度願

承り届株札相改相渡候

一 京町疊屋伊兵衛借屋住備前屋勘兵衛伴宇吉義此度渡部宇吉と相改

小須賀一学殿へ出入奉公仕父勤兵衛方。同居仕度願引合之上承り

届

一 御払米三百俵 正銀六拾壹匁四分六厘 落札大黒屋利兵衛

一 御蔵米 六拾壹匁五分 町米五拾七匁五分

一 御代官三浦伴左衛門竹内要左衛門松岡庄三郎。例年之通町作御年

貢為取立町内へ差向候間不埒之者も御座候得。手錠申付候段案内

申来候

一 川端又六御暇被下候。付御扶持方返納米式斗九升余御蔵へ返納仕

相濟候段小頭文藏。届出候

一大目附廻状到来

直姫様御義千霜院様と御改被成候此段為相知候様仰出候

一明十八日六車堅益并桶屋町藤助呼出候付夫々手配申付候

十月十八日 晴

一今五時新左衛門藤四郎榮治立合出番伝藏時治而左之通申渡之

其方義兼々不慎之処而布原村藤八義 北郷門太夫長屋住

但五月廿七日門太夫全受取致

俾左伝方へ罷越及狼藉不埒之至二候依之 六車監益

急度可申付処憐愍を以牢番預ケ指免追込申付候

受人方二相慎可罷在候 但日数三日

新左衛門藤四郎孫左衛喜左衛門出番伝藏時治立合左之通申渡候之

其方義吟味申手錠懸ケ組合預ケ申付候処

左五月十日預ケ申付候

吟味相濟候二付手錠預ケ指免候 桶屋町山城屋千太俵藤助

右兩人申渡相濟候段御両所へ相届尤堅益二申渡書大目附二取二来

指出候

一 目明孫兵衛義病氣二付役免内意小頭を以申出候二付致保養相勤候

様申達ス

一 三町目太刀屋久治義因州鳥取川端三町目独活屋喜左衛門方へ四十

八日計之逗留二而明十九日出立之願大年寄承り届指出候二十月廿七日始

十月十九日 曇

一 御用日登城

一 備前岩梨子郡騷動村助三郎并弟牛右衛門右二人上紺屋町作人久兵

衛引受度人別人願御用番御聞濟二付大目附へ指出置御聞届申達候

同廿六日住宅姓文差出

一 河原町作人定七借屋住善六夫婦二人去西歳雲州二引受人別人奉願

候処此度勝手二付国元雲州秋鹿郡永江村父長吉方へ罷帰度人別除
願右同断取計濟

一 京町永久保屋伊助役介茂四郎義当六月廿四日出奔御届仕尋被仰付

相尋候得共弥行衛不相知最早百日余二相成候付除帳願右同断取計

濟

一 久世御代官重田又兵衛股支配所備中小田郡笠岡村多兵衛娘みき義

材木町竹本屋勘兵衛借屋住因幡屋茂市妻二引受度人別人願右同断

取計濟同廿四日住宅姓文差出候

一 篠山十兵衛殿支配所播州赤穂郡久治村伊左衛門俵友八夫婦二人福

永屋藤助家守戸川町勝屋文助借屋住惣治引受度人別人願右同断取

計濟同廿二日住宅姓文差出候

一 二階町材木屋善六義御堀へ足代下し願差出大目附へ指出候

一 大坂長沢清左衛門二申越候大坂道修町伏見屋半右衛門二京町二文

字屋嘉左衛門へ相懸り滞金御藏屋敷二再出訴仕其段嘉左衛門へ申

付候所内清懸合仕来廿三日銀子少々指登候積二候由弁書指出御用

番中へ指出候所宜取計候様被仰出候付右弁書来ル廿三日御便二大

坂へ可遣積也

一 鍛冶町松兵衛義手錠追込昨日迄二而十日二相成候付今朝藤四郎出

番為治大年寄へ指出し指免候其段出仕之上御両所へ相届候

一 桶屋町年寄彦市追込昨日迄二而三日二相成今朝指免右御断右同断

一 大坂長沢清左衛門二郡代連名之返書指越菜種御届并以来御届種八

拾石余散種二拾石余合而百石余相廻候と御届書認廻し候様案紙差

越御用番中へ指出置候

一 船頭町備前屋喜治郎弟辰藏義当二月廿三日割場中間ニ被召抱候所此度暇出候付入帳願出御中間引合之上承り届

一 鍛冶町桂屋源治博奕参会立帰付入申付置御裁許相伺候処伺之通取計候様被仰出候旨大目附上原彦藏合違有之

一 安岡町松田屋徳兵衛義右同断ニ付御裁許伺置候所右同断之旨右同人合違有之候

一 造酒減石從公儀先日被仰出候所先年も半減又ハ三步一造被仰出其節も初ハ嚴重之被仰出ニも無之所後々不ノリ之趣ニ付嚴敷被仰出近辺之御代官合改候様被仰出其節酒道具焼印いたし相渡候此度も右之通ニ取計候^而も可然哉ニ候得共先久世辺之取計之趣聞合候^而同様取計候も可然哉と存候付其段十郎左衛門へ及対談候上ニ^而御用番中へ相伺候処宜取計候様被仰出候ニ付下方ニ^而聞合候様ニ孫左衛門へ申付候

一 大坂大和屋弥三郎合当所市郷十一人ものへ借金出訴いたし八月廿二日申渡候延々ニ相成最早日限切候間両役合嚴敷申達候所扱人として安岡町明石屋庄七相頼二ノ宮村新藏差添先銘々金壹兩ツ、指遣及扱度旨申出勿論右届書も指出候付御用番中へ三浦合伺之上承り届両役合清左衛門へ添状いたし昨日出立候様申付置候所昨夜ニ至り在方合ハ金子不残相揃へ致持參可申町方合持參少ニ^而不相済旨申懸ケ俄ニ致変化甚取継趣孫左衛門合申出郡代所へ懸合之上兩役合嚴敷出坂申付候所漸翌廿日朝出立届出候但町方之者ハ新魚町初五郎西今町松田屋佐助安岡町山田屋新七同町小倉屋卯吉茅町浅田屋松之助右五人也尤初五郎ハ出奔也

一 終日御出之節^者御用日休日ニ相成候所年内程ハ終日御出ニ^而も御用所出仕有之候間罷出候様大目附合違有之候段平井半平合伝違有之候

一 御小納戸大沢長平合紙面ニ^而御先代様御初入砌於御対面所太神樂御覽被遊候其節御初尾被下何程其外取計方大目附衆合御違御座候事哉又ハ役所合御役筋へ御達申候事哉万端之取計向御手扣等も御座候ハ、委敷御報御申越可被下旨申来日記取調候御初入年太神樂御覽被成候義無之仍^而御晩年迄御在国年日記くり候得共相見へ不申依之大年寄共日記ハ如何候哉と相尋候得共太神樂之義一向不相見旨申出候付其段翌廿日及返書候

十月廿日 雨

一 御小納戸小島定人合紙面ニ^而明廿一日九時御供揃ニ^而御対面所へ御出被仰出候於右場所太神樂御覽被遊候旨被仰出候間岡田忠太夫へ九時御対面所へ罷出候様御達可成候諸事取扱小勘者へ申付置候間右刻限支度等致下宿ニ相扣居候様ニ御申付可被成候宜時分小勘者合案内可致候間其節罷出候様御取計可被成旨申来其段大年寄へ申付候様申達ス

十月廿一日 曇

一 御用日登城申上候御用向無之
一 北郷門大夫長屋住六車堅益呼出新左衛門藤四郎立合追込差免候段申渡之尤近日主人門大夫江引渡候迄ハ受人方ニ禁足いたし居候様申渡之受人千代屋太兵衛へも其旨申渡之右之通取計候段出仕御両所へ相届候

一 桶屋町桶屋市右衛門組合追込昨日迄^二 五日^二 相成候間今朝大年寄宅^二 而指免其段出仕之上御両所へ相届候

一 新魚町金島屋市右衛門悴平吉夫婦二人御領分太田村仙蔵方へ引越度人別除願下方引合相濟候段申出承り届^三 三月三日届町

一 玉置忠四郎当才之悴死去仕候付仰左衛門義一日忠四郎義三日遠慮引込候段大年寄届出御両所へ相届

一 半番足輕上野团助義姉死去仕候^二 付引込候段届出依之加人之義大目附中へ申達候所翌廿二日寺坂兵治来^三 廿四日出動^三 付廿五日兵治指戻候

十月廿二日 晴

一 御蔵米 六拾匁五分 町米 五拾六匁五分

一 京町田原屋伊兵衛義因州鳥取川端三町目独活屋喜左衛門方へ四十五日計之逗留^二 而明後廿四日出立仕度願大年寄承り届^三 十月十日届

十月廿三日 雨

一 御用日登城大守様御用所へ被為人三奉行一同罷出候但十郎左衛門当病^二 付郡代所申上無之段申述候

一 戸川町北丸屋善蔵方へ去ル十八日盜賊這入衣類其外拾六品代^二 積百拾五匁計被盜取候届書市郷触流伺濟^三 付大目附へ申達郡代所^三 也

も及通用触流取計候^三 十一月七日無之段申出候

一 造酒減石被仰出候付久世表取計之義問屋佐右衛門^三 久世郷宿忠平へ聞合候所御触通御達^三 有之候得共酒道具等改ハ無之旨申越候段

大年寄^三 申出候付其段御用番中へ相伺候処其通^三 取計候^三 而可然旨被仰出其旨郡代所へも及通用大年寄へも申達候

一 札元見習島屋弥吉苗字被指免候例大目附^三 尋有之左之通認出候

天明七年十一月十五日見習被仰付同十三日苗字御相印門松被指免候

一 北郷門大夫義今日指扣御免被成候付呼出し門大夫家来へ相渡指戻候

今般一件取計相濟候付主人北郷門大夫へ指戻候

門大夫へ手形相添堅益送り手形 北郷門大夫家来千助

も差戻候

右取計相濟候段御両所へ相届候

△六車堅益悴佐々木左伝義本多左門殿^三 暇出候段大年寄申出候付町分^三 不指置様^三 申達候

一 元魚町松江屋勝左衛門^三 桶屋町水内屋半八追込今朝指免候段出仕之上御両所へ相届候

一 二階町豊屋太助家守長八借屋住作人新八義今般往來中間^三 被召抱候^三 付人別除願書指出御中間頭北島唯七^三 引合之上承り届

一 鍛冶町鍛冶松兵衛他札取遣り過料式匁大年寄^三 相納受取置

一 大坂伏見屋半右衛門^三 再出訴^三 付二文字屋嘉左衛門并書指出今夕之便^三 長沢清左衛門へ相廻候

一 新魚町北側^三 而魚住屋太郎右衛門家屋敷表口式間裏行拾式間但四歩役也東隣^三 八同居宅西隣^三 八角屋源左衛門借屋也右家屋敷代銀式

百三拾匁^三 相極町内亀屋源助へ壳渡度願承り届^三 十二月三日發狀出

一 西今町北側^三 而原田屋佐助所持之家屋敷表口三間半裏行拾五間但四歩五厘役也東隣^三 八福本屋伊右衛門西隣^三 八綿屋全兵衛也右家屋敷質物^三 書人同町米屋理助取次^三 而銀札壹貫匁一ヶ月壹歩五朱之利

足^ニ相定来亥十月切^ニ借用仕度願承り届^{同廿六日既文出候}

一大坂堀江村并由清と申手島流講尺師境町稻実屋義七郎方へ来候間
十日計逗留爲仕度願承り届^{十一月六日始}

一油方一件之義去ル九日大年寄へ相違候大坂へ差遣候弁書兵庫灘屋
吉三郎方へ相談^ニ差遣候飛脚者今日罷帰り吉三郎義存寄無之此趣
大坂へ申遣可然旨申越候由尤少々致加筆候由大年寄指出候明後日
御用所へ可指出事^{同廿九日向之通被仰出候}

一御用取次村山半六^一昨廿一日被申聞候^者太神樂へ被下小勘者方
^ニ而も不相知候^ニ付銀老枚敷三百疋位被下候^而可然もの哉と相談
有之役筋^ニ而も取計例一向無之義故何れ共難申候得共向方^一先年
被仰付候節銀老枚被下置候段手扣^ニ認有之由申候義^ニ候得^者銀老
枚位被下候^而可宜旨及返答候

十月廿四日 晴

一左門殿家来佐々木左伝義左門殿^一暇出候^ニ付早速借屋明^并六車堅
益義北郷門太夫^一受人河原町千代屋太兵衛へ被引渡候処同人義讚
州之もの^ニ付讚州へ罷帰候由^ニ而家族召連今朝出立罷帰候段届出
候由大年寄申出翌廿五日出仕之上御両所へ相届候

十月廿五日 快晴

一御用日登城申上候御用向無之^并郡代不參御用無之段申上候
一今五時頃^一勝部辺御野懸ヶ御出有之候
一大目附廻状到来左之通

来ル廿七日五半時於松之間御雛子被遊候御家中坊主以上次男
三男隠居之面々迄勝手次第可罷出候尤肩衣着用可致候幼年之

面々ハ肩衣着用勝手次第可然候

一大目附上原彦藏^一郡代所連名^ニ而左之通申来候

別紙之通今日被仰出候間及御通達候尤添役下役へも可被相違候
已上 御勝手懸り 上原彦藏

今般御勝手向追々御省略之義被仰付候間諸向何等^ニ不限聊之
義たり共御不益無之御省略相立候様成丈遂勘弁取計可申候尤
諸向へハ分^而今度ハ不被仰出候間右之段達置諸向^一も御省略
筋之義存付候事ハ無遠慮可申出候様是又可申達候

一札元妹尾平兵衛義当歳之娘死去仕候付三日遠慮引込候段大年寄^一
相届御両所へ相届候

一今日左之もの共九半時^一牢屋吟味取計候付大目附へ相断御用番御
聞濟之上退出仕牢屋へ相越新左衛門藤四郎出番嘉七岩藏目明兩人
立合遂吟味候

牢舍人市村随波長屋住 幸三郎

賁道具取筋置繩賣いたし候得共 民治

不及白状候 喜三郎

一二町目伏見屋茂^一御領分東北条郡桑原村藤助へ去々申年田畑家
屋質入^ニノ元利三貫四百匁貸候所返済不致候^ニ付質物引渡候様^ニ
願書指出候^ニ付郡代所へ相廻候^{聖正月十三日内請}

十月廿六日 快晴

一桶屋町桶屋市右衛門^并同人役介市之丞追込昨日迄^而十日^ニ相成
候^ニ付今朝大年寄宅^ニ而指免其段御両所へ相届候
一鎗術御覽有之候

一御藏米 五拾九匁五分 町米 五拾五匁五分

一馬持板屋八十兵衛持馬落候段届出候^ニ付取捨候様^ニ及指図候

十月廿七日 雨

一御用日^并御囃子拜見^ニ付肩衣着用五半時登城

一大久保安芸守殿領分久米南条郡領家村兵右衛門倅文藏夫婦娘右家内三人八ヶ年以前卯四月安岡町山沢屋久治養子^ニ引受候処今般離縁仕親元へ差戻度人別除願久治後家指出例之通取計濟

一札元玉置卯左衛門義備中矢掛実母方へ三十日計之逗留^ニ而明廿八日出立願右同断取計相濟^{十一月廿三日始}

一京町大村屋源右衛門義薪仕入元銀六貫目先達^而拜借被仰付老貫目

ハ上納仕残五ノ匁御座候処十年賦被仰付年々五百匁つ、可上納仕

候処甚難洪仕候^ニ付又候年三百匁つ、上納仕度歎書指出候^ニ付勘

定奉行平井半平へ相渡置候^{即廿九日迄暫之}

一今日於松之間御囃子有之唐船爲頂弦上三番御前被遊拜見仕御中入

之節御菓子^等被下置於役所頂戴之仕御小納戸へ御札申上候

一牢舍人幾助病氣申出大年寄へ申達候所吉武祐三^江申付候

一大目附詰番昨日^付御免成依之黒田忠三郎月番被相動候由演説有之

候

一大目附黒田忠三郎来二月出府被仰付候由沙駄有之

十月廿八日 時雨 霧

一明廿九日五半時例^付御早メ御供揃^ニ而泰安寺へ御仏詣被仰出御道

筋表御門夫^付田町御門三浦十郎左衛門前通細工町宮脇町大番所間

田町御成御門^付被爲入候段中奥目附出九太夫^付通用有之大年寄^并

小頭へ例之通申付候尤昨日藤堂融四郎^付細工町蘭田町疋瘡人學有

之遂吟味候処細工町蘭田町^者無之西今町中之横町^者有之候段

申出其段今朝申達候所下紺屋町宮脇町八中奥目附手先^而吟味有

之候由然ル所御延引被仰出候

一小頭江原文藏小兒死去仕候段昨日届出候認落候^ニ付爰^ニ記

一御払米三百俵 正銀六拾壹匁七厘 落札藥屋与七郎

一御藏米 六拾匁五分 町米五拾六匁五分

十月廿九日 晴

一御用日登城申上候御用向無之

一於御用所御用番御年寄左之通申渡之大目附出席

塩屋清右衛門義苗字門松相印被成 町奉行へ

御免候此段可申渡候

右畢^而大目附黒田忠三郎^付以後ハ見習被仰付候節苗字門松御相印

迄被指免候間兼^而相心得居可申旨申聞候○右之通即日可申渡処及

暮候^ニ付明五時罷出候様直奉書指遣置明朝取計之手配夫々申付置

候

一林田町河田屋忠助借屋住人庄右衛門義去西三月十三日大目附上

原彦藏^付御不審之節有之^ニ付牢番預ケ申付候様達有之其旨取計置

候処病氣付同年六月廿三日出牢組合預ケ相成居候処右狐遣御不審

^ニ而右之通^ニ候由其後ハ一向何之沙駄も不相聞候^ニ付被指免候様

度々致催促候処漸今日指免候様彦藏^付達有之候^ニ付其段大年寄へ

申達候

尋之筋相濟候間指免候

林田町作人 庄右衛門

右兩人取計清明日出仕之上可相届候

一博奕御裁許以來八度々ニ品を替取計候様ニ浦十郎左衛門連名伺之
通取計候様大目附黒田忠三郎ハ違有之候

一大坂油屋共ハ当所油方之もの呼登セ具候様御蔵屋敷へ願出清左衛
門ハ申越右ニ付油方之ものハ灘屋吉三郎へ相談之上弁書指出候ニ

付其段清左衛門へ可申遣旨伺置候処伺之通宜取計候様被仰出候ニ
付来月八日可申遣候

一大目附黒田忠三郎ハ御城十九番御門御普請有之候処昨夜普請場へ
盜賊遁入古針^井屋根屋之衣類盜取候間極蜜^ツ之遂吟味候様違有之御
作事奉行へ懸ケ合^井屋根屋嘉兵衛ニも於御城直ニ相尋候処心懸り
之ものも有之ニ付直ニ召捕可申旨申達候処一兩日遂監察弥必定と
存候上召捕候様忠三郎被申聞候ニ付目明孫兵衛呼出し委細申付置
候

一京町大村屋源右衛門歎ニ付平井半平ハ申聞候者当五月五百匁返納
処
・可致未相納甚不埒至極之義ニ付願通承り届候義者難成候間当夏
可相納五百匁を爰ニ而上納仕殘四貫目者来歳今年々四百匁ツ、相
納候様ニ可承届旨被申聞其段大年寄へ申達候

一二階町三保屋屋守九兵衛借屋住大工善助義娘召連四国遍路ニ罷出
度百五十日之逗留ニ而明朔日出立願承り届^{者三月七日罷帰候}

一伏見町田邑屋卯左衛門伴治助義栗田辰右衛門供ニ而大坂へ差遣度
願承り届^{旧臘初候正月廿二日届出候}

一関貫番賃銀例月之通相渡候但今月ハ炭代相渡候
一牢舍扶持拾五俵之内貸証文朔日指出奥印書取計之尤右ニ而十二月

へ式斗七升持越候

十一月大

月番

御家老 山田主膳殿

御年寄 大橋十太夫殿

大目附 黒田忠三郎

大年寄 玉置六郎左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

十一月朔^戌 辰旦 快晴

一御吉^{宗助}日^井御用日^旁ニ付麻上下着用四時登城御普代之面々於柳之
間ニ御盃被下候三奉行之面々於役所御赤飯頂戴之仕畢^而大目附役

所へ罷出御奏者番中へ頂戴もの、御札申上之候御用日ニ付三奉行

一同御用所へ罷出候得共申上候御用向無之

一 臨屋^{右衛門}右衛門へ苗字門松御合印御免之義并林田町庄右衛門差免之

義今朝申渡候段御所へ相届候

一 太神樂岡田忠太夫義今朝罷帰候段大目附へ相届候

一 昨日大目附の違有之候盜賊之義目明へ申付置候所坪井町竹島屋へ

今朝古釘売ニ參候もの有之必定藤本長屋岩藏と申ものニ可有之

哉之旨目明申出候ニ付其段大目附へ相届藤本伴右衛門へ対談之上

出番藤四郎伝藏差向受取之新左衛門文藏立会相糺候処左之通ニ候

一 昨廿八日之夕十八番御門御普請場へ御作事雇中間

六半頃忍入古釘并単物拾ばつち 藤本伴左衛門長屋住

盜取候ニ相違無之旨及白状候ニ付入牢申付候 岩藏

右之段御所へ相届并藤本伴左衛門へも及通用右盜もの受取候尤

御作事へも及通用候

一 右ニ付坪井竹島屋へ今朝目明差向遂吟味候節同人義甚心得違不埒

之及返答候難捨置趣ニ付呼出大年寄立会ニ左之通申付候同日依候

手錠懸ケ預ケ申付候 坪井町竹島屋嘉市

一米相場書例年之通取調差出追々諸方へ差遣候但直段左之通

上米平均直段 五拾九匁六分三厘九毛三

一 久世手代曾根源次郎本宗八飯沼才次郎の米相場書取ニ指越相渡

候

一 龍野御預役人関口作兵衛平野七郎兵衛三沢清太夫の右同断相渡候

一 勝山役人榊原九郎左衛門尾崎小右衛門の右同断相渡候并例格之通

為挨拶金子式百疋被相送及相答尤此段追而大目附へ可及沙駄事

一 西川役人平次助八大谷代藏へも右同断相廻候

一 御払米 正銀六拾壹匁六分 落札 甲屋幸助

一 御藏米 六拾壹匁五分 町米 五拾七匁五分

十一月二日 快晴

一 坪井役人吉井要助の米相場書取ニ来指遣候

一 弓削役人瀧六郎太夫服部有右衛門の米相場書取ニ来指遣候

一 御対面所へ御殺生御出有之候由

一 雲州杵築多久十太夫御師上下三人例年之通来候段新職人町松の屋

十右衛門宿切手出十二月廿二日始

一 播州高崎本町伊勢屋喜十郎一人例年之通小間物売来候段右同人宿

切手指出翌年正月廿三日始

一 藤本伴右衛門の昨日相廻候岩藏盜もの、内細帶有之相糺候所岩藏

所持之品ニ相決候ニ付翌三日伴右衛門へ指戻候

十一月三日 快晴

一 御用日之処自分義少々致怪我足痛仕候ニ付当病御断三浦士を以相

届候

一 伏見町坂田屋勤治方へ先月廿八日盜賊這入店ニ有之候島木綿式反

被盜取候届書三浦を以指出候処市郷触流伺濟ニ付大目附へ達置候

旨申来町触取計候同日十二日始之段申出候

一 於御用所御用番御年寄左之通申渡之大目附出席十郎左衛門名代被

相勤候由申来

町奉行へ

福渡町白銀屋府右衛門 安岡町伊勢屋弥助

永田敬藏長屋住利左衛門 無宿幸十郎 本郷村伝右衛門

無宿弁藏 無宿茂七 橋本町中島屋幸助

右之もの共重罪之者^ニ候得共浚明院様就御年回御供養髮を剃

助命追払被仰付候

一先達^而盜相働入牢申付置候処 無宿 関助

浚明院様就御年回御供養追払被仰付候

一右之もの共盜賊懸り合^ニ付入牢 二階町鑓助

申付置候所右同断^ニ付追払被仰付候 久原甫雲長屋住角治

一右之もの共似七銀遣利左衛門^ニ 中川登市郎長屋住

付随ひ木山賈札配り候付入牢 利兵衛

申付置候処右同断付立去り被仰付候 上紺屋町作人新八

一似七札一件^ニ付入牢申付候処右 石州銀山領

同断^ニ付立去り被仰付候 仙左衛門

右之もの共何れも鳥目式百銅ツ、被下

右畢^而大目附^者被申聞候 右取計ハ来ル八日地藏院^ニおゐて町奉

行郡代麻上下着用罷出尤寺社取次御徒目附目附組も被指出候由中

奥目附ハ御供養御当日^ニ無之故不被差出候由尤以来ハ御当日取計

候様被申聞候段三浦^令通用有之候

一德守宮門番地子居助七方へ先月廿七日盜賊這入白米大豆鉢目鏡布

子盜取候町触取計候様大目附^令達有之候由三浦^令相廻り町触取計

候 同十一日無之被申出候

一戸川町北丸屋善藏方へ先月廿三日盜賊這入盜取候品倉敷^ニ有之右

ハ先達^而追払候梅吉^ニ 候由申越候段孫兵衛申出候^ニ 付罷越遂吟

味候様申付入用拾匁齋藤^令取替遣候 同廿三日盜^{もの}戻し候

一丹後久美浜御代官塩屋大四郎殿手代勝田近藏^令米相場書取^ニ 来相

渡候

一播州姫路久長町大津屋文藏義九月晦日中之町福茂屋武兵衛方へ来

居候所今廿日計逗留日延追願承り届

一橋本町東側^ニ 上総屋茂市家屋敷表口三間裏行拾貳間但半役也南

隣ハ朝元屋源藏後家北隣ハ中島屋幸助也右家敷代銀三百五拾匁^ニ

相極林田町河内屋宇兵衛へ売渡願承り届 同十日宛狀披露

一林田村善八借屋住作人富藏^并 同人母右家内式人中^之町川口屋与市

郎引受度人別入願下方引合相濟候段申出承り届

一二階町組屋忠三郎所持之他国受酒株去ル申二月^令西新町三原屋定

七へ貸置候処此度取戻候届書指出

一右組屋忠^右右衛門所持之他国受酒株西今町小島屋孫市へ讓渡願承

り届

一右小島屋孫市讓受候他国受酒株当戌十一月^令来亥正月迄西新町三

原屋定七借り受商売仕度願承り届 同正月四日宛狀披露

一御払米 正銀六拾匁匁四分八厘 落札甲屋幸助

一御蔵米六拾匁匁五分 町米五拾七匁五分

十一月四日 快晴

一昨夜更廻り藤四郎栄治為治時治差出小頭文藏御家中関貫相改候処

何れ^或無別条旨今朝届出候

一川島周庵義御小性組御七代山本弁助御次坊主昨日被仰付候沙駄^ニ

候

一 孤独扶持百四拾六匁八厘真北類藏分受取大年寄へ相渡候

十一月五日 雨

一 御用日登城申上候御用向無之

一 油方之義大坂へ之返書相認候処先日要人殿分又々差出候様被仰聞

候付差出候四七日思召無之下ル

一 来ル八日御赦之者共へ申渡相認大目附へ指出候所御存寄無之被相

戻候○且又右出役之者共下目附迄麻上下着用候由○并自分共供之

義も及相談候所若堂老人草履取計而可然旨被申聞候○右取計刻

限之而義も懸合置候処御參詣も有之義而付明後日可被申聞候由○

中川登市郎久原甫雲永田敬藏長屋もの追払ものへ役介而付八日六

時被引渡候様御達可被下旨申達置候○被下之而目も相廻候様申達

小勘者へも懸合置候但鳥目ハ御寺分被下候様而相成○右而付加入

三人申立置候処寺坂兵治飯島作右衛門神原伝左衛門来

一 今晚安岡町初屋伊兵衛方へ盜賊這入候所家内目覚候而付逃去り候

得共非人等相頼所々相尋召捕候所当六月同人方へ這入脇差而腰盜

取候所右脇差指居候由出生吟味致候所元備中倉敷勘兵衛と申も

の、俣源治郎と申もの而当時ハ田邑箕打利作と申もの引受親子

共同村和平次と申もの、明屋敷住居仕候得共未人別入ハ不致旨申

候由目明甚七届出早々郡代所へ懸ケ合置右源治郎ハ牢番預ケ而申

付候出番嘉七差出候右之段御所へ相届候然ル所無程父勘兵衛も

召捕差出候而付次而記置候

一 札元見習三船清右衛門印鑑差出書役へ渡置候

一 桶屋町横町南側而吉田屋平助家屋敷表口式間裏行拾間半小半但

半役也東隣而備中屋定吉西隣ハ作人長八也并東隣備中屋定吉裏通

り南詰而東西式間南北三間半裏地面則平助裏行続而所持仕此

御役老歩而御座候合而六歩役也右家屋敷代銀百五拾匁而相極町

内作人長藏へ売渡願承り届而十一日免狀出

一 桶屋町東隣而樽屋ちか家屋敷表口式間半裏行拾壹間但半役也南

隣ハ作人坂之丞北隣ハ桶屋はや也右家屋敷代銀三百目而相極町内

桶屋久兵衛へ売渡願大年寄差出承り届右同断

一 元魚町米屋伊助義藤本伴右衛門長屋住岩藏分瓦小繩少々買取候段

届書指出候

一 安岡町久米屋友七義大坂土佐堀式丁目木屋与兵衛方へ廿日計之逗

留而明六日出立願大年寄指出承り届而廿七日届

一 播州網干余陸屋利兵衛一人例年之通荒物塩物売来候段中之町津田

屋伝助宿切手指出而四月廿六日

一 播州網干余陸屋惣七一人例年之通八百屋物売来候段右同人宿切手

指出右同断

一 大坂農人橋東詰網屋清治郎一人金通し張替挑灯目鏡入替仕候右ハ

去酉十一月御願濟之もの而候処此度初而来候段右同人宿切手指出而十月廿二日届

一 播州網干塩屋伊兵衛一人例年之通塩物荒物売而来候段右同人宿切

手指出而四月廿六日届

一 御払米三百俵 正銀六拾壹匁七厘 落札藁屋与七郎

一 御藏米 六拾壹匁五分 町米 五拾七匁五分

一 盜賊源治郎父勘兵衛召捕候段目明甚七申出右ハ源二郎義当六月盜

取候品父勘兵衛壳捌候申口ニ付勘兵衛逃去候得者吟味難出来ニ付
甚七心得ニ而非人共田邑へ差遣右勘兵衛呼出し途中捕ニノ召捕来
候段届出其段郡代所へ懸合候所明朝受取度旨申来候付今夕ハ柳土
手ニ預ケ置候様及差図候

一 大坂谷町二丁目池田仙九郎殿手附奥野右源太上野戸作ノ米相場書
取ニ差遣候

一 伏見町御堀端堺覆損候様見受候付急ニ取繕候様大年寄へ申付置候
十一月六日 晴

一 昨夜召捕候勘兵衛義田邑村住人ニ付可請取旨郡代所ノ申来出番伝
藏指添郡代所へ引渡候

一 昨日召捕候盜賊源治郎義も同様之義ニ付受取度旨郡代所ノ申来候
ニ付昼廻り嘉七治三郎差向出牢申付郡代所へ指遣引渡候右之段御
兩所へ相届候

一 右盜賊源治郎并父勘兵衛兩人共郡代所ノ入牢申来出番岩藏指向取
計之

一 生野御代官布施孫三郎殿手代中沢良助桑名善藏大豆相場書取ニ
来相渡候

一 弓削役人瀧六郎太夫服部有右衛門ノ米相場書差遣候為挨拶鮮鯛一
尾差越及相答

一 大目附黒田忠三郎ノ呼ニ来相越候所極内々被申聞候者磯山久三郎
義立帰り城代町辺致徘徊候由ニ親類ニも彼是申風聞も相聞候間
目明共ニ追払候様内々可取計旨被申聞候付其段小頭へ申含候

十一月七日 曇

一 御用日登城申上候御用向無之

一 明八日御仏詣之御含ニ而昨日藤堂融四郎細工町西今町中横丁間田
町痲瘡人有無尋来り大年寄へ申付相糺候所三町共当時無之旨申出

其段中奥目附へ申達候所明八日御赦取計濟之刻限ノ地蔵院泰安寺
御仏詣御道筋田町御門ノ岸之前通山本凌助前地蔵院へ被為入又御
出道之通田町御門迄御堀被成下之町通竹馬場御成御門へ為入候旨

出九太夫ノ通用有之大年寄并小頭へ申付候但御延引ニ相成候

一 明八日正六時出宅於地蔵院御赦取計いたし候様ニ大目附ノ達有之
夫々手配申達候ノ鳥目被下候義寺社取次日記ニ宝曆二年御赦之節
小僧ノ相渡候様記有之由ニ付申談之上大目附へ相達寺社取次へ相

廻候様ニ申達ス

一 明日御赦取計并御仏詣等ニ付尚又加入式人申立候処小堀助四郎吉
田藤太来ル依之役割左之通当番治三郎御先払兵左衛門出番時治兵衛供岩藏

昼廻幸治夜廻幸七立会文藏

一 二階町河内屋全右衛門義藤本伴右衛門長屋住岩藏武斗老升七合
五勺之切手預り居候段届書出

一 町方儉約触達方相談上原彦藏ノ有之候
一 明日之御仏詣御延引被仰出候旨中奥目附出九太夫ノ通用有之及深
更申来候故翌朝夫々申達候

一 右御仏詣御延引被仰出候後及深更西今町間田町ニも痲瘡人出来候
旨大年寄ノ申出最早不用之義ニ者候得共為心得翌朝中奥目附へ申
遣置候

十一月八日 雨

一正六時出宅地藏院^江出役町奉行増見右門郡代三浦十郎左衛門寺社

取次野条金平御徒目附山本弥七下目附^江郡代下代^{木村左吉}寺社下代

^{横月五右衛門}同心組小頭^江部屋目附^{三浦四郎}同出番^{兵衛右衛門}郡代足輕^{三人}

立合小頭文蔵^江説渡之○小頭部屋目附迄麻上下着用出番ハ立付也

此八人之もの共重罪^二候得共

俊明院十七回御忌御赦^二付

助命髪を剃追払申渡畢^而

和尚戒を授ケ髪を剃畢^而寺社

下代鳥目被下達し小僧^江相渡

但髮結八人差出取計之

此三人右同断御赦^二付

其俣^二而追払

但鳥目被下右同断

此三人右同断御赦^二付

其俣^二而立去り

但鳥目被下右同断

此役介拾五人之もの共も御堂
前へ呼出し親夫俣等右之通^二

被仰付候付何^成立去り
御領分住居徘徊指構候段

申渡之

但組合年寄受人等銘々指添出

同 佐五郎
伊勢屋弥助 妻 さま
娘 もと

倅 佐吉

永田敬蔵長屋住利左衛門

母 とよ

倅 文太郎

中島屋幸助妻 かね

久原甫雲長屋住角治妻瀧

倅 吟次郎

二階町幾助 妻 みね

中川登市郎長屋住利兵衛

妻 房
娘 琴

右之者共本堂正面縁際白砂へ筵を敷一人ツ、呼出し出役之面々北

を上トノ順席^二本堂縁敷^二着座御徒目附ハ末席障子際横向^{北向}着座

下目附ハ敷居外次之縁座敷^二離^而相詰下代足輕之分ハ板縁之上^二

薄縁敷之北之方^二郡代下代同心小頭部屋目附南之方^二寺社下代相

詰当役^江御裁許申渡候旨相達説渡候節郡代下代同心小頭代ル^レ

少進^二出説渡之右申渡相濟繩を目明共^二解七傍^二扣させ置又剃髪

申渡之もの八人白砂へ呼出列居為致置法印板縁薄へり敷之上へ出

戒を授ケ畢^而門内小松林之内^二髮結共^二髪を為剃候又其俣追払

之もの六人白砂へ呼出右之通^二法印戒を授ケ候右剃髪相濟髪を

不剃もの迄十四人不残本堂之少し下之方白砂へ呼出し寺社下代^江

白銀屋利兵衛妻 りく

倅 菊五郎

類 石州銀山預 仙左衛門

賈札同

り 上紺屋町作人新八

銀札配 利兵衛

木山賈 中川登市郎長屋住

賈札師 無宿 弁蔵

同 茂七

先年女 橋本町中島屋幸助

かつぎ 本郷村 伝右衛門

立婦婦住人殺一件之もの

盜賊筋 盜賊 関助

吟味中 久原甫雲長屋住角

右同断 二階町 幾助

鳥目式百文つ、被下候段申渡畢而小僧の夫々相渡候
右引合之もの共左之通大年寄宅二而小頭部屋目附差出左之通申渡
之

此六人之もの共買物代二似七銀
預り候二付似七銀取上ケ
追込五日

坪井町沢野屋伝六
同町 勝尾屋茂七
西今町久保田屋理右衛門
京町附住屋市左衛門
堺町稲野屋清兵衛

一似七銀引合二付急度叱

西新町備前屋市右衛門

一白銀屋府右衛門召捕候節隠し置

宮脇町松井屋伊助

候二付急度叱

一夫猶兵衛義府右衛門同罪二可被

福渡町 猶兵衛妻 かよ

仰付処致牢死其方義似七銀携無

之二付指構無之候

一盜賊関助為逗留并俸至正防國同人

西新町 養赤院

の盜物質置致取次候間右代弁銀之上追込三日但寺社方二之取計也

此三人右同断二付追込三日

新職人町唐松屋久治

林田町福崎屋弥七

勝間田町常松屋文次郎

此二人盗人関助盗もの持出候節

細工町関貫番人藤次郎

関貫明ケ通し不埒二付暇差追候

四十間関貫番人勘兵衛

一此式人盜賊関助の買取候

林田町上田屋久平

付右代物取上ケ損失申付候

伏見町町田邑屋宇左衛門

一橋本町佐七義盜賊関助の被相頼 中之町平岡屋忠右衛門

質物差置候付佐七へ弁銀可申付処同人義死失二付質物取上ケ

候

一橋本町中島屋幸助家屋敷關所可 大年寄共へ

申渡候

右取計相濟候段御用番へ相届大目附名面附差出候且又中川久原水

田へ及通用候

一大守様少々御不例二付今日之御仏詣被仰出候旨大目附黒田忠三

郎の郡代連名二申來候

一戸川町北丸屋善藏方へ先月廿三日盗人遁入盜取候品倉敷二在之由

而 去ル三日孫兵衛差遣候処罷掃弥倉敷質屋二在之懸ケ合候所來

ル廿日迄二可差返旨二而 内分懸合二而 相濟候段一札取掃り昨七日

御用番并大目附へも及御沙駄候尤右盜賊ハ小性町梅吉二相違無之

由二候 同廿三日迄もの戻し候

一昨七日大目附廻状到來左之通

於松之間中庸講釈毎月九之日被仰付候間坊主以上勝手次第可

罷出尤明後九日の相始候間初而罷出候ものハ麻上下二而 可罷

出候

一土居村上分五郎左衛門方へ去ル二日盜賊遁入衣類五品代六拾匁計

之もの盜取候触流取計候様大目附中の達有之町触取計之同十八日町方

一西川平沢助八大谷代藏の米相場書受取候返書來受取書相渡し返ス

一大目附黒田忠三郎の以前御赦有之候近例年月承り度由申來申遣候

一西今町菱屋治兵衛孫治助義当三月下之関へ罷越五月十八日延願
差出其後否不申出又候日延願指出等閉之段急度叱置又三十日計之
日延願承り届十二月廿三日届

一大坂長沢清左衛門の書状到来市郷のもの十一人五懸り出訴ニ付代
人明石屋庄七井在方之もの罷出候得共内済不相整罷候間急ニ病
氣ニ付日延願差越候様申越候得共町方六庄七焔候義も不申出甚
不束之趣ニ付急度申付候所漸晚方明石屋庄七焔候段計届出弥不心
得之旨急度何れ共決断いたし急ニ申出候様申達候

一大坂長沢清左衛門へ菜種御届石数之一件返書井大坂油屋六当所油
方之もの呼ニ来候答之并書今夕御飛脚便ニ差遣候

十一月九日 晴 初雪

一御用日登城大守様御用所へ被為人三奉行一同例之通罷出候

一上紺屋町津島屋三右衛門義去西四月十八日出奔届出尋申付置候所

追々日延願差出相尋候得共弥行衛不相知ニ付除帳願例之通取計相
濟

一新職人町作人捨七方へ先月廿九日夕盜賊這入衣類拾品代ニ積五拾

四匁計被盜取候届書例之通取計町触差出候同十九日町方ニ無之段届出候

一昨日地藏院ニおゐて御赦申渡之砌出役着座之義下目附人板縁へ可
相詰処大目附中御含ニ而板縁江ニ罷出旨申候由御徒目附六申
聞幸ニ之間有之候事故自分共トハ敷居を隔候間差別付其段ハ相濟
候得共下代足輕ハ不殘落縁へ出御徒目附も横座ニ候処敷居を隔候
トハ乍申末席も向へ見へ候処ハ諸士同列ニ差座いたし候様ニ相見
へ如何成ものニも被存候目附組ハ下代足輕同様ニ板縁へハ不相詰

訳之ものニ候哉以後之為承り置候度旨十郎左衛門同道ニ而大目附
役所へ罷出月番黒田忠三郎へ申達置候其節詰合之同役中ハ小須賀
貢太田舎人佐々木主馬也

一今般御赦ニ付寺院六歎出候もの共用捨考先格之通存寄付差出候様
大目附六被相渡候

一盜賊岩藏十八番御門ニ而盜取候品御作事奉行へ為持遣受取書取置
候

一大坂六出訴ニ付先日差出候在方之もの井町方代人明石屋庄七焔焔
候段御用番中へ申上長沢清左衛門添状も差上候

一松之間御講釈八時過相始り藤堂融四郎相勸之大守様御麻上下ニ而
御出座被遊御用所松之間北詰六東向着座大目附銀鷲之間御敷居際

北詰六列居引続三奉行大目附と一列ニ着座其外拜聴之面々松之間
東南御縁座敷へ相詰ル頭分ニ面々ハ大目附三奉行之後ニも相詰候

一坪井町竹島屋嘉市盗もの買取不埒之答申候ニ付去ル朔日手錠申付
置候所誤入候段歎書指出候ニ付承り届小頭出番嘉七差向手錠差免
以來之所大年奇急度申付候

十一月十日 曇

一牢入替申付昼廻り伝蔵治三郎取計之

一盜賊関助八出神主方ニ而盜取候品取上ケ寺社取次野条金平へ相廻
受取書取置委細別帳ニ在之

一川部村庄屋九平次方へ去ル六日盜賊這入脇差ニ腰財布足袋等六品
代五拾九匁位之もの被盜取候触流取計候様大目附六違有之町触取
計候尤写廻候付不差戻候同十九日町方ニ無之段申出候

一大目附中左之通御儉約触到來写取組中へ相違候

御家中之面々末々迄兼々儉約其外衣類等之義被仰出候得共近
來一統相寛ミ輕薄之風儀ニ押移殊ニ家族之着類花美分限不相
心之族も有之哉ニ相聞へ不埒之事ニ候当主并家族共衣類者勿
論可為質素尤髪之飾等ニ近來相切レ之類用候義其何ニ不寄

目立候品者以後急度不相用諸事費を省キ質素專一ニ遂勘弁取
統御奉公可相動候家旂之面々ハ当主之分限ニ応シ成丈省略為
致当主之御奉公第一ニ取統相動候様可有之義ニ候間組中間ニ
至迄能々右之心得ニ而可遂勘弁候且又又ものたり共右同断之
事ニ候

一 菜種貳百六拾壹俵外ニ官尾村坪井村之分六俵合而貳百六拾七俵之
川下ケ手形油方蔵元連印ニ而差出例年之通與書印形取計之

十一月十一日 曇

一 御用日登城

一 新職人町唐松屋久治并林田町福渡屋弥七并勝間田町常松屋文次郎
追込昨日迄ニ而三日ニ相成候ニ付今朝大年寄宅ニ而指免其段出仕
之上御両所へ相届候

一 豆腐八月廿七日ハ十八文売ニ商売仕候処大豆下直ニ相成り四拾五
匁相場ニ相成候ニ付以後十六文売ニ仕度届書御用番御聞濟ニ付大
目附へ差出候尤十挺ニ付手間代三分四厘

一 小須賀一学殿中間部屋へ盜賊遁入脇差袴腰盜取候ニ付目明共へ申
付監察為致候様大目附ハ違有之届書被相渡候ニ付小頭へ申付委細
目明へ申合候様申違ス尤届書ハ指戻候

一 竹田村喜六と申もの去ル八日米切手ニ枚ニ而三俵貳斗九升安岡町
ハ戸島迄之内ニ而落候ニ付触流取計候様大目附ハ違有之町触取計
之同十五日有之候段御代所申來候

一 東新町綿屋忠兵衛方へ昨夜盜賊遁入十品余り被盜取候由右盜賊無
宿周蔵と申もの目明孫兵召捕指出一ト通り遂吟味候処元備前西大
寺出生當時無宿ニ而昨夜東新町綿屋忠兵衛へ遁入盜取候ニ○無之
旨及白状候ニ付牢番預ケ申付其段御両所へ相届候但出番幸治取計
之

一 盜賊関助盜取候品并銀札等綿屋勘兵衛へ相渡候

一 市村随波長屋ニ而相果候伝蔵一件明日遂吟味候ニ付神戸村喜代八
下女被指出候様郡代へ申遣其外手配申付候

十一月十二日 曇夜雨

一 西 一 東新町養樂院嫁義盜賊関助ハ被相頼質物致取次候蒲苗ニツ寺社取
次野条金平ハ相廻り受取米子屋後家へ相渡候

一 今般御家中へ御儉約触出候ニ付町方之義も考取計振認差出候様上
原彦蔵ハ此間被申聞相考候所下方之義ハ御ケ条無之ニ而ハ難相締義
ニ候得共左候ニ而ハ以前之御触友唱ニ相成候義ニ而恐入候義ニ奉
存且又以前之通ニ而ハ実ニ難行し時節ニも候得者御家中之触同様
触差出候ニ而も可然哉とも奉存候得共何れ大年寄共存意承り候上之
義と相考蔵合孫左衛門呼出申聞候処同様之存寄ニ付其旨認出候様
申付候所指出候ニ付自分義も同意之趣添書いたし上原彦蔵へ指出
候

一 今九時ハ新左衛門文蔵藤四郎出番時治伝蔵立合左之もの共遂吟味

候

及暮候迄遂吟味候得共相分り兼
候付為引取候

神戶村喜代八
右同人下女喜代

牢舍人市村随波長屋住
幸三郎

右同断

民治

右同断

喜三郎

一御持弓組石田新治組小頭相勤候本島庄藏と申もの困窮に付致番代
候由に召抱呉候様願出候趣小頭文藏に申出候付石田新治へ懸ケ
合候所少も構無之旨に付今朝目見申付召抱候其段勘定奉行平井半
平へ及通用渡方之義申遣候

三本入扇子

本島庄藏

一大坂大和屋弥三郎今市郷十一人之ものへ相懸り致出訴右に付為代
人明石屋庄七差遣候処内濟不相調去ル八日罷歸り右に付日延願書
指出先例之通致奥書に右之段清左衛門へ致添書郡代所へ相廻候郡
代所にて伺之上明朝立に飛脚指立候様申談置候

一江戸御留守居田中幸助返書到来久美屋重右衛門造酒株三河屋嘉
左衛門へ讓渡之届先月廿一日御届相濟候段申来候明朝出仕之上御
両所へ可指出事

一牢舍人盗人力藏義郡代所呼出申来出番時治伝藏出入取計之
一御候約懸り上原彦藏に左之通達有之候

以来御裁許何弁書等上包なしに差出候様被申聞候

一南新座臭橋橋込相濟候段宮田喜左衛門届出候

十一月十三日 雨

一御用日登城

一坪井沢野屋伝六同町勝尾屋茂七京町住屋市左衛門堺町稻野屋清兵
衛材木町三家屋之右衛門西今町久保田屋理右衛門追込昨日迄
五日に相成候付今朝大年寄宅に差免其段出仕之上御両所へ相届
候

一坪井町小倉屋桃吉借屋住倉敷屋利八義当正月中旬出坂仕病氣に付
玉子屋九兵衛方致逗留居候所六月頃何方へ参候哉行衛不相知
旨七月廿四日届出尋申付置候処弥行衛不相知候に付除帳願指出例
之通取計濟

一勝間田町紙屋佐助義去冬安藤丹後殿書状大坂に預り帰久々不相届
不埒之段長沢清左衛門に申越相糺候所倉敷屋利八に相頼候由申口
に付利八呼出候得共他参に付利八罷歸候を相待居候処右之通離帳
相成候に付紙屋佐助義先例之通追込七日伺書差出候

一東新町綿屋忠兵衛方へ去ル十日夕盗人這入衣類何角十二品代百弍
拾匁計之ものを被盜取候届書差出に隣家鍛冶権兵衛裏に込候由同
人にも届書差出候処最早右盜賊召捕盜物も致所持居候に付其段申
上右届書御両所へ指出候

十一月十四日 曇

一二階町東側に田原屋藤吉家屋敷表口五間裏行拾七間但老軒役也
北隣ハ出雲屋与次右衛門南隣ハ組屋忠右衛門也右家屋敷質物に書
入町内疊屋佐吉取次に一ヶ月老歩半之利足相極銀札五百匁来亥
十月切に借り受度願承り届同十九日様文差出亥十一月廿一日迄あり

一元魚町斎藤孫右衛門門前昨夜かるた二面反古に包落有之候旨同

役を以差出欠所もの、内へ入置

一〇〇〇非人頭新藏病死候段大年寄申届出承り置尤是迄頭三人_ニ 而

跡_ニ三藏_并直八_并兩人有之候_ニ付不及跡役旨申出候

一橋本町中島屋幸助欠所道具入札差出例之通立合致開封候所迄六

分五厘高札_ニ付是へ相私候様及指図候

十一月十五日 快晴

一式日御礼_并御用日_ニ付五半時裏付上下着用登城例格之通於宮島之
間三奉行已上槍之間衆迄御礼申上候

一新魚町檜野屋茂一郎役介玉義御代官重田又兵衛殿支配所当国久世

村和泉屋清兵衛妻差遣度人別除願例之通取計相済

一材木町関貫繕書付大目附へ指出

一新魚町魚屋甚助甥五百介義寛政四年_子三月往来中間_ニ被召抱候処

今般首尾能暇出候_ニ付人別入願出御中間頭引合之上承り届

一林田上之町作人定吉夫婦梓松太郎右家内三人林田町石原屋甚蔵引

受度人別入願下方引合相済候段申出承り届

一御使組杉本左惣治義元魚町虎屋源兵衛借屋借受居候所盜賊遁入衣

類何ヶ十三品被盜取候段届出候_ニ付目明へ申付遂吟味候様大目附

今違有之小頭へ申付候尤右届書大目附へ差戻候

一於御用所御用番御年寄申渡之大目附出席

町奉行へ

一先達_而所々_ニ 而 盜相働候_ニ付百敲追払 盜賊 幸吉

申付候所立掃り公郷中村久兵衛方へ追入品々盜取候付劔追払申

付候

一所々盜相働候_ニ付百敲追払

一主人方_ニ 而 盜相働候_ニ付百敲追払

上紺屋小山屋平八 盗賊 專蔵
下人盜人 茂助

一右同断_并隣家へ追入盜相働候_ニ付五十 元魚町吉屋清蔵
敲追払 下人盜人 藤吉

一上紺屋町浅屋八十一下人十吉を勾引_一 無宿 松之助

百敲追払

一先年博奕吟味之節逃去り今般召捕 鍛冶町 桂屋源治

差出候_ニ付五十敲掃町申付候

一右同断 安岡町松田屋徳兵衛

一硯河原_ニ 而 博奕致参会候_ニ付五十敲追払 無宿 新蔵

右之通被仰渡候_ニ付明十六日於牢屋取計可申候間御徒目附被差出

候様大目附へ相違夫々手配等申渡候右_ニ付加人老人大目附へ申達

候所寺坂兵治来

十一月十六日 時雨

一今六半時揃於牢屋御徒目附高橋三郎太下目附植月敬蔵同心組小頭

江原文蔵同部屋目附三船藤四郎立会左之通取計之但出番為治幸治

昨日被仰渡候 劔老人 敲七人

右引合之もの於役所小頭部屋目附立会大年寄申渡之

一盜人專蔵留置候付追込申付候_{但日數七日} 中之町中屋文左衛門

一右_ニ付追込_{三日} 同人組合 七人

一右_ニ付急度叱 同町年寄 式人

一盜人專蔵留置候_ニ付追込_{三日} 勝間田町菊屋利兵衛

一盜人專蔵引合_ニ付急度叱 新職人町備前屋幾右衛門

一下人茂助受人不取置候^ニ付追込^五

上紺屋町小山屋平八

一盗人茂助留置候付急度叱

元魚町紙屋助右衛門

一下人藤吉受人不取置候^ニ付追込^五

同町 吉屋清藏

一右同断^ニ付追込^五

同町 玉島屋音右衛門

一無宿松之助留置候^ニ付追込^三

東新町延屋十四郎

博奕御裁許於白砂新左衛門小頭部屋目附大年寄玉置六郎左衛門諸吟味宮田喜左衛門出番栄治岩藏立会新左衛門説渡之

一其方義博奕宿いたし候付過料三貫文 福渡町福島屋庄吉妻
申付候 ^{いき}

一博奕致参会候付過料老貫文申付候

船橋町西村屋茂助娘 ^{まつ}

一右同断^ニ付為答夫役五十日申付

茅町 栄治

御作事方へ引渡候

一視河原博奕参会^ニ付右同断申付候

元魚町米屋鹿之丞

一右同断

京町原田屋嘉四郎

一右同断

橋本町作人惣七

一右同断^并預ケ申手錠外し逃^レ」
夫役七十日申付候

林田町山形屋才之丞

一先年博奕吟味之節逃去り今般立掃り
又候視河原^ニ博奕参会いたし候^ニ付

船頭町今津屋借屋住 作人利七

右同断夫役七十日申付候

一右博奕為致候為答夫役五日ツ、
申付候

福渡町福島屋庄吉兩隣
組合 忠助佐助万五郎
和助太助清吉庄右衛門

一右^ニ付追込三日

同町月番年寄

一去冬大坂の安藤丹後殿^江之書状

勝間田町紙屋佐助

一預り掃り久々不相届不埒至極^ニ付追込申付候^{但目録七}

一初五郎義視河原博奕致参会逃去り 新魚町三巴初五郎組合
候^ニ付今日の百日之間^ニ不尋出^ニ 五人 太助久太郎孫三

おめてハ過料五百文ツ、申付候 郎新吉十吉

右之通取計相濟候段御用番へハ序有之罷越相届大目附へハ名面書
を以相届候^并御作事へも申遣候

一御用番大橋十太夫殿の呼^ニ来罷越候処町方御儉約触此間蔵合孫左
衛門考書を以相伺候通^ニ至極宜思召候間其通今日中^ニ相達候様

被仰出候^ニ付左之通触書差出勿論五六町ツ、之年寄呼出し大年寄

共致教諭候上^ニ触書相渡候含也

別紙之通^{延有之}今般御家中へ被仰出候処難有思召^ニ候兼^而儉

約筋之義^者町家へも度々触達置候処近来忘却^レ」族も有之趣

相聞候今般御家中御触之振合を以町方末々^ニ至迄銘々儉約專

^ニ相守り渡世取続家業可相励候若又以来相背花美莫太之躰見

当り候ハ、男女^ニ不限即座^ニ相糺申出候様組^{之者}江も兼^而申

付置候間其旨を可存候右之趣御家末々家族等^ニ至迄行届候様
可被申渡候

十一月十七日 時雨

一御用日登城申上候御用向無之

一來春芝居興行仕度願船頭町福本屋新右衛門願出候段大年寄申出候
然ル所町方近年金詰之処当年^者綿不作^ニ而一向無之町方渡世無之

大困窮仕来春^ニ至り候ハ、必至之差支^ニ可相成中々芝居^ニ而ハ有之間敷旨大年寄共も申出同意之義^ニ付去ル十一月御用番中へ罷越町方困窮之趣申上下方へも救方考当夏已来申付置候得共大数之金銀無之^而ハ難救義中々考付兼當時^ニ而ハ金銀計貸渡候^而も家職無之故却^而惠^而潰^而と申様之時節^ニ相成可為如何共様無之俄^ニ金銀を他^ニ引入候義ハ万人講^外手段無之旨申出候得共万人講無之^而ハ御城下難立行と申も他邦へ聞甚不外聞之義^ニ候得^者於私^者此段ハ得不申上右躰之時節^ニ候得^者芝居杯之義ハ御閉届不被成候様仕度旨御内意申上候尤之旨被仰聞候付去ル十五日芝居願差出此間御内意申上候通御閉届不被成候様仕度^ニ申上置候所今日伺之通差戻候様被仰出候付其段大年寄へ申達願書差戻候尤郡代^并寺社取次へ遂然談候上^ニ申上候然ル所当年町方之興行順番^ニ而相延候間重^而興行有之候節^者矢張町方之順番^ニ候段懸合置候

一本島庄藏昨日^ニ致出番候^ニ付加人山本治三郎差戻候段大目附へ相届候

一昨日夫役申渡候福渡町福島屋庄吉組合清吉病氣^ニ付病氣^ニ付名代差出候段御作事^ニ申来名代ハ不相成全快之上罷出候様双方へ申達置候

一大目附^ニ博奕御答^ニ而夫役^ニ召仕候もの共御曲輪外之働為仕候御伺濟^ニ候得共元来御領分之住人^ニ付御城内程ハ差扣内上下内ハ遣候間其旨相心得候様被申聞郡代^并も申達候

一橋本町中島屋幸助家財売払代^ニ六分五厘大年寄^ニ相渡候

一小野田為治義当夏出生之小児致病死候段届出候

一大橋十太夫殿^ニ酉中刻頃乱心者来候^ニ付同心組差向呉候様使之者申置委細之義不相分候得とも出番申付候所文藏時治幸治来り差向候所一場剛之助長屋住弥左衛門と申もの致酔狂候由^ニ而召捕来不束之致方^ニ付猶又差返し同心組卒忽^ニ召捕来甚不束之致方^ニ付御返し申候間如何様共御差回数次第^ニ可被仰付旨申遣候所此方^ニ而主人方へ差戻し内分^ニ而相濟候間相心得被呉候様返答有之繩を解キ渡置候段申聞候

十一月十八日 雪風

一町方儉約触今日町々年寄呼出申渡致教諭候段申出候^ニ付右序^ニ左之通申渡候様申達

一同心組出役先禁酒兼^而申付置^并諸出役時刻^ニ相成候ハ、湯漬香物^ニ賄出候様兼々敵敷申付置候所近来相寛候哉之様^ニも被察候間兼々申付置候通堅相守可申若又相背候もの有之候ハ、急度答可申付候勿論同心組^ニねたりケ間敷挨拶も有之候ハ、早々申出候様精々可被申付候

一〇〇〇〇非人共へも今般御儉約触之趣申達髮之飾等急度相止古格之通素人と相分り候様急度可被申付候

一毛受時治義昨日昼廻之節過酒之躰^ニ見受文藏心得^ニ而致察度候処決^而廻り先^ニ而者^ニ給不申宿^ニ而給候^而出候杯と弁を飾候趣今朝文藏^ニ申出右之義ハ夫切之事^ニ而^ニ不苦義^ニ候得共是迄諸事申付を不相用姦悪を相巧種々悪事いたし甚不人柄之趣迎も温順^ニ而難遣様子^ニ付不得止事無是非左之通申付候

其方義存寄有之^ニ付水之暇差遣候 毛受時治へ申渡

尤以来役所出入指構候

右ニ付同心組加人彦人大目附へ申達候所荒木源四郎来

一 浚明院様十七回御忌御赦ニ付寺院歎書之内町支配之もの捨式人考書下ケ札仕三浦へ相廻候

一 安国寺振闌今日徳守宮社地ニ興行有之候ニ付同心組昼廻り之もの立寄り扣呉候様ニ安国寺の小頭へ頼有之由承り届置候所無滞相濟候段藤四郎庄蔵届出候

一 小須賀一学殿家從塩見莊左衛門の家来宛之手紙来川端又六義召抱候も指構者無之哉と申来候付右為返答小頭文蔵指遣役所出入差構候ものニ付非召抱候義ハ御用捨被下候様申遣候所帶刀奉公指構無之候得者召抱候も不苦筋と之挨拶ニ其段承り来候様ニと申

彼是六ヶ敷被取継候趣ニ引続文蔵三度迄差遣文蔵義ハ使之義故即座御答者難仕右之御返答而已ニ參候間猶又被仰越候義も有之候ハ、其旨被仰遣候様ニと申切罷帰候様申遣候処先今夕之所ハ是切ニ相濟候間追而御懸ケ合被申候義も有之候ハ、自是御懸ケ合可申と申義ニ罷帰候由申出候然ル所翌十九日朝家從塩見莊左衛門来達度旨申候ニ付及面話候所一学殿被申聞候由ニ又六義昨日文蔵參申聞候計ニハ今少訳立兼候様被存尚又御尋被申候者一学殿

御尋ニ付又六罪も重く相成候様ニ是迄奉公御構不被成候所不召抱候様被成度旨被仰下候而ハ如何之ものニも被存同人義も甚困窮難義之趣内縁之ものの相願不便ニも被存折節人私底之義ニ付幸召抱度此段今一応承知致度被申候由「聞候ニ付兼奉公差構之ものニ無之候得者其段ハ思召次第之義ニ候得共役筋ニ出入差

留候者御権位を以来候様之義も有之候而ハ役威も立兼不相濟義ニ

候間御父子様共御役も被成候事故此段御勘弁被下候様致度旨及返答差返候〇猶又三浦十郎左衛門へ御移有之候ニ付右同断之及答候

十一月十九日 晴

一 御用日登城申上候御用向無之

一 中之町中屋文左衛門組合勝間田町菊屋利兵衛東新町延屋十四郎福渡町年寄忠左衛門追込昨日迄ニ三日ニ相成候ニ付今朝差免候段御両所へ書付を以相届候

一 松之間中庸之講尺八時の相始り大村成夫相勤拜聴仕候

一 小須賀一学殿於長屋紛失之脇差手懸り之もの京町定蔵と申もの召捕孫兵衛連来候段新左衛門御城へ来り申聞候付其段大目附へ相断早々引取新左衛門文蔵出番嘉七伝蔵六郎左衛門喜左衛門立合左之もの共遂吟味候

右紛失之脇差定蔵持歩ニ喜平次 京町畳屋宇三郎借屋住

善助杯ニ為見候由ニ付遂吟味候 定蔵

得共右脇差ハ定蔵所持之脇差ニ 細工町灰屋喜平次

而紛失之品とハ相違有之甚不分 元魚町刀屋善助

明之事ニ詰ル所紛失之脇差ニハ無之趣ニ相決

三人共其俵差返し其段大目附へ以紙面及御沙駄候

一 川端幸治義一昨日時治同道ニ昼廻り罷出候所時治同様ニ偽り申候趣ニ付相札候様申付置候処今朝文蔵の申出候者廻り先ニ酒給候ニ相違無御座候時治同様ニ偽之義申上恐入候段申出候ニ付左之通申付候

出役先禁酒之義兼々稠敷申付置候処 川端幸治へ申渡

相背其上罷帰り偽之義共申聞重々不届至極^ニ付急度可申付所用捨を以追込申付以後ハ庄藏末座^ニ申付候以来急度可相改候

同廿六日差

一勝間田町紙屋佐助義去冬丹後殿書状受取早々不相届不埒^ニ付伺之上七日追込申付候段今夕之御使^ニ大坂長沢清左衛門へ申遣伺書も写相廻候

一備中小坂部水谷弥之助殿へ相廻候米相場書今日迄御便無之今日田中幸助方へ頼遣候

一中山百歳番代^ニ平井半平家来中村祐助と申もの差出度尤当年十五歳^ニ相成未熟^ニハ候得共当分仲ケ間内助合為相勤度内意申出候付平井半平へ及相談候処年々ハ小兵^ニ而如何^ニも候得共性質之処ハ受合候様^ニ申聞候間可承届旨申置候処願書差出候^ニ付承り届明後廿一日朝目見取計候様^ニ申達

一御蔵米 六拾匁五分 町米 五拾六匁五分

一伊勢内宮藤波神主名代松井奎衛と申御師老人例年之通来候段新職人町松の屋十右衛門宿切手差出^{十一月四日始}

一吹屋町南側^ニ而鍋屋次郎右衛門家屋敷表口六間裏行拾壹間但二軒役也西隣ハ吹屋徳左衛門東隣者船頭町分^ニ而鍋屋次郎左衛門屋敷^ニ候右家屋敷敷物^ニ書入来亥ノ三月切壹ケ月老歩半之利足^ニ而銀札式百匁京町野田屋佐右衛門取次^ニ而借り受度願承り届^{同廿五日既文差出候}

一安岡町久米屋親藏^ハ届書差出当春三月中旬之頃^ニノ宮村吉原屋佐七^ハ伝言候迎表花色縮緬紋三ツ桜裏古絹紅綿入沓^ニ表口^ハ今見世へ投込追付佐七参候由申罷帰^リ候処其後佐七来不申候^ニ付同人^ハ相

尋候所左様之義無之旨申候^ニ付同人^ハ近辺為相尋候得共相知不申二ノ宮村庄屋兵吉へ懸合村中相尋候得共持主相知不申候^ニ付右之段相届候由申出候

右ハ吉川村及八ノ申もの由壬辰二月廿一日届出候

一勝間田町豊野屋七左衛門娘きん義御領分田辺村土居保左衛門妻^ニ指遣度人別除願下方引合相濟候段申出承り届

一御領分西々条郡二ノ宮村喜八^并悻七之助右式人吹屋町村本屋八郎治借屋住米屋太郎兵衛役介^ニ引受度人別入下方引合相濟候段申出承り届

一福渡町福島屋庄吉妻過料三貫文代式拾七匁六分九厘式毛相納候一船頭町西村屋義助娘松過料壹ノ文代九匁式分三厘相納候

十一月廿日 快晴

一札元茂渡庄右衛門嫁義経行不順之処妊娠之趣有之候得共月取不相分旨届書指届候

一牢入替昼廻り伝蔵嘉七取計十一人有之旨差出候

一元魚町縫屋清助方へ大田村忠兵衛御年貢米卸候由郡代所^ハ申来口書取相廻候

十一月廿一日 快晴

一御用日登城之所拙者義少々風邪^ニ付三浦十郎左衛門を以当病御断相届其外御用向無之

一上紺屋町小山屋平八元魚町吉屋清藏同町玉島屋音右衛門右三人追込昨日迄^ニ而五日^ニ相成候^ニ付今朝差免候段御所^ハ紙面^ニ而相届候

一中山百歳番代平井半平家来中村祐藏目見申付候新左衛門文蔵藤四

郎立会

三本入扇子箱

中山祐藏

一 中山祐藏義目見いたし候付仲ヶ間石名伝蔵差図ニ 而 過分之料理新魚町福田屋権兵衛へ申付候断及承兼而 右等之義定法も有之質素ニ 申付置殊ニ 此間御儉約御触も有之処上を不憚致方難捨置ニ 付左之もの共呼出遂吟味候

此もの共相糺候所石名伝蔵ハ申付献立 新魚町福田屋権兵衛為致候ニ 相違無之右献立書付差出候所 同人悴友吉 吸物等迄ニ 肴八ツも無之何れも鯛之切身 目明 孫兵衛

又ハ刺身鯛焼肴等ニ 而 本膳台引等迄も有之急度いたし候献立ニ 而 場合と申殊ニ 御時節柄不相応之奢侈ニ 付伝蔵義左之通申付候

但於玄関文蔵藤四郎申渡之 一 其方義存寄有之ニ 付番代申付候 石名伝蔵へ申渡 御用立候もの早々可願出候尤已来役所出入指櫓候

右ニ 付小頭小頭文蔵義新左衛門藤四郎立会左之通直ニ 申渡之 一 其方義役前取計不宜心付薄所ハ 江原文蔵へ申渡 示方不行届不埒之事ニ 候依之役義取上ヶ追込申付候十二月朔日指免

其方義当分小頭場合助申付候 三船藤四郎へ申渡 一 右ニ 付加人老人大目附へ申立候所小堀助四郎来

一 大坂長沢清左衛門ハ 当所市郷十一之もの出訴ニ 付病氣日延願去ル 一 右同人当所油方之ものへ弁書差遣候所落手之旨追而 否可申越旨返

書来

一 福渡町福島屋庄吉組合清吉義全快ニ 付今日ハ御作事へ夫役ニ罷出候段届出候

一 茅町栄治不快ニ 付今昼ハ御作事へ夫役ニ得不罷出段届出候 一 同心組毛受時治義暇出候段返納米左之通有之段勘定奉行平井半平ハ申越小頭へ申付候

式儀四升老合九勺八才○十二月十三日上納いたし候段藤四郎届出候 一 京都烏丸通六角下ル町二文字屋九兵衛手代清四郎一人例年之通来候段元魚町海老屋長右衛門宿切手指出甲子三月十一日帰届出

十一月廿二日 快晴 十一月廿三日 快晴 一 御用日登城

一 中之町中屋文左衛門勝間田町紙屋佐助追込昨日迄ニ 而 七日ニ相成候ニ 付今朝差免其段出仕之上御両所へ相届候

一 脇坂淡路守殿預り所当国英田郡倉敷村善助娘ちよ義寛政十一未十月戸川町笠屋伝治妻ニ 引受候所此度離縁仕親元へ差返し度人別除例之通取計消

一 京町浅田屋定蔵義佐久間兵右衛門殿家来致同居居候由去ル十九日定蔵義盜賊疑ニ 付家財見改ニ 石名伝蔵差向候付右之段相頭大年寄へ申付候所差返し候段今日申出候付左之通申付候

御家中役介并 家来等致同居候ハ、其旨 京町浅屋定蔵 願出聞届之上差置候様申付置候処相背右躰之義有之不埒至極候依之急度可申付答ニ 候得共此度ハ用捨を以叱置候以来可相

慎候

書来

一 右同人当所油方之ものへ弁書差遣候所落手之旨追而 否可申越旨返

書来

書来

一 上河原肝煎彦之進方へ去ル廿日盜賊道入衣類等八品代ニ積七拾八
匁六分計被盜取候觸流し大目附之違有之町觸取計本書ハ指戻候

同廿九日町方ニ無之候申出候

一 御領分久米南条郡一方村卯八当歳之孫初治義茅町中島屋常吉養子

ニ引受度人別人願下方引合相濟候段申出承り届

一 栄蔵寺義明廿四日夕々来月廿三日迄町方夜念仏執行御聞届之旨寺
社取次野条金平令通用有之大年寄 小頭へ申達置候

十一月廿四日 快晴

一 御蔵米五拾九匁 町米五拾五匁

一 伊勢山田河北助太夫名代辻田善治一人例年之通来候段新職人町松
の屋十右衛門宿切手差出 寛四月五日始

一 摂州有馬辻堂茂兵衛一人例年之通墨筆白粉売ニ来候段中之町甲屋
幸助宿切手差出申候 十一月廿四日始

一 下紺屋町長江朝庵義備前岡山久山町鍵屋伝吉方へ四十五日計之逗
留ニ 同 明廿五日出立願承り届 翌年正月廿六日始

一 盗人専蔵盜取林田上之町之もの相頼大島屋へ 同 置候拾受返し郡
代所へ相廻り被盜主へ差戻候

一 公郷下村長右衛門義郡代へ入牢申来栄治庄蔵差向取計之

一 新魚町柳哉と申盲人女房被盜候旨去酉正月訴出右ニ付播磨屋相手
取候付女房連来候ハ、致吟味可遣旨申置候処右女房 ハ 蜜夫忠蔵罷

婦候付勝間田町兵庫屋十兵衛へ預ケ置候段願出候付今九時々新左
衛門藤四郎六郎左衛門喜左衛門出番栄治庄蔵立合左之もの共逐吟
味候

新魚町 柳哉

手錠懸ケ十兵衛へ預ケ申付候 同人妻 いと

右同断 密夫 忠蔵

いと姪智也 同 甲之町兵庫屋十兵衛

右之通取計候段翌日出仕之上御所へ及御沙駄候

十一月廿五日 快晴

一 御用日登城

一 町大工共歎書指出右八十一ヶ年已前段々御教諭被仰付候得共御請
不申上依之他所大工共入込ニ被仰付奉恐入候然ル所此節ニ 同 ハ御
教諭之通渡世仕兼甚困窮難義至極仕候間何れ 同 先非を悔奉恐入候
尔今ハ被仰出通ニ道具箱等持歩格別出精可仕候間何卒已前之通他
所大工御差留被下候様歎書差出候付於別席十太夫殿へ申上御免被
下候様仕度旨申上候

一 新魚町柳哉一件於御別席御用番中へ及御沙駄大目附中へも申達候

一 篠山十兵衛殿支配所播州佐用郡下櫛田村利右衛門娘いそ義斎藤孫
右衛門家守戸川町作人文助借屋住嘉兵衛妻ニ引受度人別人願例之
通取計濟 同 十一月朔日住名証文差出

一 小性町作屋津林借屋住佐助七十九才同人妻七十六歳罷成候所右夫
婦共老衰仕近年手足不相叶様ニ相成候処諸親類無之永々之義町内
ニ 同 も行届兼候間夫婦共御救扶持被下置候様歎書指出御用番御聞

濟ニ付大目附へ差出勘定奉行へ及通用御聞届申達候

一 牢屋下番中間乙吉義不快引込ニ付割場へ加人来候段昨日出候
一元魚町福増屋栄吉義繰綿二本致技荷候間相札候様御用番中へ被仰
出大年寄へ 同 達例之通相札候様申付置候 十二月四日出勘届出候

一 日上村真助方へ去ル十五日盜賊遁入衣類[#]鏡四品代四拾五匁位之
もの被盜取触流し取計候様大目附[△]達有之町触取計本書ハ指戻候
一 明廿六日四時御供揃^ニ而 泰安寺へ御仏詣被仰出御道筋田町御門[△]
堀端三浦十郎左衛門前通真直^ニ竹之馬場へ御通行被成候段中奥目
附後藤郷助[△]通用有之小頭[#]大年寄へ例之通申付候猶亦大番所[△]
先之御道筋尋遣候所西今町中之横町[△]御成御門へ被為人候旨申来
其通申達候

一 御作事奉行金井長平[△]福渡町庄吉組合忠助佐助万五郎和助太助庄
右衛門右六人夫役今日切^ニ而 相濟候旨通用有之候

一 今日御用日之所牢屋吟味仕候間早ク退出仕度旨大目附を以御断申
上九半時頃[△]牢屋へ相越新左衛門藤四郎出番嘉七庄藏立合目明孫
兵衛[#]穢多人足差出左之もの共差吟味候

幸三郎義白状いたし候付不及責候

市村随波長屋住幸三郎

同 民治

同 喜三郎

十一月廿六日 曇

一 泰安寺御仏詣被遊御先弘柴治助四郎差出候所無御滞相濟候段届出
候

一 橋本町惣七義夫役^ニ御作事へ出候所病氣^ニ付明朝[△]不得罷出旨大
年寄[△]届出承置

一 細川丈助義坪并迄問屋人足相頼増錢不相渡致迷惑候段人馬問屋[△]
届出植木浅四郎を以相尋候所先達^而右定法同人を以尋有之可相渡

筋と及返答置候所丈助方^ニ而 右之訳聞合候上可相払旨申置候其
後自分方へ右之通聞合有之可相渡段申遣候間取^ニ来候ハ、可相払
積^ニ候由^ニ付取^ニ罷越候様及差図候

一 二階町組屋忠右衛門義酒改質屋頭役免之願書差出跡役ハ京町吉
田屋喜八郎へ申付度大年寄伺届尤質屋頭酒改ハ近年除役^ニ
相成候付先達^而今年寄兼役^ニ可申付様相極置候事

十一月廿七日 曇夜時雨

一 御用日登城

一 札元玉置卯左衛門病身^ニ相成候付退役願勘定奉行引合之上御用番
中へ指出候

一 札元山本三右衛門右同断願書指出同様^ニ取計置候

一 元魚町福増屋栄吉くり綿拔荷之糺大年寄へ申付候所藏合孫左衛門

運上懸り^ニ而 相糺候義^ニ右口書^ニ而 御裁許伺候先例之旨申出去西

二月茅町久治御答之的例有之^ニ付追込十日被仰付候様御裁許書を

以御用番中へ相伺候処何之通被仰付候付大目附へも達置^ニ

一 元魚町縫屋清助義御年貢米^ニ利を入候^ニ付去ル廿三日追込十日伺

候処何之通被仰出大目附^ニ相達置郡代引合^ニ付明後廿九日可取

計旨談置候

一 川端幸治追込昨廿六日差免候付今日[△]加人小堀助四郎差返候段大
目附へ相届候

一 生野御米積出候^ニ付火盜非常之手当例年之通頼来候間申付呉候様

郡代所[△]申来其旨大年寄へ申付候

一 割場中間忠八と申もの脇差被盜取候間目明へ吟味申付候様大目附

○達有之藤四郎へ申付候本番八郡代所へ
十一月十七日相渡候

一 牢舎人四人御仕着年番〆申出小頭助藤四郎へ申付四ツ相調一昨廿五日相渡右代四拾四匁之証文差出奥印書取計之

一 戸川町北丸屋被盜もの倉敷〆有之孫兵衛受取掃候入用拾式匁九分三厘二毛証文右同断取計之

一 大坂谷町御代官池田仙九郎殿手附奥野右源太手代上野戸作〆米相場書受取候再報来受取書相渡候

一 御勝手懸り大目附上原彦藏〆兼而御内々町方へ御貸渡之普請料五十拾貫目当暮上納之処江戸廻金〆付御手くり〆相成候間当月中敷又ハ来月十日頃迄〆返納仕候様可取計旨被申聞候〆付急〆上納仕候様大年寄へ申付候

一 橋本町徳島屋長十郎後家借屋住飯岡屋佐七後家当月三日不斗罷出行衛不相知候段届出候〆付百日尋〆付候〆五月十三日除候

一 雲州田社中臣西村神太夫上下四人例年之通来候段坪井町河原屋治助宿切手指出〆翌年正月十六日届〆

一 紀州高野山万生院〆使僧惠教上下式人例年之通来候段右同人宿切手指出右同断

一 伊勢山田弥惣太夫上下式人初而来候段新職人町松の屋十右衛門宿切手指出右ハ六月十六日承届候村田三太夫代り之もの也〆翌春四月廿七日届

一 備前岡山浜田町焼灯屋吉太郎一人例年之通挑灯張〆かへ来候段右同人宿切手差出〆十一月四日届

一 大目附〆状到来左之通
来月二日鳳殿院様二十七回御忌〆付於泰安寺同日朝計御茶湯

御執行被成候右可相違旨被仰出候

右御触組中牢屋三軒屋へ差出惣町へも先例之通諸事相慎火之元入念候様〆申付候
十一月廿八日 快晴

一 町方御用銀之義昨日上原彦藏〆達有之存寄申違候所認差出候様申来今日認差出候

一 町大工共〆他所大工御差留被下候様歎書承り届宜取計候様御用番中〆昨日被仰出大目附へも達置候何分取調出来次第可承届候

一 小性町佐助夫婦孤独扶持拾八匁真北類藏〆相廻候大年寄へ相渡候

一 斎藤孫右衛門悴嘉藏義去酉十月播州山崎井上弥治兵衛方へ差遣置当五月廿七日追願差出候所猶又来亥ノ五月三日延願承り届

一 市村随波長屋住之もの共伝藏相果候一件明廿九日口書印形取候付九時〆被指出候様市村九助野村左左衛門土岐雄助郡代所へ申遣大年寄へも申違候

一 播州広峰魚住藏人例年之通来候候段京町花屋権兵衛届出候

十一月廿九日 晴
一 御用日登城大守様御用所へ被為入三奉行一同罷出候

一 大久保安芸守殿領分当国久米北条郡神代村林太娘民義十一ヶ年以前子二月材木町材木屋佐助妻〆引受候所離縁仕親元へ差返度人別除願例之通取計済

一 大年寄宅へ藤四郎差向左之通申渡之出仕之上御両所へ相届候

一 太田村忠兵衛義御年貢持込卸候処 元魚町縫屋清助
売買之懸ケ合ハ不致候得共利を入候由不埒之至〆候

仍之追込申付候但日数十日

十一月晦日 快晴

一 くり綿二本運上不相納因州へ指出し 同町福増屋栄吉

一 泰安寺へ御仏詣被遊御先弘藤四郎庄蔵差出候所無御滞相濟候段届

指押遂吟味候処致拔荷不届^ニ 付追込申付候但日数十日

出候

一 明晦日四時御供揃^ニ 西 泰安寺へ御仏詣被仰出御道筋田町御門^ノ下

一 関貫番貸銀例月之通相渡ス

之町通竹馬場西今町中之横町御成御門へ被為入候旨中奥目附後藤

一大坂長沢清左衛門^ノ返書到来丹後殿書状早々不相届追込申付候段

郷助^ノ通用有之例之通大年寄^并 小頭へ^ニ付候

承知之旨申来候

一 大田村忠兵衛入牢郡代^ノ申来出番嘉七差向取計之

一 橋本町中島屋幸助家屋敷入札差出候付例之通立合致開封候所新職人町瀧本屋借屋住作人又平高札^ニ 西 九拾匁之入札^ニ 付同人^江指遣

候様及差図候

一 市村随波長屋^ニ 西 雲州もの伝蔵相果候付右懸り合之もの共左之通

口書印形取之立会新左衛門藤四郎出番嘉七庄蔵町人之節立合六郎

左衛門喜左衛門

市村随波長屋住幸三郎夫婦

同 民治夫婦

同 喜三郎

同 齋兵衛夫婦

同 十吾郎

同 三五[■]郎

土岐雄助長屋住平三郎

小田中村帳外 和兵衛

細工町 久治

神戸村喜与^{下女} 喜代

十二月 小

月番

御家老 安藤丹後殿

大年寄 黒田要人殿

大目附 小須賀貢

人扶持被下之候出精可相勤候

右先格之通直奉書指遣呼出し於座敷下役大年寄小頭諸吟味立合申渡之右取計相濟候段御用番并大目附へ相届候

大目附小須賀貢合三奉行連名而明二日鳳殿院様御法事ニ付御機嫌伺有之候間平服而四時登城仕候様申来候

大年寄 蔵合孫左衛門
諸吟味 宮田喜左衛門

一 牢舎人藤本伴右衛門長屋住岩蔵義二階町河内屋金右衛門へ預ケ置候米切手式斗余取上ケ御作事中間仲ケ間善八と申ものニ指引有之由岩蔵申口ニ付伴右衛門懸ケ合之上御作事奉行金井長平へ相渡候翌三日大目附へも達置候

十二月朔 戊辰 曇

〔井〕御用日旁ニ付五半時登城例月之通於宮島間〔礼申上之

不残口書取極〔御裁許伺書指添御用番中へ差出候

〔於御用所御用番御年寄申渡之大目附出席

町奉行 江

一 玉置卯左衛門義近来病身ニ相成役義難相勤候ニ付願之通被

成御免候尤数年出積相勤候ニ付銀杓杖被下之候○右目録勤者相勤

一 山本三右衛門義近来病身ニ相成役義難相勤候ニ付願之通被

成御免候尤数年出積相勤候ニ付帯刀是迄之通被成御免候

一 玉置忠四郎義父卯左衛門依勤切札元本役被仰付候御擬作六

人扶持被下之候出精可相勤候○但水代三人扶持被下札元ニ三人扶持被下合六人扶持之由也

一 山本房四郎義父三右衛門依勤切札元本役被仰付候御擬作六

十二月二日 快晴

一 鳳殿院様御法事ニ付御用所大目附三奉行御機嫌伺有之平服而四

時登城於七間廊下例之通御小性頭調有之奉伺御機嫌即刻退出仕候

一 江原文蔵昨日出勤ニ付加人荒木源四郎指戻其段大目附へ相届候

一 御勝手懸り大目附上原彦蔵合先月廿七日相達候町方へ御貸渡被成

候普請料金五拾貫目上納之義彦度ニ相納候義も難洪之ものも可有

之候間右之内半金八明三日迄ニ上納仕残半金者当月廿日迄ニ相納

候様可取計之旨申来大年寄へ申達候

一 勝間田〔浜野屋伴治因州鳥取四町目有本屋伊三郎方へ廿日計之逗

留而明後四日罷越度願大年寄承り届差出即廿七日

一 茅町栄治義御作事へ夫役罷出居候所足痛仕明日引込候段届出候

十二月三日 曇曉大風雨

一 御用日登城申上候御用向無之

一 今九時御供揃而志戸部勝邊へ御鷹野被為入候

一 於御用所御用番御年寄左之通申渡之大目附出席

町奉行へ

無宿幸右衛門義先達而盜相働五十敵之上追払被

御付候処猶又立帰り備前今魚荷持来候伝吉と申もの小桁塚原

之間而打倒し右魚荷奪取候始末不届付獄門被仰付候

右取計之日限十八日故障無之付取計可申段大目附へ申達候所御

用番中へ伺之上来ル六日取計候様被仰出候付承知仕其節御徒目

附被指出候様直申達置候

一 御參勤御時節来四月中と御伺済付右恐悦明後五日申上有之付

麻上下着用例刻登城候様大目附中付達有之候

一 葉種御届書左之通去ル朔日大目附へ指出候

覚

七拾七ヶ村葉種作り高

一百八拾壹石五斗七升

内百八石四斗九升

残而七拾三石八升

外而散種拾八石式升七

合九拾壹石三斗五升

右而兵庫問屋へ積登申候

右之通御座候

十一月 増尻右門 印

三浦十郎左衛門 印

一 町方大破家普請料内々拝借仕候銀札五拾貫目之内式拾八貫目上納仕井口恵左衛門へ相渡受取書取置候段斎藤孫右衛門届出候

一 公料御廻米積出し相始候段郡代所付通用有之候付大年寄へ例年之通番人足申付候様申達ス

十二月四日 快晴 夜雨

一 町方大破家普請料拝借銀札之内拾壹貫八百目今朝相納井口恵左衛門より受取書付置候段斎藤孫右衛門届出承届

一 御領分久米南条郡一方村百性清六而同人母右二人京町北山修斉引受度人別人願下方引合相済候段申出承り届

一 久世重田又兵衛殿手代曾根源次郎横本宗八飯沼才次郎付書状差越無宿嘉四郎義来ル十一日御仕置有之候間右引合当所安岡町初屋伊

兵衛而役人差添来ル十日差出候様申来候付明日可及御沙駄候尤飛脚ハ生野へ參候由

一 久世重田又兵衛殿手代長沢貞治郎付御廻米追々積出候間当所川岸而懸り候節火盜之手当頼来例年之通及返書大年寄へ申達候

一 船頭町今津屋孫十郎義御城米取納今日付仕候段届出候一札元玉置忠四郎義備中矢掛中西与四郎妻死去付右八同人祖母而付御定式之忌服半減十五日引込届而右付同人方へ往来十日計之

逗留而明五日出立願夜而入差出御用番中御宅へ罷越申上候処右願書文段略文有之認かへ候処及深更候付朝未明右願書指出候

処即刻御届届相済其段大年寄へ申達大目附へも相届候同十五日届

十二月五日 晴風烈

一御用日^并御參勤御時節御伺濟恐悅申上^二付麻上下着用登城之処平服^二而登城仕麻上下間^二不合仍之俄^二当病御断申上退出仕御用向三浦士へ頼置候

一土井大炊頭殿領分当国久米南条郡弓削村津山屋善兵衛妹そよ義鍛冶町銀治次郎右衛門養女^二引受度人別人願御用番御聞届^二付大目附へ指出置候段三浦士へ通用有之御聞届申達候^{同日住宅証文並出}

一備前盤梨郡可真下村孫十郎倅徳次郎夫婦娘右家内三人船頭町高瀬屋四郎兵衛引受度人別人願右同断取計相濟^{同日住宅証文並出}

一大久保安芸守殿領分当国久米北条郡宮部上村彦四郎娘しけ義二町目竹本屋宇兵衛妻^二引受度人別人願右同断取計濟^{同日住宅証文並出}

一細工町大工太七倅定吉義廿七歳罷成候所九月末頃乱心仕候^二付借半願右同断取計相濟翌六日昼廻嘉七加人左五兵衛入牢取計之一茅町南側^二而玉島屋八十七家屋敷表口三間裏行拾七間但壹歩五厘役也東隣八作人太郎西隣八角屋左十郎也右家屋敷代銀札百三拾匁^二相極町内阿波屋治兵衛へ壳渡度願大年寄指出承り届^{同日宛券状並出}

一銀札場奉行清水覚右衛門の紙面^二而林田町升屋長十郎義銀札場手代指免し右跡役京町栢屋清六へ申付候段通用有之

一明六日於兼田死罪老人有之^二付夫々手配申付右^二付加人老人大目附へ申達候所石坂左五兵衛来尤郡代所へも及通用右取計都^而寛政十年十二月廿五日勝部村新吉取計之通申付候

一久世の昨^二来候書状十郎左衛門を以御用番中へ相伺候所宜取計候様被仰出候旨三浦士へ申来候^二付左之通申達候

一安岡町初屋伊兵衛義町役差添来ル十日久世へ差出候様大年

寄へ申付候

一大脇新左衛門へ右立会として召連罷越候様申付候

右久世の来書大目附へ差出右兩人^二申達候段相届^并新左衛門召連候御貸人拵若堂草履取被仰付被下候様大目附へ相届候

一大目附廻状到来左之通組中計へ相触候

来春御參勤御時節四月中と御聞濟之旨被仰知候

一明朝於兼田死罪取計之義郡代^二及通用候所先格之通下代差出賄等可申付旨申来候

十二月六日 晴

一於兼田御仕置有之諸出役六時揃御徒目附高橋三郎太下目附大汐俊助同心組小頭代三船藤四郎部屋目附助役神田栄治出番川端幸治加人真北岩蔵立合左之通取計之

先達^而盜相働五十敲之上追払被仰付候処 無宿幸右衛門

立掃小桁塚原之間^二而備前魚荷持伝吉を打倒し魚荷奪取候付

打首獄門申付候

右取計相濟候段御用番^并大目附へ相届候且又右於場所村上源兵衛伴島吉西村橋五郎試致度旨同心組へ所望有之任其意試相濟取埋見届候^而出番兩人引取候

一大熊朝負殿小者部屋^二而衣類六品致紛失候^二付吟味申付候様大目附へ申来小頭代藤四郎へ申付候

十二月七日 晴

一御用日登城

一馬持廿五人へ式俵半ツ、大豆拝借願例歳之通指出勘定奉行へ懸ケ

合之上御用番中へ指出候処御聞濟^ニ付大目附へ指出置御聞届申達候

一東新町播磨屋惣十郎西新町藤屋清助下人弥吉他所銀札取扱候^ニ付御咎伺指出候

一大年寄共歳暮之為御祝儀雉子献上伺出御奏者番太田舍人^江申達候所先例之通指上候様被申聞其段大年寄へ申達候

一元魚町村本屋万吉借屋住人幸右衛門悻利兵衛義此度往来中間^ニ被召抱候^ニ付人別除願御中間頭へ引合之上承り届

一新左衛門藤四郎立合^ニ而左之通申付之

久世役所へ初屋伊兵衛差出候付指添申付候 本島庄藏

一二町目伏見屋茂七義借銀出訴^ニ付明後九日九時郡代所へ差出候様申来大年寄へ申達候

一橋本町中島屋幸助家屋敷代九拾匁指出受取置尤買券状差出

一福渡町北側^ニ而打穴屋茂兵衛家屋敷表口四間裏行十七間但老軒役也東隣八原田屋治兵衛西隣八浜屋龜四郎家守忠吉也右家屋敷代銀札式百匁^ニ相極坪井町阿賀屋伝吉へ売渡願承り届^{同日宛券状差出}

一橋本町吉田屋和助借屋住幸十郎義先月廿六日出奔仕相尋候得共相知不申候段届出例之通百日尋申付候^{二月廿五日發}

一玉琳^ニ而大商内いたし候付内町故障^ニ相成候^ニ付指留具候様願書先達^而令郡代所へ相廻置候処一向不訳立候^ニ付取返し御用番中へ持参指出候

一在分^ニ而豆腐商売いたし候もの数多有之町方之故障^ニ相成候段先達^而願書指出し郡代所へ相廻置候処是又一向不訳立候^ニ付取返し

要人殿へ指出候

一大脇新左衛門義久世へ持参之筆墨紙^紙燭燭受取手形指出大目附上印取之相渡候

一明八日九時令町惣大工呼出候付筵拾五枚御作事令借り其外手配申付候

一明八日地藏院泰安寺御仏詣被遊拙者門前御通被成其外ハ先例之通之旨中興目附令通用有之小頭^并大年寄へ申付候^{但拙者門前御通行不發成候}

十二月八日 晴

一追々及月廻世上物騒^ニも相成候^ニ付目明兩人非人老組ツ、召連忍廻り可申付段御用番^江伺置候処昨夜及深更伺之通被仰出候^ニ付今夕令忍廻り致候様小頭へ可申付旨申達右之段大目附へ相届候

一久世へ安岡町初屋伊兵衛差出候付右留主中加人老人明九日令被仰付候様大目附へ相違候所土居島右衛門来

一地蔵院泰安寺へ御仏詣被遊榮治文蔵御先弘差出候所無滞相濟候段届出候尤拙者門前^者御通り不被遊候

一久世^江初屋伊兵衛来ル十日指出候付手代^江之添簡下案昨夜御用番中へ伺置候処思召無御座宜取計候様被仰出候

一明九日五時御供揃^ニ而院庄辺へ被為入御道筋田門御門令下之町通竹之馬場西今町筋違橋通へ被為入候段中興目附後藤郷助令通用有之小頭^并大年寄へ例之通申達候

一中原村佐助方へ先月廿九日之夜盜賊這入衣類脇差九品代九拾老匁四分計被盜取候触流取計候様大目附令達有之町触取計本書ハ差戻候^{同日町方ニ無之旨申出候}

一宮村東山方庄屋八百治方へ先月廿六日夕盜賊遁入布子一拾八匁位（表）様米五升五合被盜取候町触右同断取計濟右同断

一新魚町柳哉公事一件孫左衛門場合二而内濟取計可然旨申出任其意願書相渡候

一備中小坂部水谷弥之助殿内近藤武左衛門中島幸右衛門〆例年之通米相場書指遣候為挨拶釜數紙二束来及相答候

一大目附廻状到来左之通

一明九日中庸御譜尺御延引被仰出候

一日光道中水戸佐倉御成道人馬賃銭割増被仰出候

公儀御触到来委細扣二認置候付爰略之

右道中賃銭割増之触書八町中組中へ差出候

一今九時〆町大工共呼出新左衛門藤四郎栄治孫左衛門喜左衛門立合

左之通申渡之

諸事申聞候通以来可仕間他所大工

町惣大工六十八人江

御指留被下候様歎出候段承り届候弥出精可致候依之受書印形

取之

右取計相濟候段御所へ相届候

一阿州板野郡中留村兵助手代平兵衛一人例年之通藍玉壳来候段京町

今出屋半兵衛宿切手指出其六月廿二日始

一阿州名西郡桑島村夫右衛門手代次右衛門一人右同断来右同人宿切

手指出右同断

一阿州名西郡桑島村平治兵衛手代庄助一人右同断来宿切手指出右同断

十二月九日 雨

一御用日之処大掃除二付御用所出仕無之段一昨日大目附〆違有之候一御出御延引被仰出候旨中奥目附後藤郷助〆申来大年寄小頭江申達候

一大年寄宅へ小頭代藤四郎出番幸治差向左之通申渡之尤取計濟御所へ相届候

一他所銀札取扱候二付其員數取上ケ

手錠懸ケ追込申付候但目數十日

一手錠追込

差免候

元魚町縫屋清助
同町福増弥栄吉

一郡代所〆大田村忠兵衛出牢申来出番為治差向取計之

一目明共忍廻り申付候二付仮目明桶屋町平助へ申付候段藤四郎届出候

一二町目伏見屋茂七義郡代所へ差出候処右借銀出入三十日限内済申

付候段申来候

一伯州日野郡〇〇村穢多戸川町二而どうだれ候由大年寄〆届出候二

付夜廻り嘉七岩蔵差向候処勇五郎と申穢多二而〇〇穢多藤七と

申もの親類之由二付穢多頭へ申遣引渡可申穢多頭来候迄ハ非人番

付置候様及差戻候処翌十日穢多頭へ引渡候段届出候向十日送り返候段届出候

十二月十日 快晴

一久世へ指出候もの共左之通今朝致出立候段夫々届出其段御所へ

相届候

立合役人 大脇新左衛門

差添同心組 本島庄蔵

安岡町年寄 坪井与八郎

同 町 初屋伊兵衛

十二月十一日 時雨

一御用日登城申上候御用向無之

一元魚町米屋鹿之丞義夫役ニ御作事へ出居候所怪我仕難相勤ニ付今

日引込候段届出候

一銀札場奉行栗原衛守之錢八十箇川下裏印申来例之通取計之

一惣町暮之大割帳大年寄差出遂一見差戻候但ノ高左之通

老貫八百九拾六匁三分老厘但精方老ノ文付七拾二分四分四厘〇四

但去酉ノ暮之六百三拾七匁分九厘減尤八朔割合一ケ年分五貫

五拾老匁九分老厘也

一長沢清左衛門之昨夜書状差越大坂油屋共爰元油方之ものへ懸合候

而も登坂不仕候間御呼登七御番所へ訴候旨案内いたし候付其段今

一応申遣油方三人之もの廿日迄ニ不登候ハ、訴可申廿日迄差延置

候様致挨拶置候間其旨相知候旨申来 栗田辰右衛門自分状ニも御

呼登七ニ相成候 而ハ大騒ニも可相成間年内ハ断置春早々可登杯と

断申越候 而ハ如何可有之哉と誠深切ニ 而申越候ニ付乍自分状一緒

ニ御用番中へ差出右書状御下ケ被成候ハ、油方之もの共へ為見存

寄承り札候上ニ 而猶又可伺旨申上置候翌日即下ケ被成大年寄へ相渡候

一安岡町北側ニ 而松田屋徳兵衛家屋敷表口式間半裏行拾四間但五歩

役也東隣ハ戸島屋長兵衛西隣ハ篠屋市右衛門也右家屋敷同町鶴屋

茂兵衛へ質物ニ書入銀札百五拾匁式割之利足ニ 而来亥十月切ニ借

用仕度願承り届同廿四日様文並出

十二月十二日 快晴

一久世へ差出候初屋伊兵衛今八時頃大脇新左衛門召連罷帰り昨十一

日御裁許有之伊兵衛義差構無之段被仰渡右盜賊嘉四郎義存生ニも

候ハ

、牽廻し之上獄門ニ可相成処当七月致牢死候ニ付無其義右伊兵衛

被語取候銀子ハ損失ニ被申付候由挨拶有之右引合之もの共之被仰

渡書写取罷帰リ 而同人応対振認差出し右両様共御用番中へ差出し

大目附江も右之段相届候

一林田上之町源吉と申もの郡代所之牢番預ケ申来出番為治差向入牢

取計之

一本島正藏（つとむ）義実母今朝病死ニ付引込候段小頭代之届出依之加人其俣

留置候翌日大目附へ相届候

一阿州板野郡成瀬村曾右衛門一人例年之通藍玉壳来候段船頭町今岡

屋熊吉宿切手指出翌日五井

一阿州名西郡高原村直兵衛手代平左衛門一人右同断来右同人宿切手

指出右同断

一阿州板野郡高房村新兵衛一人右同断右同断

十二月十三日 快晴

一御用日登城

一札元山本房四郎義三右衛門と相改父三右衛門義半内と改号仕度願

御用番御聞濟ニ付大目附へ差出置御聞届申達候

一森下野守殿領分播州佐用郡下本郷村勘十郎娘中義新魚町油屋辰三

郎借屋住吾妻屋平吉妻ニ引受度人別人願右同断取計濟同廿六日住宅様文並出

一 大久保安芸守殿領分当国久米北条郡坪和角石谷上村徳左衛門倅喜兵衛義京城喜屋源七後家養子ニ引受度人別人願右同断取計済

同十四日住宅養生出来十一月八日 離縁

一 福渡町長兵衛借屋住桶屋源治義家内共寛政四年子三月備前見島郡小串村源太郎方同町作人惣七引受候所此度右家内五人共差戻度人別除願右同断取計相済

一 東新町茶屋武左衛門母願書差出し同人倅武兵衛兼業而所存ものニ付親類組合異見を加へ候得共不相用然所当月上旬出奔仕相尋候得共行衛不相知右躰之ものニ付以後於何方如何様之變義仕出候程も難計御座候付親類組合打寄義絶勘当仕度願右同断取計済

一 林田町丸尾屋伊助義くり綿商売仕候処御法を守り至而律義ニ商売仕候段綿改行事認出候右躰奇特之義ニ付綿口銭之内を以褒美遣度旨大年寄伺出右ニ付添書いたし拾五匁計差遣度伺書差出廿一日何之通被仰出候

一 藏合孫左衛門申出候者繰綿締り余程行届甚宜敷相成居候所船拔荷之程も難計万一不宜綿差出候而ハ他邦之思入も違候間以後者川下船手形ニ櫻野屋茂一郎加印為仕度旨申出候付其段御用番中へ伺置候同廿一日何之通被仰出候

一 坪井町小倉屋家守角屋孫兵衛借屋住倉敷屋鶴吉并同人母并妹右家内三人此度ニ橋要助長屋へ引越度人別除願承り届

一 大年寄札元并其外ニ而も近年商売名前前拵置候様ニ相成甚紛敷既ニ御咎等之節種々申訳等いたし甚不束之義度々差支も有之義ニ付以後ハ古格之通商売名前前相止候様可申付旨伺書差出候同廿一日何之通被仰出候

十二月十四日 雨

一 寒中御機嫌伺ニ付御徒格以上平服ニ而四時揃五半時惣登城御奏者番今三奉行迄一同於七間廊下御小性頭謁有之奉伺御機嫌候

一 油方之もの共大坂へ呼登度趣去ル十一日認置候通申達置候所油方之もの共存寄ニも毎度御藏屋敷へ奉懸御苦勞候段恐人候義ニ付早速登坂仕度候得共太郎左衛門義ハ病氣罷在丈右衛門義ハ家内病有之理兵衛罷出候而も可然候得共一人ニ而も如何ニ有之折節月廻ニ付出版難仕何分早春ハ申合登坂仕御屋敷へも御札申上油屋共へも懸ケ合可申之間弁書指出御用番中へ指出置候

一 御藏米 五拾八匁 町米 五拾四匁

一 西新町豊永屋庄吉義東新町野村忠助家守相勤居候所右同人娘兩人右家内三人此度東南条郡林田上之町与藏方へ引越度人別除願下方引合相済候段申出承り届

十二月十五日 昼 夜雨

一 式日并御用日ニ付例刻登城御定礼之通於宮島之門御目見御札申上候

一 於御用所御用番御年寄黒田要人殿被仰渡大目附佐々木主馬出席御初入被成候ニ付御条目 三奉行へ別紙之通被仰出候間其旨可相心得候

畢而大目附之支配之大役人以下江も可被相違旨演達有之候右御別紙と申ハ先前之御条目之通を御初入被成候ニ付改而被仰出候事ニ候由右ハ虎之間御条目之通り也右虎之間御条目明和五年十二月と有之候処御初入被成候度毎ニ御認かへ被仰付候事ニ而御代替りニ改而被仰出有之御先格之由ニ相聞候且又大目附之右御

条目之文面之古方之通故末期養子^并御紋等拜着之義少々當時之御
合とハ違候得共古文之通認かへ出来候事故其段ハ矢張是迄之通可
相心得旨被申聞候

一大目附廻状到来左之通

深信院殿義以後様と唱候様被仰出候此段申達候

一齋藤孫右衛門養子嘉藏義病身^二相成養家相統難仕依之離縁仕具候
様相願候^二付離縁仕度旨願書指出し余り数度之義不束^二付御聞届
之上ハ御叱^二而^三追込廿日計被仰付候様并書差添御用番中へ差出置
候

一今昼後年頭之御礼習礼有之段及承候付悴義指出候

一明十六日大笹刃へ御鹿狩御出被遊候御沙駄有之候

一細工町作人和助悴藤五郎義此度往来中間^二被召抱候^二付除帳願御
中間頭へ引合之上承り届

一播州網干丸尾屋六三郎一人例年之通荒物塩物売^二来候段林田町福

吉屋安右衛門宿切手出^{正月晦日掃九}

一越中富山向河原町松井屋佐兵衛一人例年之通反魂丹売^二来候段右

同人宿切手出^{右同前}

一信州木曾筑摩郡葦原宿古屋善吉一人例年之通木櫛売^二来候段右同

人宿切手差出^{聖年正月廿日掃}

十二月十六日 快晴

一野村七郎右衛門咎牟舎申付候由郡代所へ申来昼廻藤四郎幸治取計

之

一大目附廻状到来左之通

明後十八日於松之間御囃子被遊候間御家中坊主以上勝手次第
拜見可罷出候尤以後共度々為御知^者無之候間及承勝手次第可
罷出候

一明十七日四時御供揃^二而^三地蔵院へ御參詣被仰出御道筋例之通之由

中興目附後藤郷助へ通用有之大年寄へ申達候

十二月十七日 曇 風

一御用日登城申上候御用向無之

一地蔵院へ御參詣被遊候

一齋藤孫右衛門養子離縁願御聞届被成候間伺之通申渡候様御用番中

被仰渡依之切紙差遣呼出新左衛門小頭代栄治孫左衛門立会左之通

直々申渡候右取計濟御両所へ相届候

其方義養子嘉藏病身^二付離縁^二齋藤孫右衛門へ申渡

願差出し御聞届被成候然ル所其方義数度養子致離縁不仕合と

ハ乍申兼々不吟味役柄不相応不埒之至^二候依之急度御叱之上

追込申付候^{但日數廿}

一町醫師高道載名面文字大目附へ尋有之申達候

一宗永寺長屋住和助と申もの戸川町永谷屋弥右衛門後家引受度願差

出右和助と申ものハ元来備前もの^二候処備前へ宗永寺へ引受候

節送り状も聡と有之大年寄とも見改差戻候旨申出勿論寺社取次三

浦十郎左衛門へも引合有之^二付承り届候

一安岡町南側^二而^三三原屋八藏家屋敷当二月廿七日質物^二書入銀札百

五拾匁借り受候所元利返済受返候段届出候委細之訳ハ二月之処^二

認有之候^二付略之^{同廿一日又質入血書出賣十二月五日受戻候}

一元魚町松尾屋源之丞義昨夜相煩極老^并小兒^ニ甚難澁仕候旨歎出候
付工面もの^ハ三拾匁差遣度大年寄伺出承り届候

一福渡町年寄小文字屋忠左衛門義近来病身^ニ相成候^ニ付退役願差出
無余義趣^ニ付御免被成悴源太郎へ跡役被仰付候様大年寄申出承り
届

一播州網干余陸屋武兵衛一人例年之通八百屋物鏗節売^ニ来候段林田
町福吉屋安右衛門宿切手差出候 正月晦日届

一播州網干平松屋惣九郎一人例年之通小間物晒蠟壳来候段右同人宿
切手指出 翌年正月晦日届

一牢屋下番中間久五郎不快^ニ付引込届出候尤明日^ハ代り来候

一目明甚七義取計不宜趣相聞候付左通申渡候様藤四郎へ申渡候

存寄有之^ニ付役義指免候 目明甚七へ申渡

一西川役人平沢助八大谷代蔵^ハ例年之通寒中^ニ為見廻酒式升鏗節三十
相送及相答候

一御廻米積切候段御蔵元^ハ届出承り置

十二月十八日 曇

一御囃子有之御前^ニも被遊擇見罷出候

一目明仮役田葉粉屋善治へ申付候段藤四郎届出候

一牢舍人上之町源吉呼出郡代所^ハ申来り出番幸治岩蔵出入取計之

一昨夜更通り西町程藤四郎栄治幸治岩蔵罷出候所無別条段今朝届出
候

十二月十九日 晴

一御用日登城大守様御用所へ被^レ為入三奉行一同罷出候

一東新町播磨屋宗十郎西新町藤屋清助下人弥吉手錠追込昨日迄十日
^ニ相成候^ニ付今朝藤四郎島右衛門大年寄宅へ差向差免其段出仕之
上御所^ハ相届候

一土屋但馬守殿領分当国勝北郡堀坂村芳平悴弥助老人京町平野屋治
兵衛借屋住綿屋忠蔵引受度人別人願例之通取計濟 仰出四日住宅在文出

一福渡町小文字屋忠右衛門方へ去ル十六日夕盜賊遁入もがり^ニ懸ケ
置候染懸ケ之木綿表地一反^并小切少々代拾匁計之もの被盜取候
届書御用所へ差出し触流し御聞濟^ニ付大目附へ相達觸流取計候 四十九日無之届届出候

一本島庄蔵義今日^ハ忌明出勤^ニ付加人土居島右衛門差返し其段大目
附へ相届候

一町人共商売名前相唱候義去ル十三日弁書差出候処昨日大目附^ハ達
^ニ而丹後殿御附札^ニ而御察度有之候^ニ付右御答書相認今朝大目附
へ差出候 仰廿一日初之通書御出候

一教信町講釈入用八匁式分九厘小手形喜左衛門^ハ差出先格之通自分
証文^ニ相認勘定奉行へ差出候所即刻相渡り大年寄へ相渡喜左衛門
受取手形取置候

一林田町和田屋清六方当六月頃瓦六板持来調置候所若哉御作事中間
岩蔵^ニ而ハ有之間敷哉^ニ付届書指出候

一西今町北側^ニ而直屋孫兵衛家屋敷表口六間裏行十五間但六歩役也
東隣ハ三島屋貞蔵西隣ハ直屋善吉也右家屋敷^并三間^ニ七間之土蔵
指添質物^ニ書入来亥三月切^ニ而一ヶ月壹歩半之利足^ニ相定銀札壹

貫七百匁新魚町秤屋甚左衛門取次^ニ而借り受度願承り届 翌五日在文出候

一二階町高田屋治助借屋住魚島屋権右衛門悴豊三郎義寛政十二年申

五月小林豊治と相改小沢又右衛門へ奉公仕候処此度無滞暇出候付
人別人願承り届

一西新町英田屋新治義田地受作御年貢差滞之義^ニ 付明廿日九時郡代
所へ差出候様申来大年寄へ申達ス

一例年之通暮之町触差出候

一当五月十一日雲州の召捕^ニ 来候広原分^ニ 罷在候九市事六左衛門妻

子鉄炮町^ニ 而 昼夜番いたし番賃銀六拾六匁有之候付桶屋町の払候

様願出候段郡代所の懸合有之下方所存相糺候所尤之并書指出候付

郡代所へ相廻し強^而 難申付旨及挨拶置候

十二月廿日 曇

一吉原村弥兵衛義郡代所の入牢申来昼廻藤四郎岩藏取計之

一西新町玉木屋伝吉義林田上之町源吉の正米三俵半買取候段郡代所

の申来大年寄方^ニ 而 遂吟味口書郡代所へ相廻候

十二月廿一日 曇

一御用日登城

一被為召御座之間^五 罷出御用向申上之

一御代官重田又兵衛殿支配所備中阿賀郡宮地村義右衛門娘品義境町

西川屋善助妻^ニ 引受度人別人願例之通取計済^{同廿九日在程文指出ス}

一二階町山手屋弥太郎借屋住庄八と申もの播州松平正治郎殿領分佐

用郡宗行村三郎右衛門と申ものへ牛代残り九拾匁有之不相払候^ニ

付添簡先日願出下案相認御用番中へ伺置候処伺之通宜取計候様被

仰出大目附へも達置添簡相渡候^{同廿八日相置候様候}

一繰綿取締之義^ニ 付川下手形^ニ 櫻野屋茂一郎印形加候義去ル十三日

伺置候処今日伺之通被仰出其段大目附へ相達置伺之通承り届候段

大年寄へ申達候^{勿論大年寄の意町へ相般由}

一林田町丸尾屋伊助義繰綿商売律義^ニ いたし候間為褒美綿口銭之内

を以大年寄場合切之為取計拾五匁差遺度旨去ル十三日伺置候処今

日伺済^ニ 付宜取計候様大年寄へ申達候尤大目附へも相達置候

一町人共商売名前相用候義以来為相止申度伺去ル十三日御用番中へ

伺置候処伺之通御聞済^ニ 付惣町へ触書差出候尤其段大目附へも相

届候町触左之通

町家^ニ 而 苗字等被差免候もの共商売筋之義^ニ 付近来当主之名

面不差出商売名前或ハ家名前と号し召仕之もの坏之名面差出

候族有之趣相聞心得違之事候大年寄を初其外苗字帯刀被差免

候もの^ニ 而 もいづれも町人之事^ニ 候得^者 銘々商売可致義^者 勿

論之事^ニ 而 恥しからざる事^ニ 候間已来商売名前前相止メ

当主之名面^ニ 而 可致商売候

一宗永寺へ去ル十九日夕盜賊遁入香炉折敷之類四品被盜取候触流取

計候様大目附の達有之町触取計本書ハ指戻候^{同廿九日無之夜届出候}

一伊予松山城下波正町常盤と申座頭病氣^ニ 付東村の送り来往来致所

持居候間継送り候段大年寄申出未郡代所のハ通用無之^ニ 付最早相

済候事^ニ 而 候得共郡代所へ及通用候

一安岡町南側^ニ 而 三原屋八藏家屋敷表口式間裏行拾七間但式步五厘

也東隣ハ小倉屋七右衛門西隣ハ橋留屋喜与松也右家屋敷同町松島

屋清吉取次^ニ 而 質物^ニ 書入式割之利足^ニ 而 来亥十月切^ニ 銀札三百

匁借り受度願承り届^{同廿四日在程文指出候}

一因州知津郡用ケ瀬村赤松三誦と申者医術執行ニ 来宮脇町武田屋六郎兵衛親類ニ 付来亥三月迄同人方ニ 逗留為仕度願承り届 翌三月廿八日届

一二階町山手屋利兵衛家守仁兵衛借屋住福島屋甚助義当月九日出奔仕候段届出例之通百日尋申付候 ○翌四月廿六日届切候

一町方大破家修覆拜借銀上納残り拾貫貳百匁今日井口惠左衛門へ喜左衛門合相納都合五拾貫目上納相済候段宮田喜左衛門届出候

一細工町大工藤吉義御年貢致不納候ニ 付取立候義郡代所合申来候付いつニ 西も可差出候間御勝手次第御取計候様及返答置其段大年寄へ申達候

一大年寄共例年之通御手当頂戴仕候御礼罷出候

一月廻ニ 付今夕合町方老町切四時合六時迄金棒引廻り夜廻り可申付候段伺済之上大目附へ相届大年寄へ申付候

十二月廿二日

一綿口錢左之通可割渡旨大年寄伺出承り届

一綿五百拾三本

並屋忠兵衛

一千八百五本

能勢屋源蔵

一千三拾九本

高瀬屋勘右衛門

一百貳拾壹本

豊屋喜兵衛

一九拾四本半

大坂屋鉄五郎

メ三貫五百七拾貳匁五分

問屋渡割六歩

三百七匁八分

並屋忠兵衛

老メ八拾三匁

能勢屋源助

六百貳拾三匁四分

高瀬屋勘右衛門

七拾貳匁六分

豊屋喜兵衛

五拾六匁七分

大坂屋鉄五郎

メ貳貫百四拾三匁五分

式歩六厘割

九百貳拾八匁八分五厘

改人四人

百貳拾匁

両中買酒代

メ三貫百九拾貳匁三分五厘

残 西 三百八拾匁壹分五厘

内 五拾四匁八分

改人諸人用別紙小手形之通

拾五匁

林田町丸尾屋伊助褒美

右指引メ金残 三百拾匁三分五厘

一町人共年頭御目見御嘉例之通正月三日被仰付候段大年寄へ申達候

一大年寄共歳末献上物は又先格之通被仰付候段御奏者番太田舍人 五

聞合候上申達候

一伊勢山田御炊太夫名代西佐助上下式人来候段新職人町松の屋十右衛門宿切手出 翌正月廿七日届

一明廿三日五時御供揃御遠乗御供立 ニ 院庄辺御殺生被為入御道筋

表御門合田町御門大熊殿前通竹之馬場大番所西今町安岡町と被為

入候旨中奥目附出九太夫合通用有之大年寄 井 小頭へ例之通申付候

十二月廿三日 快晴

一御用日登城

一御代官布施孫三郎殿支配所当国西々条郡上森原村長左衛門娘いす

義中之町山手屋兵助妻ニ引受度人別人願例之通取計濟四廿九日住毛屋文差出

一御遠乘御供立ニ西院庄辺五御殺生被為入御先弘文蔵庄蔵差出候所

御滞無御座七時頃御帰被遊候段届出候白旗町正 岡田四郎右衛門

一新左衛門藤四郎栄治立会新抱同心組左之通目見五申付勘定奉行へ及通用候

三本人扇子箱

堀内利右衛門

一俊明院様御法事御赦ニ付寺院六歎出候もの御聞届被成候分御許容申渡候様大目附六達有之申合取計候様伝達有之候旨寺社取次三浦十郎左衛門六通用有之来ル廿六日可申達旨談置候尤別紙名面書相廻候

一二階町山手屋弥太郎家守作人市平借屋住孤独げん義巳ノ三月十八日六御赦扶持被下置候処老病差重り候段申出部屋目附假役栄治差向候所老病相違無之看病等も不束無之由見分一札并容鉢書差出候所無程落命届出候ニ付勝手次第葬候様及差図候追而可及御沙駄候事

一福渡町年寄源太郎義源右衛門と改号願出承り届

一新左衛門栄治立合左之通申渡之候処慎伺出不及候段申達候

不束之番割いたし助役不相応之

三船藤四郎

及差図不埒至極候依之急度叱置候以来可相慎候

十二月廿四日 快晴

一紀州海士郡日方浦地谷町善四郎手代嘉四郎五兵衛式人例年之通梳折敷壳ニ来候段京町田戸屋宗十郎宿切手指出

一上田邑村南庄六伊右衛門下田邑村川西弥八右三人郡代所六牢番預

ケ申来出番幸治見習利右衛門差向取計之

一安岡町久米屋鶴藏借屋住英屋宇八と申もの所々くり綿受込因州へ壳ニ参り返り懸ケ去ル十日関本辺ニ而追剥ニ三人ニ出合右綿代五六百匁計被奪取候由申出甚怪敷趣ニ付綿主共銘々罷越遂監察申出候様申付置候処明石屋庄七頼遣段々遂監察候処実ニ被奪取候ニ相違無之趣申出候付其候ニいたし置候

一郡代所六鍛冶場前川筋又々当年も御廻米通船差支候段申出候間去歳之通積越ニ急ニ申付呉候様頼来其段即刻申付候処無程又郡代所六小田原通船いたし候ニ付御蔵元庄屋六船頭共きめ込候誤入願下ケいたし候付不及其義旨申来候付又々大年寄へ申達候

一播州網干新在家平松屋左十郎一人例年之通挑灯張かへ来候段林田町福吉屋安右衛門宿切手出翌年正月廿日届

一播州網干天満屋儀兵衛一人例年之通反物卸売来候段右同人宿切手出翌年正月廿日届

一播州網干唐松屋佐七郎一人例年之通小間物反物壳ニ来候段右同人宿切手指出右同前

一大目附六左之通申来

源信院様御出有之節町在御通行ニ付而ハ種村登門六御通用可申候得共町役村役共罷出候ニ并及不申左様御心得可有之候以

上

右ニ付掃除触并御先弘ハ可差出義ニ而も可有之旨旧記吟味いたし候司馬五郎様ハ勿論泰涼院様ニも掃除申付御先弘差出候先格ニ付其段翌朝大目附へ及対候処掃除申付御先弘差出候様申聞候尤此段

大年寄へ申達置

一源信院様明廿五日四時御供揃ニ而泰安寺妙法寺へ御仏參御往来共

關町田御通行之由種村登門ニ申來大年寄并小頭へ申達候

一右門義被為召候ニ付明廿五日登城候様連名之御奉書致到來候

十二月廿五日 快晴

一登城仕候処於焼火之間御家老安藤丹後殿ニ左之通被仰渡候

出精相勤候ニ付格式大目附被仰付候

右畢而於御用所大目附出席面謁有之候

一大番組金井長平番外伴部其外暮御褒美等被仰渡有之候

一二階町山手屋借屋孤独けん病死之義御所へ申達勘定奉行へも及
通用候

一源信院様御仏參御先弘柴治庄藏罷出候所無滞相濟候段届出候尤下

ニ居レト云懸声也

一明廿六日四時御供揃ニ而三ヶ寺へ御仏參被仰出候段中奥目附渥美

源五郎ニ通用有之大年寄并小頭へ申達候

一於御用所大目附出席御年寄御用黒田要人殿左之通被仰渡候

一一ヶ月代使組加入出精相勤候ニ付 三軒屋番 中村作治
鳥目三百文ツ、被下之候 中尾清八

一年中出精相勤其上他所懸ヶ合等 大年寄 藏合孫左衛門

入組之義者是迄老人ニ而引受相勤 且又先達而備前船荷積出入一件之節も格別心を用深切ニ相

勤寄特之事ニ候依之御加持持式人扶持被下之候

一兼々出精之処当夏

御初入ニ付銀札場ニ金千両

札元

武田七郎兵衛
茂渡庄右衛門

差出尚又大数之銀子調達

出精相勤候ニ付白銀壹枚ツ、
被下之候

被下之候

忠告郎文
三右衛門又

川口藤左衛門

玉置卯左衛門

山本半内

山本三郎左衛門

妹尾平兵衛

茂渡藤右衛門

高道載

町医師

一家業出精ニ付
御目見被仰付門松被成御免候

一數十年出精相勤其上油方之義初年ニ

引受規矩も相立御為筋專ニ相勤加ルニ
廉直ニ而家業出精いたし甚風義宜敷最人之手本ニも相成り

寄特之事ニ候依之帶刀被成御免
御目見之節札元次座ニ被仰付候

一出精いたし候付御合印被成御免候

一右同断ニ付門松被御免候

一年中出精ニ付

米式俵ツ、被下之候

一御用向多年出精相勤候ニ付 瓦屋根莊師 屋根屋嘉兵衛

宅人半扶持被下之瓦葺師棟梁被仰出候

町大工棟梁

伊兵衛

弥五郎

稻実屋義七郎

野々口屋七郎右衛門

△右大年寄札元五者直奉書差遣於座敷新左衛門大年寄小頭立合申渡

之但右之内卯左衛門八中庄右衛門八銀札場当番ニ而罷出依之

七郎兵衛ニ演達候様ニ申達候

△高道載久山勘八江者大年寄へ奉書遣於座敷申渡之

△稻実屋義七郎野々口屋七郎右衛門へハ大年寄へ申遣於小座敷申渡

之

△三軒屋番へ小頭申遣於小座敷申渡之

△大工棟梁屋根屋ハ大年寄於宅申渡之候様ニ申達候

右申渡相濟候段御用番^并大目附へ紙面^ニ而相届候

十二月廿六日 快晴

一四時御供揃^ニ而三ヶ寺へ御仏參遊御先私為治嘉七差出候所無御滯
相濟候尤地藏院泰安寺本源寺と御順路御出被遊候

一俊明院様十七回御忌御赦ニ付寺院歎^ニ寄^而左之通御免被成候

一伊勢屋又助掃住御免 親類吹屋八左衛門へ申渡之

一橋本町松屋忠助掃住御免 親類初屋弥吉へ申渡之

一鍛冶町庄右衛門倅繁藏徘徊御免 親類東新町野村屋忠助煩
代五明屋文吉へ申渡之

一小性町鈴鹿屋太兵衛徘徊御免 親類同町桶屋幸助へ申渡之

一中之町鮎屋藤助倅吉三郎徘徊御免 親類同町鮎屋乙治へ申
渡之

渡之

右^者組合不及罷出町役召連出申渡之右取計濟御両所へ相届候

一牢舍人公郷村長右衛門病氣申出大年寄へ申達候所^付

一牢舍人無宿周藏病氣申出大年寄へ申達候所藤木良全へ申付候由

一牢舍人野村七郎右衛門義郡代所^付出牢切手相廻り出番幸治差向取
計之

一初山村弥市方^ニ而去ル二日備前大工曾吉義鋸四枚被盜取代^ニ積り

百九匁位之由触流取計候様昨日大目附達有之今日取計本書ハ差戻

候^{正月十一日町中無之段申出候}

一日上村市左衛門方へ去ル十九日盗人遁入裕菅ツ八匁位之品被盜取

候触流右同断取計之

一沼村喜宝院方へ去ル八日盗人遁入着物三ツ代式拾匁之品被盜取候
触流右同断取計之

一林田上之町^ニ而去ル廿二日藤右衛門と申もの裕羽織帶手拭拾候由
右同断達有之候ニ付張札取計候様大年寄へ申付本書ハ差戻候

一上田邑平田村万助へ預ケ有之候帳外勘兵衛妻致狂氣借牢願出勿論
絶人ニ付賄出来不申牢賄御聞届ニ付取計候様大目附^付達有之候

一阿州板野郡永富村十藏と申もの五ヶ年已前迄藍玉壳ニ船頭町今津

屋平藏方へ来候所不勝手ニ付不罷越候間右代^ニ同郡那東村新左衛

門參度旨相願候ニ付逗留仕度願差出承り届

一米綿懸ケ合間屋冥加銀三百拾匁大年寄差出翌廿七日勘定奉行へ相
渡受取書取置候

一牢屋^ニ而御仕置之節出役へ振廻候酒代六匁式分書付差出相渡候

一牢屋私諸入用受取証文指出奥書取計之但左之通

一三百拾式匁三分

内訳式百八拾匁八分牢舍藥代 諸入用三拾壹匁五分

一目明仮役酒代非人他所行^并無宿者賄代三拾六匁四分証文奥書取計
之

一田町^并南新座関貫番所普請入用^并茨摘込入用式百八拾四匁五分証
文奥書取計之

十二月廿七日 晴

一御用日登城御用向無之候

一大三十日夕例年之通町中関貫開置立番付候段御両所へ申達候

一御小納戸大沢長平^付呼^ニ来相廻り候所左之通被申達候

候

候

候

候

候

候

候

御獵方ハ差出候雁之御下夕御吸物被下之候

右御下夕役所へ相廻り雁御吸物坪焼麩御煮物猪口肴鯛御酒役所小遣給仕ニ而頂戴之畢而右御礼御小納戸役所へ罷出申上之

一御奏者番三人ハ御奉書到来

明廿八日拙者義格式之御礼被為請候間五時登城仕候様申来

追而指上物干鯛箱小勘者ハも指上物之義頼遣候

右返書差遣小勘者ハも指上物之義頼遣候

一明廿八日大年寄共歳末御祝義指上物有之登城候段中奥目附へ及通用候尤以来不及通用可被候

一新魚町按摩取座頭柳哉と申もの女房被盜候一件訴出先月廿四日双方呼出し遂吟味候処柳哉取計不宜當時ニ而ハ却而柳哉を可咎筋ニ

而甚不束之義ニ付内済為致候様藏合孫左衛門へ申付置候処同人場合ニ而殊之外骨折致度致教諭候処漸和談相整内済願下ケ差出候付

承り届願書差戻し当番利右衛門中之町へ差向忠藏并いと手鏡差免し大年寄ハ立去り候様申渡之候様申付候尤兵庫屋十兵衛義右忠藏

并いと無願久々留置候段急度御咎可有之処元来近親ニ而留置候義殊ニ一件致内済候義ニ付大年寄場合切之取計ニいたし不能其義旨

申渡候様申達候尤明日出仕之上御両所可及御沙駄候

一牢舍人賄之算様余り百貳拾貳匁五分牢番助清右衛門ハ差出候付右兩人呼出し新左衛門立合ニ而其俣差遣候勿論先格之通急度申渡

候

一大熊殿小者部屋ニ而被盜もの倉敷ニ在之哉之趣孫兵衛申出候付罷越遂吟味候様申付右入用五匁取かへ相渡候

一中山祐藏堀内利右衛門兩人ハ拝領屋敷引渡候段昨廿六日藤四郎届出候

一当役所書類入候箱無之ニ付相調度旨大目附小須賀貢ハ申達候所聞届ニ而宜取計候様被申聞候

一牢番共例年之暮之入用箒等之受取書差出大目附上印取之相渡候

一久山勘八義肩衣着用之義新左衛門ハ相尋候付町人共肩衣着用之御定と申義不及承候得共此度札元同様之振合ニ被仰付候義故札元同様ニ致着用可然旨及差函候

十二月廿八日 快晴

一終之式日ニ付大役人以上麻上下着用惣登城但其上御用所檜之間大目附三奉行并御普代之面々并歳暮御祝義申上有之候尤拙者義并今日格式之御礼申上候故式日之御礼ハ不申上於芥子之間御縁座敷格

式之御畳目ニ而干鯛箱差上格式之御礼申上之披露御奏者番太田舍人披露番中奥組一場剛之助也右御礼相濟候御礼御用所へ罷出申上

之大目附へも及挨拶依之不及廻勤候右御礼等不殘相濟於七間廊下御小性頭謁有之御奏者番ハ三奉行迄一同罷出歳暮之御祝義申上之

△右御礼式終而御奏者番ハ大年寄共差出候様被申聞先格之通裏中之口北より十畳目大年寄着座九畳目ニ献上物塗台ニ居差置町奉行七

畳目西向ニ着座少し北へ向キ大年寄共歳暮之御祝義一種差上之候

段取合ニ申上之御奏者番太田舍人四畳目着座可申上旨挨拶有之候

尤御使番中奥目附着座無之先格也尤斎藤孫右衛門ハ迫込中ニ付流

ニ相成蔵合孫左衛門玉置六郎左衛門兩人罷出候

△先例ハ大年寄共歳末登城ニ而中奥目附へ御門通行之義不及案内候

様相覚候得共献上物も有之義故昨日ハ中奥目附へ申遣候所猶又今日及対談候所歳末登城者以来不及通用献上物有之候得者割場中間受取ニ差出相済候事故先格之通不及通用候而宜旨渥美源五郎藤堂堀四郎被申聞候

△大年寄共登城ハ四時と申達候事今日ハ先格立合目附役所へ溜居塗台も立合目附の借り雉子一番つ、差上候事尤立合目附所の中の口迄ハ溜之小使ニ為持越夫の銘々受取前ニ差置候例也右畢而又溜之小使ニ為持御用所坊主部屋迄差遣候事勿論大年寄共罷出候節相揃候段御奏者番へ届置候事也

一大目附小須賀貢の左之通被申聞大年寄へも達置候

市郷御礼之節是迄大年寄札元大庄屋と前を上席として横へ並ヒ候所以来ハ松之間懸ケ出落縁を市郷半分ツ、ニ分ケ上席東之方三通リニ豎ニ大年寄札元と並居藏合孫左衛門町惣代斎藤孫右衛門と前ニ三人並ヒ其次ハ孫左衛門後ニ着座いたし候様可相心得右落縁半分の西之方大庄屋共三人ツ、右同様ニ着座いたし候様被申聞候

一大目附右同人の左之通被申聞小頭代三船藤四郎へ申達候

緒組共何となく近来袴袴革下緒不相用ものも有之哉ニ而而猥ニ相聞へ并下座等も不敬之致方有之哉ニ相聞候間若又御沙歎等有之様ニ而而不宜候間銘々御預ケ之足輕共へ急度相守候様可被申付候尤諸組一統へ御達候事之由被申聞候

一御箱訴巻通大目附の被相渡考付差出候様被申聞候

右ハ北郷門太夫長屋住六車堅益御城下へ立戻度直歎書也依之

不及御取上段来春可申上候正月五日不為御取上旨申上候

一御小納戸村山半八の三奉行一同呼ニ来罷出候処左之通被仰渡候

御獵之御鳥一羽宛被下之候

右御鳥役所へ相廻り頂戴之仕右為御礼御小納戸役所へ罷出銘々御礼申上之候

一御奏者番太田舍人の左之通演達有之候段近藤伊左衛門の伝達有之候

何れ及式日登城遅刻ニ相成候間以来正刻ニ罷出候様被仰出候

一江戸御留守居田中幸助の弓削懸ケ合質物取計聞合之返書到来候処懸ケ質と申義向方ニ而而不相分候由依之御町奉行所借金銀取計方申談之帳面同心の借り写相廻り候所難解義も有之何分弓削懸ケ合之用ニハ不相立様ニも見へ候得共先御用番中へ差出置候

一大坂長沢清左衛門の返書到来油方之もの早春可罷出旨并書油屋共呼寄セ為見候所致承知候段申来是又御用番中へ差出置候

一二階町庄八添簡願出候去ル廿一日相渡候松平正治郎殿領分播州佐用郡平福役人田住定之進同亀四郎兩人の返書今日持帰り右出入内濟申付相済候段申来右返書翌廿九日御用番中へ差出候

一新魚町紙屋元吉借屋住佐助方へ去ル廿五日夕盜賊這入衣類四品三拾壹匁計并銀札財布入百匁計都百三拾壹匁計被盜取候書付差出翌廿九日御用番中へ差出触流之義ハ早春取計可申段申上置候翌年正月十七日然之段届出候

一大目附の最早年内御用向無之ニ付明廿九日御用日出仕無之旨演達有之候

一関貫番質銀例年廿五日相渡候所故障ニ付翌廿六日例年之通相渡候

十二月廿九日 快晴

一 東新町播磨屋惣兵衛西新町藤屋清助下人弥吉他札取扱過料錢兩人

二 五分大年寄合相納候

一 町人共年頭登城之名面書大年寄指出候

一 大坂谷町御代官池田仙九郎殿手附奥野右源太手代上野戸作合当年中之錢相場書例年之通来正月差越候様頼来及相答候

一 沢田村藤兵衛同村太平次牢番預ケ申来出番藤四郎差向取計之然ル所右太平次義着物之襟ニ銀札廿一匁四分隠し居候ニ付取上ケ牢番へ相渡置候段届出候

一 牢舎人下公郷村長右衛門出牢切手郡代所合相廻り藤四郎取計相渡候

一 上田邑平田村勘兵衛妻狂気ニ付借牢願去ル廿六日御開届同人義ハ絶人ニ付牢賄取計候様達有之然ル所夫勘兵衛伴源治郎牢賄昨日合不差越候段牢番合届出候ニ付郡代所へ申遣候所右両人も牢賄伺済之旨申来候ニ付其段牢番へ申渡候

一 去ル廿五日八ツ半時頃出火ニ付致出馬候処安岡村ニ指構無之場所ニ付火元迄罷越見届候ニ即刻引取御用番大目附へ例之通相届候

津山郷土博物館紀要第二十六号

津山松平藩町奉行日記二十

平成二十四年三月三十一日発行

編集 津山郷土博物館 ©

発行 岡山県津山市山下九二番地

印刷 津山朝日新聞社印刷部

岡山県津山市田町一三番地